

令和3年度自己点検・自己評価委員会総会

日時 令和4年2月28日（月）13:30～15:10

会場 オンライン配信（発表者：会議室2・3）

学校法人 順正学園

建学の理念

学生一人ひとりのもつ能力を最大限に
引き出し引き伸ばし、社会に有為な
人材を養成する。

加野



令和3年度自己点検・自己評価委員会総会プログラム

日 時 令和4年2月28日(月) 13:30 ~ 15:30

理事長・総長挨拶	加計勇樹 理事長・総長	13:30 ~
学長挨拶(外部評価員紹介を含む)	兒玉 修 学長	13:40 ~
実施部会報告 基本事項検討部会	黒川昌彦部会長	13:45 ~
《各部会報告の全体総括》		
組織別報告 通信教育部会	川崎順子部会長	13:50 ~
	大学院部会	正野知基部会長
	学生の受入部会	渡邊一平部会長
	※その他の部会は書面報告	
《3Pを踏まえた各学科の中期計画報告》		
スポーツ健康福祉学科	正野知基学科長	14:05 ~
臨床福祉学科	稲田弘子学科長	14:10 ~
作業療法学科	園田 徹学科長	14:15 ~
言語聴覚療法学科	倉内紀子学科長	14:20 ~
視機能療法学科	山本隆一学科長	14:25 ~
臨床工学科	戸畑裕志学科長	14:30 ~
薬学科	黒川昌彦学科長	14:35 ~
動物生命薬科学科	明石 敏学科長	14:40 ~
生命医科学科	山本成郎学科長	14:45 ~
臨床心理学科	前田直樹学科長	14:50 ~
《令和2年度授業アンケート結果報告》		
結果報告	大倉正道教育開発部門副部門長	14:55 ~
《講評・総評》外部評価員 講評		
	澤野幸司延岡市教育長	15:00 ~
学長 総評	兒玉 修 学長	15:05 ~
閉会挨拶	池脇信直副学長	15:10 ~

【点検・評価項目】(各部会において最重点項目に◎、重点項目に○)

- ①理念・目的
- ②教育研究組織
- ③教員・教員組織
- ④教育内容・方法・成果
- ⑤学生の受け入れ
- ⑥学生支援
- ⑦教育研究等環境
- ⑧社会連携・社会貢献
- ⑨管理運営・財務
- ⑩内部質保証

令和3年度自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
基本事項検討部会	○	○	○	○	○	○	○	○		○
<p>○今年度の取組状況</p> <p>本学の建学の理念は、「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸し社会に有為な人材を養成する」である。学生の基礎・専門学力そして自ら考える力を高めることにより社会において高く評価される有為な人材を排出し、高校生からは是非進学したいと思われる大学となるために、本学としての3つのポリシーを示し、大学のブランド化を目指す。今年度も基本事項検討部会では、教育内容・方法・成果、学生の受け入れに等に関する取り組みを検証してきた。</p> <p>今年度は、昨年同様に新型コロナウイルス感染症に対して、感染予防対策に重点を置き、感染者を出さないよう、感染拡大防止に全力で対応した。また、大学のブランド化の一環として、大学全体の3つのポリシーを示し、各学科のポリシーと整合性を図った。さらに、大学のタグラインを決定して新たにホームページを一新することにより、本学のイメージや理念を明確に表現した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症への対応 <ul style="list-style-type: none"> 遠隔授業、時差授業、食堂の休止等により徹底した学内での感染予防を実施 遠隔授業の学習機会の確保に係る補助金の申請 九州保健福祉大学ブランディング計画、大学の3つのポリシーの作成、及び、ユニバーサルパスポートの更新 researchmapの登録 ホームページの更新や大学ポートレートを検証 令和3年度私立大学等改革総合支援事業に係る調査等 										
<p>○来年度の計画案</p> <p>来年度は、引き続き教育内容・方法・成果、学生の受け入れに関する基本事項について検討し、必要な改善を求めていく。日本高等教育評価機構の改善を要する点について、改善報告書の提出等（ホームページ公開）を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 学生自ら考える力のアップ 学生の基礎学力のアップ 国家試験の合格率アップ 学科教員の教育力アップ 教育施設のレベルアップ 就職率のアップ 学生生活サポートと向上 中途退学者の減少 社会人としてのマナー向上 入学定員の充足率向上 										

令和3年度自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
カリキュラム部会	○			◎			○			
<p>○今年度の取組状況</p> <p>カリキュラム部会は、教育指導部会（中核センター・教育開発部門）と共に、種々の取り組みをおこなった。</p> <p>1. 大学共通基礎科目の検討</p> <p>令和2年度から継続協議を行い、大学のブランド化に向けたブランドビジョン及びタグラインの策定に伴い、本学の特色を活かした大学共通基礎科目を改訂し、令和4年度から施行することとした。主な変更は以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●情報、AI、データサイエンス科目の再編 ●医療、福祉を標榜する大学としての基礎教育の強化等 <p>「日向国地域体験学習」「医療・福祉連携講座」「インターンシップ」の新設</p> <p>2. 学修成果の可視化に向けたアセスメントポリシーの検証</p> <p>学修成果の可視化に向け、システム（ユニパ）のバージョンアップが行われ、令和4年度から稼働する。可視化に伴うアセスメントポリシー等の検証については十分になされていないため、継続的に検討したい。</p> <p>3. シラバスチェック体制の強化</p> <p>従来通りのシラバスチェックは行われたが、強化までとは至っていない。3つのポリシーからの検証、科目間の教授内容の検証など、体制強化に向けた取り組みを継続的に行いたい。</p>										
<p>○来年度の計画案</p> <p>教育指導部会（中核センター・教育開発部門）と共に、以下の取り組みを行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新設した大学共通基礎科目の検証、改善 2. ユニパを活用した学修成果の可視化の検証、改善 3. シラバスチェック体制の改善・強化 										

令和3年度自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
教育指導部会	◎	○	○	◎	○	◎				○
<p>○今年度の取組状況</p> <p>本年度も、第2期中期目標・中期計画に従って、学生の能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会から高く評価される人材育成を目指した教育改革に取り組んできた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リメディアル教育として全学的に e-learning システムを引き続き導入し、全ての教科の基礎学力として重要な国語能力の向上に取り組んだ。全学共通の実力テストでは、多くの学科で国語力の向上が確認されている。 2. コロナ禍における遠隔授業の構築・充実を学科単位で取り組んだ。 3. 各学科での更なる国家試験合格率の向上を目指した。少なくとも、全国の大学の国家試験合格率平均を決して下回ることがないよう国家試験対策の充実に取り組んだ。 4. コロナ禍でワークショップ形式での FD 研修会が実施できなかったが、新たなオンライン使用について Teams の説明会等を行った。 5. 教員による学生へのセクハラ・パワハラなど起こさないよう研修会等が開催された。 6. ブランド化の一環として、来年度に向けた全学共通科目の検討を行った。 										
<p>○来年度の計画案</p> <p>来年度は第2期中期目標・中期計画の最終年となるため、その計画の成就に向けて学生の能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会から高く評価される人材育成を目指した教育改革に取り組んでいく。教育面でのブランド化として、全学共通科目の充実を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リメディアル教育として全学的に e-learning システムを引き続き導入し、全ての教科の基礎学力として重要な国語能力の更なる向上に取り組む。 2. 遠隔授業のさらなる充実と応用に取り組む。 3. 各学科での国家試験合格率の向上を目指す。少なくとも、全国の大学の国家試験合格率平均を決して下回ることがないよう国家試験対策の充実に取り組む。 4. 教員の教育力向上のためにワークショップ形式での FD 研修会の充実を目指す。 5. 教員による学生へのセクハラ・パワハラなど起こさないよう研修会等の充実を目指す。 6. ブランド化の一環として、全学共通講義の充実を図る。 										

令和3年度自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
研究活動部会							◎			
<p>○今年度の取組状況</p> <p>1. 共同研究について</p> <p>①教員による研究・社会貢献を推進するために、共同研究費（800万円）を「研究経費助成」及び「地域創生事業経費助成」として配分を行った。研究経費助成の審査については、科研費の審査評価に重点を置き、採択・配分額を決定した。</p> <p>令和3年度の研究経費助成の申請数6件、採択数6件（昨年度申請数13件、採択数13件）、地域創生事業経費助成の申請数6件、採択数6件（昨年度申請数4件、採択数4件）であった。</p> <p>②令和2年度の「研究経費助成」及び「地域創生事業経費助成」の成果報告書の提出を求め、該当者全員から成果報告書の提出がなされた。</p> <p>③研究部門における自己点検・自己評価の一環（研究部門FD）として、各経費助成のポスター発表会を開催した。なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を考慮し、昨年度と同様に発表会はポスター閲覧ならびにコメント記載のみと企画内容を縮小して実施した。また、本学の研究活動や先生方の研究について広く知ってもらうため、市民の方にも閲覧できるようにイオン延岡店においてポスター発表を展示し、大学のピーアールにも繋げた。</p> <p>《ポスター発表 研究経費助成：6件、地域創生事業経費助成：6件》</p> <p>◎ポスター発表掲示期間：令和4年2月25日（金）～令和4年3月3日（木）</p> <p>閲覧したポスター発表について「コメント票」を提出</p> <p>掲示場所：1号棟 1階 エントランスホール</p> <p>◎ポスター発表掲示期間：令和4年3月3日（木）～令和4年3月9日（水）</p> <p>掲示場所：イオン延岡店 1階 催事スペース</p> <p>2. 科学研究費助成事業について</p> <p>科研費（文部科学省・日本学術振興会）の申請を促進するため、「令和4年度科研費公募要領等説明会」を開催した。</p> <p>開催日：令和3年8月25日（水）、26日（木）</p> <p>参加者：54名</p> <p>内 容：・科研費改革の概要 ・公募内容の変更点 ・researchmapについて</p> <p>・科研費電子システムの操作方法について</p> <p>・研究費の不正使用、研究活動における不正行為の防止（研究機関ルールについて）</p> <p>令和3年度科研費申請数：41件 基盤研究（B）： 2件</p> <p>（昨年度申請数：44件） 基盤研究（C）： 34件</p> <p>若手研究 : 5件</p>										

3. 「公的研究費コンプライアンス研修会」の開催について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を考慮し、昨年度と同様にネット配信による動画研修で実施した。（動画研修の内容は本学オリジナル版）

開催日：令和4年2月10日（木）～ 28日（月） 動画研修

講師：三宮紀彦公認会計士事務所 代表 三宮 紀彦

内容：・公的研究費コンプライアンス研修 ・理解度テストの実施 ・誓約書の提出

4. 査読制ジャーナルについて

本学における研究活動とその成果を積極的に社会に還元するために、研究推進部門と図書・紀要委員会とが共同で本学オリジナルの査読制ジャーナル「Journal of Health and Welfare Investigation (J. Health Welfare Invest.)」を発行した。

○来年度の計画案

1. 共同研究について

研究・社会貢献推進のため、共同研究費（800万円）を「研究経費助成」及び「地域創生事業経費助成」としての適切な配分を図る。研究経費助成の配分に関しては、引き続き科研費申請の審査評価に重点を置き、科研費の採択率の向上を目指し支援していく。地域創生事業経費助成についても、社会貢献度に重点を置き本学の社会貢献活動を支援していく。

また、研究部門における自己点検・自己評価の一環（研究部門FD）として、各経費助成の発表会を開催し、発表者の新たなアイデアの発見と創出だけでなく、分野を超えた共同研究へ繋げる機会（研究コミュニティづくり）を提供できるよう取り組んでいく。

2. 科学研究費助成事業について

科研費申請（文部科学省・日本学術振興会）を促進し、「科研費公募要領等説明会」を開催し変更点や申請手続き等についての的確な指示・説明を行う。

また、「科研費申請書（研究計画調書）作成のポイント」等の研修会を開催し、採択件数向上の方策を講ずる。

3. 「公的研究費コンプライアンス研修」「研究倫理教育研修」について

「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）（平成26年2月18日改正）文部科学大臣決定」及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン（平成26年8月26日文部科学大臣決定）」に則った研修会を開催し、研究を推奨するとともに研究の倫理に関する取組みや不正防止の体制整備を行っていく。

4. 査読制ジャーナルについて

査読制ジャーナルのさらなる充実化のために、査読ガイドランの策定と明確化、教育的査読の考え方、査読のインセンティブ制度等の導入を図っていく。

令和3年度 自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
学生生活部会	○					◎		○		
<p>○今年度の取組状況</p> <p>1. 交通トラブル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年、延陵自動車学校で開催していた交通安全講習会はコロナ禍の影響により昨年度に引き続き開催を見送った。その代替として、駐車許可申請時に前年度の事故実態を考慮した50問のSA試験及び自分が取り組む事故防止対策のレポートを提出させた。 ・また、日常的には、ユニパメールによる交通安全広報、ポスター掲示及び窓口等での個別指導などを行ない、事故防止に努めた。 ・学生課へ届出があった事故件数は、令和3年4月から令和4年1月までの間で30件（昨年32件）となっている。 30件のうち学生が第一当の事故が23件（昨年は19件）、うち物損事故は15件であり重傷事故の発生はなかった。 ・事故原因としては、学生の運転技量の未熟さや安全確認不足に起因するものが目立った。 ・急な割込み等学生の交通マナーに対する苦情が数件あり、該当者については厳しく指導を行うとともに、ほかの学生に対してもユニパで注意喚起を行った。 <p>2. 犯罪、生活トラブル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生間や部外者との間でSNS上での誹謗・中傷にかかるようなトラブルの相談などが5件あったが、早急な個人面談や警察への相談などを迅速に行い、大きな事件に進展することはなかった。また、ユニパメールで全学生に対しSNSの適正な使用について啓発を行った。 <p>3. 防災に対する意識向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学生、教職員参加による南海トラフ大地震を想定した消防防災総合訓練及び防災講座を実施した。（R3年12月） ・大地震対応マニュアル等の資料を配布し、災害の発生が予想された場合には、ユニパによる防災対策を呼びかけた。 										
<p>○来年度の計画案</p> <p>1. 交通トラブル対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車通学者、バイク・自転車通学者を対象として定期的な安全運転講習、交通安全啓発活動、一斉メールなどにより、昨年度に引き続き更なる交通事故の減少を目指し、延岡警察署との連携を継続する。特に重大事故が発生しないよう地道な啓発活動を行う。また、事故発生時の学生課への届け出をきちんと行うよう引き続き指導する。 <p>2. 犯罪、生活トラブル対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生生活は楽しいが、一歩道を踏み外せば身のまわりには「危険なこと」が多く潜んでいることの理解を高めるため昨今の学生の事情に合わせた補助資料を配布する。 ・犯罪、トラブルに巻き込まれないように、そのような兆候があれば速やかにユニパでの周知を行い、学生の無知・常識のなさ・情報収集力の未熟さからくるトラブル・軽犯罪の防止や啓蒙を継続する。また、発生した場合には迅速かつ適切に対応する。 <p>3. 防災に対する意識向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ大地震に対する備えとして、総合的な防災訓練を実施するとともに学生の防災意識向上のためオリエンテーションでの講習、防災マニュアルの配布など各種対策を昨年引き続き推進する。 <p>4. 感染症対応に伴う学生の不安解消のための支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業等により登校ができないことや、実際に罹患あるいは濃厚接触者となった学生の不安を解消するため、罹患学生等の情報を収集し不安解消の支援となる資料作成をおこなう。 										

令和3年度自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
図書館部会						○	◎			
<p>○今年度の取組状況</p> <p>1) 学習支援及び教育活動への直接の関与</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーションがオンライン開催になったため、図書館の利用方法等をオンライン上にておこなった。 <p>2) 研究活動に即した支援と知の産生への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度より査読付ジャーナルとして「Journal of Health and Welfare Investigation」を発行し投稿を募った。(1月末現在2件) ・研究紀要第23号を前年度に引き続きリポジトリへの登録・公開とし準備を進めている。また紀要論文、学位論文ほか学内の研究成果物は遺漏なくリポジトリに登録、公開している。 <p>3) コレクション構築と適切なナビゲーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子ジャーナルおよび外国雑誌の利用調査を基に見直しを図った。「人権コーナー」を設置し人権に関する書籍の展示をおこなった。 <p>4) 他機関・地域等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延岡市立図書館との連携を継続、8月と2月に認知症をテーマとした企画展示を行った。 ・オープンライブラリはコロナウィルス感染対策もあり開催できなかった。 										
<p>○来年度の計画案</p> <p>1) 学習支援及び教育活動への直接の関与</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用指導、情報リテラシー、論文作成などの支援に、より能動的に取り組む。 <p>2) 研究活動に即した支援と知の産生への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要第24号の発行及び「Journal of Health and Welfare Investigation」への投稿依頼。 ・リポジトリでの研究成果の公開を推進する。 <p>3) コレクション構築と適切なナビゲーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き電子ジャーナルや外国雑誌のより利用頻度の高いものへの見直しを行う。 ・継続して企画展示を行う。 <p>4) 他機関・地域等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延岡市立図書館との連携を継続する。 ・オープンライブラリを実施し、中高生の利用が増えるよう工夫する。 										

令和3年度自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
キャリアサポート部会						◎		○		
<p>○今年度の取組状況</p> <p><取組内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 就職希望者の就職率 100%をめざすとともに、数値目標だけでなく、個人指導重視の支援を通して学生の発達を促し、一人ひとりが満足できる進路選択ができるよう質の高いキャリアサポートをする。収束の見通しが立たないコロナ禍であるため、就職サイト運営機関との情報収集に努め、学生への指導に役立てる。 2. 低学年からのキャリア意識の醸成を目的とした支援、就職活動の円滑な展開や就職試験への対応に繋がる各種企画を積極的に実施する。また、公務員試験対策を更に充実させ、学生に広く周知し参加者を増やし、中長期計画を策定する。また、従来の延岡市などの外部機関に加え宮崎県や延岡近隣の自治体と連携し、公務員への就職者増を実現させる。 3. 学生への各種行事等の伝達を強化し、学生参加数の向上を図るため中核センターへ報告事項として周知する。これにより、対象の学部学科の教授会の報告事項として周知を徹底するほか、積極的に各学科のキャリアサポート委員と連携を図りながら行事等の伝達強化を実現させる。その他、学生が主体的にユニバーサルサポートや掲示板を確認する姿勢を身につけさせる。 4. より充実した本学独自の学生指導や支援について、キャリアサポートセンターホームページにおいて迅速に分かりやすく広く公開する。 5. 令和元年度は延岡市・佐伯市主催の東九州ものづくり交流展、令和2年度は宮崎県主催のテクノフェアみやざきへ本学の持つ知的財産を広く市民に周知するため出展し、事務局をキャリアサポートセンターが担当した。令和3年度も同様に本学の取り組みを広く周知する各種行事に事務局として参画し、様々な業界に本学を理解して頂くことで学生への就職支援に努める。 										

<取組状況>

求人受付 NAVI・求人検索 NAVI（以下、求人 NAVI）を新規導入することにより、オンライン上にてリアルタイムで豊富な求人検索及び学生面談の予約が可能となり、飛躍的に利便性が向上することで計画的な支援をすることができた。また、職員が求人 NAVI の就職管理機能を活用することで、面談記録を共有し一貫性を持ち継続的な支援に注力し、面談記録や求職票記載内容から学生本人が希望する情報提供にも努めることで、質の高いキャリアサポートを実現できた。特にコロナ禍であり雇用環境が悪化している一部の職域では、インターンシップの推進が早い段階から必要であることを就職サイト運営会社より情報を収集し、対象となる学科においては積極的に卒業前々年度の学生より支援の幅を拡充し実情に即した対応を行っている。また、必要に応じて本学仕様の内容で動画を就職サイト運営会社に制作して頂き、対象の学生へ配信を行うことで個別性をもつ支援が展開できた。

就職率向上のみに留まらず卒業の先にある社会人としての自立を促すよう、課員間で情報共有・意見交換を頻繁に行った。また、学生一人ひとりが満足できる進路選択ができるよう、キャリアサポートセンターと各学科が連携・協力し進路支援にあたり、特に就職活動等を進める上で問題を抱えている学生に対しては、関係部署・地元ハローワーク・ヤング JOB サポートみやざき延岡サテライト・宮崎県商工会議所連合会等と連携し、急ぎ解決を求めず中期的な視点で支援にあっている。本学・延岡市・大学おうえん協議会共催でオンライン workCafé のべおかを2回開催し、低学年の学生が将来希望とする業種先と面談できる場を設けキャリア意識の醸成へ務めた。その他、学生応援企画としてオンラインで MOS 講座を開講し Word は人数制限なしで無料、Excel 及び PowerPoint は先着 50 講座について CSC 予算で半額補助（@3,000 円）することで学生は普通の授業や卒業論文等において好評であった。4 年前から開催している公務員試験対策講座はオンラインにて延岡市及び宮崎県商工会議所連合会と連携し、今年度は日向市及び諸塚村まで範囲を広げ実りある支援が展開できた。まだ中期的な段階であり、長期的には更なる自治体の参加を考え、来年度は宮崎県人事委員会が従来の行政職以外にも薬剤師なども協力頂ける方向であり、年々進化を遂げ学生に即した講座となっている。1 月 21 日現在、11 名の学生が公務員に内定している。

全ての学生へ各種伝達事項の徹底を図り、その都度、学生には掲示板やユニバーサルサポート、教員にはガールンメールで周知するほか、キャリアサポート委員と連携を図りながら伝達強化を推進できた。しかしながら、意識の低い学生において情報伝達の更なる強化は来年度の命題と捉えている。

今年度、新規企画としてキャリアサポートセンターホームページに卒業生の活動紹介を公開し広く支援内容を公開した。コロナ禍のため殆どオンライン行事であったが、全ての行事や支援内容をなるべく早く写真等の視覚的データを活用し支援内容を迅速にホームページへアップした。

延岡市及び佐伯市主催の東九州ものづくり交流展では、キャリアサポートセンターが本学の事務局となり令和 4 年 2 月 24 日・25 日、延岡総合文化センターでの開催に向けて準備を進めている。なお、本学から生命医科学科及び薬学科が出演予定である。本交流展では延岡市及び佐伯市より東九州の実務系高校生へ参加を依頼するため、本学の良さを直接、高校生やその保護者、高校の教員等へ周知でき、より本学を理解して頂くことで大学の発展に寄与している。

○来年度の計画案

1. 就職希望者の就職率 100%をめざすとともに、数値目標だけでなく、個人指導重視の支援を通して学生の発達を促し、一人ひとりが満足できる進路選択ができるよう質の高いキャリアサポートをする。収束の見通しが立たないコロナ禍であるため、就職サイト運営機関との情報収集に努め、学生への指導に役立てる。
2. 低学年からのキャリア意識の醸成を目的とした支援、就職活動の円滑な展開や就職試験への対応に繋がる各種企画を積極的に実施する。また、公務員試験対策を更に充実させ、学生に広く周知し参加者を増やし、中長期計画を策定する。また、従来の延岡市などの外部機関に加え宮崎県や延岡近隣の自治体と連携し、公務員への就職者増を実現させる。
3. 学生への各種行事等の伝達を強化し、学生参加数の向上を図るため中核センターへ報告事項として周知する。これにより、対象の学部学科の教授会の報告事項として周知を徹底するほか、積極的に各学科のキャリアサポート委員と連携を図りながら行事等の伝達強化を実現させる。その他、学生が主体的にユニバーサルサポートや掲示板を確認する姿勢を身につけさせる。
4. より充実した本学独自の学生指導や支援について、キャリアサポートセンターホームページにおいて迅速に分かりやすく広く公開する。
5. 延岡市・佐伯市主催の東九州ものづくり交流展、宮崎県主催のテクノフェアみやざき等、本学の取り組みを広く周知する各種行事に事務局として参画し、様々な業界に本学の持つ知的財産を広く市民に周知し理解して頂くことで学生への就職支援に努める。
6. 将来の職業選択肢の幅の拡充やミスマッチを防ぐため、教務課と連携し正規課目としてインターンシップ導入の準備及びオンラインによる実践的なキャリア支援講座（MOS 講座・SPI 対策講座など）の充実を図る。

令和3年度 自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
社会貢献部会								◎		
<p>○今年度の取組状況</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け活動制限を余儀なくされるなか、感染防止策を徹底しながら可能な範囲で活動を推進した。</p> <p>1. 社会貢献活動の推進</p> <p>宮崎県人権啓発推進協議会の受託事業である「人権啓発活動協働推進事業（大学との連携）（3年間）」の2年目として、社会福祉学部臨床福祉学科が主体となり、12月4日に「子どもの人権」に焦点を当て映画上映と講演会を実施した。（参加者総数106名）</p> <p>各学部においても、企業、地域、関係機関との連携を図りながら、社会貢献活動を推進した。</p> <p>2. 情報公開、情報発信の充実</p> <p>各学部・各学科・各部活動・ボランティア・各個人における社会貢献等の成果について、前期と後期に分けて調査し、集約した内容を大学ホームページに公表した。</p> <p>3. ボランティアセンター活動の推進</p> <p>ボランティア活動総件数96件、総参加人数591人（昨年比7.68倍）の実績となった。</p> <p>新企画として学内ボランティア活動（共同募金活動2回）を実施した。</p> <p>4. 順正ジョイフルキッズクラブ（JKC）の充実</p> <p>延岡市の「ひとり親家庭等学習支援等事業」の業務委託事業（6年目）は、当初18回予定していたが、コロナ感染拡大の影響で9回の実施となった。登録者数26名であり、延べ参加人数は105名（前年：154名）であった。新たな取り組みとして、大学生主体によるクリスマス会の運営や進路体験談の紹介を行うなど、中学生との交流活動を充実した。</p>										
<p>○来年度の計画案</p> <p>1. 社会貢献活動の推進</p> <p>宮崎県人権啓発活動協働推進事業の3年目として実施体制を検討し、事業に取り組む。</p> <p>各学部で推進している産学官連携による社会貢献活動の実施状況について情報収集し、ホームページ等を活用して情報発信していく。また、大学全体で情報を共有する機会や方法を検討する。</p> <p>2. ボランティアセンター活動の推進</p> <p>地域関係団体からの派遣依頼の調整はもとより、ボランティアセンター企画による学内外のボランティア活動を推進していく。</p> <p>3. 順正ジョイフルキッズクラブ（JKC）の充実</p> <p>令和4年度は、実施回数20回を計画する。プログラムの工夫や実施体制の強化を図る。</p> <p>特に、学生主体による企画運営を試み、中学生との交流活動を充実していく。</p>										

令和3年度 自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
通信教育部会	○		○	○	○	◎				
<p>○今年度の取組状況</p> <p>新型コロナウイルス感染状況を鑑み、工夫して取り組んだ。</p> <p>1. 入学者の確保に向けた広報活動の充実</p> <p>①広報媒体を見直し、九州管内中心から全国発信へと広報活動を充実した。さらに、ホームページの充実を図った。</p> <p>(宮崎県内は宮日への広告掲載、全国版ではリクルートのスタディアプリ、通信教育協会のYahoo連動の連合広告、AERA ムック、読売オンライン等への広告掲載をおこなった。また、ホームページにインフォグラフィックを組み込み、ホームページ上で通信の仕組み等がわかるように工夫した。)</p> <p>②専門職能団体(宮崎県介護福祉士会および宮崎県介護支援専門員協会)と提携書を交わし、入学者の確保に努めた。</p> <p>2. 学生サポート体制の充実</p> <p>学びを継続できるためのサポート方法を検討し対応した。</p> <p>①今年度もスクーリングは一部を除きオンラインで実施した。ネット環境が整っていない学生をサポートするため、スクーリング実施日にはLL教室等を開放して対応した。</p> <p>②学習相談会は実施できなかったが、電話、FAX、メール等により丁寧に対応した。</p> <p>③国家試験対策講座を1回増やし、9月に2日間、12月に2日間オンラインで開催した。また随時、参考書や模擬試験案内などの情報を提供した。</p> <p>④学生授業アンケート結果を教員へフィードバックし、授業改善につなげる資料を提供した。</p> <p>⑤実習の実施において配慮の必要な学生については、個別面談や電話等で対応した。</p> <p>3. オンラインに対応した授業内容の検討</p> <p>①実習について、不測の事態に備え、オンラインによる代替実習の方法を検討したが具体策は見いだせていない。(今年度の実習は予定通り実施できたため支障はなかった)</p> <p>②科目単位認定試験について、オンラインによる実施方法を継続して検討している。</p> <p>○来年度の計画案</p> <p>1. 入学者の確保に向けた広報活動の充実</p> <p>高校や提携団体への広報活動を拡充し、入学者確保を目指す。</p> <p>2. 学生サポート体制の充実</p> <p>オンラインによる授業環境の整備を図る。</p> <p>学生側の通信機器環境の整備について協力依頼していく。</p> <p>オンライン学習相談会を開催し、問い合わせや相談に応じていく。</p> <p>随時、国家試験対策に関する情報を提供していく。</p> <p>3. オンラインに対応した授業内容の検討</p> <p>オンラインによるスクーリングの授業内容・実施方法を科目間で共有し、改善していく。</p> <p>コロナ禍により実習受入不可能な事態を想定し、代替案としてオンラインによる実習方法の可能性を検討していく。また、単位認定試験のオンライン実施方法も試行していく。</p>										

令和3年度 自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
学生の受入部会					◎					
<p>○今年度の取組状況</p> <p>(オープンキャンパス)</p> <p>・7月18日(日)は予定通り実施したが、8月22日(日)についてはコロナ感染症の拡大により実施を延期し、10月10日(日)に実施した(参加者数:7月135名、10月:68名)。 その他、ミニキャンパス見学会としてコロナ感染症の状況を確認しながら、①5月はオンライン②6月は予定通り来学型③9月は宮崎県内高校生のみを対象④10月予定通り来学型⑤11月予定通り来学型⑥12月予定通り来学型⑦3月はオープンキャンパスとして、年間で7回実施した(3月のみ予定)。</p> <p>・高校教員対象入試説明会は予定通り6月9日に宮崎市で実施した。</p> <p>(ブランディング)</p> <p>・2021年10月に公開を予定していたリニューアルしたホームページは、2021年12月1日に公開した。2022年6月発行の大学案内の撮影は予定通り実施され、全体構成、原稿の校正を進めている。</p> <p>・大学のブランド確立及び浸透のため、情報の発信を大学のブランド委員会と連携して進めている。</p> <p>(分野別説明会、ガイダンスの参加強化)</p> <p>・高校内で実施される分野別説明会へ各学科の協力を得て積極的に参加した。高校単位で見学を受入れることを説明したが、コロナ禍において高校単位で参加する高校は少ない結果となった。</p> <p>○来年度の計画案</p> <p>(オープンキャンパス)</p> <p>昨年度、今年度のオープンキャンパスは、コロナ感染症の拡大等の影響により2019年度以前より参加者数が激減している。また、高校生の職業・大学選びは早期化してきている。この状況に対応するため2022年度は、6月19日の早期開催を含め、7月24日、8月21日に実施し、更に今年度の実施(参加者)状況によって3月下旬の開催も含め、年間3~4回実施を試みる。</p> <p>また、キャンパス見学会(5月、9月、10月、11月、12月)はオープンキャンパスに参加できなかった人や個別の見学を希望する人に対し、従来どおりオープンキャンパス月以外で実施予定である。さらに高校教員対象入試説明会についても例年通り6月に実施予定である。</p> <p>(SNSを活用した広報)</p> <p>LINE、Instagramを活用した情報発信(イベント告知)、ホームページのこまめな情報掲載(更新)などを強化し、オープンキャンパス等の体験型広報活動とSNSを併用し、各々の特徴を活かした広報を実施予定である。</p>										

令和3年度 自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
大学院部会	○	○	○	○	○					
<p>○今年度の取組状況</p> <p>1. 時代のニーズに対応したカリキュラムの検討・検証を引き続き行う。社会福祉学研究科では、指導体制の充実を図る取り組みを継続する。保健科学研究科では、教員個々の研究指導内容が具体的にわかるよう、ホームページの見直しを行う。医療薬学研究科では、各研究室の研究力をアップし IF を有する英文学術論文発表数を増やす。研究力アップのために、一般公開される教員の研究成果発表会である「宮崎県北サイエンスフォーラム」は、コロナ禍の現状を踏まえ、最善の開催形態での実施を検討する。</p> <p>社会福祉学研究科では、減少していた社会福祉専門教員を計画的に昇格させ、院生のニーズに対応できるよう、研究指導体制の充実を図った。保健科学研究科では、教員個々の研究指導内容が具体的にわかるよう、ホームページの見直しを行った。具体的には、YouTube 動画による研究紹介へのリンクを貼り、教員の顔が分かるようにした。医療薬学研究科では、各研究室の研究力をアップし IF を有する英文学術論文発表数を増やす対策を継続し実施中である。「宮崎県北サイエンスフォーラム」は、開催が企画された時期にコロナ感染が再拡大したため、社会的な状況に合わせて延期中である。</p> <p>2. 定員充足を目指し、とくに社会人を対象にした広報活動に取り組む。社会福祉学研究科では、通信教育部のスクーリングを活用した広報活動を継続する。保健科学研究科では、生命医科学部からの入学に加えて現場で働いている臨床検査技師の入学を促すため、臨床検査関連の学会誌などへの広報を検討する。医療薬学研究科では、時代のニーズに対応した大学院規則の検証を行い、定期的な通学が困難な地域の医療人が入学しやすい環境を整える。</p> <p>研究科ごとに対応を検討した。定員充足率は、社会福祉学研究科 修士課程 33%、連合社会福祉学研究科 博士（後期）課程 100%、保健科学研究科 博士（前期）課程 93%、保健科学研究科 博士（後期）課程 1%、医療薬学研究科 博士課程は 19%となっている。</p> <p>社会福祉学研究科では、通信教育部のスクーリング時に広報活動を継続して行った。博士（後期）課程は定員を充足し、定員を見直した修士課程（7名）は6名の入学であった。保健科学研究科では、コロナの影響で入学をためらうケースもあるが、現状では夏期、冬期スクーリングを WEB で行っており他大学院よりも有利なので、入学者が増えるよう広報中である。医療薬学研究科では、夜間に、あるいは定期的な通学が困難な地域の医療人がオンラインで、講義を受講できる体制であることなどをアピールしながら、卒業生を含めた地域の医療人を対象に広報活動を継続的に行ってきたが、入学者を確保できていない（2月現在、次年度の入学希望者あり）。</p>										

3. 大学院と医療・福祉現場との連携強化を図っていく。社会福祉学研究科では、QOL 研究機構社会福祉学研究所を活用した取り組みを継続する。保健科学研究科では、修士取得者との情報交換をさらに推し進め、研究の充実と後輩の大学院進学を試みる。医療薬学研究科では、医療人の実務の遂行において大学院での研究活動がいかに有効であるかを継続してアピールする。

社会福祉学研究科では、QOL 研究機構社会福祉学研究所を活用して、福祉などの現場と連携強化を図る取り組みを継続して行っている。保健科学研究科では、修士 200 名計画が進行中で、すでに 177 名が臨床現場で活躍しており、情報交換もなされて連携強化が行われつつある。医療薬学研究科では、院生の多くが現場に出向いて実務経験を積んでおり、研究科としても奨励している。継続して実施中である。

○来年度の計画案

1. 時代のニーズに対応したカリキュラムの検討・検証を引き続き行う。社会福祉学研究科では、指導体制の充実を図る取り組みを継続する。保健科学研究科では、引き続き教員個々の研究指導内容が具体的にわかるよう動画の見直しを行う。医療薬学研究科では、各研究室の研究力をアップし IF を有する英文学術論文発表数を増やす。研究力アップのために、一般公開される教員の研究成果発表会である「宮崎県北サイエンスフォーラム」は、コロナ禍の現状を踏まえ、オンラインも含めた最善の開催形態での実施を検討する。また、薬学科の新たな取り組みである「薬学科リトリート」に本研究科も参加し、研究科教員の研究交流を促す。
2. 定員充足を目指し、とくに社会人を対象にした広報活動に取り組む。社会福祉学研究科では、通信教育部のスクーリングを活用した広報活動を継続する。保健科学研究科では、とくに臨床検査技師と臨床工学技士の入学を促すため、卒業生も対象とした広報活動を行う。医療薬学研究科では、地域薬剤師会の会員に対する広報や HP での発信内容をニーズに応じて見直し、定期的な通学が困難な地域の医療人に対するアピールを行う。
3. 大学院と医療・福祉現場との連携強化を図っていく。社会福祉学研究科では、QOL 研究機構社会福祉学研究所を活用した取り組みを継続する。保健科学研究科では、修士取得者を含む医療現場との共同研究を推進することにより、本大学院の存在意義を多くの臨床現場従事者に理解いただくようにする。医療薬学研究科では、医療人の実務の遂行において大学院での研究活動がいかに有効であるかを継続してアピールする。

令和3年度 自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
留学生部会						◎				
<p>○今年度の取組状況</p> <p>①留学生の除籍・退学者が出ないための支援をする</p> <p>2022.1.6現在、在学生21名(韓国19・中国2)、除籍・退学者1名(韓国)であった。除籍の理由は兵役による帰国に加えて成績不振による学習意欲が低下と留年があり、経済的理由による学費未納の除籍となった。</p> <p>②留学生が日本で生活に慣れてもらえるよう指導する機会の工夫を行う</p> <p>③留学生と日本人学生、教職員及び地域住民との相互交流を拡大・進展させる</p> <p>②・③の取組として、英語村主催で下記のイベントを実施した。(カッコは実施日と人数) EASTER EVENT(4/15 22名)、AFTERNOON TEA (6/22 17名)、AMERICAN INDEPENDENCE DAY (7/15 4名)、HALLOWEEN (10/26 17名)、THANKSGIVING (11/30 1名)、WINTER PARTY (12/17 16名)</p> <p>WINTER PARTYに引き続き実施した体育館イベントにも留学生が多数参加した。 新型コロナ感染拡大防止のため、学外者との交流イベントは実施できなかった。</p> <p>その他</p> <p>夏季休暇中に留学生5名(中国1名・韓国4名)が一時帰国したが、一時帰国者への『一時帰国理由書』の記入要請、学部学科教員との連携、帰国留学生との定期的な連絡により、問題なく再入国帰国できた。</p> <p>【参考資料：令和2年度の留学生の状況】(令和3年3月1日時点)</p> <p>・在学生総数 22人(韓国21人、中国1人) / 令和3年度入学者数 1人(中国) / 令和2年度退学者数 0人</p>										
<p>○来年度の計画案</p> <p>①留学生の除籍・退学者が出ないための支援をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染拡大防止のため、留学生の出入国の規制が強化されている。母国への帰国、帰国後の入国困難に対して、学科教員との協力のもとで丁寧にフォローする ・除籍・退学理由を精査し、学生支援により対応できるものについて支援策を検討・実施する ・兵役にともなう退学と復学を円滑に進める <p>②日本で生活に慣れてもらうための機会を設ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学外者との交流の機会が得られる状況になれば、学外講師の招聘や訪問により日本文化を知る機会を設ける <p>③日本人学生、教職員および地域住民との交流の機会を設ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染拡大防止に努めながら、日本人学生、大学教職員との交流の機会を設ける ・英語村と協力し、引き続き各国の文化を取り入れたイベントを企画する ・学生委員会等、学内の学生主体団体を紹介し、参加を促す 										

九州保健福祉大学 社会福祉学部 スポーツ健康福祉学科

2021年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>九保大だから学べる「スポーツで健康に生きる幸せ」をプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。</p>
<p>学科からの メッセージ</p>	<p>スポーツ健康福祉学科の教育は、健康長寿社会の実現を目指して、スポーツ・健康・福祉そして東洋医学の視点からアプローチします。本学には「スポーツ健康福祉」と「鍼灸健康福祉」の2つのコースがあります。「スポーツ健康福祉コース」では、スポーツを基軸に健康、福祉、教育、コンディショニング等の専門知識を有する健康運動指導士やアスレティックトレーナー、保健体育教員、社会福祉士等を養成します。「鍼灸健康福祉コース」では、スポーツとともに、健康、福祉、コンディショニング等の専門知識を有するはり師・きゅう師を養成します。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、各コースの専門知識に加えて、人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養します。</p>
<p>教育力 (ブランドカ) 「学修成果の可視化」の観点を含む</p>	<p>【学生自ら考える力のアップへの対策】DP<4>CP1<5>CP3<11></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1期中期計画で作成された卒業論文の評価基準をもとに、1年次の初年次教育からスポーツ健康福祉学演習、卒業研究へと段階的な学習計画を作成する。 ・ 卒業論文発表会へ1年次より参加し、スポーツ健康福祉学演習・卒業研究における研究テーマを検討する。 ・ 卒業論文発表会では3年生が「企画」、「運営」、「評価」、「課題発見・解決」と主体的に取り組めるよう、教員が補助する。 <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本年度は新型コロナウイルスの感染症対策を行いながら、3密を避け、卒業研究発表会を開催することができた。4年生・3年生は大学で発表会に参加し、1年生と2年生は、Google Meetを用いたハイブリッド形式で実施した。現在の社会状況に合わせた開催方式であり、Webを利用した試みとしては成功したと考えられた。 ・ 学習成果の可視化として取り組んでいる3年次卒業研究の評価基準であるが、聞き取りの結果、ゼミごとに進行度合いや、学修内容に差があることがわかった。卒業研究評価表のようなルーブリックを策定することは困難であり、スポーツ健康福祉学科にあった卒業研究評価を検討する必要があると考えられた。 ・ 3年生を中心とした学生主体の運営は卒業研究発表会のハイブリッド化を試みるため、来年に見送った。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハイブリッドの開催にしたため、1年生の卒業研究発表会への参加が少なかった。来年度は1年生の参加を促進する方策を検討する。 ・ 学習成果の可視化については、現在各ゼミで行っている評価を事前に学生へ明示可能であるか、またそれをシラバスに表記できるか意見を聴取する。 ・ 来年度は3年生が主体性（問題発見・解決力）を持って運営にあたる準備・工夫を考えていきたい。 <p>【基礎国語力増進への対策】CP1<1></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義科目におけるe-learningシステム「すらら-国語」導入の長期運用の可能性を調査する。 ・ 積極的なe-learningシステム「すらら-国語」の活用を学生に推奨する。 ・ e-learningシステム「すらら-国語」実施による学生の国語力の変化について調査・検討を行う。 <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎演習(リメディアル教育に関する講義科目)にて、「すらら-国語」を導入・運用することができ、実施率は前期・後期ともに100%であった。 ・ 「すらら」開始前に実施した国語テスト（全学統一国語試験）の結果から学生のレベルに合った「すらら-国語」の学習課題を設定し、その学習課題全ての達成を基礎演習の単位認定の必須条件として実施した。結果、対象学生の課題達成率は前期・後期ともに課題未達成者が1名出たため97%であった。 ・ 前期・後期のはじめに各々実施した国語テスト（全学統一国語試験）の結果比較では、「すらら-国語」実施後、前期のテストで成績下位層だった学生は、後期のテストでは維持ないしは上昇傾向となったのに対し、成績中位・上位層の学生は低下傾向という結果となった。 ・ 成績中位・上位層の学生の中には計画的な学習ができていないものも数名見受けられ、学習・テストへの取り組み姿勢についての指導方法を見直す必要があると考えられる。

《課題・次年度へ向けて》

- ・引き続き、「すららー国語」の活用を促し、実施率 100%を目指す。
- ・「すららー国語」の長期的な実施を目指し、学習内容や学習時間の精査・検証を続ける。
- ・今回の結果に基づき、国語能力向上にむけた「すららー国語」の実施内容の見直しを図ると共に、学習への取り組み姿勢についての指導方法を改善し、学生のモチベーション維持・増進を図る。

【国語以外のリメディアル教育への対策】CP1<1>

- ・既存のリメディアル教育への「すららー数学・英語」導入の可能性について調査・検討を行う。
- ・e-learning システム「すららー数学・英語」について、学生に対し積極的な活用を促すと共に、利用環境の整備を行う。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・既存のリメディアル教育への「すららー数学・英語」の導入の可能性について検討し、課題の抽出を行った。
- ・学生に対し「すららー英語・数学」の利用・活用方法についての説明会を開催するなど、取り組みやすくなるよう学習環境の整備を行ったが、利用率の向上には至らなかった。

《課題・次年度へ向けて》

- ・引き続き既存のリメディアル教育への「すららー数学・英語」導入の可能性を調査・検討を行う。
- ・次年度も学生に対し「すららー数学・英語」の活用を推奨すると共に、実施方法・環境を見直し、利用率の向上を目指す。

【国家試験合格率アップへの対策】CP2<8>

《はり師・きゅう師》

- ・新卒合格率 100%を目指す。
- ・新カリキュラム移行後の国家試験に対応した受験対策を模索する。
- ・ロードマップの更新を行い、その年度における受験者全員の国家試験合格を目指す。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・令和2年度新卒合格率は、はり師 80%（10名中8名合格）、きゅう師 90%（10名中9名合格）となり、100%合格は未達成であったが、令和元年度の合格率（はり師 66.7%（9名中6名合格）、きゅう師 66.7%（9名中6名合格））を上回ることができた。
- ・合格率100%を目指し、担当教員で学生の学力に合わせた個別フォローを行った。
- ・令和3年度の国家試験に向けて対策講義の回数を増やし、新型コロナウイルス感染症対策としてGoogle meet を利用した講義の形式で継続中である。

《課題・次年度へ向けて》

- ・3年生の春休みから、基礎的な学習内容の復習を試験的に開始する。
- ・webを使用した国家試験対策の実施をさらに拡充する。

《社会福祉士》

- ・学部で連携して可能な限り早期より模擬試験に取り組みせ、その結果を基に弱点を分析し、弱点を克服するための方策を練る。
- ・新卒合格率の全国平均を常に上回ることを目指す。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・ロードマップを作成し、目標到達状況を把握しながら、試験対策を強化してきた。
- ・時事福祉学履修生33名：社会福祉士受験予定者23名（臨床18名・スポ5名）と精神保健福祉士受験予定者11名（内2名は両資格受験）に対して、年間17回の模擬試験（内有料模擬試験3回）を実施した。教員を学生担当制にして、2週間に1回の個別指導を行った。また、昨年度に追加して、苦手科目を抽出し、教員による試験対策解説時間を6回実施した。さらに、DVDを活用した試験対策講座視聴を5回設定し実施した。
- ・早い時期からの試験対策として、2年・3年生の自主勉強会では、国家試験ガイダンスを行い、主要科目の模擬問題と解説時間を設定し実施した（前期7回、後期7回）。自主勉強会での模擬問題は、実習指導科目の基礎知識試験問題に連動させた。
- ・夏季休業中や年末年始も演習室を開放し、学習環境を整えた。コロナ感染対策として、演習室の使用人数制限を徹底して行った。また、遠隔授業に切り替わった際にも、模擬問題などを郵送するなどして、継続して試験対策ができるように環境を整えた。

《課題・次年度へ向けて》

- ・本年度同様にロードマップを作成し、時事福祉学において段階的な学習を進めていく。特に、苦手科目の分析を行い、克服策を検討し、個別指導を充実していく。
- ・2年3年生の自主勉強会では、オリエンテーションにて国家試験の概要や早期に取り組むことの必要性を説明し、勉強方法の習得と継続的な学習の習慣化のための方策を検討していく。
- ・卒業生からの合格体験談を聞く機会を設け、試験対策のモチベーションを高めていく。
- ・コロナ禍の状況にあっても試験対策の方法を随時検討しながら、対応策を検討していく。

【学科教員の教育力アップの対策】CP1 CP2

1. 授業の質を高める。
 - ・大学で実施されている教員相互の授業参観の推進を行う。
 - ・学生からの授業評価を受けて、教員が自らの授業の問題点を把握し、改善するための工夫について学科内で発表、検討を行う。
 - ・学部FD（教育部門）との連携を図り、研修の成果を教育に反映させる。
2. 適切な教育評価を実施するため、特にはり師・きゆう師の国家試験関連科目（専門分野）における定期試験問題を教員間で閲覧可能な体制を整える。
3. その他
 - ・各年度に実施した内容の結果・成果について検討し、年次改善が可能な体制を作る。

《取り組み状況・実績・成果》

1. 授業参観は新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、実施した教員は3名と少なかった。学生からの授業評価の有効活用に関しては、2月の学科会議で学生アンケート結果において高評価を得た教員から、講義のポイントについて報告を行う予定である。「学部FDとの連携を図る」について、今年度は2月に『配慮の必要な学生への対応』について、みずのメンタルクリニックの水野知秀医師を講師に迎え、グループワーク形式で実施予定である（学部戦略部門）。このFDは今後大学教育にとって重要視される、配慮の必要な学生への教授方法の学習に有益であると考えられる。
2. 国家試験に関わる教科担当教員（専門分野）が定期試験問題等を閲覧できるシステムについて、今年度も昨年同様、コロナ対策および作業の簡素化を図るため、学内メールシステム内での保管を実施した。

《課題・次年度へ向けて》

1. 課題として、「相互授業参観」は自己の講義に対する気づきをもたらす効果が高いと考えられるため、次年度は積極的な参加を促す必要がある。また感染症の時代であることを鑑み、FDのみならず教育効果を高めるための情報発信について検討する必要がある。

【教育施設のレベルアップのための対策】

- ・学生に対して教育施設・設備・備品への要望を調査し、実現可能な整備を行う。
- ・体育館、グラウンドなどのスポーツ関連施設・設備・備品について、安全性等を調査し、整備する。
- ・資格試験対策別（鍼灸・社福・教職・AT）の自習室を確保する。各部屋に試験対策の問題や書籍を常置する。
- ・実習・実技科目において必要と考えられる設備・備品等について、費用対効果を踏まえて優先順位をつけ、順次整備を行う。さらに、既存の設備・備品等のより効果的な活用法について検討する。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・教職の模擬授業においてICTを活用した授業を実践するため電子教科書を導入した。
- ・教育施設（グラウンド）に、授業で使用する用具を保管するための倉庫を設置した。
- ・ICTを活用した双方向型の講義を実践するために、ICT関連機器（電子黒板機能付きプロジェクター）を導入した。
- ・元キャリア支援室の活用法について、学部戦略を中心に話し合いが行われ、演習室兼印刷室として学生に開放することとなった。
- ・はり師きゆう師国家試験の受験に向けた関連書籍、過去問題集をB-418演習室に常設した。また、同演習室でネット接続と印刷が可能なPCを設置した。
- ・高額な実習・実技科目における設備・備品等について、本年度の使用状況を確認した。講義、部活動、研究など、使用目的と使用頻度の調査を行った。加えて、新たに購入した機器・備品を庶務課と協力し、把握した。

《課題・次年度へ向けて》

- ・導入したICT関連機器の積極的な使用を促す。
- ・学生からの教育施設についての要望を引き続き確認し、大学内の担当部署に提案を続け、スポーツ関連設備のさらなる充実を図る。
- ・体育館、グラウンドなどのスポーツ関連施設・設備・備品について、安全性等を調査し、整備を検討する。なお、使用頻度が少ないものについては、教員へ使用を促す。
- ・資格試験対策（鍼灸・社福・教職・AT）の自習室確保の検討と、試験対策の関連書籍および資料の充実を図る。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大に際し、対面授業や実習が従来通り行えていない状況を踏まえ、使用頻度が低い機器・設備に関して、可能な限り教員へ使用を促す。

【就職率アップへの対策】DP

- ・就職活動中の学生の取り組み状況や希望職種について把握し、就職活動を支援できる環境整備を行い、高い就職率を維持する。
- ・キャリアサポートセンターの利用や就職面談会への参加を引き続き促す。
- ・キャリアサポートセンターと教員との連絡を密にとり、就職活動が遅れている学生の指導に役立てられる環境整備を行う。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・教職担当教員の対策講座が実を結び、本年度は教員採用試験の現役合格者が1名であった。
- ・通信教育を利用した小学校教諭免許と支援学校教諭の免許取得が可能となったことを、学科ブログなど利用し、広報を行った。
- ・キャリアサポートセンターの利用増加を目指した。昨年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、大規模な就職説明会の開催は見送られたものの、Webを利用した遠隔面談会や、workCafé 延岡のWeb開催など新たな試みがキャリアサポートセンターを中心に行われ、学生の参加を呼びかけた。
- ・キャリアサポートセンターから送られてくる就職情報（主に公務員採用試験に関する情報）を学科内教員と共有を行った。
- ・学生へキャリアサポートセンターの活用、および内定者への報告を呼びかけた。

《課題・次年度へ向けて》

- ・残念ながら、キャリアサポートセンターの利用は伸び悩みがみられた。特に4年生の就職内定者の報告は50%にも達していない。現在キャリアサポートセンターが取り組む、Webを利用した求人検索やSNSを活用した就職相談を学生に積極的に告知していく。
- ・学科会議ごとに、就職内定者の情報を集約し、キャリアサポートセンターと情報共有を行う。

【学生生活サポート対策】

- ・悩み（授業、部活動など）のある学生が、より相談しやすい体制を構築する。
- ・学科会議において学生の状況を共有する。
- ・学生同士、横の繋がりのみならず、縦の繋がりを築ける行事を開催する。
※既に実施している、茶話会、合同交流会、運動会、宿泊研修等に加えて新たな行事を検討する。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・チューターによる学生相談に加え、保険室内の学生相談室でのカウンセラーによる学生相談を受けられることを学生に周知した。
- ・個人情報の管理に十分配慮しながら、学内のカウンセリングに関する状況をカウンセラーと関係教員とで共有し、学生指導に活かした。
- ・月1回の学科会議において、学生に関する情報交換を行い、その内容を教員間で共有した。
- ・オフィスアワーを積極的に活用するように学生に促した。オフィスアワー以外でも、何かあればチューターもしくは自分の話しやすい教員に相談が可能であることを伝えた。
- ・今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊研修・学科交流会等のイベントが軒並み中止になったことで、新入生の交流の場をつくるのが難しかった。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、2～4年生においては交流会のイベントは行うことができなかった。
- ・学科戦略会議にて、学生生活のサポートにより役立つ学科行事の時期・内容等について現状の評価および次年度についての検討を行った。

《課題・次年度へ向けて》

- ・問題を抱えた学生を可能な限り早期に発見・対応するために、チューター・学科教員・カウンセラー・保護者・事務職員との連携を図ったサポート体制をさらに充実させる。

- ・ よりよい学生生活を送れるようにするためにも、新型コロナウイルス感染症に最大限配慮しながら、可能な範囲で学科行事については検討し、実施する。

【退学者防止対策】

- ・ チューター時間(1回/月)、ゼミ指導時間(1回/週)を通じ、学生の学業への取組姿勢、出席状況、その他の学生生活状況を把握し、学生の学習意欲、心身面の健康状況をチェックする。
- ・ 学科行事やゼミ活動等を通じ、異学年の学生や卒業生と交流の場を企画し、各学生が卒業までの過程をイメージした上で、卒業に向けたモチベーションを高く持ち学生生活に臨めるように学習環境を整える。
- ・ 退学の意向を示す学生に対しては、チューターが個別に抱え込まず、学科教員全体で当該学生の課題解決、退学防止に向けた対策を考え、実施する。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・ チューター時間(1回/月)、ゼミ指導時間(1回/週)での個別面談によりチューター生の学生生活状況を把握し、学業や人間関係、その他における学生生活をサポートし、大学での生活課題の抱え込み、孤立等を予防し、学生の学習・生活環境を整えた。本年度はGoogle Meetを有効活用し、遠隔での対応も行った。
- ・ 感染症予防のため例年実施の新1年対象の宿泊研修、1～4年対象の学科運動会はやむなく中止した。
- ・ 昨年度に続き実施した2年生時のGPAおよび2年次までの習得単位数の基準の設置が、1～2年次の卒業に向けた共通の短期目標となり、学習目標を見失い将来の進路に悩む学生を減少することができた。
- ・ 退学や休学の意向を示す学生の悩みや意向を個別面談にてチューター、学科長が聴く場を設け対応すると共に、当該学生の現況を学科会議(1回/月)で情報共有し、学業や学生生活に課題を抱える学生を学科教員全体でフォローする体制を構築し、学科学生の退学防止に努めた。
- ・ 4年生の卒論発表会を12月25日(土)に対面方式で実施した。3年生は原則、対面参加、1～2年生はオンライン参加とした。卒論発表会参加により同学科4年生の卒論発表内容を聴くことは、専門科目受講数が少ない1～2年生が卒業までの学習目標をいただき、そのステップのイメージアップにつながり、学業に関する希望を見失う学生の予防、退学防止に向け有用な機会となった。

《課題・次年度へ向けて》

- ・ チューター時間、ゼミ時間等を通じた教員による個別支援の場と共に、大学での学びを活かし参加可能なスポーツ・レクリエーション活動の他、オンラインを通じた学年別の交流会等を企画し、学科行事等を通じ、学科生1～4年間の横・縦関係による支援力を育て、学科学生が大学生生活と卒業後の将来に希望をもち学業生活に臨む場を構築し、退学者防止に努める。
- ・ 2年時のGPAおよび2年次までの習得単位数に設けた基準の意義を1・2年生にわかりやすく説明し、これらの基準を1・2年生が卒業に向けた短期目標として捉え、将来に希望をもち学業に取り組む環境を整える。3・4年生については卒業、資格取得等の具体的な目標をもち主体的に学業に取り組む姿勢を、専門ゼミチューターを中心に育み指導する。

【学生指導力の向上】

- ・ チューター制度を活用し、学生の単位取得状況や生活状況を把握し、学生一人ひとりの状況に応じた適切な助言、指導を行う。また必要に応じて保護者や関係者へ連絡を行う。
- ・ 学科教員全体で学生の情報を共有する。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・ 学部において教育力向上のためのFDが行われ、外部講師からの講演を受け活用に努めている。
- ・ 毎月の学科会議で学生の状況について情報共有を行うとともに、早期に支援が必要な学生について学科教員全体で支援ができるよう努めている。加えて科目担当教員間での学生の学習への取り組みや出欠状況についても適宜情報交換を行い、学生支援に結びつける努力を行っている。
- ・ 各チューターは、出席状況や成績、単位の取得状況を常に把握し、学生と面談を行うなど早期の問題解決へ導く支援を行うと同時に、必要に応じて保護者との話し合いの場を設けるなど学生支援に努めている。

《課題・次年度に向けて》

- ・ 欠席の増加や学業不振といった学生の変化を早期に把握し、各学生に応じた支援を行うことによって、留年者や退学者を出さないよう努める。
- ・ 学科教員間での情報共有はもちろんのこと、学業不振のチューター学生については、学科以外の各科目担当の教員からの情報を把握し、学生支援に結び付ける必要がある。
- ・ 遠隔授業時では、直接対面での個々の学生の様子(学習態度、生活態度等)を確認することが難しいことから、より積極的に学生との連絡を行う必要がある。

	<p>【社会人としてのマナー対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員から積極的に学生への挨拶を行い、模範を示す。 ・ 全学科教員が学生生活の様々な場面において、社会人としての態度や発言などのマナーについて必要な指導を行う。 ・ 学科行事やイベントを通して適切な態度を身につけさせる。 ・ 学外活動を通して、社会人としてのマナーを自覚させる。 <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全学科教員は学生に対して講義だけでなく様々な場面において、社会人としてのマナーや社会性を身につけるための働きかけを行った。 ・ 各種学外実習では、知識だけでなく、社会人として必要な態度やマナーの必要性を自覚する機会となった。 <p>《課題・次年度に向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学科の全教員が、社会人としてのマナーの規範となるよう取り組む。 ・ 実習や就職に向けて、社会で必要なマナーや社会人として必要な態度を身につけられるよう、教員は積極的に学生に関わり、マナー修得に働きかける。 ・ 新型コロナウイルスのため、学科イベント（交流会や運動会）の中止やオープンキャンパスでの学生の参加が縮小されたため、他学年や外部の方々とのコミュニケーションを図る機会が少なくなった。学内での学生間や教員とのコミュニケーションを積極的にとるよう働きかけることによって社会性向上のための機会とする必要がある。 ・ 学科イベントや学外ボランティアへの参加が可能になれば、様々な人々とかかわりコミュニケーション能力向上や社会人としての態度の習得のための機会にする。 ・ 学外実習を通して、社会人として必要な態度やマナーを身につける機会とする。
募集力	<p>【学科入学定員確保のための対策】AP</p> <p>○戦略的な募集活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生や在學生に進学に関する調査を行い、戦略的に広報活動を行う。 ・ 部活動単位での募集活動を行う。 ・ 女子学生の受験者数を増やす。 ・ 県別に高校の特徴を把握し、本学科への進学が見込めそうな高校に広報活動を重点的に行う。 <p>○学内の施設・設備の整備を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ関連施設・設備を整備し、特色ある環境にすることで他大学との差別化を図る。 ・ グラウンドやウェイトトレーニング場を段階的かつ継続的に整備し、高校生に魅力ある環境を整える。 <p>○社会的ニーズに応じた教育力を上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ はり師・きゅう師やアスレティックトレーナー、健康運動指導士、教員免許等資格等の資格取得率を上げるため、対策講座や実践的研修を実施する。 ・ 地域の要請に応じて、教員が運動指導に出向いたり、アスレティックトレーナーを目指している学生を派遣したりすることで、より活発な交流を図る。 <p>○広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNSを活用し、学生目線で一般市民へ大学をアピールする。 ・ スポーツ関連の各種大会やイベントに教員やアスレティックトレーナーを目指している学生を派遣し、学科のPRを行う。 ・ 在學生が出身高校へ現況報告や実習挨拶を行う機会等を活用し、本学科のPRを行う。 ・ スポーツ関連の各種大会やイベントに教員が赴き、学科のPRを行う。 <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 戦略的な募集活動については以下の通りである。 <ol style="list-style-type: none"> ①進路ガイダンス、出張講義、教育実習での巡回訪問の際に、大学進学に際して大学を選ぶ理由、ポイントについて聞き取りを行った。特にスポーツ系の大学に求める事柄について聞き取りを行った。 ②サッカー部、陸上部等のクラブ活動を中心に学生の募集を行い、前年度より多くの生徒が本学受験、入学に繋がった。 ・ 学内の施設・設備の整備については以下の通りである。 <ol style="list-style-type: none"> ①2号棟プレイルームにATルームの機能を持たせた。それによってオープンキャンパスや大学見学会等で施設を有効に活用できるようになった。特に高校生が施設見学をする際に鍼灸の施設と合わせて同時に見学できるようになった。 ②グラウンドの天然芝の管理ではサッカー部の学生を中心に水やり、肥料の散布、冬芝の種蒔きを計画的に行い、緑化に努めた。また、芝刈りに関しては学科の教員が行うことで、芝生の生育が促進された。

- ・ 社会的ニーズに応じた教育力を上げるについては以下の通りである。
 - ①資格取得率向上のために、各資格の担当者が模擬試験や個別に学生対応などの対策講座を行った。教員採用試験では、現役合格1名に繋がった。
 - ②ATの学生や教員が積極的に地域や高校に出向き、トレーナーとしてのサポートや講習会を実施した。特に神田講師、佐々木講師はオリンピックや日本代表関連のトレーナーとして競技団体をサポートした。また、両教員が本学の選手のみならず、地域のクラブチームの選手のサポートを行った。
 - ③高大連携事業では、正野教授が高校水泳部への指導を継続的に行っている。
 - ④学科の多くの教員がスポーツ関連の外部団体の委員を行うことで先進的なスポーツの関連の情報を得るとともに小中高の競技団体の指導者と交流を行い、本学の広報を行った。
- ・ 広報活動については、上述した通り、多角的な視点から本学の広報活動を行った。SNSの活用ではAT部サッカー部、陸上部が学生を中心に行った。また、新たな試みとしてスポ科学生のInstagramを開始し学生生活を学生目線で発信した。大学HP内の学科ブログの更新回数については新型コロナウイルス感染拡大の影響で様々な行事が中止となったため十分に行うことができなかった。

《課題・次年度へ向けて》

- ・ 高校生への進学に関する調査を、学園広報を通じて実施をお願いしたい。特に、本学科に関するスポーツ系への進学において高校生が重要視する点に関する情報を収集、分析し、戦略的に活用したい。
- ・ 女子の受験生を増やすために、女子生徒が魅力を感じる点について積極的にPRしていく。また、女子教育に関する取り組みを増やしていく（学部・学科単位のみでは難しいので、大学全体として取り組めるよう学内へも働きかける）。
- ・ 施設の整備では継続的にグラウンドの整備に努める。トレーニングルームの器具を段階的に入れ替えていくよう学生課と協力して行う。他大学との競争においてスポーツ施設の充実を行わなければ、他のスポーツ系大学との競争は困難となる。
- ・ 今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたが、前年度に比べると実施できたものもある。特に、オープンキャンパスや入学式、卒業式でGoogle meetを活用したLive配信やOB・OGとの対談等を実施することで、本学科の魅力や取り組みを発信することができた。コロナの影響のみならず社会状況を鑑みるとWebを活用した広報戦略を拡充する必要がある。
- ・ SNSを活用した広報活動では学生生活のInstagramを開設した。フォロワー数も増えてきたが、さらに増加させ、本学科の魅力や取り組みを発信していきたい。今後も多くの学生が更新できるよう協力をお願いする。
- ・ 募集活動全体としては、各学部、学科が足並みを揃える必要もあるが、学科独自の広報活動を行わなければ、それぞれの特徴を生かすことができないと考えられる。

【学科入学定員確保のための対策】AP

- 戦略的な募集活動を行う。
 - ・ 高校生や在學生に進学に関する調査を行い、戦略的に広報活動を行う。
 - ・ 部活動単位での募集活動を行う。
 - ・ 女子学生の受験者数を増やす。
 - ・ 県別に高校の特徴を把握し、本学科への進学が見込めそうな高校に広報活動を重点的に行う。
- 学内の施設・設備の整備を実施する。
 - ・ スポーツ関連施設・設備を整備し、特色ある環境にすることで他大学との差別化を図る。
 - ・ グラウンドやウェイトトレーニング場を段階的かつ継続的に整備し、高校生に魅力ある環境を整える。
- 社会的ニーズに応じた教育力を上げる。
 - ・ はり師・きゅう師やアスレティックトレーナー、健康運動指導士、教員免許等資格等の資格取得率を上げるため、対策講座や実践的研修を実施する。
 - ・ 地域の要請に応じて、教員が運動指導に出向いたり、アスレティックトレーナーを目指している学生を派遣したりすることで、より活発な交流を図る。
- 広報活動
 - ・ SNSを活用し、学生目線で一般市民へ大学をアピールする。
 - ・ スポーツ関連の各種大会やイベントに教員やアスレティックトレーナーを目指している学生を派遣し、学科のPRを行う。
 - ・ 在學生が出身高校へ現況報告や実習挨拶を行う機会等を活用し、本学科のPRを行う。
 - ・ スポーツ関連の各種大会やイベントに教員が赴き、学科のPRを行う。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・ 戦略的な募集活動については以下の通りである。
 - ①進路ガイダンス、出張講義、教育実習での巡回訪問の際に、大学進学に際して大学を選ぶ理由、ポイントについて聞き取りを行った。特にスポーツ系の大学に求める事柄について聞き取りを行った。

- ②サッカー部、陸上部等のクラブ活動を中心に学生の募集を行い、前年度より多くの生徒が本学受験、入学に繋がった。
- ・ 学内の施設・設備の整備については以下の通りである。
 - ①2号棟プレイルームにATルームの機能を持たせた。それによってオープンキャンパスや大学見学会等で施設を有効に活用できるようになった。特に高校生が施設見学をする際に鍼灸の施設と合わせて同時に見学できるようになった。
 - ②グラウンドの天然芝の管理ではサッカー部の学生を中心に水やり、肥料の散布、冬芝の種蒔きを計画的に行い、緑化に努めた。また、芝刈りに関しては学科の教員が行うことで、芝生の生育が促進された。
- ・ 社会的ニーズに応じた教育力を上げるについては以下の通りである。
 - ①資格取得率向上のために、各資格の担当者が模擬試験や個別に学生対応などの対策講座を行った。教員採用試験では、現役合格1名に繋がった。
 - ②ATの学生や教員が積極的に地域や高校に出向き、トレーナーとしてのサポートや講習会を実施した。特に神田講師、佐々木講師はオリンピックや日本代表関連のトレーナーとして競技団体をサポートした。また、両教員が本学の選手のみならず、地域のクラブチームの選手のサポートを行った。
 - ③高大連携事業では、正野教授が高校水泳部への指導を継続的に行っている。
 - ④学科の多くの教員がスポーツ関連の外部団体の委員を行うことで先進的なスポーツの関連の情報を得るとともに小中高の競技団体の指導者と交流を行い、本学の広報を行った。
- ・ 広報活動については、上述した通り、多角的な視点から本学の広報活動を行った。SNSの活用ではAT部サッカー部、陸上部が学生を中心に行った。また、新たな試みとしてスポ科学生のInstagramを開始し学生生活を学生目線で発信した。大学HP内の学科ブログの更新回数については新型コロナウイルス感染拡大の影響で様々な行事が中止となったため十分に行うことができなかった。

《課題・次年度へ向けて》

- ・ 高校生への進学に関する調査を、学園広報を通じて実施をお願いしたい。特に、本学科に関するスポーツ系への進学において高校生が重要視する点に関する情報を収集、分析し、戦略的に活用したい。
- ・ 女子の受験生を増やすために、女子生徒が魅力を感じる点について積極的にPRしていく。また、女子教育に関する取り組みを増やしていく（学部・学科単位のみでは難しいので、大学全体として取り組めるよう学内へも働きかける）。
- ・ 施設の整備では継続的にグラウンドの整備に努める。トレーニングルームの器具を段階的に入れ替えていくよう学生課と協力して行う。他大学との競争においてスポーツ施設の充実を行わなければ、他のスポーツ系大学との競争は困難となる。
- ・ 今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたが、前年度に比べると実施できたものもある。特に、オープンキャンパスや入学式、卒業式でGoogle meetを活用したLive配信やOB・OGとの対談等を実施することで、本学科の魅力や取り組みを発信することができた。コロナの影響のみならず社会状況を鑑みるとwebを活用した広報戦略を拡充する必要がある。
- ・ SNSを活用した広報活動では学生生活のInstagramを開設した。フォロワー数も増えてきたが、さらに増加させ、本学科の魅力や取り組みを発信していきたい。今後も多くの学生が更新できるよう協力をお願いする。
- ・ 募集活動全体としては、各学部、学科が足並みを揃える必要もあるが、学科独自の広報活動を行わなければ、それぞれの特徴を生かすことができないと考えられる。

【学科の魅力発信】AP

- ・ 近隣高校を中心に、出張授業の回数を増やし、学科の魅力を発信していく。
- ・ 在学生・卒業生が近隣高校へ赴き、学科の魅力を発信する機会を検討する。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、近隣高校へ出張授業に関して、実施回数が少なかった。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、在学生や卒業生が学科の魅力発信を目的に近隣高校へ行く機会は無かった。
- ・ 教育実習やアスレティックトレーナー実習は、副次的効果として学科の魅力発信に繋がっている。

《課題・次年度へ向けて》

- ・ 教員、在学生が高校へ赴く回数を増やしていく必要がある（社会情勢を鑑みて、オンライン講座等も検討する必要がある）。
- ・ 在学生が学科に魅力を感じ、母校や地元で本学の魅力について発信してもらえるよう、在学生への教育を充実させる必要がある。

<p>研究力</p>	<p>【学科教員の研究力アップのための対策】（DP<4>CP1<5>）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学科長が学科教員に対して、年間 1 本以上の論文作成を促す。 ・ 学科長が学位（博士号）未取得者に対して学位取得を促す。 ・ 最新知識および技術を習得するため、関連学会、各種セミナーへの参加を促し、その内容を教育などにフィードバックする。 ・ 各年度に実施した内容の結果・成果について検討し、年次改善が可能な体制を作る。 <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学科会議あるいは学部会議において学科長が教員および学位未取得者に対し、論文作成の意義と学位取得の重要性を示した。また大学研究部門FDと共同で、「研究経費助成」及び「地域創生事業経費助成」の研究・事業内容について、学内および市内のパブリックスペースにおいてポスター発表会を年度末に開催予定である。さらに今年度の論文等執筆について学科内調査を実施した。その結果、学会発表数（8）、学会参加数（19）は増加した。一方、論文数は昨年と同数であり、著作数は減少した。また学内研究助成への応募および採択については応募・採択ともに無かった。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナウイルスの影響が継続しているなか、学会発表、学会参加は増加し、論文数は昨年と同数であった。しかしながら新たに学位を取得した（あるいは取得予定）教員はいなかったため、これらの更なる促しが必要である。 <p>【研究施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存施設（機器備品を含む）の最大限の活性化および有効活用・共用化促進のために、「研究機器備品一覧」を作成する。 ・ 各年度に実施した内容の結果・成果について検討し、年次改善が可能な体制を作る。 <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本年度、学科教員が使用した機器について記載を求めた。その結果、学科備品（研究機器）および個人研究費による研究機器の合計使用数は21品目となった。そのうち19品目が学科研究機器となっており、学科で共有する研究機器が有効に活用されている結果となった。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学科で購入した研究機器が有効に使用されている状況であった。今後は更に研究機器の有効活用による研究数（論文数）の増加を促すことが重要である。 <p>【外部研究資金獲得のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学部研究部門と連携し、外部資金獲得関連FDへ積極的な参加を促す。 ・ 大学より各教員に配信される外部研究資金研究案内について、学科会議においても周知し、応募を促す。 ・ 各年度に実施した内容の結果・成果について検討し、年次改善が可能な体制を作る。 <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度も大学より配信された外部資金が獲得可能な研究助成について学科会議で周知し、応募を促した。しかし今年度、新たに科研費を中心とした外部研究資金獲得への申請者はなく、昨年度からの継続が1名であった。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部資金獲得へのチャレンジが少なくなっており、外部研究資金獲得への積極的な応募を促す更なる取り組みを継続していく。
<p>地域連携力</p>	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】（DP、CP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の依頼に応じたスポーツや健康に関する講演または講習会等を実施する。 ・ 地域との協力により、スポーツイベントを実施する。 ・ 地域の依頼に応じて、スポーツイベント等に学科教員を派遣する。 ・ 地域課題の解決を目的とし、地域の依頼に応じて、教員・学生による地域のスポーツや健康に関する調査研究を実施し、報告する。 ・ 地域の依頼に応じて、教員・学生を地域のイベントにボランティアとして派遣する。 <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ のべおか子どもセンターの依頼により、本学科教員が1回の講話をリモートで担当した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ のべおか子どもセンターのイベントにおいて、本学体育館を使用、またボランティアとして学生を派遣した。 ・ 延岡市の中高生を対象とした陸上競技の練習会に教員を派遣し、指導を行った。 ・ 木城町連携プログラムの一環で、教員を派遣し、地元中学生と大学生の交流会を実施した。 ・ 地域のスポーツチームに教員が指導者、学生が選手、トレーナーとして参加し活動を行った。 ・ 延岡市内の小中学校から依頼を受け、スポーツ指導（水泳）のボランティアとして学生を派遣した。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学の施設や人材等を活用し、地域と協力したスポーツイベントを企画、実施する。 ・ イベント情報を教員が把握し、より多くの学生にイベント参加を促す。
<p>総合力</p>	<p>公私協力方式で設置された本大学の使命のひとつは、地域へ学生を呼び込み（定員充足率）、建学の理念に基づいて教育し、社会に有為な人材として輩出することで地域社会の発展に寄与することである（各種試験合格率、就職率）。スポーツ健康福祉学科の「教育力」、「募集力」、「研究力」、「地域連携力」を本中期目標・中期計画により向上させ、それらを戦略的・有機的に統合することで、学科の総合力を高め、学生および地域にとって有益な価値を創造し、提供することを目指す（公表論文数、講習会等講師派遣数、地域連携事業数など）。</p> <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学科の「教育力」、「募集力」、「研究力」、「地域連携力」を向上させるために、本中期目標・中期計画に基づき様々な取り組みを実施した。 ・ 昨年度に引き続き、本年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響により、教員と学生が直接対面して行われる教育活動が制限されたが、遠隔授業の経験が蓄積され、「教育力」の向上を目指した取り組みにおいて有益な発見が多くあった。 ・ 「教育力」の向上を目指した取り組みのひとつで、昨年度は中止せざるを得なかった卒業研究発表会を4年生と3年生は大学で発表会に参加し、1年生と2年生は、Google meetを用いたハイブリッド形式によって開催することができた。 ・ 「募集力」の向上を目指した取り組みにおいては、学外での募集活動は制限されたが、昨年度に比べると実施できたものもある。オープンキャンパスや入学式、卒業式でGoogle meetを活用したLive配信やOB・OGとの対談等を実施し、SNSを活用した広報活動では学生生活のInstagramを開設することで、本学科の魅力や取り組みを発信することができた。 ・ 「地域連携力」の向上を目指した取り組みにおいては、感染予防策を徹底して可能な限りの活動を実施した。のべおか子どもセンターの活動では、昨年度の経験を踏まえて遠隔での講話を継続して実施した。初の試みとして、延岡市内の小中学校から依頼を受け、水泳授業のボランティアとして学生を派遣した。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「研究力」についての改善が必要である。 ・ 「教育力」、「研究力」、「地域連携力」の戦略的・有機的な統合により、「募集力」を高める。 ・ 遠隔授業の経験によって得られた知見を活用し、総合力を高める。
<p>3つのポリシーからの総評</p>	<p>ディプロマ・ポリシー（DP）に掲げた目標達成のために、本中期目標・中期計画にて策定した「教育力」、「募集力」、「研究力」、「地域連携力」および「総合力」を高める取り組みを行った。</p> <p>「教育力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生自ら考える力のアップへの対策（DP4）では、昨年度は中止となった卒業研究発表会を Google meet を用いたハイブリッド形式によって開催することができた。3年生を中心とした学生主体の運営はハイブリッド化を試みるために見送った（CP1<5>）。学習成果の可視化として取り組んでいる3年次卒業研究の評価基準についての聞き取りの結果、卒業研究評価表のようなループリックを策定することは困難で、学科にあった卒業研究評価を検討する必要がある（CP3<11>）。 ・ 基礎国語力増進を図るために e-learning を活用したリメディアル教育を実施したが、全学統一国語試験で前期の成績下位層は、後期では上昇傾向となったのに対し、成績中位・上位層は低下傾向という結果となった。成績中位・上位層への指導方法を見直す必要があると考えられる（CP1<1>）。 ・ 専門的知識・技能の活用力向上（DP3）を目指し、社会福祉士国家試験対策では、ロードマップを作成し、目標到達状況を把握しながら、試験対策を強化してきた。夏季休業中や年末年始も演習室を開放し、学習環境を整え、新型コロナ感染症対策として、演習室の使用人数制限を徹底して行った。また、遠隔授業に切り替わった際にも、模擬問題などを郵送するなどして、継続して試験対策ができるように環境を整えた（CP2<8>）。今後もロードマップに沿った段階的な学習を進めていき、特に、苦手科目の分析を行い、克服策を検討し、個別指導を充実していく。はり師・きゆう師国家試験対策では、担当教員で学生の学力に合わせた個別フォローを行った。対策講義の回数を増やし、新型コロナ感染症対策として Google meet による遠隔講義を行った（CP2<8>）。3年生の春休みから基礎的な学習内容の復習を試験的に開始し、web を使用した国家試験対策の実施をさらに拡充する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学科教員の教育力アップの対策（CP1、CP2）については、学部 FD として医師による発達障害についての講演、質疑応答を行い、学生への対応について多くの示唆を得ることができた。 ・ 就職率アップへの対策（DP）については、キャリアサポートセンターの利用増加を目指した。昨年度から引き続き、新型コロナウイルスの影響により、大規模な就職説明会の開催は見送られたものの、web を利用した遠隔面談会等の新たな試みが行われた。3 年連続して教員採用試験で現役合格し、教職担当教員の対策講座の成果が出ている。 <p>「募集力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学科入学定員確保および学科の魅力発信のための対策（AP）では、教育実習や部活動を活用した取り組み、入試広報課と連携した取り組みを可能な限り実施した。オープンキャンパス等で Live 配信や OB・OG との対談等を実施し、SNS も活用してインスタグラムを開設した。入学者数は本年度一旦低下したが、現在の入試の状況では上昇傾向にある。 <p>「研究力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学科教員の研究力アップのための対策（DP〈4〉CP1〈5〉）は、カリキュラム・ポリシーを実践するための基礎となるものである。学会参加・発表は増加したが、論文は昨年と同数であり、著作数は減少した。教員 1 名が大学院博士後期課程に合格し、次年度より進学する予定である。一方で、ここ数年業績のみられない教員がおり、研究活動の促進が依然として課題である。 <p>「地域連携力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学科の地域連携力アップのための対策（DP）は、地域社会に貢献するとともに、カリキュラム・ポリシーを実践する貴重な場でもある。本年度も、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、多くのイベントが様々な制限を受けたが、昨年度の経験から感染予防策を徹底して可能な限りの活動を実施した。初の試みとして、延岡市内の小学校から依頼を受け、水泳授業のボランティアとして学生を派遣できたことは、地域貢献のみならず学生教育にも活かされるものである。 <p>「総合力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学科の「教育力」、「募集力」、「研究力」、「地域連携力」を向上させるために、様々な取り組みを実施したが、「総合力」を高めるためにはまだ不十分である。最終年度となる次年度も、本中期目標・中期計画に基づき改善を図っていく。
<p>次年度への展望 (まとめ)</p>	<p>第 2 期中期目標・中期計画の実施 3 年目も、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響から、取り組みに制約がかかった。そのような中でも昨年度からの遠隔授業等の経験から、授業や業務が改善され、新たな試みを実施することができた。</p> <p>本学科の現状は、競合学部・学科新設による影響を受け、4 年続けて定員を確保できていない。さまざまな対策を講じ、上昇傾向であった入学者数は本年度一旦低下した。さらに創意工夫を重ね、現在の入試の状況では上昇傾向にある。引き続き次年度も、本学科へ進学したいという高校生に対する魅力づくりと、それらを広報する策についてさらに検討を重ね、可能なものから実施していく。</p> <p>取り組みの改善によって成果が出始めたものと、まだ目に見える成果としてあらわれていないものがある。3 年目の実施・評価結果を最終年度となる次年度に活かし、さらなる学生生活の充実を図り、学生の満足度を高めることを目指し、課題として挙げられたところは改善策を講じながら計画を遂行していく。</p>

九州保健福祉大学 社会福祉学部 臨床福祉学科

2021年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>九保大だから学べる「人の生き方を支える幸せ」をプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。</p>
<p>学科からの メッセージ</p>	<p>臨床福祉学科の教育には、誰もが自分らしさを発揮し安心して暮らせる社会の実現を目指して、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士を育成する「臨床福祉」と、カウンセリングの専門性を有する心理・福祉の専門職を育成する「臨床心理」の2つの専攻がある。現在社会では、悩みや問題を抱える方の生活を支える福祉学と心を支える心理学の専門的な知識と技術を備えた人材がますます必要となっている。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、専門知識に加えて人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養する。</p>
<p>教育力 (ブランドカ) 「学修成果の可視化」の観点を含む</p>	<p>【学生自ら考える力のアップへの対策】DP(6) (7), CP(1-7) (2-1) (3-3) ■卒業研究評価用ルーブリックの導入の検討を進め、学科共通および専攻ごとの試案を作成し、試案に基づいた卒業研究指導のあり方を学科で共有したうえで指導を実践し、学生が自ら学ぶ力を十分に引き出すことのできる卒業研究発表会の実現を目指す。 ■全ての講義において学科教育力を向上させるアクティブラーニングの導入を目指す。</p> <p>・卒業研究評価用のルーブリックの導入を検討する。アクティブラーニング実施科目における現状と課題の分析を行う。 その結果をもとに、導入可能なルーブリックの試案を作成し、卒業研究指導のあり方について学科で共通理解を行い実践し、最終的にはルーブリックに基づいた卒業研究発表会を開催する。 また、アクティブラーニング実施科目について拡大するとともに根幹をなすスモールグループディスカッションの効果的な実施方法について検討・評価・改善を並行して行う。</p> <p>【2021年度の取り組み状況】 ・卒業研究における学生の自ら考える力とは何かについて学科教員間において共通理解を深めるにおいて、コロナ禍及びウイズコロナの時代を見据えた視点を取り入れた卒業研究評価用ルーブリックの試案の作成を試みた。 ・コロナ禍前のアクティブラーニングに変わって、コロナ禍及びウイズコロナの時代に対応できるアクティブラーニングの効果的な導入を検討したが、変異ウイルスなどの感染可能性についての不確定な要素があり、十分な検討に至らなかった。</p> <p>【次年度の課題】 ・引き続き、卒業研究評価用ルーブリックの採用を目指し、コロナ禍及びウイズコロナに対応可能なルーブリックを試作して卒業研究発表会の開催を目指す。 ・収束の見込みがないコロナ禍を前提として、それに対応可能なアクティブラーニング導入を行い、さらなる制限のある講義環境においても学習効果を高める工夫を検討する。</p> <p>【基礎国語力増進への対策】DP(3) (4) (5) (6), CP(3) (8) ■基礎演習および e-learning を活用した国語力増進プログラムを構築し、文章力・読解力の基礎を身につけ、専門書の内容理解やレポート報告書の作成、卒業論文の執筆ができるようにする。同時に論理的思考を身につける。</p> <p>・中期計画第1期では学生自身が積極的に e-learning による学習を進めることができなかった。初年度は学生が自発的に取り組む学習プログラムを再検討し試行し、計画的に検証し改善を行い、学習プログラムならびに学習効果の測定方法を構築する。</p> <p>【2021年度の取り組み状況】 ・前年度の取り組みの継続として4-9月期、10-1月期に分けて課題を設定し、実施した</p>

- ・e-learning での学びを実践に活かすため、基礎演習 I・II の科目において文章の読解や要約、テーマに基づいた小論文の作成とプレゼンテーションソフトも用いた発表をおこなった
- ・期末試験等学生の学習スケジュールを考慮し、e-learning の課題の最終締め切りを 2 月末に設定し、春休みまでじっくりと取り組めるようにした。

【次年度の課題】

- ・一部の学生において、学習プログラムの期日直前の学習は改善されていない
- ・e-learning による学習内容が、具体的にどのように実際の文章読解や文章作成に活かされるのか、e-learning と基礎演習の連動(具体的には e-learning の学習課題と基礎演習の学習単元のつながり)について検討する必要がある。

【国語以外のリメディアル教育への対策】DP (6), CP(3) (8)

■統計や社会調査等のデータの取り扱いに際し必要となる数学的知識や操作スキルの習得プログラムの作成と導入方法の検討ならびに実施(福祉専攻)

- ・中高までに学んだ人文科学・社会科学分野の知識の補修を基礎科目等において柔軟かつ適切に実施し、高大の学びの接続を意識させる。
- ・統計や社会調査等のデータの取り扱いに際し必要となる数学的知識や操作スキルの習得プログラムを作成し導入方法を検討する。
- ・大学院進学希望者への受験対策として高校英語の再学習の機会を設け、語学力の増進を図る。
- ・公務員就職希望者への受験対策として高校履修内容の再学習の機会を設け、語学力及び一般教養分野の向上を図る。

【2021 年度の取り組み状況】

- ・基礎演習に大学共通テキストが導入されたことから、従来の「文章読解力・作成能力」に加え、「資料の収集方法」や、「プレゼンテーション」等、高校において一通りは学んでいるであろう事項も含め補修できた。
- ・しかしながら本学科学生の国語能力の不足は深刻の度合いを深め、その対策を急がねばならない現実があったため、基礎演習における本格的な実施は難しかった。
- ・前述のとおり中学レベルの国語能力が不足しているだけでなく、読書習慣の無い学生も多数を占めるようになってきているため、e-learning を最大限活用し、説明的文章だけではなく文学的文章にも取り組むよう指導した。このことは単なる国語能力(読解力や作文力等)を超え、福祉人として必要な人間心情の洞察にも資すると思料する。
- ・後期試験後の春休みは学習習慣が崩れ怠惰に流れる学生が多いことから、e-learning の期限を 2 月末日まで延長し、現代文については完遂を目指すよう指導した。
- ・社会調査法の講義時間を利用し、演習形式でその概略を学ばせた。
- ・大学院を目指す学生に対し、昨年同様、一部ゼミにおいて英語文献を使用する等、リメディアルを兼ねた取り組みを行った。同時に、カリキュラムとは別に高校英語の再学習の機会を設けて指導を行なった。3年生5人、4年生4人が英語クラスに参加し、4年生の4人は大学院に合格した。
- ・公務員を目指す学生に対し、昨年同様、一部ゼミにおいて英語文献を使用する等、リメディアルを兼ねた取り組みを行った。同時に、カリキュラムとは別に中学～高校の履修内容の再学習の機会を設けて指導を行った(SPI・数的処理・文章理解・社会科学分野)。なお、20 年度参加者の中から 1 名公務員試験(日向市)合格者が出た。

【次年度の課題】

- ・引き続き、e-learning や基礎科目・基礎演習及び情報関連科目を利用した人文・社会分野の補修及び統計・社会調査に関する学習を継続する。但し本学科においては国語力の向上が優先事項と考えられ、e-learning においては進捗状況にも差が生じやすい傾向にあるため、チューターの協力も得つつ、課題を完遂するよう粘り強く指導する。
- ・前年度見直した社会調査法の講義計画を継承・拡充し、統計や社会調査等のデータの取り扱いに関する基礎能力を育成すべく取り組む。

- ・未だコロナ禍に終息の兆しが見えないため、オンライン指導を通じた学習の機会を確保する必要がある。
- ・大学院を目指す学生に対し、昨年までと同様のゼミ及び勉強会のリメディアル的取り組みを継続していく。
- ・公務員を目指す学生に対し、昨年までと同様のゼミ及び勉強会のリメディアル的取り組みを継続していく。

【国家試験合格率アップへの対策】DP(3), CP(5)(6)(7)

■臨床福祉学科において社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の国家資格に関する知識、技術、価値を修得し、資格取得を目指すすべての学生が確実に国家試験に合格する。

- ・学部共通科目である時事福祉学への受講を促す。
- ・2年次から国家試験対策学習支援を実施する。
- ・社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の国家試験合格率アップのためのロードマップを作成する。
- ・1年次から資格関連科目授業において、資格取得の意義・意識づけを行う。
- ・計画的に国家試験結果を振り返り、時事福祉学での国家試験対策の検討・評価・改善を行う。また、年度初めに模擬試験を実施し、2年次からの国家試験対策学習支援の成果を評価し、学習支援の方法を検討する。

【2021年度の取り組み状況】

<社会福祉士国家試験対策>

- ・ロードマップを作成し、目標到達状況を把握しながら、試験対策を強化してきた。
- ・時事福祉学履修生 33名：社会福祉士受験予定者 23名（臨床 18名・スポ 5名）と精神保健福祉士受験予定者 11名（内 2名は両資格受験）に対して、年間 17回の模擬試験（内有料模擬試験 3回）を実施した。教員を学生担当制にして、2週間に 1回の個別指導を行った。また、昨年度に追加して、苦手科目を抽出し、

教員による試験対策解説時間を 6回実施した。さらに、DVDを活用した試験対策講座視聴を 5回設定し実施した。

- ・早い時期からの試験対策として、2年・3年生の自主勉強会では、国家試験ガイダンスを行い、主要科目の模擬問題と解説時間を設定し実施した（前期 7回、後期 7回）。自主勉強会での模擬問題は、実習指導科目の基礎知識試験問題に連動させた。

- ・夏季休業中や年末年始も演習室を開放し、学習環境を整えた。コロナ感染対策として、演習室の使用人数制限

徹底して行った。また、遠隔授業に切り替わった際にも、模擬問題などを郵送するなどして、継続して試験対策

策ができるように環境を整えた。

<精神保健福祉士国家試験対策>

- ・ロードマップを作成し、試験対策に取り組んだ。
- ・社会福祉士同様、時事福祉学で 17回の模擬試験（内有料模擬試験 3回）を実施し、その結果を踏まえ指導を行った。

- ・精神保健福祉士のみ受験の学生は後期の模擬試験から社会福祉士専門科目の模擬問題も実施し、基礎力の強化を図った。

- ・試験対策は、コロナ感染防止対策を行いながら 2～3名で問題に取り組む形式で行った。

- ・試験勉強に集中できるように、学習面だけでなく精神的側面、心理的側面、日常生活に対しても働きかけを行い指導や励ましを行った。

- ・社会福祉士同様、年末年始も演習室を開放し、学習環境を整えた。

<介護福祉士国家試験対策>

- ・ロードマップを作成し、計画的段階的に取り組んだ。
- ・1～3年生は、終了した科目ごとに、また、夏季・冬季・春季の休業時期にも課題を実施した。4年生は模擬試験を9回と科目ごとの試験対策を夏季休暇中に実施した。成績が振るわない学生には、個別に模擬問題や試験を実施した。
- ・模試実施後の指導は、最初から正誤は教えず、一から自分で調べ問題用紙に解答解説を記載するようにした。教員が記載内容を確認し、調べ方ができていない学生に対しては、調べ方や勉強の方法などを指導した。
- ・ボーダーラインの学生に対し、来学を勧め、個別指導を実施した。

【次年度の課題】

<社会福祉士国家試験対策>

- ・本年度同様にロードマップを作成し、時事福祉学において段階的な学習を進めていく。特に、苦手科目の分析を行い、克服策を検討し、個別指導を充実していく。
- ・2年3年生の自主勉強会では、オリエンテーションにて国家試験の概要や早期に取り組むことの必要性を説明し、勉強方法の習得と継続的な学習の習慣化のための方策を検討していく。
- ・卒業生からの合格体験談を聞く機会を設け、試験対策のモチベーションを高めていく。
- ・コロナ禍の状況にあっても試験対策の方法を随時検討しながら、対応策を検討していく。

<精神保健福祉士国家試験対策>

- ・本年度同様にロードマップを作成し、前期、後期前半、後半で到達目標の明確化を図る。また、各段階の到達目標達成のために学生がやるべきことを具体的に伝えるとともに、目標達成状況について評価する。
- ・4年次夏季に実施される精神科病院実習での学びを国家試験勉強につなげるために、専門科目に関する国家試験の出題傾向とその内容を前期に掴むための指導をする。
- ・4年次は、精神科病院実習、卒業論文作成、就職活動などストレスの多い時間となる。また、コロナ感染対策により様々な制約のなかでの試験勉強が予想されるため、前向きに課題に取り組めるように、常日頃から精神的・心理的側面、日常生活に対する支援を行う。

<介護福祉士国家試験対策>

- ・本年度同様にロードマップを作成し、1年生から計画的段階的に取り組んでいく。
- ・来年度は、社会福祉士とのダブル受験の学生のみであるため、社会福祉士の受験対策の状況を把握しながら進めていく。
- ・ダブルライセンス取得に向け、学習面だけでなく精神面にも働きかけ、モチベーションが保てるよう指導や励ましを行う。
- ・新型コロナウイルス感染症の動向を把握しながら、感染症予防対策に向けた学習環境を整える。
- ・調べ学習の継続を実施する。

【学科教員の教育力アップの対策】CP

■「学習成果の可視化」に向けた授業改善の仕組みの導入

- ・学部FDの積極的参加を促す。
- ・「学修成果の可視化」に向けた教員相互による授業改善の仕組みの検討・評価・改善を行う。

【2021年度の取り組み状況】

- ・教員に対して学部FDへの参加を促した。
- ・「学習成果の可視化」に向けて、2021年度も、コロナ禍により、授業形態のみならず期末の成績

評価も不規則なたちとなったため、具体的な取り組みを十分に進めることができなかった。

【次年度の課題】

・コロナ禍での教育内容変更の影響を精査し、学科教員間で連携し、教員相互による授業改善の仕組みの具体化に向けて、検討・評価・改善を試みる。

【教育施設のレベルアップのための対策】DP(3)(6)(7)、CP(6)(8)

■学生の学習場所を整備する。具体的には、4年間で学生が利用しやすい環境を作るため、学習資料やPC等の学習ツールを順次、設置する。

- ・学生の学習場所として4・5階の演習室を開放し、国家試験対策や単位認定試験対策等の学習の利用を促し、利用状況を確認する。
- ・演習室について修繕する物品(いす・机等)があれば、各演習室に関する窓口を設け、対応する。
- ・学生の学習場所(4・5階演習室)の利用状況を把握し、必要な設備を調査する。
- ・学生の学習場所(4・5階演習室)で学生が利用できる学習資料や学習ツール(インターネットが使えるPC等)を充実させる。

【2021年度の取り組み状況】

- ・学生の学習場所として演習室を開放した。ゼミ活動及び国家試験対策での使用が主であった。
- ・低学年の学生に演習室使用に関して、カギをかけて遊んでいる、騒ぐ、食事の後片付けができていない等、問題があり何度か口頭で指導している。
- ・冬期休業中及び感染拡大中の演習室利用は、使用ルール等の掲示をした。
- ・冬期休業中や休日、感染拡大中の演習室使用については、事前に使用日時を担当教員へ届出し、使用者の氏名、検温、入出時間の記録、手指の消毒、電気・エアコンの適切な使用などを徹底した。
- ・学習資料やツールの充実については、故障した機器の交換を行った。
- ・4階のキャリア支援室の利用について、スポーツ健康福祉学科と協議し、ゼミ活動や個別学習等での使用ルールを検討している。来年度より学生に開放する予定である。
- ・介護実習室の介護用品の充実を図り、介護ロボットの一つ「マッスルスーツ」を購入した。

【次年度への課題】

- ・4階の演習室及びキャリア支援室は、他学科の利用もあり、学習資料や学習ツールなどをそろえた場合の管理体制を各学科間で統一する必要がある。
- ・演習室の利用状況を把握し、必要な設備については、今後も充実させる。
- ・引き続き、学生の学習場所として4・5階の演習室を開放し、国家試験対策や単位認定試験対策・ゼミ活動等の学習の利用を促し、利用状況を確認する。
- ・演習室の利用についての注意書きを掲示し、開放時間や感染予防対策の徹底、使用ルールなどを理解してもらう。
- ・時代に即した教材(介護ロボット等)などの導入を検討する。

【就職率アップへの対策】DP, CP(11)

■就職率100%を達成するため、教員間の連携の下、学生の個性や多様性を尊重したニーズに添った就職支援を推進する。また、推進にあたっては、地域社会や福祉現場、保護者、関係機関・団体等との連携を強化し、人材ニーズ把握に努めるとともに、キャリア教育、就職支援体制の充実強化に努める。

- ・キャリアサポートセンターとの連携による支援体制の強化に向けた取組を行う。
- ・学生に対し、キャリアサポートセンターの積極的な活用を促すとともに、就職先情報を共有し個別指導に活かす。
- ・インターンシップへの積極的な参加を促す。

・就職面談会(本学、他機関実施)の情報把握と学生への参加を促す。

【2021年度の取り組み状況】

- ・キャリアサポートセンターから、適宜、学科在籍学生の就活状況について情報取得を行った。
- ・キャリアサポートセンターについて、学生へ活用を促すとともに、就職先の情報把握に努め、適宜情報の提供を行った。
- ・2021年度はコロナ禍の影響に伴う、キャリアサポートセンターが実施した、WEB面接対策講座やWEB就職面談会等の活用を促した。
- ・臨床福祉学科の2月初旬(2022年2月1日現在)の就活状況は下記のとおりであるが、未定者の就職については、キャリアサポートセンターと連携して支援していく。なお、学科の就職率は国家試験終了以降の年度末にかけて上がるので、昨年度同様の数値は期待できる。また、キャリアサポートセンターへ進路確定の状況報告を行うよう指導している。

(2022年2月1日現在就活状況)

在籍者41名の内、内定者19名(公務員2名含)、進学(大学院)4名、未定者12名

・4年生の情報交換会は行えなかった。

【次年度の課題】

- ・キャリアサポートセンターと教員間の就職情報や就活状況について、さらに密な情報共有化について強化する。
- ・3年生への就活への心構えや取組方法について、キャリアサポートセンターと連携して、ゼミの時間等を活用した説明会を行うなど、早期に対応する必要がある。とりわけ、公務員試験対策等、計画的な取組を支援する。
- ・4年生においては、ゼミ担当教員と連携し、前期の早い段階において、自身の勉強の進捗、実習、国家試験の準備等を踏まえた、年間スケジュールを立て、早めの就職活動を始めるよう促す。
- ・就活情報の取得について、キャリアサポートセンターの活用を促すとともに、施設実習やインターンシップ等の機会の活用、卒業生からの情報収集、家族や知人の情報等、主体的な情報取得に努めるよう促す。

【学生生活サポート対策】

■学生の悩みを早期発見できる支援体制の構築。

- ・オフィスアワーだけではなく、相談やコミュニケーションがとりやすい環境を作る。
- ・チューターも含めた複数の教員で学生に寄り添い、不安や困りごとに対応する。
- ・学生の相談内容について、場合によっては学生課や学科で情報を共有し、安心・安全な生活を支援する体制を構築する。
- ・個々の取り組みについて検証するため、学科会において個々の教員がどのような工夫や支援を行ったか、また、学生がどのような生活課題を抱えているのかを共有し振り返りを行い、内容によっては教員だけではなく、専門職(カウンセリング・学生課等)と連携を図るシステムを構築する。

【2021年度の取り組み状況】

- ・コロナが長期にわたり、経済的・心理的な問題を抱えた学生に対し早期に対応できるよう学科会議で気になる学生について報告し、情報の共有を図った。また講義中の学生の心身状況や出席状況についても科目担当教員が学科会で報告したり、その都度、チューターに報告した。
 - ・入学者に対してコロナ対策を実施しながら大学生活に1日でも早く適応できるよう学科教員が積極的に声をかけた。
- また月1回のチューターデイでは学習状況や生活面について、ゆっくり学生と話す機会を設けた。

【次年度の課題】

- ・長期に渡るコロナ禍のなか、経済的・心理的な問題を抱えた学生に対し早期に対応できるよう今後も教員間での情報を共有し連携を図る。

- ・入学者に対してコロナ対策を実施しながら大学生活に1日でも早く適応できるようチューターや在学生と交流を深められるような機会を学内で計画する。
- ・1人暮らしを始めた新入生に対して、在学生からのアドバイスを得られるような場の設定を検討する。

【中途退学者防止対策】CP(1)(5)(6)

■中途退学者ゼロに向けた支援体制の構築。

- ・連続欠席者に対して、チューターや授業担当者を中心に早期対応を行う。
- ・連続欠席者について、教員間で情報を共有し、早期対応を行う体制を構築する。
- ・転学科してきた学生に対して、チューターや授業担当者を中心に早期対応を行う。
- ・転学科してきた学生について、教員間で情報を共有し、早期対応を行う体制を構築する。
- ・中途退学の学生の原因を分析し、対応策を検討する。
- ・中途退学防止に有効であったと考えられる支援を教員間で共有する。

【2021年度の取り組み状況】

- ・今年度の臨床福祉学科の退学者は1名(臨床心理専攻)であった。
- ・気になる学生について各専攻会議で報告され、教職員での情報共有が行われた。また、チューターや科目担当者を中心に個々のケースに応じて早期対応が行われた。中には、学生や保護者との連絡が難しく、対応に苦慮するケースもあった。
- ・転学科してきた学生に対しては、チューターを中心に学期当初の時間割作成をはじめ、積極的かつ丁寧な指導を行った。今年度に転学科してきた学生では、中途退学者はいなかった。

【次年度の課題】

コロナ禍で、講義以外の活動、例えばゼミ活動やサークル活動に大きな制限が課せられている。そのため、教員と学生、学生同士の関係が非常に作りにくい状況である。そうした状況の中で、問題を抱えた学生が孤立し、閉じこもってしまい、復帰の機会を掴みづらくなっているのではないかと思われる。今のところ、教員の対応が概ね功を奏しているが、活動制限は今後も続くと考えられる。オンラインを含めた新たな活動の形を検討する必要がある。

【社会人としてのマナー対策】DP

■学科教員から学生に積極的な挨拶をする運動を推進する。

■各チューターやゼミ担当教員が、マナーについて学生の心構えについて確認し、大学生の生活の様々な場面で、社会が求めるマナーが身につくように必要な指導を実施する。

- ・教員から学生へ積極的なあいさつ運動を実施し、チューター・ゼミ担当教員が普段から細やかな指導を行い、学生にどの程度のマナーが身についているかを教員間で確認する。初年度の施行の結果を基に、取り組みを検証したうえで、指導計画に修正を加え、試行を重ね、指導体制のさらなる充実を図る。

【2021年度の取り組み】

- ・学科教員が積極的に模範となるように、挨拶や言葉遣い等々の取り組みを行ってきた。
- ・1年生の基礎演習等で基本的マナーとしての「電話のかけ方、敬語を使用した会話、メールや手紙の書き方等々」を指導した。まだまだ不十分ではあるが、普段から気を付けて生活するような行動がみられ始めている。実習指導でもマナーに関して指導していることもあり、理解度は徐々に高まっている。
- ・大人とのかかわりを持ちながらマナーの実践を学ぶ点は、コロナ禍においてボランティア等々の中止が相次ぎ達成が難しかった。

【次年度の取り組み】

- ・マナーある言動が行える学生の育成は、授業だけでなく普段の生活においても教員が細やかな指導を継続する。
- ・マナーある行動が学外でもできるように、様々な機会を活用しながら体験できるよう促したい。

<p>募集力</p>	<p>【学科入学定員確保のための対策】AP ■入試広報、教員との連携を進めて広報活動を活発にする。 高校訪問、出前講座等を活用して社会福祉に興味関心を向けてもらえるよう働きかけ、指定校・推薦入試を中心に早期の入学希望者の増加につなげる。 また、在学生の満足度の向上を目指し、退学を防止するとともに学生自らが本学科の魅力を発信したくなるような学科を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学科の教育理念、方針(社会福祉の必要性を基礎に)についてわかりやすく説明できるチラシ等の作成を行う。 ・入学者に対する入学動機、傾向を調査し結果を広報活動にいかす。 ・入試広報室と定期的に情報交換会を設け、広報活動のあり方を協議する。 ・在学生や卒業生が活躍している様子を出身校に伝える。 ・高校訪問、出張講義等を積極的に行い、本学科をアピールする。 <p>【2021年度の取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集用のチラシ配布を広範囲に行った。 ・入学者にアンケート調査を実施して入学動機、傾向の把握を行った。 ・在学生から出身校に向けての手紙を送付した。 ・高校訪問、出張講義等積極的に参加した。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で直接訪問ができない場合の広報のあり方について検討が必要である。授業と連動した高校との関わりについて検討する必要がある。 <p>【学科の魅力発信】 AP ■大学生活の魅力も含め、臨床福祉学科で学べることを多世代にわかりやすく伝える。 宮崎県で唯一、専門的に社会福祉・心理が学べる大学として、宮崎県の社会福祉を支えてきた実績や、本学科の卒業生の幅広い活躍を発信する。また、本学科に在籍するからこそ経験できることも積極的に発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家資格取得状況についてチラシ、ホームページ等を活用して発信する。 ・ホームページのブログを活用して、学科の近況をアップする。 ・保護者通信で在学生の様子や学科の取り組みを紹介する。 ・オープンキャンパスについて今までの内容を検証し、変更点も含めて検討する。 <p>【2021年度の取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士国家試験や教員採用試験の合格情報やスクールソーシャルワーカー養成課程、サークル活動等ホームページのブログにて掲載した。 ・定期的な保護者通信の作成、発送を行った。 ・オープンキャンパスはオンラインでの参加も可能な体制を整備した。 ・本学科の入試合合格者へ学科案内チラシを送付した。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに最新情報を積極的に掲載する。 ・ブログの更新回数を増やす。 ・大学見学会、オープンキャンパス等、オンラインでの参加を見込んだプログラムの充実を図る。
<p>研究力</p>	<p>【学科教員の研究力アップのための対策】DP(4) (6) (7) ,CP(8) ■教員の研究力のレベルアップを図り、学術論文の数を増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科教員間で研究力アップの仕組みを検討する。 ・研究力アップの仕組みを充実させ、研修等で周知する。 ・学術雑誌への積極的な投稿を促す。 <p>【2021年度の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員に対して積極的に学術論文に投稿するように促した。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員に対してよりインパクトファクターの高い学術誌への投稿を促していく。

	<p>・国内外の学術誌に積極的に投稿できるように、担当者から様々な情報を提供する。</p> <p>【研究施設のレベルアップのための対策】】DP(1) (3) (7) ,CP(8) ■研究に必要な施設の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な研究設備の調査。 ・研究施設充実のための資金調達の検討。 ・必要な教育研究整備を行う。 <p>【2021年度の取り組み】 ・研究施設についての調査を継続的に行った。</p> <p>【次年度の課題】 ・今後も継続的に研究施設についての調査を行い課題等を検討する。</p> <p>【外部研究資金獲得のための対策】DP(1) (6) (7), CP(8) ■科研費申請の増加を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部資金獲得に関する研修・FD等への参加を積極的に促す。 ・研修等で得た知識を活かして外部資金を獲得するための対策を立てる。 ・科研費や外部資金への積極的な申請を促す。 <p>【2021年度の取り組み】 ・同じ分野の教員同士で研究力アップのための話し合いを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員に対して積極的に科研だけでなく、それ以外の外部資金の獲得を促した。 <p>【次年度の課題】 ・教員間で連携して研究力アップの具体的な仕組み構築に向けて検討、評価を行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科研申請の数が前年度の数を上回るような様々な取り組みを行っていく。
地域連携力	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】 ■学科教員の専門知識・技術を地域に提供する機会を増やすとともに、地域との連携・協働事業を推進し、地域の活性化、地域課題の解決、生涯学習等に寄与できる教員の地域連携力をアップする。また、学生への教育力にも波及させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員と自治体・関係機関・団体・学校との連携活動状況(連携協働事業、教員の専門知識・技術、研究成果の提供状況)を把握し、状況を教員間で共有するとともに、その成果を検証・分析し、連携関係の強化を図る ・教員に期待される地域のニーズ・期待度を把握する(自治体・関係機関等) ・連携推進に係る検討チームを設置し、地域の要請に応えられる相談窓口を検討する。 ・地域連携推進事業成果報告会を開催し、今後の方向性を検討する <p>【2021年度の取り組み状況】 ・宮崎県、延岡市をはじめとする各自治体からの要請により、各種審議会や委員会委員として学科教員の専門的知見を発揮し、地域との連携を高めてきた。実績として、自治体や各種団体委員には58件、研修講師派遣対応に26件の活動であり、地域のニーズに即応して役割を果たしてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県人権啓発推進協議会の受託事業「人権啓発活動競合推進事業」では、2年目も臨床福祉学科が中心となり、事業を実施した。 ・継続的な連携事業として、延岡市からの受託しているJKC事業や木城町との連携事業、延岡市並びに延岡市社会福祉協議会との協働による防災教育等、学生の参画により地域との連携・協働を推進した。本活動は、新聞報道にも取り上げられており、社会貢献活動に関してホームページにも公開している。

	<p>・地域社会に根差した大学として、社会人などを対象とした専門的知識の学習機会として、履修証明プログラム(福祉教養を備えた市民育成プログラム)を企画し、学科教員による講座への参加を市民に募集した。コロナ禍にあり、実績は無かった。</p> <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のニーズに対応すべく各種審議会や委員会の要請に応えながら、教員間で情報共有し、相学科教員総力で地域との連携力を高めていく。 ・福祉施設や教育現場(中学・高校)との連携を強化していくために、大学教員の専門知識や技術の内容を説明、提示する機会等を充実し、相互関係性を高めていく。 ・地域の活性化や地域課題解決に向けたフォールドワークを積極的に担い、大学と地域との合同企画などを検討し、学生の主体的参加を促しながら協働事業を充実していく。
総合力	<p>【総合力】AP DP CP</p> <p>■臨床福祉学科の強みでもある、学生に寄り添った丁寧な指導・対応、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・公認心理師の国家資格、高校の教職(福祉)・認定心理士など多様な資格の養成、就職率100%、これらをさらに充実させ、「福祉」や「心理」の専門職として社会に有用な人材が輩出できるよう教員一丸となって、教育・指導に取り組む。また、研究活動、地域貢献(学生を含めた地域活動を含む)を推進し、魅力ある学科づくりを目指す。臨床福祉学科の強みを基に、学生募集PRを積極的に取り組み、入学定員充足率100%を目指す。</p> <p>【2021年度の取り組み状況】</p> <p>ディプロマポリシーに(DP)掲げている福祉・心理の専門職として必要な基礎知識・技能を修得し実践力を備えた人材育成を目指し、中期目標・中期計画に基づき取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期目標・中期計画を円滑に実践するには、学科内での教員間の連携が必要である。昨年度に引き続き、教育面、学生支援等協力し連携することができた。 <p>「教育力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究発表会はコロナ禍を想定し、対面若しくはオンラインどちらでも実施できるよう、事前に学生に周知し、実施することができた。国家試験対策等は、ゴールデンウィークや年末年始にも使用できるよう体制を整えた。また、演習室での感染予防の徹底、施設使用のルールを理解してもらい順調に実施できた。 ・社会福祉士・精神保健福祉士養成課程の新カリキュラムの変更(令和3年度より)に伴い、3つのポリシーの実現ができるよう、新しい教科の検討を行い実施した。 <p>「募集力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや広報チラシにスクールソーシャルワーカー養成課程等について最新情報を積極的に掲載した。また、学生の出身校に学生の近況報告の文書を送付したり、ホームページの刷新と同時に、「学科のまなび」として、各教員の教科や研究内容等を音声付きパワーポイントとして作成し、掲載した。しかし、入学定員確保には至っていない。 <p>「地域連携力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県の受託事業「人権啓発活動協働推進事業」では、臨床福祉学科が中心となり、講演会等を開催した。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の終息が未知数のなか、入学定員確保、卒業研究発表、大学院進学希望者への受験対策等、オンラインでの講義・試験対応ができるよう、普段から多様な対策を考える。
3つのポリシーからの総評	<p>【2021年度】</p> <p>AD(アドミッションポリシー)は、中高生に向けた見学・出張講義・ガイダンスに積極的に参加し、求める学生像や社会福祉についてアピールした。また、中高生や入学予定に対しては、各教員が教科の概要や研究などを、音声付きパワーポイントで作成し、社会福祉の理解や学科に興味を持てるよう「学科の学び」としてホームページにアップした。</p> <p>DP(ディプロマポリシー)を具現化するために、個々のカリキュラムポリシー(CP)の実践に取り組んだ。本年度より、社会福祉士と精神保健福祉士養成が新カリキュラムとなったため、移行がスムーズにできるよう教員間で連携・協議した。新カリキュラム変更に伴い、「ボランティア活動」や「介護概論」を実習科目履修要件としたため、ほとんどの学生が受講している。また、延岡市から受託しているJKC事業や木城町との連携事業、延岡市社協との協働による防災教育等、学生の</p>

	<p>参加により、DP の社会貢献力や行動力、コミュニケーション能力、福祉実践力に繋がった (DP1,2,3,4 CP3,6,9,10)。</p> <p>卒業研究は学科の DP に掲げる福祉実践力や研究能力を養う重要な過程である。コロナ前のアクティブラーニングに変わる、コロナ禍及びウイズコロナの時代に対応できるアクティブラーニングの効果的な導入を試みたが、度重なる変異ウイルスのため不確定な要素があり、十分な研究活動ができなかった。研究発表会は、オンラインで、ゼミ内、専攻で実施した。3年生は全員参加とし来年度に向けての意識を高めさせた。ルーブリック評価に関しては試案作成までには至らなかった (DP6,7CP7,8)。</p> <p>リメディリア教育に関しては、初年度教育として「文章読解力・作成能力」に加え「資料の収集方法」や「プレゼンテーション」にも取り組んだ。また、心理学の大学院進学希望者への受験対策としてカリキュラムとは別に語学力(英語)の学習を行った。4年生4人は大学院に合格した。公務員を目指す学生に対し、中学から高校の再学習を設け指導を行った。1名の合格者が出た。また、保育士を目指す学生に、科目と実技の指導を行い、1名合格した(DP3,4,5,6, CP3,8)。</p> <p>国試を受験するためには、それぞれの資格の申し合わせ事項や要件を満たさなくてはならない。個々の学生の成績を丁寧に確認し、一人でも多く受験できるよう指導した。国家試験合格率のアップに関しては、各資格ともロードマップを作成し取り組んだ。自己採点ではあるが、合格率は、介護福祉士 100%、社会福祉士 70%、精神保健福祉士 70%である。国家試験の勉強を含め、学生の学習の場(ゼミ活動、自主学習等)として、演習室の整備やパソコン等、学習資料を少しずつではあるが、充実しつつある。演習室使用に当たっては、注意書きを掲示し、感染症予防対策、使用ルールを作成した(DP3,6,7,CP5,6,7,8)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職率アップへの対応に関しては、キャリアサポートセンターと連携を図り、就活情報を学科内で共有することができた(DP,CP11)。 ・学生への支援では、多様な問題を抱えた学生に対し学科会議で気になる学生について報告し教員間で情報の共有を図ったが、学科全体で1名の退学者がいた(CP1,5,6)。 ・地域連系力に関しては、JKC 事業や災害ボランティアセンター(延岡市委託)をはじめ、木城町との連携事業等を学生も参加し実施している。また、各自治体や関係機関からの各種審査会、委員会委員を積極的に担い、地域連携を推進している(DP,CP11)。
<p>次年度への展望 (まとめ)</p>	<p>【2021 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部改組により専攻を超えた教員間の情報共有は困難なこともあるが、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー実現のため、更なる教員間の連携を図る。残り1学年ではあるが、教員一丸となって取り組む。 ・学生募集対策は急務である。これだけ世の中で福祉のニーズが高まっているが、入学定員確保にはまだ、ほど遠い。社会福祉の魅力を発信し、引き続き対策を検討し更なる入学定員確保を目指す。 ・社会福祉士・精神保健福祉士の新カリキュラムの対応や公認心理士養成(心理専攻)の実習が円滑に実施できるよう教員一丸となって取り組む。

九州保健福祉大学 保健科学部 作業療法学科

2021年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>九州保健福祉大学だから学べる、「たとえ障がいがあったとしても自分らしく生きていくことの幸せ」をプロデュースできる能力を身につける</p>
<p>学科からの メッセージ</p>	<p>作業療法学科の教育目標は、作業療法士国家試験合格のもと先にあります。少子高齢化に伴う介護の問題、うつ病による自殺、障がい者の雇用問題など、生活困難の様が多様化しています。作業療法は健康面の問題でどのような状況に置かれても、常に心と身体のバランスに目を向け、その人らしく生きていくことを医療・福祉の側面から支えています。本学では、入学後の医学の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、患者さんに対し「病気や障がいがある人も自分らしく輝いて生きていくこと」の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることができます。</p>
<p>教育力 (ブランド力) 「学修成果の可視化」の観点を含む</p>	<p>【学生自ら考える力のアップへの対策】DP ・演習系、座学系を問わず、ほとんどの科目でアクティブラーニングが用いられて、授業遂行がなされているが、教員によってその手法はまちまちである。今後は、各教員の手法の共有化を行い、改善点の抽出および手法の向上を図る。 ・各年次に実施される学外実習にてルーブリック評価表を使用し、実習遂行結果を学生に提示する。 <取り組み状況と次年度への課題> 全学年のルーブリック評価が完成し、現在使用している。今後はその活用を検討する。厚労省が推奨する臨床参加型実習（CCS：クリニカル・クラーク・シップ）への移行を受けて対応する。</p> <p>【基礎国語力増進への対策】AP(2) ・キャリア教育や作業療法概論およびホームルームなどで、当日学んだことを作文する時間を設け、書く力、まとめる力、読み解く力を養う。 ・国語の e-learning 結果を学生に提示する。 <取り組み状況と次年度への課題> ホームルームなどでの作文時間の確保、実習セミナーなどでの作文レポート課題の創案などを行なっている。学生募集停止を受けて「すらら」は実施しない。</p> <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】AP(1)(5) ・既存のリメディアル教育内容の検証を行う。 ・高校まで勉強経験のなかった学生が多く存在する。そのため教科書の読み方、ノートの取り方、勉強の仕方など勉強の仕方をいちから教える。 <取り組み状況と次年度への課題> リメディアル検証は募集停止を受けて実施しない。学科内リメディアルは学習の仕方などのガイダンスを編集して配布し、授業に応用させる。</p> <p>【国家試験合格率アップへの対策】CP(1～3) ・1年次から主体的に学習する機会の提供（放課後自主学習）を行う。同時に国家試験に必要な基礎科目(解剖学、生理学、運動学)を中心とした学習内容を行っていく。 ・各年次の特性（基礎学力が低い、全体的に意欲が低いなど）を勘案した学習方法を、担当チューターが中心となって、学科全体で話し合いながら国家試験対策を考えていく。 ・国家試験模試の結果を粗点グラフ、席次などで可視化した総合成績表を配布する。 ・規則正しい生活を常に指導する。 ・成績の振るわない学生に対して特別指導を行う。 <取り組み状況と次年度への課題> 放課後自習学習、成績の振るわない学生に対する特別指導など、すべてを実施した。今年度は「国試塾」という国試対策業者を導入した。4年生の国試対策学習に対する出席率はまあまあ良好であったが、新型コロナ（オミクロン株）のために、今年に入って大学に登校できていない。今年度の国試合格率をみて、来年度の業者の導入を判断する。</p> <p>【学科教員の教育力アップの対策】 ・定期的な会議で授業内容および教授法の確認を行い、教育力の向上を図る。 ・日本作業療法協会が指定する教員の教育力向上研修や新しい評価方法の研修会に積極的に参加し、その内容を学科内にフィードバックする。また、学生の講義内容に反映するように教員間でコンセンサスを得ておく。 ・年1本以上の論文執筆を目指す。</p>

	<p><取り組み状況と次年度への課題> 診療参加型臨床実習講習会を始めとする研修会に複数の教員が参加し、教授法や教育力の向上に努めた。論文投稿をはじめ学会発表などを行ってきた。取り組みは今後も継続する。</p> <p>【教育施設のレベルアップのための対策】 ・文科省、厚労省の補助金情報を収集し、採択される可能性の高いものがあれば積極的に応募する。 <取り組み状況と次年度への課題> 科研費を獲得している教員は、現状ではない。取り組みは今後も継続する。</p> <p>【就職率アップへの対策】 ・キャリアサポートセンターとの連携をとり、募集のため来学された施設には出来る限り対応する。 <取り組み状況と次年度への課題> 国家試験合格者の就職率は、100%であった。取り組みは今後も継続する。</p> <p>【学生生活サポート対策】 ・悩みのある学生に対するカウンセリングの仕組みを充実させる。（保健室等の利用） ・予防接種や自分自身の体の変調に気づくように、心身の病、感染症についての啓発活動を行う。 <取り組み状況と次年度への課題> 学生のメンタルサポートは複数回のチューター面接などで取り組んでいる。しかし、メンタルヘルス系や発達系の問題を抱えた学生が増えており、これに対して教育現場で対応する限界を感じている。</p> <p>【学生指導力の向上】 ・個人面談の際にチューター以外の教員も参加し、面談過程および面談結果を共有し学生指導力の共有を図る。 <取り組み状況と次年度への課題> 学生の問題や問題解決については、月一回の学科会議等で情報を共有している。取り組みは今後も継続する。</p> <p>【社会人としてのマナー対策】CP(4) ・1 年次より各科目にて対人関係の第一歩である挨拶の大切さを教え、教員自ら学生への積極的な挨拶運動を実施する。 ・学外実習を契機として実習に出る前に、前社会人（1 年生）、社会人（2 年生）、前医療人（3 年生）、医療人（4 年生）としての倫理およびマナーを段階的に学ばせる。 <取り組み状況と次年度への課題> 取り組みの成果は各学年での臨床実習で成果を出していると考えます。取り組みは今後も継続する。</p> <p>【学科の魅力発信】AP ・日頃の広報活動のほか、オープンキャンパス時、大学祭時など外部の人たちと触れ合う機会を有効に活用し、作業療法の魅力を伝える。 ・卒業生の動向（海外青年協力隊で活躍している卒業生や地域、病院で活躍している卒業生現状報告など）を高校への学校説明会、出前講義時に学生や進路指導の先生に伝える。 ・教員は社会貢献（地域）や研究などで外部に作業療法の魅力を啓発できる機会が多い。そのような機会に意識をもって作業療法の魅力を啓発する。 <取り組み状況と次年度への課題> 募集停止のため、作業療法啓発以外は実施していない。</p>
募集力	
研究力	<p>【学科教員の研究力アップのための対策】 ・学術論文 各教員が論文を少なくとも1篇以上投稿する。 ・学会発表 各教員が少なくとも1報以上発表する。 <取り組み状況と次年度への課題> 共著を含めると、まあまあの数の論文を発表した。取り組みは今後も継続する。</p> <p>【研究施設のレベルアップのための対策】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な研究者やスタッフとの協働によるチーム型研究体制を図る。 ・博士号取得を推進する。 <p><取り組み状況と次年度への課題> チーム型研究体制の構築は、部分的にしか達成できていない。取り組みは今後も継続する。</p> <p>【外部研究資金獲得のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費等の競争的資金の申請を毎年行う。 <p><取り組み状況と次年度への課題> 取り組みは今後も継続する。</p>
地域連携力	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康増進のための作業療法的提案を地域社会に発信する。 ・授業の一環として地域の障害児を招き、学生との交流を通して活動性や対人関係能力の育成の一助となる。 <p><取り組み状況と次年度への課題> 作業療法啓発や市民大学などの活動をしている。障がい児の育成についても活動している。取り組みは作業療法啓発については今後も継続するが、障害児関連については未定である。</p>
総合力	<ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマポリシーである「有能な作業療法士として社会に貢献できる実践力と、作業療法の発展に寄与できる研究能力を修得する」ことを目的に、カリキュラムポリシーに法って教育を展開する。
3つのポリシーからの総評	<p>DP: 各年次に実施される学外実習にてルーブリック評価表を使用して、実習遂行結果を学生に提示し、臨床コミュニケーション、共感、作業療法の実践、チーム医療などの涵養に努め、それら実践力および研究力を身につけた者に対して学位を与えようとしている。</p> <p>CP: 基礎科目では資質の基盤となるコミュニケーション能力を、専門基礎科目では作業療法の基盤となる一般臨床医学を、専門科目では作業療法学と演習および学外臨床実習により段階的かつ構造的に教育を実践している。</p> <p>AP: 募集停止により該当せず。</p>
次年度への展望(まとめ)	<p>これまでどおり有能な作業療法士として社会に貢献できる実践力と、作業療法の発展に寄与できる研究能力を育成してゆく。また、厚労省が推奨する臨床参加型実習（CCS：クリニカル・クラーク・シップ）への移行を受けて対応する。最終の学生となるために、全員の卒業と国家試験合格を目指す。</p>

九州保健福祉大学 保健科学部 言語聴覚療法学科

2021年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

ビジョン (教育目標)	九保大だから学べる「コミュニケーションする幸せ」と「口から食べる幸せ」をプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。
学科からの メッセージ	言語聴覚療法学科の教育目標は、言語聴覚士国家試験合格のもと先にあります。現在、脳梗塞などでコミュニケーションが取れない、食事ができない高齢者や、コミュニケーション上のやり取りが不得手なお子さんが増えています。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、「コミュニケーションができる」「口から食べられる」など、言語聴覚士として幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養します。
教育力 (ブランドカ) 「学修成果の可視化」の観点を含む	<p>(2021)</p> <p>【学生自ら考える力のアップへの対策】DP（6、7）、CP1（6）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科会議で卒業研究のルーブリックと成績評価について検討する。 ・学科会議で卒業研究の取組状況を確認し合い、全員の卒業論文完成を目指す。 ・卒業論文提出後、副査による査読や論文発表会を実施し、考える力、発表する力の向上を図る。 ・実習指導者会議での実習指導者との面談等を通して、自ら考え行動する力を養う。 <p><取組状況と次年度への課題></p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響による外部臨床実習の度重なる日程変更の中、4年生全員が卒業論文を提出することができた。外部臨床実習の終了時期が大幅にずれ込み、論文発表会は実施できなかった。実習指導者会議は3月にリモートで実施予定であり、実習指導者と学生との面談の時間を設け自ら考える力を養う機会とする。次年度は、今年度に引き続き卒業研究の位置づけや成績評価について検討する。また、実習指導者会議の内容に改善を加える。</p> <p>【基礎国語力増進への対策】CP（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学前教育で国語力向上のためのプログラムを実施し、基礎国語力の増強を図る。 ・必修科目である基礎ゼミの講義内で e-learning を積極的に活用する。実施前後に試験を実施し、有用性を検討する。 <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学前教育で国語に加えて生物を導入し、専門科目との連携を強化する。 <p><取組状況と次年度への課題></p> <p>本学科には1、2年生は在籍していない。ただし、3年生以上にも読解力など基礎国語力が身につけていない学生がおり、各教員の担当科目や専門ゼミ、学内臨床実習の中で指導を行っている。次年度も引き続き、丁寧な指導を行う。</p> <p>【国家試験合格率アップへの対策】CP2（9）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策部門で効果的な対策方法を検討・実施し、学科会議でその効果を検証する。 ・e-learning による国家試験対策ソフトを学生に提供し、問題解答の機会を増やす。 ・国家試験部門を中心に、模試の成績不良学生を中心に特別プログラムや個別指導を行う。 ・学科会議で各学生の成績を提示し情報を共有する。 <p><取組状況と次年度への課題></p> <p>昨年度の結果をふまえて、国家試験対策プログラムの見直しを行った。全教員が、テキストテストや補講等の特別プログラムを実施した。また、模試の成績不良学生に対するリモートによる個別指導を強化した。各学生の成績等の情報を教員間で共有し、危機感を持って学生に対応した。国家試験対策ソフトの情報を学生に提供した。次年度も引き続き、合格率100%を目指す。</p> <p>【学科教員の教育力アップの対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科会議等を通じ、基礎系科目と臨床系科目の内容を確認し教育目標を共有する。基礎系・臨床系教員の連携を強化する。 ・国家試験対策での補講等の取組内容を学科会議等で確認・共有し、各教員の教育力をアップする。 <p><取組状況と次年度への課題></p> <p>アセスメントポリシーの充実を図り、学科会議で各科目に関わる情報を提供するとともに、国家試験対策での模擬試験等の情報を学科会議で共有した。次年度も、講義に関わる情報の共有を図り教育力アップにつなげる。</p>

	<p>【教育施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会生活コミュニケーション室、家庭生活コミュニケーション室等の設備やビデオ記録・配信システムを学内臨床実習等で活用する。 ・文科省・厚労省等の補助金情報を収集し、採択される可能性の高いものがあれば積極的に応募し、学科内施設の整備に利用する。 <p>＜取組状況と次年度への課題＞</p> <p>社会生活コミュニケーション室、家庭生活コミュニケーション室等の設備やビデオ記録・配信システムを学内臨床実習等で活用した。乳幼児聴力検査システムの更新について補助金を申請した。</p> <p>【就職率アップへの対策】DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての学生が希望する施設へ就職できるよう、キャリアサポートセンターと連携して指導を行う。 ・「即戦力の九保大生」「印象の良い九保大生」を求人側施設にアピールできるよう、学生の臨床教育を充実させる。 <p>＜取組状況と次年度への課題＞</p> <p>キャリアサポートセンターと連携して指導を行った。次年度も、臨床教育に創意工夫をこらし、「即戦力の九保大生」「印象の良い九保大生」の育成を図る。就職率 100%を達成する。</p> <p>【学生生活サポート対策】CP 2 (11)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的なチューター面談を実施し、学生の情報を学科会議で報告して教員間で共有する。 ・学生の学力の把握を常時行い、必要に応じてチューターからの指導を実施する。 ・学生の適性やモチベーションに応じた指導を行う。 ・学生の意見を教育内容や方法に反映させ満足度の向上を図る。 <p>【退学者防止対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生がかかえる問題を早期に発見し、健康管理センターと連携して適切に対応する。 ・発達障害や精神疾患に対する知識や対応方法を向上するための研修を、学科内 FD 研修として行う。 ・障害学生支援部門で発達障害等への支援システムを検討し、学科会議で支援方法を提案する。 <p>＜取組状況と次年度への課題＞</p> <p>定期的なチューター面談を実施し、各学生の問題点を学科会議で共有して、解決に向けて対応した。学修支援部門より、他大学での取り組み事例などを学科会議で紹介し教員間で共有した。次年度も、定期的なチューター面談、学生情報の学科教員内での共有を行い、学生の満足度の向上を図る。</p> <p>【学生指導力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内臨床実習等でポートフォリオを導入し学習成果の可視化を図る。 ・国家試験対策で教員による個別指導を積極的に取り入れ、模擬試験の平均点アップにつなげる。 ・経済的な問題がある学生には各種奨学金を勧める。 <p>＜取組状況と次年度への課題＞</p> <p>国家試験対策で教員による個別指導を積極的に取り入れ、模擬試験の平均点アップにつながった。次年度も、学生の学力の把握を常時行い、必要に応じてチューターや学修支援部門の指導を実施するとともに、引き続き各教員が学生の適性に応じた指導を行う。</p> <p>【社会人としてのマナー対策】DP 1、CP 1 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内臨床実習を通して、臨床に必要な基本的態度、患者への関わり方について具体的指導を行う。 ・学内実習の一環として、一般企業への見学実習、高齢者施設、小児施設での見学実習を行い、社会人としてのマナーを身につけさせる。 <p>＜取組状況と次年度への課題＞</p> <p>高齢者施設、小児施設等での見学実習を実施することはできなかったが、学内臨床実習を通して臨床に必要な基本的態度、患者への関わり方について指導を行った。次年度は、学外総合臨床実習の事前・事後学修の中で具体的に指導を行う。</p>
募集力	<p>【学科の魅力発信】AP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高生の学科見学、高校や病院からの模擬講義、出張講義に積極的に対応する。 ・9月1日の「言語聴覚の日」イベントの運営、言語聴覚障害者相談システム「ハロー」における支援を通じ、地域への発信を積極的に行う。 ・社会で活躍している卒業生の情報を収集し、オープンキャンパスなどで紹介する。 <p>＜取組状況と次年度への課題＞</p> <p>臨床心理学科、入試広報室と連携して広報活動に積極的に取り組んだ。</p>

研究力	<p>【学科教員の研究力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学会への参加等、研究活動に必要な研修の機会を保障する。 ・学会発表、論文発表等、研究活動を積極的に推進する。 <p>【研究施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語聴覚障害児者相談システム「ハロー」等、学内の施設を活用するとともに、医療、保健、福祉、教育機関との連携を強化し、研究フィールドの充実・拡大を図る。 <p>【外部研究資金獲得のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科研費の獲得率の向上を図る。 ・その他の委託研究費の獲得率の向上を図る。 <p><取組状況と次年度への課題></p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で多くの学会・研究会が中止またはオンライン開催になった中、各教員は論文発表等、研究活動を推進した。言語聴覚障害児者相談システム「ハロー」を活用するとともに、医療、保健、福祉、教育機関との連携を強化した。科研費、及び委託研究費の獲得率が向上した。</p>
地域連携力	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国や地方公共団体の各種委員会の委員として、発達支援、就学支援、地域包括支援等に貢献する。 ・地方公共団体からの委託費による研究を通して地域連携力の向上を図る。 ・学会等、関連団体の役員として、地域・社会貢献を行う。 <p><取組状況と次年度への課題></p> <p>昨年に引き続き、各種の委員会の委員として、発達支援、就学支援、地域包括支援等に貢献した。委託費による研究を通して地域連携力の向上を図った。学会等、関連団体の役員として、地域・社会貢献を行った。</p>
総合力	<p>建学の理念およびディプロマポリシー（DP）に掲げた目標を達成するために、カリキュラムポリシー（CP）の教育内容 1～6 と教育方法 7～11 を取り入れた授業を実施し教育評価 12～13 を行う。本学科の特徴である基礎系教員と臨床系教員の連携を活かして、教員の教育力や学生の満足度の向上を図る。効果的な臨床教育プログラムについて学科会議等で検討・実施し、その成果を検証する。「コミュニケーションする幸せ」と「口から食べる幸せ」をプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を育成するため、中期目標・中期計画の達成・実現に向けて、学科教員一丸となって取り組む。</p>
3つのポリシーからの総評	<p>建学の理念およびディプロマポリシー（DP）に掲げた目標を達成するために、アセスメントポリシーの充実を図り、カリキュラムポリシー（CP）の教育内容 1～6 と教育方法 7～11 を取り入れた授業を実施して教育評価 12～13 を行った。新型コロナウイルス感染症の影響で外部評価臨床実習および外部総合臨床実習の日程が大幅に変更となったが、3、4年生全員が規定の実習を終了することができた。リモートを活用した授業、試験等の工夫に加え、チューター面談、卒論指導、国家試験等にもハイブリットによる指導を取り入れ、臨床教育プログラムの充実を図った。</p>
次年度への展望（まとめ）	<p>「コミュニケーションする幸せ」と「口から食べる幸せ」をプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を育成するため、中期目標・中期計画の達成・実現に向けて、学科教員一丸となって取り組んだ。次年度は、言語聴覚療法学科の最終年度となるため、4年生全員の卒業および国家試験合格をめざすとともに、休学等ですでに留年が決定している学生についても、臨床心理学科と連携して最大限のサポートを行う。引き続き、ハイブリット授業の可能性も視野に入れた、効果的な臨床教育プログラムについて検討・実施し、その成果を検証していきたい。</p>

九州保健福祉大学 保健科学部 視機能療法学科

2021年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>九保大だから学べる 「みる・みえる幸せ」をプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。</p>
<p>学科からのメッセージ</p>	<p>視機能療法学科の教育目標は、視能訓練士国家試験合格のもっと先にあります。現在、高齢化社会が進み視力障害や眼疾患で悩む患者さんが多くなっています。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、高度な眼科医療を支える専門知識に加えて、患者さんの「みる」「みえる」幸せをプロデュースできる能力(知識・技能・思考力・態度)を涵養します。</p>
<p>教育力 (ブランドカ)</p> <p>「学修成果の可視化」の観点を含む</p>	<p>教育力の可視化</p> <p>【学生自ら考える力のアップへの対策】 DP (2) (5) CP (4) (5) (8) (10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科ディプロマ・ポリシーまたカリキュラム・ポリシーの学生への周知徹底を図り、両ポリシーを踏まえた教育力の可視化に取り組む。具体的には、学生が視能訓練士となる学びの段階を意識して学習を進めることができるように、アセスメントポリシーを明確化して全学生に周知する。 ・シラバスの記載内容が学生の主体的な学びをサポートしているか、ディプロマ・ポリシーまたカリキュラム・ポリシーとの関係性から検証する。 ・卒業研究を充実させるために、指導マニュアルを教員間で共有すると共に客観的評価ができるよう28年度に作成した卒業研究のルーブリック表の改定版を完成させる。 ・実習講義(臨床実習事前指導)において学生が独自に検査マニュアルを作成することを目標にアクティブラーニング(①個別での文献調査 ②グループ内でのプレゼンテーションとディスカッション ③意見集約 ④全体へのプレゼンテーション ⑤検査マニュアルの作成と配布)を実施する。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期はじめのオリエンテーションで、学科ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの学生への周知徹底を図っている。シラバスの検証は学期開始前に学科全体で検証している。さらに、卒業研究評価のためにルーブリック表を作成し、学生の卒論評価に使用している。 ・本年度は、実務実習が予定通り実施できたことで学生のモチベーションも上昇し学力が向上した。 ・今年度で学科が閉鎖となることは残念であるが、これまで多くの有能な視能訓練士を本学から輩出できたことを誇りに思っている。 <p>【基礎国語力増進への対策】 CP (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲにおいてゼミ単位の文献抄読会を実施する。卒業論文を作成するためには、関連分野の論文を正確に解釈および批評する力が必要である。この力を増進することは、土台となる基礎国語力の増進にもつながると考えられる。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科最後となる4年生には、特に国家試験対策に重点をおいた教育を実施した。 ・学科閉鎖に伴い、次年度への課題はない。 <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】 CP(1) (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3~4年時生では、ゼミ単位の個別指導を実施する。 ・2~3年次生では、到達度の低い学生には、目標設定の再検討および、到達度クラス別の補講を実施し、効果測定を行う。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力は高学年であっても必要なため、ゼミ等を利用して基礎学力向上を心がけた。 ・学科閉鎖に伴い、次年度への課題はない。 <p>【国家試験合格率アップへの対策】 CP (4) (11)</p>

- ・H30 年度の国家試験を解くために必要な知識の整理から、本学科教務委員会とリンクし、国家試験出題基準対応表に漏れのない教育の実施確認を行う。
- ・3 年次生に対する早期国家試験対策の取り組みの効果測定により早期教育の検証と修正を行う。
- ・国家試験対策マニュアルとロードマップを作成する。
- ・模擬試験問題の水準を国家試験合格に合わせるために、過去に使用した模擬試験問題の内容の再検討を行い、より近年の出題傾向に即した模擬試験を実施する。

<取り組み状況と次年度への課題>

- ・本学科の国家試験合格率は高く、基本的に従来の戦略・戦術を踏襲している。
- ・学科閉鎖に伴い、次年度への課題はない。

【学科教員の教育力アップの対策】

- ・教員が教育の技法を高めるとともに、授業への取り組みを再考する機会となるように、講義、演習、実習およびグループワークなど様々な形態の授業について、教員相互の見学・参加を推進する。
- ・講義内容や試験問題を相互に確認することで互いに高め合う。
- ・教員間の専門知識を相互に提供しあうことで、教員の教育内容のレベルを向上させる。また、学会などで知りえた最新の情報なども併せて情報交換を行い、教育レベルを向上させる。

<取り組み状況と次年度への課題>

- ・模擬試験の問題作成では、難易度の調整等について全教員が協力して取り組んでおり、教員交互のレベルアップに繋がっている。
- ・学科閉鎖に伴い、次年度への課題はない。

【教育施設のレベルアップのための対策】 CP (4)

- ・教育設備を中心に拡充を図るために、文部科学省をはじめとして利用可能な補助金等があれば積極的な応募に向けて具体的に検討する。
- ・新たな検査機器については、可能な限りメーカーのデモ機器を借り受け、学生に最新機器の取り扱いについて修得させる機会を増やす。

<取り組み状況と次年度への課題>

- ・最新機器については、デモ機を借り受けており、学生に最新機器の取り扱いについて修得させる機会を増やしている。
- ・学科閉鎖に伴い、次年度への課題はない。

【就職率アップへの対策】 DP (4) CP (4) (11)

- ・計画の基本的な考えとして、キャリアサポート室を積極的に有効活用することを主体とし、戦略的に行われている各種の就職面談会や就職懇談会に積極的に参加する。
- ・高い国家試験合格率を維持する。

<取り組み状況と次年度への課題>

- ・キャリアサポートとの緊密な連携と教員の学生との連携を図っている。
- ・学科閉鎖に伴い、次年度へ課題はない。

【学生生活サポート対策】 CP (9)

- ・学生の相談内容に応じて、学内各部署（学生課、教務課等）へ的確に誘導し、当該部署への連絡及び相談の連携を行う。
- ・学生の授業への欠席状況を教員間で共有・把握し、早期にチューター面談及び保護者への連絡を実施し、学生の長期間無断欠席の回避を図る。
- ・個別学習スペース（電気生理実習室等）を充実させ、いつでも勉強できる環境を整備する。
- ・学生との対話を重視し、気楽に話せる環境を整備する。
- ・学生から寄せられた情報はガルーンを活用し情報共有を行い、どの教員も対応できるような体制を整える。

<取り組み状況と次年度への課題>

- ・学生生活サポートのために、学生と緊密に連絡が取られており、場合によっては保護者との連絡も密にしている。特に、教員間での学生情報の共有に取り組んでいる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学科閉鎖に伴い、次年度への課題はない。 <p>【中途退学者防止対策】 CP (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中途退学者の多くが、学力不足による単位不認定がきっかけとなることが多いため、基礎学力を向上させ専門教育へのスムーズな移行を図ることにより退学者減少につなげる。 ・ 定期的な実施できる学習相談窓口を設置する。 ・ 適切な進路相談により、退学希望者に対して転学部、転学科を勧めることができるようにする。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力向上のため学習相談窓口を設置しており、学力不足での中途退学を防止を図っている。 ・ 学科閉鎖に伴い、次年度への課題はない。 <p>【学生指導力の向上】 CP (9)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の価値観、気質、能力を配慮した指導や対応を行うことを目指す。 ・ 講義や実習、チューター面談を通して、学生個別の適性およびモチベーションを見極め、学生生活における問題の早期発見に努める。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生面談の頻度を増加させるなど、教員の学生指導力の向上を図っている。 ・ 学科閉鎖に伴い、次年度への課題はない。 <p>【社会人としてのマナー対策】 DP (1) CP (4) (5) (10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員側から積極的に挨拶を行う。 ・ 誤った言葉の遣いがあった際はその都度注意する。 ・ 検査実習などにおいて丁寧な言葉遣いがあった際は良かった点を褒める。 ・ 実習室使用ルールおよび実習生としてのマナーの指導を低学年より実施する。 ・ 臨床実習前指導では医療従事者における接遇マナーの専門書を用い事例を交えた指導を実施する。 ・ ボランティア活動の意義を学生へ説明し参加を促す。 ・ 学期毎に学生に対し身だしなみ、マナー、言葉遣いにおける目標を列挙させる。 ・ 身だしなみ、マナー、言葉遣いにおけるチェックリストを作成し、学生の自己評価表として活用する。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人としてのマナー対策で、教員が気がつけば学生にその都度、注意している。 ・ 学科閉鎖に伴い、次年度への課題はない。 <p>【学科の魅力発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学科教員の積極的な学会・講習会における発表にて九保大をアピールする。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本学科は、募集停止となっているが、教員は学会や地域貢献などで九保大のアピールに努めている。
募集力	
研究力	<p>【学科教員の研究力アップのための対策】</p> <p>研究活動の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学会や講習会への積極的参加 ・ 学術論文が学科から毎年少なくとも1報は発表する。 ・ 学会発表が学科から毎年少なくとも2報は発表する。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の学術論文数および学会発表数は、目標を達成した。 ・ 学科閉鎖に伴い、次年度への課題はない。

	<p>【臨床技術の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院での継続的な研修および臨床業務への参加。 ・臨床経験を積む場、研究の場の1つとして、3歳児眼科健診などに積極的に参加する。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県内4市町村（延岡市、美郷町、諸塚村、椎葉村）の三歳児健康診査における視機能検査業務、宮崎大学医学部附属病院および済生会日向病院における眼科検査業務、しろやま支援学校における視覚支援業務、延岡市民大学院における市民向け講座、のべおか子どもセンターにおける「子育て講話」など地域連携を進めているが、そのことが、学科教員の臨床技術の向上に繋がっている。 ・学科閉鎖に伴い、次年度への課題はない。
地域連携力	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県内4市町村（延岡市、美郷町、諸塚村、椎葉村）の三歳児健康診査における視機能検査業務、宮崎大学医学部附属病院および済生会日向病院における眼科検査業務、しろやま支援学校における視覚支援業務、延岡市民大学院における市民向け講座、のべおか子どもセンターにおける「子育て講話」など、地域市民の視覚の保健、医療、情報発信に寄与することで地域連携力アップを図る。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携については、学科として十分に貢献できていると考えている。 ・可能な限り地域貢献に協力したいが、学生教育が最重要であることから、教育とのバランスが課題となっている。 ・学科閉鎖に伴い、次年度への課題はない。
総合力	<ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマポリシー（DP）の実現を念頭に、アセスメントポリシーを充実してカリキュラムポリシー（CP）の実践に取り組み、卒業まで一貫した統合教育を行う中で100%進級を目指すと共に、100%の国家試験合格者をキープする。 ・学科内の研究力の充実を目指し、研究成果を学外に発信し各種研究費の獲得や地域連携強化を図る。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科教員が一丸となって全員国家試験合格を目指して努力しており、高い国家試験合格率をキープしている。 ・学科閉鎖に伴い、次年度への課題はない。
3つのポリシーからの総評	<p>学科ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの学生への周知徹底を図り、両ポリシーを踏まえた教育力の可視化に取り組んだ。シラバスは教員間でチェックし合い、教科間での整合性についても検討しており、学生が有効に活用し学力を向上させることに繋がっている。また、卒業研究を充実させるために、指導マニュアルを教員間で共有する。「ヒトは自分の何が評価されるのか知ることにより変化する」と言われるが、本学科は学生にディプロマ・ポリシーを明確に意識させることによって教育効果向上に取り組んできた。</p>
次年度への展望（まとめ）	<p>学科の募集停止により、本年度で学科は閉鎖となる。患者さんの「みる」「みえる」幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養するために、特に専門教育に力を注ぎ留年者・退学者を出さないよう学科教員が一丸となって取り組んできた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科閉鎖に伴い、次年度への展望はない。

九州保健福祉大学 保健科学部 臨床工学科
2021年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>九保大だから学べる「高度なチーム医療」を支え患者さんの幸せをプロデュースできる能力を身につけた社会に有為な人材を輩出する。</p>
<p>学科からの メッセージ</p>	<p>臨床工学科の教育目標は、臨床工学技士国家試験合格のもと先にある。医療の高度化が進み、多くの医療機器が臨床で使用されており、いまや医療現場には工学知識を持つ臨床工学技士がますます重要になっている。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、チーム医療の一員として医師の指示のもとで生命維持管理装置の操作や、自らの判断で医療機器の保守・管理を行うなど、高度なチーム医療を支えるのみならず、患者さんの幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることを目標としている。また本学は、タイを中心としたASEAN諸国の大学ならびに病院との交流があり、毎年、臨床工学科の施設を中心とした研修を受け入れている。そのため海外の方との交流を通じ、グローバルな視点も養うことができる。</p>
<p>教育力 (ブランド力) 「学修成果の可視化」の観点を含む</p>	<p>【学生自ら考える力をアップする対策】 従来の卒業研究指導法に加え、卒業研究指導時ならびに卒業研究発表会で使用するルーブリック表を作成し運用する。学科教員全員でルーブリック表の内容とその運用について検証を行い、必要があれば改訂を行う。また、卒業研究で優秀なものについては、研究成果を積極的に国内外での学術大会において発表させる。</p> <p>アクティブラーニングについては、従来からPBL（project/problem based learning）型、学生によるプレゼンテーション型の講義などを取り入れているが、これらの教科に加え、他の教科においても導入可能であることを学科教員で協議する。</p> <p>タイの2つの大学と教育提携をおこなっている。これらの大学より研修生を受け入れており、外国の学生との積極的な交流を通して価値観の多様性に触れることで、自ら考える力をアップさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 卒業研究指導に用いるルーブリック評価表の内容および運用方法について適時見直しをする。 随時見直しを行ってきた。 ■ 卒業研究については学術大会へ参加できるよう指導を行う。 本年度もコロナ禍により九州臨床工学技士会での発表ができなかった。 ■ アクティブラーニングについては、導入科目を学科で新たに検討する。 各教員が担当科目において実施できるものは導入した。 ■ 教育提携校より研修生を受け入れる。 ■ タマサー大学よりのダブルデグリーの申し入れを学園本部の指示に従い検討する。 令和2年3月にキンモンクード工科大学より4年生15名を2週間受け入れる予定で準備を進めていたが、昨年度、今年度とCOVID-19感染症対策としての渡航が禁止され未だ見通しがたない。 (次年度) 来年度は対象学年が4年生のみであるので特に卒業研究の指導に力を入れることとする。 <p>【基礎国語力増進への対策】 教員監督のもとにスラウを学習させる。一方、基礎数学である計算力向上にため従来どおり補講をおこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ スラウを活用して国語力のアップを図る。 <p>①毎週木曜日の2限目にスラウのe-learningを教員監督のもとに実施する。 本年度より生命医科学科としては実施しなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 臨床工学科では工学系科目が7～8割を占めており計算力は必須であるので、計算力の低い学生についてトレーニングを実施する。 <p>①毎週夕方時間を利用して計算力向上のための演習を実施する。 ②計算力の評価のために毎月評価試験を実施し、結果を学生へフィードバックする。 後期より臨床工学プログラムを履修している1学年で、計算力が弱い学生へ対し毎週月曜日に実施しており計算力は向上している。</p> <p>【単位認定試験】 単位認定試験については、主に前期・後期の15コマの講義終了後実施するが、大半の学生は15コマ終了時点での試験に臨む学習が不足している。したがって、15コマを前半と後半に分けて評価試験を実施し、その結果を学生へフィードバックし、重要項目の再学習を促し、学生の未習得科目の減少を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 15コマの前半（約半数が終了した時点）と後半に分けて評価試験を実施する。

<p>各履修科目において実施し結果を学生へフィードバックし、復習の重要性を促した。</p> <p>■再試験等において所定の点数を獲得できない場合はレポートによる評価も実施する。 実施しており、これによる単位認定も行ってきた。</p> <p>〈次年度〉 来年度は対象学年が4年生のみであるので特に力をいれる項目はない。</p> <p>【国家試験合格率アップへの対策】 国家試験過去問題の活用方法の検討が重要であり学科内での国家試験データベースのバージョンアップを実施する。従来から4年生に対して実施している国家試験対策模試において、前期で各自の弱点科目を見つけさせ、前期終了後にこれを学習させる。後期の国家試験対策模試で学習状況、達成度を分析し、12月からの集中対策に活かす。</p> <p>■現在まで実施してきた試験対策方法を踏襲する。</p> <p>①4～6月にかけて国家試験過去問をベースとした模擬試験を毎日50問実施と共に評価試験を毎月1回実施する。</p> <p>②毎回の擬試験終了後に出題問題の見直し（とくに不正解であった問題）を行わせることで、不得意科目の克服を図る。</p> <p>③2～3人を1組のグループとしてのグループ学習を実施する。</p> <p>④11月からの国家試験集中対策の受講とともに、毎年11～2月に3回実施される全国統一模擬試験（日本臨床工学技士教育施設協議会実施）を受験させ、学習状況の把握と達成度の分析を行う。</p> <p>⑤3年次学生においても、全国統一模擬試験を実施し、国家試験対策への認識を深める。</p> <p>令和2年度国家試験の結果は100%を達成できたが、本年3月実施の国家試験については厳しい状況である。試験対策については従来通り実施してきたが全く成績が伸びない学生が7名ほどいる。</p> <p>〈次年度〉 来年度は臨床工学科としては最後の卒業生となり全員が国家試験に合格できるよう指導を強化したい。</p> <p>【卒業判定】 4年次の最終卒業判定については4年次前期までの必要単位数の取得とともに、卒業研究および全国で3回実施される全国統一模擬試験（日本臨床工学技士教育施設協議会編）を受験し、少なくとも1回以上60%ラインを超えていること。これを満たさない場合は、学科内における再試験を実施し判定をおこなう。</p> <p>■全国統一模擬試験で少なくとも60%を超えることは国家試験合格の可能性の目安となるので、国家試験対策を踏襲する。</p> <p>3回の全国統一模擬試験を実施したが、12名が卒業判定で規定の点数を満しておらず、再試験を実施し最終的に判断する。</p> <p>【学科教員の教育力アップの対策】 最新医療の知識、技術を習得するため、関連学会や各種セミナーへ学科教員が参加できるような体制を構築する。また、他校や臨床現場より教員を招聘し、相互に講義手法についての意見交換を行う。</p> <p>さらに、タイの大学との教員交流により多角的な教育力アップを図る。</p> <p>■学科教員に対して、講義や学事に配慮しつつ、積極的な関連学会や各種セミナーへの参加を促す。</p> <p>1名の教員が担当科目の講義改良を志向して、有料セミナー（医療統計学）を受講した。</p> <p>■他校および臨床現場の教員との意見交換を積極的に実施する。</p> <p>①交流を深めるために講義終了後に意見交換を行う機会を設ける。</p> <p>他校の教員を非常勤講師として招いているが、このコロナ禍で非常勤講師の授業が遠隔授業となることが多く、意見交換の機会が少なかった。</p> <p>【学生生活サポート対策】 毎年8月に開催されるオープンキャンパスの前日に、学科で保護者懇談会を開催している。本懇談会では保護者と教員が直接問題点を話し合っており、これを通じて、保護者と教員が連携し、学生生活のサポートに活かす。近年、心身面に不調を来した学生が多いことから、学内の健康管理センターを積極的に利用する。</p> <p>■保護者面談・懇親会への更なる参加を求める。</p> <p>①成績不良学生の保護者の参加が悪く、また学生が保護者に大学生生活の現状を都合の良いように報告しており、教員と保護者の思惑に相違が見られる。そのため、特に成績不良学生の保護者に対し保護者面談の積極的な参加を促す。</p> <p>昨年度より1年生は生命医科学科所属となり、従来の方法を踏襲するか否か検討していたが、感染症蔓延のための対策として本年度も実施はできなかった。</p> <p>■心身面に不調を来した学生は、教員へ相談しにくいと思われる。そこで、健康管理センターの使用を促すような案内（掲示物）を作成し、学科内の掲示板に掲示することを検討する。</p> <p>3年生、4年生においては学生からの相談等は無かった。</p>
--

	<p>〈次年度〉 学生を退学させることなく全員卒業が達成できるように指導する。 【学生指導力の向上】 基礎学力を上げ、学生の適正に応じた指導を実施し学力不足を解消する。成績不振の学生に対して、個別に学習指導、アドバイスを行えるような体制を構築しており、さらなる充実を図る。 成績不振の要因の一つに授業中のノート整理ができないことがあげられる。この対策として学科内で使用しているコーネルノート（コーネル大学開発）によるノート整理について個別指導を実施する。 全学年へコーネルノートを必要に応じて配布しており、学生が学科ノートとして使用しているが、教員が随時指導しているのも関わらず授業中にノートに記載できない学生が存在する。</p> <p>〈次年度〉 コーネルノートを学科ノートとして学生全員が使用できる環境が整ったので、ノートの記載方法を各教員で具体的に指導し、国家試験対策においても授業ノートの重要性を理解させる。</p> <p>【社会人としてのマナー対策】 教員から学生への積極的な挨拶運動を実施することに学科の学生は全員挨拶ができるようになってきている。特に授業開始および終了後の挨拶は重要視している。また、当学科では3年生に対して、ソーシャルマナーインストラクタの資格（JAL 国際線キャビンアテンダント）を有する外部講師を招聘して、ソーシャルマナー講座を受講させている。 ■ マナーに関する講義の受講後マナーが顕著に向上することにより、引き続きソーシャルマナー講座を開講する。 ① 3年生に対し初回の病院実習前にマナー講座を受講させる。 ② 各学年を通じて段階的にマナーを身に着けさせることを目的として1年次、2年次にも取り入れる方向で調整する。 本講義は実習を伴うため感染症対策の一環として実施できなかった。</p> <p>〈次年度〉 例年、本講師による指導は好評であるので次年度は実施したい。</p>
<p>募集力</p>	<p>令和2年度より募集停止となり臨床工学科としての募集は実施していない。</p>
<p>研究力</p>	<p>【学科教員の研究力アップのための対策】 【学会発表・学術論文】 ■ 各教員の専門性にもとづき所属する学会にて年間1～2演題の研究成果を発表する。 ■ 専任教員については、学会発表にて成果が上がっているものを学術論文とし年間1編の投稿を目指す。 ■ 通信制大学院の学生を指導している教員については、大学院生を指導するとともに共同著者として学術論文に投稿する。</p> <p>〈学会発表〉 ・RSウイルス感染症 (respiratory syncytial virus: RSV) に対する HBO の支持療法効果の基礎的検討 渡辺 渡、明石 敏、宮内亜宜、右田平八 第17回日本臨床高気圧酸素・潜水医学会 R3.6.5 札幌 (web) ・Infrared thermography による高気圧処置の PAD 簡易評価 右田平八、吉武重徳、渡辺 渡、御手洗義信 第17回日本臨床高気圧酸素・潜水医学会 R3.6.5 札幌 ・黄色ブドウ球菌 (SA) に対する高分圧酸素の菌増殖阻害効果 右田平八、渡辺 渡、吉武重徳 第21回九州高気圧環境医学会 R3.7.3 中津 ・Respiratory Syncytial Virus (RSV) 感染に対する HBO の効果の基礎的検討 渡辺 渡、明石 敏、宮内亜宜、右田平八 第21回九州高気圧環境医学会 R3.7.3 中津</p> <p>〈学術論文〉 1) Hashiguchi, S., Miyauchi, A., Komemoto, K., Ueda, T., Tokuda, K., Hirose, A., Yoshida, H., Akashi, T., Kurokawa, M., Watanabe, W. Effects of intranasal administration of multi-walled carbon nanotube (MWCNT) suspension on respiratory syncytial virus (RSV) infection in mice. Fundam. Toxicol. Sci. (2021) 8, 215-220. 2) Tange, Y., Watanabe, W., Yoshitake, S. Nitric oxide delivery using nitric-containing fluid in continuous hemofiltration: an in vitro study. J. Art. Organ (2021)</p>

	<p>DOI: 10.1007/s10047-021-01284-2.</p> <p>3) Nozaki H, Tange Y, Inada Y, Uchino T, Azuma N. Leakage of Endotoxins through the Endotoxin Retentive Filter: An in vitro Study. Blood Purif. 2022 Jan 12;1-9. doi: 10.1159/000520792.</p> <p>【研究施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 研究設備については、すでに老朽化がはじまったおり経済的に学内でのレベルアップは困難であることより、外部資金が調達できた段階で検討する。 学科募集停止にともない機器の更新は停止となった。 <p>【外部研究資金獲得のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 科学研究費申請にあたっては、複数の採択者の申請書をシェアして申請書作成の参考にし、採択されるようにする。 獲得率向上のために、教員同士でディスカッションを行った。 ■ 企業との共同研究を積極的におこない研究費の供給を受ける。 ・外部資金調達は企業からは 2 件で各々 10 万円と 15 万円、医療施設より 50 万円の寄付があった。 <p>【競争的資金】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 3 年度 厚生労働科学研究費補助金（化学物質リスク研究事業）ナノマテリアルの短期吸入曝露等による免疫毒性に関する in vitro/in vivo 評価手法開発のための研究 20KD1004 分担研究者 1,680 千円 <p>〈次年度〉 来年度も引き続き獲得をすべく引き続き努力する。</p>
<p>地域連携力</p>	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <p>臨床工学科は内閣府の地域活性化総合特区である「東九州メディカルバレープロジェクト」の人材育成を担当しており、タイを中心とした海外の医療従事者を日本の医療機器でトレーニング、日本製品が海外に普及しやすい土壌を宮崎県庁と作りつつある。また、本プロジェクトの一環として県内の医療機器企業と共同で新しい医療機器の開発も行っており、数億円規模の国家予算も獲得した。すでに開発は最終段階に来ており、今後本学科を中心とした地元企業とのさらなる連携が行われる。単に研究や教育のみではなく、実用化や医療の質向上に直結する貢献を行っているのが特徴である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ タイの大学から留学生受け入れ・本学科および地元地域連携で実習実施する（地元企業が医療機器 ■ タイを含む ASEAN 各国から留学生受け入れ・本学科および地元地域連携で実習を実施する（地元企業との新規医療機器開発を拡大）。 <p>昨年度より県立延岡高等学校の生徒を受け入れ、英語による大学の授業、実習を行っている。これによって、地元の高校生が国際感覚養成と大学の魅力を体験し、視野が広がることを期待している。このプログラムには高校側より毎年定期的な開催の希望が出ており、引き続き本学科としても対応する予定である。</p> <p>〈次年度〉 タイからの研修生が来日した際にメーカー見学を実施するとともに、県立延岡高等学校の生徒を受け入れ、英語による授業、実習体験学習を行う。同様に近隣高校に情報を流して高校生も一緒に英語で研修を受けられるようにする。</p>
<p>総合力</p>	<p>教育力、募集力、研究力、地域連携力により、大学院教育も含めて教育連携システムの構築を目指し活動をおこなっている。学部の卒業生が医療現場へ就職し、本学科生の臨床実習指導などを担うようになってきている。また、通信制大学院を卒業した 70 数名の臨床工学技士は、医療現場での指導者となっていることより、彼らが本学科出身の技士を指導して社会に有為な人材を育成するとともに、本学科卒業生や医療現場で前向きな臨床工学技士が、通信制大学院へ入学し高度専門教育を受け社会での指導者となり本学出身の技士の教育・技術レベルの高さをアピールしている。一方、臨床工学技士は本邦のみの医療職種制度であり、国策にしたがい ASEAN 地区で最も医療が進歩しているタイ国を中心に臨床工学技士制度を輸出する。その第 1 歩としてタマサー大学、キンモクド工科大学での実習施設構築への協力および研修生の受け入れをおこなってきた。次段会として両大学卒業生を本学科への留学するよう促しており、これが実現すると日本の臨床工学技士免許を持ったタイ人技士が本国で指導者となって行くことは明白であり、彼らとともに ASEAN 地区で本学のブランド力を構築することを目指す。</p> <p>〈次年度〉 引き続き上記内容を生命医科学科臨床検査コースの協力を得て本年度達成できなかった課題を達成すべく引き続き努力する。また、海外からの学生研修時に地元の高校生参加も募り、地域連携力を強化するとともに大学の魅力を感じてもらう新たな試みによる入学者増も行う。</p>

3つのポリシーからの総評	教育力、募集力、研究力、地域連携力により、大学院教育も含めて教育連携システムの構築を目指し活動をおこなってきた。教育力、地域連携力については一定の実績が評価できるが、募集力においては、各コース（学部生、別科生、大学院生）において、すべて定員以下となっている。また、研究力に関しては、少しずつではあるが学科内のコラボレーションも進み研究成果も上がりつつある。
次年度への展望（まとめ）	令和1年度をもって募集停止となり、生命医科学科として新たに学生を迎えているが、令和4年度時点で臨床工学科の在校生は4学年のみとなる。学生を退学させることなく、全員が国家試験を合格すべく教員一丸となって教育を実施する。また、生命科学部生命医科学科の臨床工学コースとして臨床工学技士の育成がはじまっている。臨床工学プログラムコース制となるが、医療現場での職能の多様性を鑑み学生の希望に応じた医療従事者育成に努めたい。

九州保健福祉大学 薬学部 薬学科
2021年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>九保大だから学べる「適正で安全な薬物療法」を支え患者さんの幸せをプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。</p>
<p>学科からの メッセージ</p>	<p>薬学科の教育目標は、薬剤師国家試験合格のもっと先にあります。現在、薬物療法の高度化により、チーム医療の中で「薬の専門家」としての薬剤師の重要性がますます高まっています。また、現在の薬剤師は患者さんのフィジカルアセスメント（実際に患者さんの身体に触れながら、薬の効果や副作用の早期発見を行うこと）などを実施して最良の薬物療法を医師に提案することが求められています。本学では、入学後の基礎科目から5,6年次の卒業研究までを通して、広い視野で自ら考え、適正で安全な薬物療法を支え患者さんの幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養します。</p>
<p>教育力 (ブランド力) 「学修成果の可視化」の観点を含む</p>	<p>教育力の可視化 【学生の主体的な学びの対策】 DP (5)、CP1 (9)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生がゴールに向かう段階を意識し学習を進めることができるように、アセスメント・ポリシーを明確化して全学生に周知する。 ・ ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーおよびアセスメント・ポリシーとの整合性を検証し、必要に応じポリシーを改訂する。 ・ シラバスの記載内容が学生の主体的な学びをサポートしているか、各ポリシーとの関係性から検証する。 ・ 現行の卒業研究（特別研究Ⅰ、Ⅱ）ルーブリック評価について、観点・基準の妥当性および学生側の活用状況を検証する。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <p>前年度に引き続き、薬学科入学前ガイダンスおよび在学生オリエンテーションにて、全学年を対象に「薬学部薬学科履修系統図」「薬学部薬学科ディプロマ・ポリシー（DP）とアセスメント・ポリシー」を配布し、その主旨と学習過程における重要性を説明した。次年度も継続する。</p> <p>ポリシー間の整合性は、アセスメント・ポリシー作成時および本学 web ページへのアップロード時に検証済みであり、現時点での整合性は保たれていると考えられる。現在までに問題点は指摘されていないが、次年度も継続して、薬剤師に対するニーズの変化に対応して検証・改訂することとする。</p> <p>シラバスの記載内容について、学科でチェックする担当の教員を決め、確認を行なった。ポリシーとの整合性には特に問題はなく、自主学習の内容と評価方法が記載されていた。次年度も継続して学習資料の提示・配布方法も含めて記載することで、自主学習の推進に繋がると考えられる。</p> <p>特別研究Ⅰ・Ⅱに対するルーブリック評価の観点は、シラバス記載の学習目標に基づき、ディプロマ・ポリシーとの整合性が確認されている。現在までに問題点は指摘されていないが、学生側の活用については、今年度は、特別研究Ⅱの実施及び卒業研究論文の作成の過程において、ルーブリック評価結果に基づいた対応を各指導教員が学生に促したため、その効果の検証を次年度より可視化し、改善を図っていく。具体的には、6年生全員に学科全体での口頭又はポスター発表を課し、より効果的なアセスメントを実施し、卒業研究での学びの効果を高めることに努める。</p> <p>【基礎国語力増進への対策】 CP1 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語力が必要な必修科目（理科系作文法Ⅰ・Ⅱ）の講義で e-learning を積極的に活用し、有用性の高い運用方法を検討する。 ・ e-learning による国語の学習成果を可視化し、成績評価の一部として反映する。 ・ 統一試験での個々の学生の成績に合わせた効果的な学習項目を吟味する。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <p>今年度も第1回および第2回統一試験（国語）の成績に従ってクラス分けを行い、理科系作文法Ⅰ・Ⅱの講義内で e-learning による国語の学習を行った。クラス毎に学生の学力に合った学習項目を設定し、約2週間毎に小テストを行って、その成績も単位認定の一部とした。また、全クラスを対象に、作文法Ⅰ・Ⅱ共通の教科書を採用し、通年で初歩から応用まで、理科系文章の特徴やレポート等の構成について演習・作文指導等を行った。</p> <p>その結果、前期終了時の第2回統一試験（国語）では、あまり成績の向上は見られなかったが、学年末の第3回統一試験（国語）において、クラスに係わらず殆どの学生が成績を伸</p>

ばした。第1回での得点に対する第3回での得点の伸び幅は、最高で39点、平均で13点(第1回71.7点→第3回84.4点)であった。このことから、例年通り短期間での成績向上は難しく、通年での学習が効果的であることを示している。

次年度は、今年度の取り組みを継続するとともに、前期の学習内容を一部見直し、学習成果がより早期に現れるように改善したい。また、作文力の向上を目指して、学習した作文手法を自ら活用し、的確な作文ができるようきめ細かく指導する予定である。さらに、国語力の定着には1年次の学習だけでは不十分であり、2年次以降も、国語力を維持発展できるようにカリキュラム上の工夫と教員間の連携が必要である。

【国語以外のリメディアル教育への対策】CP1 (2)

- ・既存のリメディアル科目の科目構成および担当者の見直しを行う。
- ・学習者の能力に合わせた効果的な学習項目と運用方法を吟味する。
- ・リメディアル科目の効果的な学習方法を、学生が自ら見出すことができるように授業内容を検討する。

<取り組み状況と次年度への課題>

リメディアル教育で習得すべき内容とレベルについて、薬学科全教員へのアンケートをもとに検討を加え、薬学数学、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱおよび化学演習の学習内容を見直し、科目間の調整を行なった。さらに数学に関して物理学・化学の学習に必須の基礎的な項目を抽出し、その中でも特に基本的な事項について、今年度から自由科目「薬学数学演習」を1年次4月に集中講義として開講することとした。また自由科目「化学演習」については、大半の学習内容を上記の「薬学数学演習」で扱うこととしたため、今年度から不開講とした。

1年次必修科目「薬学数学」の授業は新入生全員のPCが使用可となる5月より開始せざるを得ない。そこで上記「薬学数学演習」の授業を入学直後から演習形式で集中的に実施し、「薬学数学」開始前に基礎学力の確認と学習の習慣づけを行った。その後、前年度と同様に「薬学数学」を前期・後期に開講し、成績クラス別にe-learning学習と小テストを2週間単位で課し、さらに後期は下位クラスの学生に対し規定の1.5倍以上の時間をかけて薬学に関連する問題の演習と解説を行った。それらの結果、中位クラス以上の学生については成績向上が認められたが、下位クラスについては「薬学数学演習」の効果も乏しく、学習習慣や論理的思考力の向上に至らない学生が多く見られた。特に、留年生および単位未修得で進級した学生にこの傾向が顕著である。来年度は、「薬学数学演習」の内容をさらに基礎的項目に絞り、意味を理解しながら繰り返し演習するように改善すると共に、学習習慣をつけるための強制的な自習時間の設定や、留年生や進級した学生に対する指導の強化が必要と考えられる。

物理Ⅰは、薬学数学演習の開講により、物理学の内容に重点を置くことができ、成績向上につながった。来年度も今年度と同じ体制で同様の効果が得られるか検討する。

【国家試験合格率アップへの対策】CP2 (14)

- ・薬学総合演習試験の結果をもとに、弱点科目・項目などについて分析し、その科目・項目克服の方策を練る。
- ・単位認定(卒業判定を含む)の厳格な基準を明示する。
- ・出席管理の厳格化な運用を目指す。
- ・6年生の各学習レベルに合わせた指導内容を検討する。

<取り組み状況と次年度への課題>

今年度も、講義・講習会・試験日程など全般において、コロナ渦による影響を受けた。しかし、昨年度の経験もあったため、比較的速やかに日程変更やオンラインへの変更などの対応ができた。昨年度から導入したオンライン学習システムを4,5,6年生に運用を開始し、通常期だけでなく、休暇期間にも効率よく学習してもらえるようにした。6年生においては、前期の上位層・中位層・下位層のうち、主に中位層と下位層にこのオンライン学習システムを利用し、課題を毎週与え、取り組み率や取組時間をチェックした。その結果、特に中位層の成績が上昇し、取組時間と成績上昇率に相関性をみとめた。これにより、取組時間ができるだけ長くなるようなスケジュールで課題を出すように変更した。また、6年生の後期の中位下位層に、具体的な学習内容を毎日記載させ、教員によるチェックを徹底した。さらに、教員だけでなく、外部講師も招いて、希望者に勉強法などの個別相談を行った。これらを合わせた結果、昨年度より最終的な成績上位者の割合は増加した。しかし、後期中下位層の成績が思うように伸びにくいことが課題となった。次年度は、過去の成績も含めて、成績が伸びやすい学生と伸びにくい学生の成績を細かく比較し、改善策を模索する。

【学科教員の教育力アップの対策】 CP

- ・教員が教育の技法を高めるとともに、授業への取り組みを再考する機会となるように、講義、演習、実習およびグループワークなど様々な形態の授業について、教員相互の見学・参加を推進する。
- ・教員を期限付きで国内外を含め適切な医療施設・機関にて研修させ、最新の業務内容等を大学にフィードバックする。
- ・大学院生の学位取得率を改善させるため、各研究室のさらなる研究力アップを図る。

<取り組み状況と次年度への課題>

今年度はコロナ禍による授業の日程・形式の変更が多々あったため、授業の相互見学に関する調査を行わなかった。今年度からの試みとして、授業評価アンケート結果をもとに学科長と教務委員長が教員面談を行い、授業への取り組みや教育手法などについて意見を交換する機会を設けた。次年度も継続して行う。

医療施設・機関における教員の研修は今年度も行われなかった。その理由の一つとして、長年の間実務から離れている教員が現場に立つことの問題点が教員側から挙げられていた。研修先の確保と研修内容について、次年度はコロナ禍が収まり次第、現場の意見を聞き検討する必要がある。

大学院生の主担当講座・研究室での研究力強化に関し、共通研究機器の更新や使用ルール制定などを行ってきた。詳細は「研究力【研究施設のレベルアップのための対策】」を参照のこと。

【教育施設のレベルアップのための対策】

- ・文科省・厚生省等の補助金情報を収集し、積極的に応募を促す体制を構築する。

<取り組み状況と次年度への課題>

講義室、実習室のプロジェクター等の映像・音響システム老朽化に伴う更新を徐々に進めた。特に実習室のプロジェクターやOHCを新規購入した。今年度はコロナ禍における遠隔授業のため、各講義室にコンピューターやOHCを設置して、教員が常時講義に使用できる体制を整えた。また、全国薬学部に先駆けて取り組んできたフィジカルアセスメント教育をコロナ禍においても充実した内容とするために、生体シミュレータの更新・追加を目指し、文部科学省の「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」に申請した。今後、さらに薬学科として各教員からの情報を収集できる体制を構築して補助金情報を収集し、積極的に応募を促す体制の構築が必要である。

教育用備品をより充実させる目的で、5月に高速カラー複合機を更新した。さらに年度内にマークシートリーダーを更新する予定である。

【就職率アップへの対策】 DP

- ・キャリアサポートセンターを積極的に活用する仕組みを構築する。
- ・社会人マナーやコミュニケーション能力の向上を目指した企画を模索する。
- ・早期からキャリア教育を推進する。

<取り組み状況と次年度への課題>

キャリアサポートセンターでは、ユニバーサルパスポートを通じて就職面談会、企業の個々の説明会やインターンシップ等の日程を学生に配信し、学生が積極的にキャリアサポートセンターを活用できる機会を増やしている。また、今年度より求人受付 NAVI・求人検索 NAVI を新規導入することにより、オンライン上にてリアルタイムで豊富な求人検索及び学生面談の予約が可能となり、飛躍的に利便性が向上し計画的な支援を行うことができた。また、専門の講師による就職活動前の学生を対象とした「インターンシップガイダンス」「就職情報サイト登録説明会」「自己分析講座」「SPI 対策講座」「合同企業説明会回り方講座」など全学共通オンラインイベントを計6回実施した。その他、公務員試験対策オンライン講座(全3回)も開催した。加えて、キャリアサポートセンターにも来室せずともキャリアサポートが受けられる Line のトークルームも昨年度より継続利用可能とし、薬学科学生の相談に応じた。

次年度は、教員から学生にキャリアサポートセンターの積極的な利用を喚起する。また、成績不振学生には卒業後の働くイメージをもたせ、「卒業したい意識」を高めて退学を防ぐなど、様々な方面から学生のキャリアサポートセンター利用につなげるよう努力する予定で

ある。

薬学科では、就職率アップに関わる最重要イベントとして5年生を対象にしたオンライン就職面談会（1日目：宮崎県事業所、2日目：その他事業所）を3月に予定している。コロナ禍ということもあり就職支援に関するイベントは、基本的にオンライン開催で行うこととした。さらに、昨今の薬学系事業所における採用活動前倒し（大都市圏の薬局を中心に、5年生の夏に開催されるインターンシップに参加しないと、その後の就職活動に出られないという現状）を考慮し、就職活動動向・職種別選考対策・自己分析に関するガイダンスを5年生および4年生を対象に計5回を実施した。これらのガイダンスはやむを得ず実務実習期間中に開催したこともあったため、オンラインやオンデマンド型を導入し、学生の実習や勉学に影響を与えないよう配慮した。一方で、これらの取り組みが単に就職活動のためのガイダンスになってしまうのではなく、学生自身の「人生のキャリアプラン」を形成することで勉強へのモチベーション向上や就職後のミスマッチを防ぐため、2021年度4～5年生には「自己分析」を中心に取り組みを行った。これらの取り組みにおいては、「自分の興味や職種について明確になった」「企業から奨学金をもらっているため既に就職は決まっているが、人生をどう生きたいかがはっきりした」など学生からの意見をもらっている。

次年度薬学科においては、5年生のインターンシップが5月から開催されることから、実務実習のⅠ期～Ⅱ期の間の期間を活用してインターンシップの参加に関するガイダンスを開催する予定である。5年生は自己分析の結果と、インターンシップ参加の経験を通じ、5年生中に就職の方向性を固めることを目的とする。4年生は4月から第一回のガイダンスを開催する予定である。これは自己分析を早い時期に行い、勉強へのモチベーションを高めた上でCBT・国家試験の勉強や臨床系の実習に取り組むことで、学修効果の向上を目的とする。これらの活動を通じ、就職率と国家試験合格率の向上を目指す。

【学生生活サポート対策】

- ・学生の相談内容に応じた学内各部署（学生課、教務課、保健センター等）との連携体制を構築し可視化する。

<取り組み状況と次年度への課題>

学生の健康、学内生活環境等に関する相談や報告に基づいて、チューターが中心となり主にガールズメールを利用して学科教員、関連部署間でその情報が共有された。殆どの場合、相談や報告を受けたチューターの判断により情報発信を行っているが、現時点においてこれに伴うトラブルは見られず、本取り組みは学生対応に役立てられている。そのため、今後も本取り組みを継続して行う。学生情報の共有においては、学生のプライバシーへの配慮が必要であるため、学生相談時には引き続き、あらかじめ他の関係者への情報提供の可否や範囲について説明・確認するなどの同意を得ておくことが望ましいと考える。

ハラスメント関連の事項については、学科ハラスメント委員会から学科長への迅速な連絡体制を構築して、学科長が予防的な対応も含めてその対応に当たることとした。しかし、全学的に今年度以降、ハラスメント委員への申し込み事項は全部全学のハラスメント委員会で掌握れることとなった。

【退学者防止対策】

- ・学生の長期間無断欠席の回避を図るための学科内対策を構築する。
- ・学生課やキャリアサポートセンターと協力・連携して学生へ奨学金等の推薦を通じた経済的支援体制を構築する。
- ・縦断的な学生同士の繋がりを強化する体制を築く。

<取り組み状況と次年度への課題>

長期無断欠席となる学生は、学力や精神面に問題を抱えていることが多く、そのような学生についてはチューターが個別に対応している。チューター以外の教員も学習方法などの相談に応じている。今年度は、新入生の基礎学力不足によるドロップアウトへの対策として、自由科目「薬学数学演習」を開講した（「教育力（ブランド力）【国語以外のリメディアル教育への対策】」参照）。

医療機関や企業からの奨学金の情報をキャリアサポートセンターへ集約し、学生に提示してきた。今後も継続して学生支援に活用する。

薬学科では毎年、スポーツ大会と新入生合宿研修により学生間の縦の繋がりを図ってきたが、今年度はコロナ禍のため、合宿は行わずに3密を避けつつ学内での研修を実施した。次年度も状況に合わせて、今年度と同様にイベントを実施する。

【学生指導力の向上】

	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の価値観、気質、能力を配慮したきめの細かい指導や対応を行うことを目指す。 ・講義や実習、チューター面談を通して、学生個別の適性およびモチベーションを見極め、学生生活における問題の早期発見に努める。 <p><取り組み状況と次年度への課題> チューターによる個別指導（成績指導、生活指導）および講義・実習の個別サポートはある程度実施できたが、コロナ感染対策下で十分な時間を割いての対応は難しかった。チューター個別指導に関しては、学生面談のみで進展がみられない事例に対しては、早期にチューターが保護者へ電話やメールによる連絡を行い、その対応を継続的に実施するなどの工夫を行った。特にコロナ禍においては学内での活動時間が制限され自宅に籠りがちになり、日常生活が不規則になったり、健康不安、精神不安を抱える学生が散見されるため、チューター、科目担当教員が連携し、学生の態度変化や問題に気が付いた時点から速やかな介入・対応を心がける。</p> <p>実習科目のみならず、講義科目においてもグループでの討議・課題作成を通して、学生の主体性、協調性を把握できる科目がいくつか設けられている。しかし前項の退学者防止対策と同様、対応はチューターや科目担当教員に留まっている。全教員で学生個々の問題点を共有し検討する機会が必要となる。</p> <p>【社会人としてのマナー対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生へ積極的な挨拶を促し、学生間における挨拶・礼節の実行も含めて、各教科・実習の態度にその評価結果を反映させる。 ・ハラスメント委員を増員してチューター教員との関係を密にして、初期の問題行動を共有してハラスメント委員や学科長から即時個別指導を行う体制を構築する。 <p><取り組み状況と次年度への課題> 本年度もコロナ禍の影響で、積極的な挨拶の取り組みがなされていない場面も見受けられたが、講義や休み時間等の学生との接触場面において、教員から学生に対して積極的に挨拶をし、学生にも挨拶の励行を指導した。今後も継続して指導していく。各教科・実習の態度への評価の反映については、教員各自に委ねており、次年度も実施する予定である。</p> <p>学生からのハラスメント相談、申し出については、適宜、ハラスメント委員間で初期の問題行動を共有し、個別指導を行う体制が整っている。ハラスメント相談を受けた場合には、九州保健福祉大学キャンパス・ハラスメント防止対策規定および九州保健福祉大学キャンパスハラスメントフローに従って、適切に対応した。課題としては、ハラスメント委員の存在を知らずに、個別で相談できない学生への周知を図る必要がある。</p>
募集力	<p>【学科入学生定員確保のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、薬学科のアピールポイントをまとめ、高校訪問、土日見学会、オープンキャンパス等で活用する。 <p><取り組み状況と次年度への課題> 下の項目に示した各種の入試広報用資料を作成し適宜活用した。</p> <p>オープンキャンパスや土日見学会の来場者からは好感触が得られている。今年度はコロナ禍のためオープンキャンパスや見学会などが例年よりも小規模となり、また高校訪問にはほとんど行けなかった。しかし、6月に宮崎市で実施した宮崎県内高校教員向けの入試説明会、10月に本学で実施した高大連携協議会にて、薬学科の特色をアピールした。出前授業は、先方の希望に応じてオンラインミーティングソフトによる遠隔授業を実施したほか、現地に出向いて対面による授業が実施できた（指宿高校、泉ヶ丘高校など）。年度末の合格者見学会および高校1、2年生対象の大学見学会は、Google Meetを活用してオンライン相談会として実施予定である（執筆時点）。</p> <p>来年度もコロナ禍の終息は難しいと思われるため、オンライン対応の機会が増えることが予想される。そこで、よりきめ細かくインパクトのある広報資料を作成し、受験者増、志願者増につなげたいと考えている。</p> <p>【学科の魅力発信】 AP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬学科志願者を増やすために、薬剤師の魅力ややりがい、将来の展望などに関する情報を積極的に収集し、中高生を中心に広く発信する（ニーズの拡大）。 ・学科教育力の高さを客観的に示すために、これまでの卒業生の成績や合格実績などのデータを整理し、数値化・可視化する（本学科のアピール）。 ・効果的な情報発信を行うために、入試広報用コンテンツを統一するとともに、学科のアピールポイントやFAQ等を学科教員間で共有する。

	<p><取り組み状況と次年度への課題> 活字媒体として、学科パンフレット（出前講義やオープンキャンパス等で配布）、合格者へのメッセージ（合格者向けの書類に同封）を作成した。最新の合格実績や教育力を示すためのデータを解析し、前述の資料にわかりやすく記載した。出前講義等で使用するための学科共通スライドをアップデートした。 作成した資料はそれぞれ適宜情報のアップデートを行っている。次年度は、より訴求力のある資料を作成し、それを適切に活用することにより、一人でも多くの来学者・受験者・入学者の確保につなげたい。 薬学部への志願者の増加を目指して、宮崎県薬剤師会と共に中学生あるいは低学年の高校生と保護者向けの薬学や薬剤師に関する説明会を企画していたが、コロナ禍で実施できなかった。来年度は、本企画をオンライン開催や資料のネット配信などにより実施できないか、環境整備を含めて検討する。</p>
研究力	<p>【学科教員の研究力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学術論文：筆頭著者あるいは責任著者が各講座・研究室教員である英語論文を、各講座・研究室単位で少なくとも毎年2報発表する。 ・ 学会発表：筆頭著者あるいは責任著者が各講座・研究室教員である学会発表を、各講座・研究室単位で少なくとも毎年4報発表する。 ・ 研究発表会：研究促進委員会を設立し、年3回、薬学棟各階の講座・研究室単位で学生を交えて研究発表会を行い、各講座・研究室の研究成果の進展度を可視化する。 ・ 可視化した研究力に基づいて、薬学科の研究費配分に反映するシステムを構築する。 ・ 薬学科講座・研究室間、あるいは、学科間での共同研究活動を推進する。 <p><取り組み状況と次年度への課題> 今年度の取り組みとして、研究成果発表（学術論文および学会発表）に関しては、目標に到達できていない。研究促進委員会主導で昨年度より開始され、各講座・研究室の研究成果の進展度を相互に把握する好機となっている。研究発表会「宮崎県北サイエンスフォーラム」は、今年度は開催が企画された時期にコロナ感染が再拡大したため、社会的な状況に合わせて延期中である。薬学科の研究費配分に関しては、今年度も計画通りに実施された。講座・研究室間、学科間での共同研究活動に関しては、数件行われ、一部の成果が学術論文として発表された。 次年度への課題として、研究成果発表に関しては、学科教員個々人が、教育・研究職として就任しているという自負を改めて持ち、教育や社会貢献等の用務が多い日々においても就業時間を有効に活用し、より一層懸命に研究を進め、発表していくことが求められる。研究発表会に関しては、次年度もコロナ禍の現状を踏まえ、オンラインも含めた最善の開催形態での実施を検討する。研究費配分に関しては、可視化された各講座・研究室の研究力（学術論文、学会発表、外部資金獲得状況、上記研究発表会での進捗報告等のエビデンス）に基づいて、計画通り傾斜配分の実施を継続する。共同研究活動の推進に関しては、次年度も今年度と同様に研究発表会等を通じて各講座・研究室の研究成果を学科内や他学科と共有し、互いに連携を図りながら実施していく。具体的には、教員各個人の研究の進展度をより効果的に可視化して研究力向上につなげていく目的で、次年度より、上記の研究発表会「宮崎県北サイエンスフォーラム」とは別に、当該年度に大学に申請した教員各個人の研究の実施内容について、新たに企画する「薬学科リトリート」（守秘契約締結下で行われる、教員各個人の未発表データを含めた成果の学科内限定発表会）において発表することを課すこととする。</p> <p>【研究施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学科内で共通機器や実習機器等の更新機器に優先順序を付けて、計画的に機器更新を図る体制を構築する。 ・ 大学内での高額共同研究機器の獲得やその共同使用・維持システムを構築する。 ・ 学科内の共通機器や実習機器等の管理者を明確にし、定期メンテナンス報告や研究成果を上げる効果的な使用方法等についての情報を共有する。 ・ 学科内の共通機器室の掃除を定期的実施し、研究機器の不具合を確認するとともに実験室の環境美化保持に努める。 ・ 製造業者や代理店が企画する公開セミナーやWebセミナーに積極的に参加し、学会内に設置してある研究機器の活用例や関連最新機器の情報を広く収集する。 <p><取り組み状況と次年度への課題> 4月に薬学科研究環境整備委員会で共通機器や実習機器等の更新機器に優先順序を付け、</p>

	<p>計画的に機器更新を図る体制を構築した。今年度は、9月に臨床化学分析装置（富士ドライケム）を新たに導入した。また、2月に高速液体クロマトグラフの一部（システムコントローラー、脱気ユニット、カラムオープン）を更新し、残りを次年度以降に更新する予定である。更新できなかった機器は、次年度の更新を検討する。</p> <p>大学内での高額共同研究機器について、共同使用・維持システムを構築するために、4月の学科会議やオリエンテーション時に、共通機器の使用ルールや廃溶媒、医療廃棄物の区分について薬学科教員に資料を配布、説明した。高額共同研究機器の獲得については、研究助成金情報を全教員で精力的に情報獲得、発信、応募していく必要がある。</p> <p>4月の学科会議で共通機器管理講座一覧を配信することで、学科内の共通機器や実習機器等の管理者を明確にした。また、定期メンテナンス報告、修理点検の案内を管理講座からガールズメールにより随時配信された。研究成果を上げる効果的な使用法等については、ガールズファイル管理にてマニュアル等の更新により情報共有がなされた。</p> <p>8月、3月に全講座協力体制のもと、学科内の共通機器室の掃除を実施し、研究機器の不具合を確認するとともに実験室の環境美化保持に努めた。</p> <p>本年度は一部の教員が、公開セミナーやWebセミナーへ積極的に参加したが、さらに活発な情報交換をしていく必要がある。また、全教員がより精力的な研究活動を行い、学会等で研究機器の活用例や関連最新機器の情報を広く収集する必要がある。</p> <p>【外部研究資金獲得のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 科学研究費等の競争的資金や寄付・委任経理金等：これらの資金獲得のために、各講座、あるいは、研究室単位で毎年申請を行う。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <p>今年度の薬学科の外部研究資金獲得実績は、科研費新規採択数が3件、科研費継続が7件、科研費以外の競争的資金が新規1件（A-STEP）・継続1件（CREST）、受託事業が1件（のべおか市民大学院含む）、共同研究が新規0件・継続1件、受託研究が5件、特別寄付が6件であった。今年度の薬学科の外部研究資金応募実績は、科研費が18件、科研費以外の競争的資金が0件、民間助成が1件であった。科研費以外の競争的資金情報の連絡については回覧している。しかし、まだ研究費の応募さえしていない講座・研究室があるので、その促進を図りたい。また、特に若手研究者の科研費の採択率を上げる努力を推進する予定である。</p>
地域連携力	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬学科の研究力を定期的に地域に開示・発信する。 ・ 開示した研究力を基盤とした地域連携産官学プロジェクトの構築を行う。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <p>COC+授業コンテンツの後継版に該当する亜熱帯薬食資源学および薬食同源学について、オンデマンド授業およびオンライン授業を実施した。この授業にて、本学薬草園の紹介や薬学科と宮崎大学の共同研究成果について発信できた。今年度もコロナ禍の影響で、受講生が本学薬草園にて薬草を直接観察することはできなかったため、オンライン授業にて90人の1分間スピーチ（自分の将来の職業に、本講義で学んだことをどう活用するか）を実施した。一方、放送大学宮崎学習センターの依頼により、10月に本学にて薬用植物学の集中講義および薬草園の見学を実施することができ、受講者から高い満足度を得ることができた。次年度も宮崎県内の他大学の学生が興味を引くような、薬学科の研究成果を発信していきたい。</p> <p>これまでに年3回行っていた薬草園講演会は、2020年度からコロナ感染拡大防止のため、全ての回を中止している。その他、これまで延岡市役所および宮崎県とともに行ってきた様々な薬草関係の講演についても相次いで中止となっている。2022年度については、コロナ感染の状況を見ながら可能な限り実施を検討するとともに、場合によってはオンライン参加型の講演会を企画するなど、昨今の現状に合わせた開催を目指していきたい。</p> <p>2021年度内に延岡市との薬用作物に関する連携協定を再締結し、市役所は農業分野だけでなく工業・観光分野も横断的に事業に取り組むことを読見山市長との対話の中で確認した。この取組の中で2022年からは製菓会社の虎彦と薬学科の研究で産地化したサフランを使用した新商品開発を行うことにしている。また、有限会社共栄調剤薬局と延岡産シコンを使用したハンドクリームを共同で製作し、これまでに約3000本を販売した。2022年度内に1000本の追加製造がなされる見込みである。これらの商品には、本学が関わったことを示すため、パッケージにロゴの記載などを依頼している。</p> <p>以上の取り組みによって、今後は薬学科における薬用作物の栽培方法や加工方法についての研究結果を地域に発信する機会が増えるものと考えている。コロナ禍の中、これまで通りの発信方法だけではなく、【研究力】の項目でも書かれているように最善の開催携帯での実施が求められる。</p>

	<p>地域薬剤師の職域拡大のために無菌調製およびフィジカルアセスメントの研修会を地域に向け行った。さらに、分かり易い服薬指導法の普及のためにADME人形を発売した。ADME人形及びADME図鑑による服薬指導法に関する講演を地域内外に向けオンラインで行った。今後はフィジカルアセスメントにADME人形を加えた本学オリジナルの新たな教授法を各地の実施研修会やオンライン講義・研修会等を介し全国へ発信できる体制を構築する。</p>
総合力	<ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションポリシー（AP）に掲げている「信頼される有能な薬剤師」としての豊かな人間性と医療人としての高い潜在能力を有する専門職育成を目指して、精力的に学生募集を行い、定員充足を目指す。 ・ディプロマポリシー（DP）の実現を念頭に、アセスメントポリシーを充実してカリキュラムポリシー（CP）の実践に取り組み、卒業まで一貫した統合薬学教育を行う中で100%進級を目指す。 ・学科内の研究力の充実を目指し、研究成果を学外に発信し各種研究費の獲得や地域連携強化を図る。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <p>ディプロマポリシーの達成、実現には、「学生が主体的に学ぶ意欲をもち、学ぶ喜びを体感する」ことが必要である。このためにアセスメントポリシーを充実させて薬学での学びの流れを学生が理解したうえで、低学年でのすらら等の基礎学習、リメディアル講義、高学年における思考力アップの学習形態や時間配分の見直しを行った。今年度、新たに開講したリメディアル講義「薬学数学演習」が1年生の下位クラスに対して学習習慣を形成させて一定の学力向上をもたらした事例に倣い、次年度以降も、学生のモチベーションを高められるよう、より効果的な学習形態や時間配分を検討していく。今年度の卒業率は、前年度に比べて若干増加した。しかし、現在までの取り組みでは、低学年の時点で最下位クラスであった学生の学力が、高学年に進級した時点で顕著に向上して卒業に至ったケースはほぼ皆無であったことから、今後も全学年を通して、「学生が主体的に学ぶ意欲をもち、学ぶ喜びを体感する」ことができるように、各学年で年間継続して学ぶ習慣をつけさせる方策を考えて実行していく予定である。特に、より低学年時点での学習の定着度を高めてディプロマポリシーの達成度を高めていく方策を練ることが課題となる。</p> <p>コロナ禍の状況で、今年度も、学科内の研究力の充実を目指し、研究成果を学外に発信し各種研究費の獲得や地域連携強化を図ることが難しかったため、今後の課題として継続することとなるが、次年度には、学科内限定での新たな研究発表会「薬学科リトリート」を立ち上げ、学科内の研究力の向上につなげていく。詳細は「研究力【学科教員の研究力アップのための対策】」を参照のこと。</p>
3つのポリシーからの総評	<ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションポリシー（AP）に掲げている豊かな人間性と医療人としての高い潜在能力を有する専門職育成を目指して、学科一丸となって九保薬学のブランド化を図り、薬学のブランド力を広範に発信する方策を具体的に検討する必要がある。 ・アセスメントポリシーの充実により、ディプロマポリシー（DP）とカリキュラムポリシー（CP）の関連がより明確になり、卒業まで一貫した統合薬学教育を行える体制の基礎が構築できた。しかし、学生の意識としてこの学びの流れが十分理解されていないと考えられる。このため、この体制を学生・教員に周知・浸透されることにより、100%進級を目指した教育を行う。 ・今後、コロナ禍で行えなかった「宮崎県北サイエンスフォーラム」や地域連携力のアップを図り、また、共通機器更新を含めて学科内の研究力の充実に努める。まだ成果は十分に得られておらず、今後も薬学科のブランド力の一環として研究成果を学外に発信し各種研究費の獲得や地域連携強化を図る必要がある。
次年度への展望（まとめ）	<p>学生募集対策、留年生対策（退学者対策）、研究力の充実や卒業率・国試合格率アップは、本学科の抱えている大きな課題である。さらに、スロレート卒業率やストレート卒業学生の国家試験合格率が評価されるようになり、本学としてはこれらの課題を着実に解消できる方策を練ることが肝要である。具体的には、入学前教育からはじめて自ら考えて学ぶことのできる学生の育成を主眼として、各学年での「学生が主体的に学ぶ意欲をもち、学ぶ喜びを体感できる」教育・環境の設定が不可避である。このためには教員間の和・信頼が大切であることは言うまでもない。薬学科教員の奮闘あるのみです。</p>

九州保健福祉大学 薬学部 動物生命薬科学科

2021年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>九保大だから学べる 「薬に強い動物・動物性食品の専門家」として人々の幸せをプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。</p>
<p>学科からのメッセージ</p>	<p>動物生命薬科学科の教育目標は、動物看護師統一認定試験(2022年度愛玩動物看護師 第一回国家試験)合格や実験動物1級技術者認定試験合格のもと先にあります。現在、“地域創生”に至る国策の一つとして、産業動物や食の安全とそれに基づく関連産業の発展が求められています。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、動物、医薬品および動物性食品に関連した「薬に強い動物看護師」、「薬に強い実験動物技術者」、「動物・薬・食に詳しい学芸員」、「食品衛生管理者・食品衛生監視員」として活躍できる専門知識を習得すると共に、さらに人々の幸せをプロデュースできる能力(知識・技能・思考力・態度)を涵養します。</p>
<p>教育力 (ブランド力) 「学修成果の可視化」の観点を含む</p>	<p>(2021) 【学生の主体的な学びの対策】DP CP1〈2〉CP1〈3〉CP1〈4〉CP2〈8〉CP3〈15〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントポリシーを明確化して全学生に周知する。 ・飼育当番、臨床実習及び卒業研究について、問題解決能力を高める指導方法により学生の思考能力を高める。 ・卒業研究レポートの評価表を作成、運用する。 ・半期あるいは通年 GPA をチューター面談に活用し、学修成果を確認・指導する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉 アセスメントポリシー(学修成果評価方針)については学科内で作成した学修マニュアルを用いて全学生に周知した。飼養・管理・疾病対応などを含む動物飼育当番、臨床実習及び卒業研究について、問題解決能力を高める指導方法により学生の思考能力を高めた。 卒業研究レポートについては、従来からの評価項目、評価基準にしたがって評価を実施、冊子として学科保管した。 GPAは進級判定あるいは資格取得判定の基準など学修評価として活用、それに基づきチューター面談時に学生を指導した。</p> <p>【基礎国語力増進への対策】CP1〈1〉CP2〈10〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・e-learning(すらら-国語)を積極的に活用し、学修成果を可視化、有用性を検討する。担当者は、適応時間数に合わせて学生に学習させる項目を吟味する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉 新生生に対しては「すらら-国語」を実施した。各学生の進捗度を調べ、課題達成率を各学生に周知し、参加を促した。最終試験結果はコロナ禍のため、今後(3~4月)実施する。 次年度も1年生は「すらら-国語」を活用する。</p> <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】CP1〈6〉CP2〈10〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語は英語村の活用により実施 1~4年生の学年ごとに週1回以上の定期的受講を推奨する。 ・基礎科目の生物I、化学I、数学Iはリメディアルの内容を含む。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉 英語は英語村を活用、1年生に対しては英会話入門コース、また、フィリピン留学を希望する1~4年生を対象としたTOEFL対策クラスへの定期的な受講・参加を促した。参加は1年生が主で、高学年生の取り組みは低かった。 次年度も、全学年において、活用人数のさらなる増加を図る。 生物I、化学I、数学Iはリメディアルを実施した。特に、生物は入学前教育の重要科目として、課題学習を実施、個別に指導した。</p>

【資格試験合格率アップへの対策】CP2 〈7〉 CP2 〈12〉 CP3 〈11〉

認定動物看護師及び実験動物 1、2 級技術者の資格試験対策について「学修マニュアル」に従って実施する。

〈取り組み状況と次年度への課題〉

学科で作成した、学修マニュアルに記述の、資格取得に必要な科目、取得学年、必要な成績などに従って、認定動物看護師においては、自主学習の推進・確認、模擬試験（過去問活用など）の実施にて合格率アップの対策を実施した。

認定動物看護師試験実施日は3月6日（日）。8名受験予定。なお、昨年度の合格率は100%（合格者/受験者=12/12）であった。

実験動物 1 級技術者においても学修マニュアルに従って、筆記試験においては学習習熟度の確認試験、実技試験は技能習得度の確認試験を複数回実施し、合格率アップの対策を実施した。本年度の一次試験合格者 4 名（合格者/受験=4/4）、二次試験（実技試験）はコロナ禍の影響で、通常とは異なる試験方法（筆記試験）で実施された。二次試験最終合格者は 1 名（1/5）（昨年度 1 次試験合格者 1 名を含む）であった。

次年度も学修マニュアルに従って、試験対策を引き続き実施する。

【学科教員の教育力アップの対策】CP1 CP2

- ・学科 FD（学科教員研修会）は未実施。
- ・授業に関する相互見学を勧奨する。
- ・学位取得、論文作成並びに学会・研修会等への参加（WEB 参加を含む）を推奨する。

〈取り組み状況と次年度への課題〉

学科 FD は未実施であったが、教員相互に WEB 授業の円滑な進め方、評価方法などに関する情報交換が図られた。

授業に関する相互見学はごく少数であった。

学位取得に関しては、学位未取得者 2 名（2/8）、論文作成中。学会・研修会等への参加は、コロナ禍のために、少数の WEB 開催学会への参加が見られたのみであった。特記事項としては、日本動物看護学会が学科専任教員を会長として本学（WEB）で開催された。

次年度も引き続き、学科 FD 研修の実施、授業の相互見学、学位取得並びに学会・研修会等への参加、論文作成を推奨する。

【教育施設のレベルアップのための対策】

- ・科学研究費などの競争的外部資金に応募する。
- ・2022 年度から愛玩動物看護師の新カリキュラムがスタートすることで、教育備品の充実が必要である。

〈取り組み状況と次年度への課題〉

科研費の競争的外部資金には応募をしたが、新規採用には至らなかった。次年度も競争的外部資金に応募する。学芸員関係の外部資金は奨励研究等 2 件の採用があった。

2019 年 6 月に愛玩動物看護師法が公布され、2022 年度入学生から、国家資格の愛玩動物看護師資格取得のための新カリキュラムがスタートする。2 年前に、回診用 X 線撮影装置を購入した。その後は他の大型機器（超音波診断装置など）の購入には至らず、調査のみで終わっている。次年度も施設設備の調査を継続し、さらなる充実を図りたい。

【就職率アップへの対策】DP CP2 〈11〉 CP2 〈12〉

- ・担当教員及びチューターの面談指導等を行う。
- ・キャリアサポートセンターとの連携を密に行う。
- ・インターンシップへの参加を促す。
- ・公務員模擬試験を促す。

〈取り組み状況と次年度への課題〉

本年度就職（内定）率 100%（就職の意思有 18/21、フィリピン国立大学留学希望 2 名）担当教員及びチューター面談指導を行った。

キャリアサポートセンターと連携、WEB を活用しての企業の就職説会（企業人事担当者との面談）等を行った。

インターンシップへの参加は、コロナ禍の影響でほとんど参加できなかった。
公務員模擬試験は全学的に申込者が少なく、実施できなかった（コロナ禍も影響）。

次年度も引き続き、チューターを中心とした個別面談、キャリアサポートセンターとの連携を密にして学生の就職先の希望動向、求人情報などを共有する。就職説明会はキャリアサポートセンターと相談し、WEBの活用を推進する。インターンシップ参加については、新型コロナウイルスの感染状況に依存するので未定である。公務員模擬試験への活用を促す。

【学生生活サポート対策】

- ・一般に、チューターと担当学生が参加する研究室会や個別面談、又はこれに代わる方法により、チューターの学生に対する指導を実施する。
- ・特定の学生には、保護者とのコミュニケーションを取りながら、学生課並びに健康管理センターと連携して学科長及び各チューターが指導する。

〈取り組み状況と次年度への課題〉

通常は、チューターを中心とした個別面談にて学生指導、また、一部の学生に対しては学生課並びに健康管理センターとの連携による学生指導を実施した。さらに、保護者と電話、メール等による相談を積極的に実施した。

1 昨年実施した消費生活センターによる出前講義はコロナ禍の影響で2年間開催ができていない。

次年度も引き続き、チューターを中心とした個別面談、学生課ならびに健康管理センターと連携を密にした学生指導を実施する。

【退学者防止対策】

- ・教務課、学生課並びに健康管理センターと連携、早期のチューター面談にて対策する。
- ・チューター会、茶話会等を開催して、学生間、学生—教員間でのコミュニケーションの場を設ける。

〈取り組み状況と次年度への課題〉

教務課からの授業出席状況の情報、学生課からの情報提供に基づき、早期のチューター面談にて対策を行った。本学科では、退学者はまれである。学力不足が原因での退学者は少なく、精神的な問題を抱えた学生が退学に至る例が多い。これら精神的な問題を抱えている学生に対しては、健康管理センターとも連携し、カウンセリングを実施して対策している。しかし、残念ながら、解決に至る例はほとんどない。

チューター会は、コロナ禍で2年間未実施となっている。昨年度は1年生については、茶話会を開催したが、本年度は未実施となった。次年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、取り組み方法を検討する。

【学生指導力の向上】

- ・学生がもつ諸問題に対して、保護者とのコミュニケーションを取りながら、学生一人ひとりの適正およびモチベーションを見極めた上で、適切な指導を行う。

〈取り組み状況と次年度への課題〉

チューター面談並びに講義等を通じ、諸問題をできるだけ早期発見し、指導を行った。コロナ禍のために、チューター面談はWEBを利用した方法が多かった。

次年度も本取り組みを継続する。

【社会人としてのマナー対策】 DP3

- ・教員—学生間あるいは学生間の挨拶運動を積極的に実施する。
- ・学外実習の事前指導及び飼育実習によりマナー対策を実施する。

〈取り組み状況と次年度への課題〉

挨拶運動については教員から積極的に挨拶をするとともに、学生に対しては挨拶の励行を促した。動物病院、牧場あるいは博物館への学外実習の際には、事前指導及び飼育実習によりマナーを指導・実施した。

次年度も本取り組みを継続する。

<p>募集力</p>	<p>【学科入学定員確保のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州圏内の大学では唯一、認定動物看護師資格（2022 年度入学生からは国家資格 愛玩動物看護師）が卒業時に受験できることを広報する。 ・就職、資格試験、大学院進学、留学（獣医師誕生）などの高い実績を広報する。 ・これらの実績を、土日見学会、オープンキャンパス、入試広報パンフレットなどで活用する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉</p> <p>オープンキャンパス、土日見学会などで、就職、各種資格試験結果、進学などの実績、また、2022 年度新入生から、国家資格の愛玩動物看護師取得可能な新カリキュラムがスタートすることを強調した広報活動を実施した。本年度、フィリピン国立大獣医学部留学生の 1 名が獣医師国家試験に合格、これまでに 4 名の獣医師（日本）が誕生したことも広報した。</p> <p>【学科の魅力発信】 AP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職、資格試験、進学、留学などの実績を整理（数値化）・可視化し、広報活動に活用する。 ・九州圏内の大学では唯一、愛玩動物看護師（2022 年度新入生からは国家資格の愛玩動物看護師）が取得できることを広報活動の重点とする。 ・フィリピン国立大学獣医学部への編入留学制度を活用した獣医師誕生の実績を広報活動に活用する。 ・実験動物技術者、学芸員資格も取得可能であることを広報する。 ・野生動物教育プログラムを広報活動に活用する。 ・社会で活躍している卒業生の情報を収集、広報活動に活用する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉</p> <p>学科の学修マニュアル並びに学科パンフレットなどで実績を整理（数値化）、見学者などへの広報資料とした。なお、例年、学芸員養成課程の学生が実施している延岡市内での展示会を広報活動の一つとして活用していたが、本年度はコロナ禍の影響で中止となった。</p> <p>国家資格の「愛玩動物看護師」については、国が開示した愛玩動物看護師法施行スケジュールを活用して広報活動を実施した。フィリピン国立大学獣医学部への編入制度並びに卒業生の情報、並びに合計 4 名の獣医師が誕生したことを学科パンフレット等で広報活動に活用した。</p> <p>次年度も本取り組みを継続する。</p>
<p>研究力</p>	<p>【学科教員の研究力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術論文発表、学会発表並びに学会・研究会への参加を推奨する。 ・学位（博士）取得を推奨する。 ・学科内あるいは他学科との共同研究活動を推進する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉</p> <p>論文は共著論文、その他作成中のもの、ともに少数であった。本年度は、特にコロナ禍の影響により、多くの WEB 授業を実施した。この WEB 授業の準備、授業を支障なく実施することに多大の時間を要したことも少なからず影響したと思われる。</p> <p>学会等は延期あるいは WEB 開催となり、通常とはことなる状況となり、学会・研究会への参加は一部の WEB 開催のものに限られ、結果として参加は少なかった。</p> <p>学位取得に関しては、学位未取得者は 2 名であり、現在、論文作成中である。学科内あるいは他学科、あるいは他大学との共同研究は少ないものの実施した。次年度も本取り組みを継続する。</p> <p>【研究施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業セミナーあるいは学会・研究会等に参加し、最新研究機器の情報を広く収集する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉</p> <p>本年度はコロナ禍の影響により、参加はできなかった。次年度も本取り組みを継続する。</p>

	<p>【外部研究資金獲得のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費などの競争的外部資金へ応募する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費の新規採択は無かった。継続として、科研費の基盤研究1，分担研究2。 ・令和3年度国立歴史民俗博物館総合資料学総合資料学奨励研究 1。 ・全国大学博物館学講座協議会西日本部会 令和3年度研究助成 1。 <p>次年度も本取り組みを継続する。</p>
地域連携力	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携プロジェクトの調査・実施。 ・市民大学講座などで本学科の教育・研究の成果などを発信する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題としての空き家に放置された地域社会に関わる記録・記憶の保存・空き家の活用の実施（日向市建築住宅課・門川町教育委員会など）。 ・地域防滅災を目的とした企画展示活動（延岡市危機管理課）を実施。 ・認知症予防を目的とした企画展示活動（延岡市立図書館）を実施。 ・市民大学講座では1講演を実施。 <p>次年度も本取り組みを継続、活動の周知化を行っていく。</p>
総合力	<ul style="list-style-type: none"> ・動物及び薬の専門職としての学力と、臨床、研究等の職業的現場に対応した知識・技能・態度を修得することができる人材育成を目指し、また高い就職率、資格試験合格률을外部に発信することができる教育を実践する。 ・国家資格の愛玩動物看護師、高い就職率並びに資格試験合格률、さらにフィリピン国立大学獣医学部編入留学制度を利用した獣医師の合格実績など、学科の魅力を学外に発信することで、入学定員の充足を目指す。
3つのポリシーからの総評	<p>アドミッションポリシー（AP）に掲げた、動物と薬に関する専門性の高い職業への就業意欲、基本的な国語力、英語力並びに生物学の知識を修得した学生の育成に努める。動物看護師は、次年度から、念願の国家資格の「愛玩動物看護師」となる。本年度の学生募集では、国家資格の愛玩動物看護師を柱とした。次年度の新入生からは農林水産大臣及び環境大臣が指定する科目を開講する大学として、新カリキュラムをスタートさせ、国家資格にふさわしい愛玩動物看護師の育成の充実化を図る。ディプロマポリシー（DP）に掲げた人材を育成する基盤としては、基礎学力の向上が必要で、現在実施している「すらら」、生物学、化学、数学等のリメディアル教育を今後も継続する。</p>
次年度への展望（まとめ）	<p>次年度（5月1日）に「愛玩動物看護師法」が全部施行、次年度入学生から愛玩動物看護師受験資格の新カリキュラムがスタートする。しかし次年度の4年生は、農林水産大臣及び環境大臣（以下主務大臣）が指定する科目（旧カリキュラム）を修め、かつ主務大学が指定する講習会を修了した場合に、令和5年2～3月に予定されている第一回国家試験を受験することができる（3・2年生も4年次に同様に受験できる）。したがって、次年度は、第一回国家試験合格者ができることになる。九州圏内の大学では唯一、国家資格「愛玩動物看護師」が取得できる学科として、それにふさわしい教育の質の確保並びに施設設備の充実を図り、この特徴を学生の教育並びに学生募集に活かしたい。また、今後、高い国家試験合格률을達成することが、学生募集への大きな弾みとなるため、高い合格률을目標とする。</p> <p>基礎学力向上のため、「すらら」などを利用したりリメディアル教育、英語村を活用した英語教育の推進も継続する。</p> <p>本学科では休学、留年あるいは退学する学生はまれであるが、精神的な面での支援が必要な学生が、休学あるいは退学へつながっている。その対策としては、早期のチューター面談の実施、教務課、学生課並びに健康管理センターと連携したカウンセリングをさらに活用する。また、将来の目標が定まらないあるいは進路変更の学生に対しては、早期からチューター面談の充実あるいはキャリアサポートセンターと協働して対策指導をしていくことで、学生一人一人の目標をより明確に設定させることで、学習意欲の向上につなげる。</p>

ビジョン (教育目標)	九保大だから学べる「高度な倫理観と専門知識を持った医療技術者である臨床検査技師、臨床工学技士、細胞検査士、ME 技術者」として、人々の幸せをプロデュースできる能力を身につけた人材を養成・輩出する。
学科からの メッセージ	生命医科学科では、臨床検査技師、臨床工学技士および細胞検査士の資格取得が可能である。コロナ禍もあり、特に臨床検査技師や臨床工学技士の重要性が再認識されてきている。このことを踏まえ、当学科では、医療専門職たる臨床検査技師、臨床工学技士、ならびに細胞検査士、ME 技術者、さらに生命医科学者として世界で活躍できうる実践力、専門的知識と技術、高度な倫理観、自己実現意欲と能力、リーダーシップ等を身につけた、社会に有為な人材を育成することを目指す。
教育力 (ブランド力) 「学修成果の可視化」の 観点を含む	<p>教育力の可視化</p> <p>【学生自ら考える力のアップへの対策】DP(4,5)、CP1(3,5)</p> <p>卒論評価用ルーブリックの策定し、実施計画を立案する。具体的には、卒論評価用ルーブリックの作成、卒業評価用ルーブリックに基づいた卒業研究指導マニュアルの作成、卒業研究発表会の計画立案などを実施する。現在実施している卒業研究発表においては、内容とともにプレゼンテーション技術の向上も図れるよう計画を立てる。</p> <p>実習または演習科目で積極的にアクティブラーニングを導入する。現在アクティブラーニングを実施している臨床免疫学実習Ⅰを継続しつつ、アクティブラーニングを採用する科目を積極的に増やす計画を策定する。その一環として系統講義をベースにアクティブラーニングを導入する手順を明確化する。アクティブラーニングを導入した科目は効果的なSGD(small group discussion)を計画し、グループごとに成果発表をさせる。学生が自ら学ぶための様々なアイデアをまとめ、具体的な指針案を策定する。</p> <p>1)2021 年度の取り組み状況</p> <p>卒論評価用ルーブリックに基づいた卒業研究指導マニュアルに従って卒業研究が実施された。本マニュアルは卒業研究を中心に臨床検査技師としての知識と技術の向上も兼ね相乗効果が得られるように工夫されている。実際に質の高い卒業研究成果が得られ、かつ臨床検査技師国家試験の模擬試験でも全国平均より本学の平均値は5～10ポイント高い成績が得られた。アクティブラーニングに関しては実施可能な科目について継続的に実施されており自ら学習する習慣が定着しつつある。</p> <p>2)2022 年度への課題</p> <p>卒業研究指導マニュアルは十分な機能を果たしていると考えられることから次年度も学生に周知徹底し、総合的な学力の向上を目指す。アクティブラーニングを採用している科目については最大限の効果が得られるようロールプレイの導入など完成度を高める作業を行い学生のディスカッションやプレゼンテーションの能力を最大限引き出す。</p>

【基礎国語力増進への対策】CP1(1)

2021年度の取り組み状況

2021年度より生命医科教員によるオムニバス科目であるコミュニケーション論を新たに開講しコミュニケーション能力向上のために基本的な知識ならびに国語力の涵養を図った。

また本講義では、レポート作成を念頭に置き、生命医科学系の大学生に必要とされる適切な用語、文法、構成等についても講義した。さらにグループワーク、あるいは個々の課題としてレポートを作成、プレゼンテーションを実施している。これらの課題に対する取り組みにより、相手に正確に伝えること、自身に伝えられていること理解する能力の向上を目指した。

本講義以外の様々な講義・実習で積極的にレポート作成を課し、提出されたレポートを教員が添削し、場合により再提出を求めるなどフィードバックに努めている。

次年度への課題

前年度に比べ、レポートや課題等、提出物の内容は良好になっており取り組みが有効に機能しているのではないかと考えられるが、学生個々の差異は大きい。

理解の乏しい学生に対しては、より一層の手当てが必要である。

また、レポートで使用される文語体は日常的に使う言葉ではないため一朝一夕には習得できないと思われる。論理的な文章の組み立ても繰り返し行う事で培われるため、次年度も引き続きレポート課題の提出、フィードバックを実施する必要がある。

【国語以外のリメディアル教育への対策】CP1(1,2)

2021年度の取り組み

早期に合格の確定した学生に対して、入学までの貴重な時間を有効に活用し、大学での学修へのスムーズな移行が可能となるように促した、具体的には、主要科目の基礎学力を高めてもらうための入学前教育として以下のような学修課題に取り組むことを実践した。

生命医科学科における学修に必要となる数学、生物、化学、物理を課題に組み込んだ。

【数学】分数、平方根、指数、対数、比例計算などの基礎的な計算力を必要とする計算問題を解き、自己採点して提出する。

【理科】以下の問題集で学修・解答後、自己採点したものを提出する。臨床検査技師コース（細胞検査士含む）希望者は生物と化学、臨床工学技士コース希望者は生物と物理、まだ決めていない人は、どちらかを選択して学習する。

トレーニングノートα生物基礎／α化学基礎／α物理基礎 増進堂・受験研究社

課題での学修後、わからないところは教科書等で復習し、入学後も各課題を繰り返し利用することを推奨した。

次年度(2022年度)の課題

入学前教育の目的は、①学びへのモチベーション維持、②大学での学び事前認識、③大学での学びに対する不安解消 となる。特に、高校までの学修科目の復習を行い、改めて基礎学力を固めておくことは、③の不安解消に大きく寄与することになる。

本学科における授業は、科学や医学・医療情報を含んだ内容であるため、国語以外には数学・理科が重要となる。入学前からこれらの科目の基礎学力を高めることで入学後の学修をスムーズにすると共に、4年後の臨床検査技師と臨床工学技士国家試験合格への大きな礎になるはずであるという認識の下、上記のような取り組みを継続することが必要だと考える。また、上記の科目以外にも欠かせない科目として【英語】が挙げられるが、この科目のリメディアル教育としての学修法は、再度見直し、早期の確立が次年度の課題となる。上記項目の実践を徹底し、学生の習熟度の均一化を図るために必要に応じて、担当教員による個別指導や学生同士の学習サポート体制を構築して、成果達成に努めることが必要だと考えられる。進学時に、専門科目の学修に支障を来さないよう、読解力、理解力を高めるような指導、サポートを継続していく。

【国家試験合格率アップへの対策】CP2(12)

■2021年度の取り組み

- ①前期で国家試験の対象となる全科目の講義(復習)を毎日1科目行い翌日に該当する科目の小試験、2週間の講義内容に関する中試験を実施し基礎的な学力を構築した。
 - ②後期では毎日模擬的試験を実施し、問題に関する解説し応用力を伴う実力を養成した。
 - ③前期・後期を通し、臨床現場で活躍されている外部講師に実践的な講義を受けさせた。
 - ④毎月臨床検査技師国家試験模擬試験を実施し、各学生の実力を把握させるとともに教員へは学生の正解率の分布を提示し本学の学生が苦手とする範囲を克服する作業を行った。
- これらの取り組みにより、特に中位以下の学生の学力が明確に向上する結果が得られた。全国を対象とする臨床検査技師国家試験模擬試験で全国平均より恒常的に高い平均点数を得ることができた。

■2022年度の課題

2021年度の取り組みが功を奏したことから、基本的なプログラムを継承しつつ、外部講師による講義のタイミングや講義内容・試験内容を微調整し全体の完成度を高めたいと考えている

【学科教員の教育力アップの対策】

2021年度の取り組み 教員の教育力アップの一つの指標として、臨床検査技師国家試験の模擬試験の分野別得点率を全国平均と比較してみたところ、ほとんどの分野で全国平均を上回っていた。昨年度までは真逆で、ほとんどの科目で全国平均を下回っていたことを考えると、個々の教員がそれぞれに教育力アップに取り組み、それが功を奏したものと考えられる。

昨年度からコロナ禍のもと、オンライン授業が欠かせないものとなった。本年度も試行錯誤ではあるが、少しずつオンラインでの授業の改善もなされてきたのではないかと考える。授業によってはオンラインでの反転授業を行い、一定の効果を得ている。

2022年度への課題 上記反転授業をはじめ、ユニークな教育をしている授業の見学を積極的に進め、他教員の教育力アップに努める。また、学会等での最新知識の吸収と、その学生教育への還元も引き続き積極的に実施していく。以上のような対策をもって、ディプロマポリシーである「学生が臨床検査技師、臨床工学技士、細胞検査士、ME技術者、さらに生命医科学者と

して活躍できる人材」となるよう、カリキュラムポリシーに沿った教育を効率よく実践していく。

【教育施設のレベルアップのための対策】

コロナ禍において学生の学びを止めない教育環境の整備とレベルアップを実施した。本学では情報シナジー(バーチャル)組織設置により Google Meet を利用した九保大式オンライン遠隔授業システム(遠隔授業ポータル時間割)を確立している。本学科もこのシステムを応用するとともに、学科独自のICT環境を整備し、学生の学びを止めないための体制づくりを行った。「対面授業+遠隔オンライン授業(ハイブリッド型)」をさらに充実化させ、未来型教育システムの構築と教育の質のワンランクアップを目指した。また、教育改革の基盤であるアクティブラーニング(AL)のための教員と学生、あるいは学生同士の活発なコミュニケーションができるICT環境、特に、Wi-Fi環境における教育施設のレベルアップを行い、効果を得ることができた。

次年度(2022)への課題

次年度は、After コロナを鑑みて、「対面授業+遠隔オンライン授業(ハイブリッド型)」をさらに充実化させ、未来型教育システムの構築と教育の質のワンランクアップを目指す。また、Microsoft Teams を利用した九保大式オンライン遠隔授業システムの拡大も図る。さらにコロナ収束後は、学生の気づきと主体的な学びを促進するデータ駆動型教育の実現を目指す。そのためには、学生の五感に訴えかけるAL専用のICT環境スペースを整備する。これらの環境整備には、設備投資が必要となるが、文科省・厚労省等の補助金情報を収集し、積極的に応募を促す体制を整える。また、豊かな人間性と高度な倫理観・専門知識を持った医療技術者である臨床検査技師、臨床工学技士、細胞検査士、ME技術者を養成するため、教育に必要な不可欠な医療機器等の更新、さらには教養図書および専門図書のさらなる充実化を図る。カリキュラム・ポリシーに基づく教育評価、ディプロマ・ポリシーならびに学修ポートフォリオに基づく学位授与を確実に実践する。社会変化に対応する未来型次世代教育の実践環境を構築するため、プラットフォームであるユニバーサルパスポートRXをフル活用してデジタルトランスフォーメーションによる教育改革と教育環境のレベルアップを目指す。

【就職率アップへの対策】DP

2021年度の取り組み

キャリアサポートセンターと綿密な連携関係を構築し、高い就職率を目標とした。宮崎県、九州地区、西日本の医療施設に、九州保健福祉大学生命医科学部生命医科学科の卒業生をアピールする為、就職懇談会など実施可能な項目を実施した。また、履歴書作製・面接対応などについて指導した。

次年度への課題

地域に関わらず臨床検査技師・細胞検査士・臨床工学技士が活躍できる医療施設へ積極的に出願するよう入学時より学生に指導する。また、学生が資格試験を心配する余り、就職試験の開始時期が遅れた為、合格圏内に近い学生には早期からの就職活動開始を指導する。

【学生生活サポート対策】

目標

学生生活のサポート対策として以下の事を重点的にサポートすることを目標とする。

- ①授業、実習への欠席低下のサポート。
- ②退学防止のための学生へのサポート。
- ③学力向上のためのサポート。

2021 年度の取り組み

- 1) 欠席の多い学生に対しチューターによる電話やメールにより相談や問題点等、話を聞きなるべく出席しやすいよう体制づくりに努めた。
- 2) 退学する学生は、①授業についていけない。②欠席が多い。③思っていた進路と違った。という事が多い。そのため①授業についていけない。については、教員、学生間のコミュニケーションを図るため大学裏の植物園へ学科で遠足に行き、話しやすい環境づくりに努めた。
- 3) 学力向上へのサポートとして質問しやすい環境づくりも込めた2)のコミュニケーションをとる機会をつくりと同時に教員が積極的に声掛けを行い、学生が教員に話しやすい環境を目指した。

2022 年度への課題

- 1) 授業の欠席については早期にチェックし教員同士で情報を共有し休みがちな学生と密に連絡をとる。
- 2) 学力向上のため、授業中に教室では質問できない学生や、1対1でも質問しづらい学生には後日メールでの授業への質問をするように伝え、少しでも理解が進むように試みる。

【学生指導力の向上】

2021 年度の取り組み

基礎学力の向上、学力不足の解消を目的として入学前教育(数学、生物、化学)を行った。専門課程(教科)では、グループワークやアクティブラーニング型授業、個別質疑応答形式の授業を取り組むことに努めた。教科毎に演習形式や授業内で国試に則した内容を盛り込み専門知識習得のアップや国家資格取得の意識付けを行った。

入学後のコーチング・フォローとしてチューターまたは学科教員による「寄り添い型」の取り組みを行った。特に、チューターは、年数回学生との面談を行い学生の話聞くことを徹底した。成績不振者や欠席の多い学生とはメールや電話で密接に連絡を取り、学生の適正およびモチベーションを見極めながら指導を行った。また、保護者と情報・状況を共有した上で、その学生にとって最善の解決方法を模索した。

学部・部門間では情報の共有や連携強化を行った。

次年度(2022)への課題

入学前教育による基礎学力の向上、学力不足の解消、専門課程ではロジカル・コミュニケー

	<p>ションや国試取得を目標とした内容を教科毎に盛り込み、また、演習形式や振り返り授業、グループワークやアクティブラーニング型授業を各教科に継続して導入する。</p> <p>地区別懇談会を積極的に利用して、学生の実情を報告し保護者連携の充実化をはかる。インタラクティブ、オンゴーイング、テラーメイドのアプローチによる学生支援を継続して実施する。チューターまたは学科教員は学生からよく話を聞くことを徹底し、保護者と連絡をとり情報・状況を共有した上で、学生にとって最善の解決方法を模索することを継続して行う。</p> <p>退学予備軍をサーチのための専門教科の GPA 判定を行い、転科等を考慮した適切な指導を行う。</p> <p>全体的にエビデンスに基づく「早期支援システム」の PDCA サイクルを強化する。</p> <p>【社会人としてのマナー対策】 I ①、⑤、⑥、⑦、Ⅲ. I 3、Ⅲ. II 4、</p> <p>①入学時から社会人、特に医療従事者には、相手方への挨拶が必須であることを意識するよう指導する。</p> <p>②来客や教員だけではなく、学生間でも挨拶することの大切さを身に着けさせる。</p> <p>③講義、実習だけではなく、生活全般で時間厳守を心がけるよう指導し、自らの責任や協調することの大切さを理解させる(特に臨地実習)。</p> <p>④学科の全学生を対象として社会人(医療従事者)としてのマナー対策の講習会を開催する。具体的には、基本マナー、挨拶の仕方、敬語の使い方、メールの書き方、電話対応、オンライン時のマナー、お礼状の書き方、呼称、話の聞き方ほか。マナー対策講習会に基づいて、日々の生活の中で、各専任教員が気がついた時に個々の学生に注意を促す。</p> <p>⑤その他、社会におけるマナーや職能倫理への認識を折に触れ教員がフォローし、必要な指導を行う。</p>
募集力	<p>【学科入学定員確保のための対策】</p> <p>本学科の最大の特徴は臨床工学技士および臨床検査技師資格または臨床検査技師および細胞検査士資格を4年間で同時取得できることにある。これらのダブルライセンス制度は、九州の4年制大学では本学科が唯一の存在であるため、このユニークな特徴を周知することにより入学定員の確保を果たすことができると考えられる。</p> <p>周知を確実にを行うために入試広報をはじめとする事務部門とも十分な連携することが重要であると考え、広報活動を行ってきた。具体的な周知方法としては中学校、高等学校などの教育機関、あるいは様々な団体による大学見学、高校訪問、学会や地域のイベントへの積極的な参加などである。コロナ渦の中で感染対策に十分注意を払い、可能な限りのイベントに参加した。</p> <p>さらに大学見学に関してはオンラインでも施設内を見学する方法を取り入れた。これは遠方の見学希望者によりアプローチできる方法であると考えている。</p> <p>また、現代においては欠かすことのできないツールである SNS や Youtube を用いた情報の発信も行っている。SNS の中でも Instagram に関して学科専用のアカウントを作成し、運用を開始した。</p> <p>更に、学科定員確保には海外からの留学生獲得も重要になってくるため、タイの教育提携校からの留学生獲得を目指している。そのための布石として研修生を受け入れる門戸を開いている。</p>

	<p>【学科の魅力発信】 AP</p> <p>学科の魅力を発信するために入試広報との連携を図り、広報活動を行っている。</p> <p>昨年度同様、新型コロナウイルスによって高校生への配布機会が減少したが、このような場合にも対応できるよう、公共施設等に設置するなどの対策をとる必要があると考える。</p> <p>さらに、高等教育機関である大学として研究力も重要であり、ユニークな研究は学科の魅力にもなり得る。今年度も大学院生が全国学会への発表を行った。教員はもとより、大学院生による全国、世界に向けた成果報告を行うことが、学科のみならず大学の周知に貢献するものと考えられる。さらに学部生にとってより身近な存在である大学院生による活動は、学部生の好奇心や向上心を刺激することができると考えている。それらを通して学問に対する楽しさややりがいを学生が感じることで、学生自身が大学の魅力を発信してくれる存在になり得る。それらを実現するために大学院生の成果報告を学部生が閲覧できるようにしている。</p> <p>また、新型コロナウイルスの影響によって得た様々な遠隔技術を今後の広報活動に利用していく必要があると考える。今年度も昨年度と同様に遠隔システムを用いた見学会を行った。このシステムは本学に来学することが容易でない方々への魅力発信手法として非常に有効であるため、今後も続けていく必要があると考える。普段の見学会では保護者と生徒のみが対象になることが多いが、学校単位で遠隔見学を行う際には中学校または高等学校の教員もいるため、中学校、高等学校自体への周知も期待できる。</p> <p>ホームページおよび大学案内もリニューアルされた。撮影も新たに行い、より明るい印象を与える内容になっている。今後はより DX 化を推進し、Z 世代を意識した SNS 中心のコンテンツの拡充が必要であると考えている。</p>
研究力	<p>【学科教員の研究力アップのための対策】</p> <p>2021年度の取り組み</p> <p>研究力アップの達成のためには研究活動を進める上での環境整備が必要不可欠で、その環境要素として、資金、人材、成果報告システム(プラン)、時間(期間)が挙げられ、今年度における各環境要素の整備状況を確認する。</p> <p>【資金面】 外部研究費獲得のための1つの目標として科研費申請を行ってはいるが、依然採用実績が良くないことから、申請書作成に対する事前準備や課題検討などについて随時働きかけることが必要かと思われる。外部研究費として、科研費以外にも随時申請公募が通知されるものについては、積極的に申請を検討できるよう常に意識しておくことが肝要である。一方、今年度の学内研究費助成としては、3件の課題が地域創生事業経費を得ることとなり、それを用いた研究が有効に行われ、成果発表も行われた。</p> <p>【人材】 前年度に比べ、教員数が減少したが、特別研究員事業等の研究者支援やシニア職員を含めた流動化促進等の人材育成プランの活用による増員はなかった。重要な若手研究者の育成についても安定研究環境の創出や独創的・挑戦的な研究を進めるための設備整備などの進展はなかった。しかし、そのような厳しい環境の中、若手教員は実質的に本学科の業務・研究活動進展に十分貢献することとなり、一部昇格を果たした。また、大学院教育を通じて若手研究</p>

者の育成を図るため、今年度も複数の院生が研究活動を行い、実績を残していったが、全員が過程終了後、就職で学外に出ていくこととなり、若手研究者の確保には至らなかった。

【成果報告システム(プラン)】 前述の学内研究費助成としての3件の地域創生事業についての課題がまとめられ、学内及び市内商業施設での展示が行われた。また、宮崎市で行われた全国「検査と健康展」において、本学科のがん細胞研究所での成果発表が行われた。延岡市での「東九州ものづくり交流展」においても、成果報告する予定であったが、市中の新型コロナウイルス感染状況から交流展は中止となった。

【時間(期間)】 教員減により実質的に学科教員に対する種々の負担が大きくなったこともあり、研究稼働時間を十分に確保できとは言えない状況となった。しかし、教員各自が創意工夫しながら、研究に携わる時間を効率良く捻出して、少しずつ上記のような成果報告に繋げることができたように思われる。

次年度(2022年度)の課題

今年度の研究環境の現状として上記のようなものを挙げたが、そのような状況を踏まえ、環境が整わずとも、研究活動を実践し、「学会・研究会発表」や「学術論文作成」のような何らかの形で成果報告できるように教員が研究活動を常に意識することが必要である。一つの手段として、現在大学院生対象の進捗状況報告として行っている研究カンファレンスも教員の日常的な研究活動におけるモチベーション維持に貢献するものとして捉え、今後も継続していくことが重要であると考えられる。

学科の研究活動の活性化において、大学院生の存在は非常に重要な要素で、今後も院生の継続的な確保が必要と考えられる。また、院生が本学の研究現場に残り、研究活動が続けられるような条件・方策を整えるべく、引き続き積極的な検討を行わなければならない。

今後も新興・融合研究領域への取組の強化、新分野創成や異分野融合の推進などを踏まえた研究計画を検討し、産学官連携による研究開発投資の確保、地方創生への貢献などを実践した成果を提示できるような研究課題を検索することが重要である。地方大学として、大学共同利用機関との連携による学術研究基盤の効率的な形成について今後も検討が必要である。

研究に活用できる時間がここ数年で飛躍的に増える可能性は少ないので、現状でいかに効率的に稼働時間を継続的に捻出できるかが課題になると思われる。そのため、研究計画も短期的、長期的、それぞれの側面から対応したものを準備することを各教員が意識することが必要であると思われる。その過程で研究活動を継続する上で各自が更に必要な要素は何かを検討しながら、研究活動に取り組んでいくことを推奨していく。

【研究施設のレベルアップのための対策】

2021年度の取り組み

研究施設を立ち上げて7年目になり機器の故障が起こってきているため、それらの修理を行った。使用期限を超えて使用している器具を取り換えた。修理にはお金が掛かる為、なるべく劣化や故障し難くなるように防錆や注油などを設備に施した。また、訪問修理の際、メンテナンス方法について教わった。

	<p><u>次年度への課題</u></p> <p>機器は時間が経つあるいは使用するにつれて劣化や故障が起こると予想される。予算は潤沢ではないため、今後導入する機器についてはメンテナンス費用やランニングコストのことも考え、経済的に持続可能な研究施設を目指す。また、使用している設備で手入れできる所を探し、設備の劣化を防ぐ。</p> <p>【外部研究資金獲得のための対策】</p> <p>生命医科学科教員の研究を円滑に遂行するため積極的な外部資金獲得を目指す仕組みを構築する。科研費や民間の研究助成金の募集情報を随時教員に提供し、積極的な応募を促す。教員は毎年科研に応募することを目標にする。また、生命医科学科内および外部研究機関との連携をはかり効率的に研究助成を受けられるよう情報を共有する。</p> <p>1)2021年度の取り組み状況</p> <p>2021年度は研究資金獲得に積極的な働きかけを行い、特別寄付・産学連携奨励資金1件、学外共同研究(近森病院)1件、地域創成事業助成3件、教育の質の転換に繋がる優れた取り組み支援1件を獲得したが、科研の研究資金の獲得には至らず今後の課題として検討する必要がある。</p> <p>2)2022年度への課題</p> <p>2022年度は研究資金調達のため余裕を持って申請準備を行う。また学内の研究検討会において教員間の意見交換を活発に行い、研究資金調達を促す。また学外との共同研究を促進する。</p>
地域連携力	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <p>目標</p> <p>本学の教員は高度な専門領域を持つ集団であり、且つ県内唯一の医療系私立大学である。そのため本学教員に対する期待は大きいものと思われる。これらの事から以下を目標とする。</p> <p>1)医学部の教員や専門の臨床検査技師との連携をとること。</p> <p>2)宮崎県や近隣の県の臨床検査技師会との連携を取る事。</p> <p>2021年度の取り組み</p> <p>1)宮崎大学との共同研究を継続的に行い宮崎大学との連携を行った。</p> <p>2)宮崎県臨床検査技師会のタスクシフトWGメンバー、全国展開としての検査と健康展のメンバーとして技師会と九州保健福祉大学の間の絆を深め連携を行った。</p> <p>3)各教員が病院担当者と密に連絡を取り情報共有できた。</p> <p>4)宮崎県医師会で2時救命処置研修会への指導者として協力した。</p> <p>2022年度の課題</p> <p>1)今後も宮崎大学との研究連携を行う予定である。</p> <p>2)県内の臨床検査技師会や臨床工学技士会のイベントにはなるべく参加し、他の医療職種とも</p>

	<p>連携を図る。</p> <p>3) 教員が担当病院とのよりよい関係を構築し、就職に有利に働くよう努める。</p> <p>4) 宮崎県医師会への協力を継続する。</p>
<p>総合力</p>	<p>アドミッション・ポリシーは、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえ、学力の3要素である「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を備えた豊かな人間性を持つ入学者を受け入れる。本学科では国家資格である臨床検査技師や臨床工学技士に加えて細胞検査士認定資格も取得可能である「魅力と強み」をアピールポイントにして、どのような学生を「受け入れ」、「学ばせ」、「卒業させるのか」を明確に可視化する。</p> <p>カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシー達成のために、建学の理念に基づき、専門知識・技術・態度を修得することを目的にカリキュラムを構築する。「振り返り学習」授業やアクティブラーニング型授業に力点を置き、入学者の学びたい内容、卒業までに求められる学修成果が可視化できるポリシーをさらに強化する。また、カリキュラム・ポリシーを通して、臨床検査技師国家試験合格率、臨床工学技士国家試験合格率、細胞検査士認定試験合格率、ME 技術者認定試験合格率、さらには就職率 100%を保証する仕組みを構築する。</p> <p>ディプロマ・ポリシーは、大学、学部、学科等の教育理念に基づき、教養と専門性の高い知識および技術を有した臨床検査技師、臨床工学技士、細胞検査士、ME 技術者、または生命医科学者として活躍できる人に学位を授与する。さらに、アセスメント・ポリシーをステップワイズ的に導入し、「自己評価と外部評価」を同時に実施すると共に、その教育目標達成度を大学レベル、学科レベル、科目レベル、学生レベルで可視化する。</p>
<p>3つのポリシーからの総評</p>	<p>昨年度から臨床検査技師・細胞検査士に加えて臨床工学技士のライセンスの取得も可能となり、さらには臨床検査技師と臨床工学技士の国家ダブルライセンスの取得もできる生命医科学科としての3つのポリシーを制定している。このディプロマポリシーの実現を念頭に、個々のカリキュラムポリシーの実践に取り組んだ。</p> <p>ディプロマポリシーの問題発見・解決能力、専門的知識・技能の活用力、コミュニケーション能力、およびプレゼンテーション能力の達成度を客観的に判断するため、卒業研究の評価へのルーブリック評価を継続し、積極性、理解力、研究能力、プレゼンテーション能力、論文作成能力、そして国家試験合格に向けた知識の習得についての評価を昨年同様実施した。</p> <p>ディプロマポリシーに掲げている対象者を支援する汎用的能力やコミュニケーション能力を臨床実習の現場で実践するため、臨床実習前にはキャリアサポートセンターとの協力でマナー講座を実施し、学生自身によるロールプレイを継続して行なった。臨床実習前にカリキュラムポリシー(2)の客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination:OSCE)のようなものを行い、将来の本格導入に向けての第一歩を踏み出したといえる。</p> <p>コロナ禍のもとでのカリキュラムポリシーの実践のため、パワーポイント、iPad を用いた板書、教室での板書の投影、YouTube などの様々ツールを用いて、各教員が工夫したオンライン授業を行った。2年目に入ったので各教員、少しずつこなれてきたようである。</p> <p>アドミッションポリシー I にある、求める学生像のような生徒にアピールするため、YouTube、</p>

	<p>インスタグラムなどでの学科情報の発信を引き続き積極的に行った。また、アドミッションポリシーⅡの入学までに修得すべき学力・能力を確実なものにするため、推薦入学の学生には生物・化学・数学の問題集を用いて入学前教育を実施し、国語力アップのために臨床検査技師、臨床工学技士、或いは生命科学に関する本の感想文を提出させた。また、1月には指定校あるいは推薦入学の学生向けにオンラインで、学科の紹介を行い、入学前学習の重要性を説いた。</p>
<p>次年度への展望 (まとめ)</p>	<p>改組3年目の次年度は、国家資格ダブルライセンスプログラムを廃止し、国家資格シングルあるいは細胞検査士とのダブルに集中する。ただし、来年度2,3年生には国家資格ダブル選択者が存在するため、非常に難しいカリキュラム運用に迫られる。土日祝日の利用や早朝夜間の講義はもちろん、夏季休暇、冬期休暇、春期休暇の利用も含めて検討していく必要がある。また、次年度はタスクシフトを含めた臨床検査技師の新カリキュラムが動き出し、もう一年先には臨床工学技士の新カリキュラムが動き出すことになる。新カリキュラムでは授業科目増や臨床実習期間の増加などがあり、臨機応変に対応することが求められる。</p> <p>臨床検査技師コースではここ2年間国家試験対策授業の方式を大きく転換し、土曜日も有効に活用しながら非常にきめ細かな指導を行った結果、比較的良い結果が出ていると考えられるため、次年度もこの方式を継続し、さらなる合格率アップを目指していく。</p> <p>大分県に2つの臨検・臨工の養成校ができる次年度、当学科の強みである九州唯一の臨検・細胞検査士ダブル取得について、さらに強力なアピールが必要と考えられる。また、本年度開始したオンラインでの入学前の学習や相談会の結果を踏まえ、来年度の実施を検討していく必要がある。</p>

九州保健福祉大学 臨床心理学部 臨床心理学科

2021 年度 第 2 期 中期目標・中期計画 〈3 つのポリシーを踏まえて〉

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>九保大だから学べる「心の健康」と「コミュニケーションする幸せ」をプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。</p>
<p>学科からの メッセージ</p>	<p>臨床心理学科は、「誰もが自分らしさを発揮し安心して暮らせる社会の実現」を目指して、心理・福祉の専門職を養成する「心理・福祉コース」と、心理学やカウンセリングの知識を有した言語聴覚士を養成する「言語聴覚コース」の 2 つのコースを設定しております。本学科では、入学後の基礎科目から 4 年次の卒業研究までを通して学生の論理的思考力を高め、専門知識に加えて人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養します。</p>
<p>教育力 (ブランド力) 「学修成果の可視化」の観点を含む</p>	<p>(2020～2023)</p> <p>【学生自ら考える力のアップへの対策】DP (5) (6)、CP1(1-7) 2 (1) 3 (3) (4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究評価用ルーブリックの検討を進め、コースごとの試案を作成し、試案に基づいた卒業研究指導の在り方を検討し、学生が自ら学ぶ力を十分に引き出すことのできる卒業研究を目指す。 ・できるだけ多くの講義において、学科教育力を向上させるアクティブラーニングの導入を目指す。 ・コース会議等で卒業研究のルーブリックと成績評価について検討する。 ・コース会議等で卒業研究の取組状況を確認し合い、全員の卒業論文完成を目指す。 <p>【基礎国語力増進への対策】DP (2) (3)、CP1 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学前教育で国語力向上のための課題等を実施し、基礎国語力の増強を図る。 ・必修科目である基礎ゼミの講義内で e-learning を積極的に活用し、有用性を検討する。 <p><取り組み状況と次年度の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学前教育で国語力向上の課題を実施し、基礎国語力の増進を図った。 ・学生に対して基礎演習と並行して、すららに積極的に取り組むように促した。 ・次年度も今年度と同様に学生の能力に合わせた基礎学力の向上を図っていく。 <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】DP (5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院進学希望者への受験対策として、高校英語の再学習の機会を設け、語学力の増進を図る。 <p><取り組み状況と次年度の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は英語再学習者希望者の調査等を行って、状況を把握した。 ・英語学習希望者に対してリメディアル教育を行なった。 ・来年度も引き続き希望調査及び教育を行う <p>【国家試験合格率アップへの対策】DP (4)、CP1 (2) (3) (4) (5) 2 (3) 3 (1) (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策部会で効果的な対策方法を検討・実施し、コース会議等でその効果を検証する。 ・1 年次から資格関連科目授業において、必要に応じて資格取得の意義・意識づけを行う。 ・資格希望者のうち、成績不振者に対して個別指導による国家試験対策を行う。 ・コース会議等で各学生の成績を提示し、教員間での情報共有を図る。 <p><取り組み状況と次年度の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格関連授業やチューター時間において、資格取得の意義や具体的な方略等を説明した。 ・来年度はコースごとに国家試験への具体的な対策を行う。 <p>【学科教員の教育力アップの対策】CP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善等に関する FD への積極的な参加を促す。 ・学修成果の可視化に向けた教員相互による授業改善の仕組みの検討・評価・改善を行う。 <p><取り組み状況と次年度の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善等に関する FD への積極的な参加を促し、教育力の向上を図った。 ・次年度も引き続き、来年度も学修成果の可視化に向けた教員相互による授業改善の仕組みの検討・評価・改善を行っていく。 <p>【教育施設のレベルアップのための対策】DP (1) (5)、CP (4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会生活コミュニケーション室、家庭生活コミュニケーション室等の設備やビデオ記録・配信システムを学内

	<p>臨床実習等で活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学習場所として4、5階の演習室を開放し、国家試験対策や単位認定試験対策等の学習の利用を促す。 ・学生の学習場所で学生が使用できる学習資料や学習ツールを充実させる。 <p>【就職率アップへの対策】DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履歴書作成指導や模擬面接等を通じて、全ての学生が希望する施設へ就職できるよう、キャリアサポートセンターと連携を取りながら、きめ細かい指導を行う。 ・「即戦力の九保大生」「印象の良い九保大生」を求人側施設にアピールできるよう、学生の臨床教育を行う。 ・低学年からインターンシップを導入し、キャリアイメージを早期から形成できるよう支援し、就職率アップにつなげる。 <p>【学生生活サポート対策】CP2（2）（5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的なチューター面談を実施し、学生の情報をコース会議等で報告し、教員間で共有する。 ・学生の学力の把握を常時行い、必要に応じてチューターからの指導を実施する。 ・学生の適性やモチベーションに応じた指導を行う。 ・学生の意見を教育内容や方法に反映させ満足度の向上を図る。 <p><取り組み状況と次年度の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的なチューター面談を行い学生生活を積極的にサポートした。 ・学生の意見をできるだけ取り入れて、学生生活満足度の向上を図った。 ・次年度も今年度同様に学生一人一人に寄り添い、チューターごとに学生生活をサポートしていく <p>【退学者防止対策】DP2（2）（5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連続欠席者に対して、チューターや授業担当者を中心に早期対応を行う。 ・学生がかかえる問題を早期に発見し、健康管理センターと連携して適切に対応する。 ・教員はオフィスアワーだけでなく、相談やコミュニケーションが取りやすい環境を作る。 ・チューターも含めた複数の教員で学生に寄り添い、不安や困りごとに対応する。 ・転学科してきた学生に対して、チューターや授業担当者を中心に早期対応を行う。 ・転学科してきた学生について、教員間で情報を共有し、早期対応を行う体制を構築する。 <p><取り組み状況と次年度の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・連続欠席者に対して、チューターや授業担当者を中心に早期対応を行った。 ・学生が抱える問題を早期に発見し、健康管理センターと連携して適切な対応を行った。 ・次年度も引き続き学生の問題に対してできる限り早期に対応し、退学防止に努めていく。 <p>【社会人としてのマナー対策】DP1、CP2（3）（4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各チューターやゼミ担当教員が、マナーについて学生の心構えについて確認し、大学生の生活の様々な場面で、社会が求めるマナーが身につくように必要な指導を実施する。 ・教員から学生に対して積極的なあいさつを行い、普段から学生のどの程度のマナーが身についているかを教員間で確認する。 ・学内実習を通して、社会人として現場で必要な基本的態度、他人との関わり方について具体的指導を行う。 <p><取り組み状況と次年度の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各チューターやゼミ担当教員が、マナーについて学生の心構えについて確認し、大学生の生活の様々な場面で、社会が求めるマナーが身につくように必要な指導を行なった。 ・教員から学生に対して積極的なあいさつを行い、普段から学生のどの程度のマナーが身についているかを教員間で確認を行った。 ・次年度も挨拶を中心に社会人としてのマナーの指導を積極的に行っていく。
募集力	<p>【学科入学定員確保のための対策】AP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員自身が学生ファーストの立場で教育を行い、在学生から家族や後輩、学校関係者に本学科の肯定的な評価が伝わるように日々努力する。 ・入試広報、教員との連携を進めて広報活動を活発にする。高校訪問、出前講座等を活用し、本学科に興味関心を向けてもらえるよう働きかけ、一般入試における入学希望者の増加につなげる。 ・本学科の教育理念、方針、コース内容などについてわかりやすく説明できるチラシ等の作成を行う。 ・入学者に対する入学動機、傾向を調査し結果を広報活動にいかす。 ・入試広報室と定期的な情報交換会を行い、広報活動のあり方を協議する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・高校訪問、出張講義等を積極的に行い、本学科をアピールする。 ＜取り組み状況と次年度の課題＞ ・教員自身が学生ファーストの立場で教育を行い、在学生から家族や後輩、学校関係者に本学科の肯定的な評価が伝わるよう可能な限り努力した。 ・入試広報、教員との連携を進めて広報活動を活発に行なった。 ・土日見学会、オープンキャンパス、高校訪問、出前講座等を活用し、本学科に興味関心を向けてもらえるよう積極的に働きかけた。 ・本学科の教育理念、方針、コース内容などについてわかりやすく説明できるチラシ等の作成を行った。 ・入学者に対する入学動機、傾向を調査し結果を広報活動にいかした。 ・入試広報室と定期的な情報交換会を行い、広報活動のあり方を協議した。 ・高校訪問、出張講義等を積極的に行い、本学科をアピールした。 ・次年度以降もこのような活動を通じてさらに広報活動を積極的に行っていく。 【学科の魅力発信】AP ・中高生の学科見学、高校や病院からの模擬講義、出張講義に積極的に対応する。 ・社会で活躍している卒業生の情報を収集し、オープンキャンパスなどで紹介する。 ・国家資格取得状況についてチラシ、ホームページ等を活用して発信する。 ・保護者通信等で在学生の様子や学科の取り組みを紹介する。 ＜取り組み状況と次年度の課題＞ ・中高生の学科見学、高校や病院からの模擬講義、出張講義に積極的に対応した。 ・社会で活躍している卒業生の情報を収集し、オープンキャンパスなどで紹介した。 ・国家資格取得状況についてチラシ、ホームページ等を活用して発信した。 ・次年度も今年度同様の広報活動を継続する。
研究力	<p>【学科教員の研究力アップのための対策】DP(3)(4)(5),CP2(3)(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科教員間で研究力アップの仕組みを検討する。 ・研究力アップの仕組みを充実させ、研修等で周知する。 ・学会への参加等、研究活動に必要な研修の機会を保障する。 ・学会発表、論文発表等、研究活動を積極的に推進する。 ＜取り組み状況と次年度の課題＞ ・学科教員間で研究力アップの仕組みを検討した。 ・学会への参加等、研究活動に必要な研修の機会を保障した。 ・学会発表、論文発表等、研究活動を積極的に推進した。 ・次年度は研究力アップの具体的な仕組みをさらに検討する。 <p>【研究施設のレベルアップのための対策】DP(3)(5)(6),CP1(3)(4)(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な研究設備の調査。 ・研究施設充実のための資金調達の検討。 ・必要な教育研究整備を行う。 ＜取り組み状況と次年度の課題＞ ・今年度は研究施設レベルアップのための対策を積極的に行うことができなかった。 ・次年度は施設設備のレベルアップのための調査と対策の方法を検討する。 <p>【外部研究資金獲得のための対策】DP(5)(6),CP1(7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部資金獲得に関する研修・FD等への参加を積極的に促す。 ・研修等で得た知識を活かして、外部資金を獲得するための対策を立てる。 ・科研費や外部資金への積極的な申請を促す。 ＜取り組み状況と次年度の課題＞ ・外部資金獲得に関する研修・FD等への参加を積極的に促した。 ・科研費や外部資金への積極的な申請を促した。 ・次年度は外部資金獲得のための研修会等への参加を積極的に促していく。
地域連携力	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員と自治体・関係機関・団体・学校との連携活動状況（連携協働事業、教員の専門知識・技術、研究成果の提供状況）を把握し、状況を教員間で共有するとともに、その成果を検証・分析し、連携関係の強化を図る ・教員に期待される地域のニーズ・期待度を把握する（自治体・関係機関等） ・連携推進に係る検討チームを設置し、地域の要請に応えられる相談窓口を検討する。 ・学会等、関連団体の役員として、地域・社会貢献を行う。

	<p><取り組み状況と次年度の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学会等、関連団体の役員として、地域・社会貢献を行った。 ・次年度は、教員と自治体・関係機関・団体・学校との連携活動状況の具体的な把握の仕方について検討していく。
総合力	<p>【総合力】DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の心に寄り添った丁寧な教育・指導を行い、社会に有為な「公認心理師」「社会福祉士」「言語聴覚士」を輩出できるように教員一丸となって取り組む。また、本学科の特徴である基礎系教員と臨床系教員の連携を活かして、教員の教育力や学生の満足度の向上を図る。在学生、保護者、地域住民の本学科に対する評価およびイメージを常に意識した教育、指導、支援を学生に提供し、入学定員充足率 100%を目指す。 <p><取り組み状況と次年度の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の心に寄り添った丁寧な教育・指導を行い、社会に有為な「公認心理師」「社会福祉士」「言語聴覚士」を輩出できるように教員一丸となって取り組んだ。 ・次年度も今年度同様な取り組みを行っていく。
3つのポリシーからの総評	<p>臨床心理学科では、ディプロマ・ポリシー（DP）に掲げた目標達成のために、本中期目標・中期計画にて策定した「教育力」「募集力」「研究力」「地域連携力」および「総合力」を高める取り組みを行った。</p> <p>【教育力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学前教育で国語力向上の課題を実施し、基礎国語力の増進を図り、また入学後も学生に対して基礎演習と並行して、すらすらに積極的に取り組むように促した。 ・2年後の国家試験を念頭に置いた国家試験受験対策等を行った。 <p>【募集力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理・福祉コースと言語聴覚コースの教員、および入試広報室が積極的に連携し、多くの優秀な学生を確保することができた。 <p>【研究力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学会への参加等、研究活動に必要な研修の機会を保障することで、各教員が学会発表、論文発表等、研究活動を積極的に行った。 <p>【地域連携力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員と自治体・関係機関・団体・学校との連携活動状況（連携協働事業、教員の専門知識・技術、研究成果の提供状況）を把握し、状況を教員間で共有するとともに、その成果を検証・分析し、連携関係の強化を図ることができた。 <p>【総合力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の心に寄り添った丁寧な教育・指導に取り組み総合力を高めることができた。次年度も本中期目標・中期計画に基づき、さらなる総合力アップを図っていく。
次年度への展望（まとめ）	<p>今年度は中期目標・中期計画の達成・実現に向けて、学科教員一丸となって取り組んだ。次年度も、本学科の特徴である心理・福祉コースと言語聴覚コースの教員の連携を活かして、教員の教育力や学生の満足度の向上を図り、効果的な臨床教育プログラムについて検討・実施し、その成果を検証していく。</p>

授業アンケート結果 報告書

令和2年度(2020年度)まとめ

教育開発・研究推進中核センター教育開発部門

1. はじめに

本学では平成17年度(2005年度)より、各教員の授業方法・内容の充実を目指し、実習を含むすべての講義・演習・実習科目について、受講学生に対しアンケート調査を前期・後期に1回ずつ実施してきた。平成22年度(2010年度)に設問の大幅な見直しを行い、平成23年度(2011年度)から集計結果を公開してきた。平成26年度(2014年度)に設問を2項目追加し、現行の授業アンケートは15項目の設問および自由記述から成っている。

授業アンケートの設問は、授業に対する学生自身と教員の取り組み姿勢、授業内容の理解度・達成度および授業の意義という観点から設定されている。その集計結果は、本学の教育理念「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」に相応しい教育が行われているか否かを知る貴重な手掛かりとなる。以下、令和2年度(2020年度)の授業アンケートについて、実施方法と全体および学科単位での集計結果を示す。

2. 授業アンケート実施方法

アンケートの内容と配付・回収：

アンケートの設問は「学生自身の授業の取り組み」に関する5問(結果の図中Q1~Q5)、「学生から見た教員の授業に対する取り組み」に関する7問(Q6~Q12)、「授業に対する学生自身の理解度・達成度」に関する2問(Q13~Q14)、総合評価として「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」に関する1問(Q15)である。回答は「あてはまる」から「あてはまらない」までの4段階または時間や回数などを4段階に区切った選択肢から1つ選ぶ形式とした。また自由記述の欄があり、授業への感想や要望等があれば記入することになっている。

すべての科目について、前期・後期に1回ずつ、原則として授業の最終回に時間を設け、ユニバーサルパスポート(本学WEB学習支援システム)において実施している。

アンケート対象学生数と科目数：

令和2年度(2020年度)の授業アンケートの対象となった教員数、科目数、学生数を下記※表1にまとめた。

※ 表1

アンケート実施		科目数	専任教員数	非常勤教員数	教員数	アンケート回収数	受講生数
令和2年度 (2020年度)	前期	570	109	39	148	6746	13507
	後期	622	112	38	150	4872	13641

アンケート集計・解析方法とフィードバック：

各学科の学年ごとに、設問に対する4段階回答を集計し、学年及び学科単位で回答の割合を図示した。各授業科目については、科目間での比較のために差が顕著に表れるよう4段階回答を8、3、2、0

点として点数化し、また設問項目間での比較のために評価レーダーチャートを作成した。

アンケートの集計・解析結果については、各教員へ担当分の結果を配布するとともに、学科全員分および学科単位での結果を学部長へ配付し、その後学科長が各学科において、アンケート結果をふまえ授業改善につなげられるようにフィードバックを実施している。

なお平成 28 年度(2016 年度)より、授業に対する学生の自由記述内容について pdf ファイルによるデータ化を行ない、平成 30 年度(2018 年度)は web 上での自由記述を試験的に実施した。

令和元年度(2019 年度)より全項目を web にて実施した。Web にて実施することにより、学生からの自由記述のコメントを、集計後速やかに担当教員に開示することが可能となった。また自由記述をデータ化することが容易となった。

3. 授業アンケート結果

授業アンケート結果については、アンケート内容である「学生自身の授業の取り組み」、「学生から見た教員の授業に対する取り組み」、「授業に対する学生自身の理解度・達成度」、また、総合評価として「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」について、各学科での回答割合を図で示した。全学的な総括は、過去の結果との比較および学科間での相違に着目して行った。

全学的アンケート結果 (図Ⅱ)

各学科のアンケート結果を基に大学全体での傾向をまとめた。「教員の授業に対する取り組み」は概ね高評価であった。「学生の理解度・達成感」では、令和元年度(2019 年度)と同様に高い値を維持していた。「学生の授業への取り組み」では、予習・復習時間や準備学習が不十分であった。総合評価としては、令和元年度(2019 年度)と同様に、本学では全学的に「意義ある授業」が行われているが、授業外における学生の学習習慣改善につながるより効果的な方策が必要であると考えられる。

「学生自身の授業の取り組み (Q1～5)」

前期・後期ともに、大部分の学科において授業を 4 回以上欠席した学生は 5%以下であった (Q1)。予習 (Q2)、復習 (Q3)、準備学習 (Q4) については、学科により差はあるが、令和元年度(2019 年度)と同様に 20～60%の学生は全く授業外に学習していないことが示された。特に生命医科学科と言語聴覚療法学科では、予習 (Q2) および復習 (Q3) を「ほとんどしなかった」学生が、令和元年度(2019 年度)より増加しており、後期では 50～60%を占めている。一方、授業に関しては大部分の学科において 90%程度の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」と答え、居眠りや私語など無く意欲的に取り組んでいると考えられた (Q5) 令和元年度(2019 年度)より、授業外学習の具体的な方法手段をシラバスに明記することとしている。シラバスが学習習慣改善の方策としても機能するように、今後も学生への周知を徹底する必要があると思われる。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み (Q6～12)」

シラバスに沿った授業と目標や習得すべき事項の説明 (Q6, 7)、授業開始時間や授業雰囲気確保に対する教員の努力や学生の授業への参加を促す努力 (Q8, 9, 10)、およびわかりやすい講義資料の作成や説明が行われたか (Q11, 12) について、前期・後期ともに全学科において 90%以上の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」と答え、大部分の学生は教員の取り組みを認めていると考えられた。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度 (Q13・14)」「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か (Q15)」

学生の理解度 (Q13)、学習意欲の高まり (Q14) および授業の意義 (Q15) について、前期・後期ともに全体として約 90%の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」と答えていた。これらは授業に対する教員の熱心な取り組みの成果であると思われる。

臨床福祉学科アンケート結果(図Ⅲ)

「学生自身の授業の取り組み」

【欠席状況】では、1～5回欠席した学生が全学年を通して40%近くおり、他学科に比べ多い。特に2,3年生前期は約40%強である。

【予習復習時間】では、90%の学生が「1時間未満」であり、全学科を通して一番多い結果となった。特に、2・3年生が高い傾向にある。前回の結果でも同様の結果となっている。再度、全教員に1年生のうちから予習復習の学習習慣を身に着けるような指導と2年次学生に対し再度指導を促していきたい。【授業中の取り組み】では、「Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか」の問いに対して、「あてはまる・ややあてはまる」が90～95%ではあったが、「あてはまる」だけに着目すると、全学科を通して低い傾向にある。2年生後期を除けば学年が上がるにつれて良くなっている。前年度の4年生後期は、欠席状況、授業中の取り組みに関して4～5回以上欠席、学習に意欲的に取り組めていない学生のパーセントが全学年を通して多い傾向にあったが、今年度の4年次後期は、「あてはまる・ややあてはまる」が100%であり、逆の結果となった。そのことが国家試験の合格率に反映しているのか、今年度の社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の合格率はよかった。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み」

学生から見た教員の授業の取り組みに関する設問では、「あてはまる・ややあてはまる」が、すべての学年および学期において95%を超える肯定的な回答を得ており、学生からは概ね良好な評価であったが、「あてはまる」の割合は全学科を通して低い傾向にある。特に2年生前期・後期はその傾向が高い。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

授業に対する学生自身の理解度・達成度に関する設問では、「あてはまる・ややあてはまる」が90%弱と概ね良好であった。特徴的なこととして、「あてはまる」だけに着目すると、2年次の前期・後期とも50%弱であり、学年を通して一番悪い結果となっている。2年次は大学にも慣れ、やや中だるみが生じているのではないかと考えられる。これは、学生自身の授業の取り組みがほかの学年に比べ2年次が低いことと関連している。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

授業の意義について95%以上の学生が「あてはまる・ややあてはまる」と肯定的な回答をしている。しかし、「あてはまる」だけに着目すると、1年生が70・78%（前期・後期）、2年生が52・54%、3年生が75・85%、4年生が90・88%であり、2年生が最も低い傾向となった。2年生は、「学生自身の授業の取り組み」、「学生から見た教員の授業に対する取り組み」、「授業に対する学生自身の理解度・達成度」において、他の学年と比べると評価が低い。1年生は「基礎演習」3,4年生は「専門ゼミ」でチューターと面談する機会があるが、2年生は「基礎演習」がないため、チューターが学生の状況を理解し指導する機会がなく、交流がないことも一因と考えられ。令和3年度より、2年次のチューター面談を積極的に取り組むことにしたので、今後を期待したい。

スポーツ健康福祉学科アンケート結果 (図Ⅳ)

「学生自身の授業の取り組み」

【欠席状況】は、3回以内の欠席でみると、1～4年の前期後期とも90%以上であり、おおむね良好な出席状況である。一昨年度の報告で気にかかる点として、1年前期の欠席0回の学生の割合が、2016年度約74%、2017年度約65%、2018年度約52%と徐々に減少傾向にあることを挙げたが、2019年度約66%、2020年度約71%と改善傾向にある。

【予習復習】は、前期では学年が上がるにつれて30分以上の実施率がやや上昇する傾向があるが、後期では1年生に低下傾向が認められ、2年生では予習復習ともに上昇し、3年生に変化は見られない。4年については、1時間以上の予習復習の実施率が増加している。1年前期の予習を「ほとんどしなかった」割合は、2016年度の約60%から2020年度は約38%と、年々徐々に減少している。ただし、後期には約45%と約7ポイント増加している。

【学習への意欲的な取り組み】では約88%～95%の学生が肯定的に回答している。

2020年度はコロナウイルス感染症の拡大により、遠隔授業と対面授業の併用となり、学生はその対応に追われた状況であったが、出席状況について3回以内の欠席でみると、1～4年の前期後期とも90%以上であり、おおむね良好であった。3、4年後期に予習復習を「ほとんどしなかった」学生の割合が大きく減少していた。全ての学年の前後期ともに、この状態になるような教員側からのアプローチをさらに創意工夫しなければならない。中期目標・中期計画に沿って各種認定・国家試験や採用・就職試験に対する地力を養成するための取り組みを実施してきた結果、2020年度の各種認定・国家試験の合格率は受験したすべての試験で全国平均を上回ることができた。しかし、学年進行とともに受験をあきらめる学生もみられ、意欲的に資格取得を目指す者とそうでない者との二極化の傾向が続いている。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み」

Q6～12のすべての質問において、「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせると全学年において90%を超える肯定的な回答を得ており、学生からは概ね良好な評価を得ている。1年生において「ややあてはまる」の評価が他の学年に比べて多い傾向が認められる。大学へ入学して新たな環境で学習に取り組み始める1年生に対して、より分かり易い授業へ向けての工夫・改善を継続していく。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

学生の理解度・学習意欲の高まりについては、「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせると、90%を超える肯定的な回答を得ている。1年生において「ややあてはまる」の評価が他の学年に比べて多い傾向が認められる。引き続き、大学へ入学して新たな環境で学習に取り組む1年生に対して、より理解しやすく、学習意欲を高めるための授業の工夫・改善を継続していく。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

授業の意義について、90%以上が「あてはまる」「ややあてはまる」の肯定的な回答をしている。「あてはまる」だけに注目すると約66～96%であった。1年前期の評価が約66%、後期78%であり、この評価を80%以上に向上させなければならない。本学科への進学に対する満足度を上げるために、1年生の段階から、今の学びが将来につながっていることを学生に授業を通して理解させながら、学習意欲の向上を図る取り組みの工夫が必要である。

作業療法学科アンケート結果（図V）

「学生自身の授業の取り組み」

出席状況は、欠席3回までを含めると90%以上と概ね良好である。2年次の前期が他の学年に比べてやや悪い。

予習時間について、前期では学年が上がるにつれて、時間が短くなっており、4年生は「ほとんどしない」と「30分以下」で100%であった。新型コロナのために学外臨床実習が中止になったことと関係があるかもしれない。後期には2年生はあまり変化はないが、3年生は若干、改善した。

復習時間について、前期の結果は、2年生と3年生は予習時間とほぼ同じ傾向であった。4年生は予習と比べて、時間が長い結果であった。4年次の前期のほとんどが学外臨床実習だが、新型コロナのために学外臨床実習が中止になり、自主学習を行ったことを復習と捉えたのかもしれない。後期では、2年生の結果は前期と同じ傾向であったが、3年生はやや長くなっていた。

「Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか」の質問に対する回答では、前期は学年が上がるとともに、時間が長くなった。「Q2の予習時間」とどこが異なるのかわからないが、4年生は真逆の結果であった。後期では2年生で、時間が少し延びていた。

私語や居眠および遅刻早退については、前期では90%が「あてはまる（していない）」と回答しており、学年が上がるにつれて、意欲が高まった。後期では2年生と3年生で、前期と同じ傾向であった。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み」

シラバスについて、概ね90%以上がシラバスどおりの授業進行であると回答している。教員の授業内容説明についても同様である。私語等に対する注意も、概ね良好で「ややあてはまる」まで含めると全学年でほぼ100%に近い。教員の授業に対する取り組みも（開始時間も含む）、概ね良好で「ややあてはまる」まで含めると全学年で90%を超えている。ただし、全学年を通して居眠りはままだが見られるが、そもそも私語は少ない。授業参加への促しについても、教員の説明のわかりやすさ及び講義資料についても同様である。なお、ほぼすべての項目で後期になると前期よりも評価が高かった。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度および意欲」

「授業の目標や修得すべき事項の理解」「授業での学習意欲の高まり」のどちらについても、前期は全ての学年で肯定的意見が80~90%程度だった。後期にはさらに「あてはまる」の割合が増加した。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

傾向は前項と同じである。全学年の90%程度以上が肯定的だった。後期になると、さらにその割合が増した。

「学生自身の授業の取り組み」

出席状況は、いずれの学年も欠席 3 回以内の学生が 95～100%と良好な結果を示していた。2 年生後期、4 年生前期で、4 回以上欠席した学生がいなかった点が評価できる。

予習時間および復習時間は、学年が上がるにつれ、ほとんどしなかったと答えた学生の割合が減る傾向があり、30 分以上学習する学生の割合は 10～65%と学年により差がみられた。3 年生後期で最も高い割合を示していた一方で、2 年生前期では 10～15%と低い結果を示しており、早い時期からの学習習慣の形成が課題である。4 年生については、授業以外の国家試験対策や学外臨床実習の事前事後指導を含めると、学習の実時間数はさらに多くなると考えられる。シラバスに記載されている準備学習を行っている学生の割合は 35～100%であり、4 年生前期で 30 分以上が 20%、1 時間以上が 65%と高い割合を示していた。

学習に意欲的に取り組んだかに対して、あてはまる、または、ややあてはまると回答した学生の割合は 90～100%と各学年で良好な結果を示していた。昨年度の 3 年生が、前期が 90%以上だったのに対し後期には 50%と低下していたが、今年度は前期、後期ともに 95%以上と改善がみられた。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み」

シラバスにそった授業、授業目標・修得すべき事項の説明、授業の開始時間の厳守、授業への参加の促し、わかりやすい説明や指導、講義資料の適切性、授業の雰囲気については、いずれの学年も 95～100%が、あてはまる、または、ややあてはまると回答しており、教員の授業に対する取組みが高く評価されていた。学年別にみると、3・4 年生では全員があてはまると回答していたのに対し、2 年生は、65～85%にとどまっており、とくに低学年について、講義資料や指導方法を適宜、見直すとともに授業目標・修得すべき事項を繰り返し説明する必要がある。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

授業の目標や修得すべき事項を理解できたか、および、授業で学習意欲が高まったかに対しては、いずれの学年も 90～100%が、あてはまる、または、ややあてはまると回答しており、授業に対する学生自身の理解度・達成度は高いといえる。

あてはまるだけを見ると、2 年生が 60～70%と、昨年度、一昨年度に比し低い傾向があった。大学の授業形態への導入時期である 1 年次に、学生の理解度に配慮した指導が必要であることが伺える。

「学生にとって授業が意義のある授業であるか否か」

授業は意義のあるものであったかに対しては、いずれの学年も 95%以上が、あてはまる、または、ややあてはまると回答しており高く評価できる。あてはまるだけを見ると、3 年生、4 年生が 95～100%であるのに対し、2 年生前期は 70%と昨年度よりも低い割合を示していた。

学生の満足度を高めるためにも、学科教員間で、各学年の授業の内容や方法について引き続き議論を重ねていくことが重要であると考えられる。

視能療法学科アンケート結果(図Ⅶ)

「学生自身の授業の取り組み」

【欠席状況】本学科は募集停止のため、1、2年生はいない。全体として授業への出席率が高い。授業欠席に対する単位への影響等を指導してきており、後期では4年生は100%の出席率であった。後期に関して、3年生では欠席者数が増加している。4年生では、おそらく、国家試験や就職等、社会人としての自覚が芽生えた結果であることが考えられた。

【学習への意欲的な取り組み】3年生よりも4年生で予習・復習時間が多かった。しかし、後期では、3、4年生ともに予習・復習時間が前期より少なくなっており、指導が必要と思われる。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み」

Q6～Q12のすべての質問では、3、4年次において「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせると90%以上の回答を得ており、学生からは概ね良好な評価を得ていた。Q9～Q12については、本学科でも高い傾向にあり学生の満足度は高い。学科の募集停止によって、3、4年生の高学年学生のみとなっていることから、大学での自主的な勉強態度を身につけることができた学生が増加していると思われる。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

Q13～Q14のすべての質問における、学生の理解度・学習意欲の高まりについても、3、4年生においては「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせるとほぼ100%の肯定的な回答を得ている。しかし、3年次後期は80%程度であった。その理由として、学生間そして教員との人間関係の問題が生じ、モチベーションが一時的に低下したことが考えられる。3年生に対して、視能訓練士になろうとするモチベーションを持続させることへの授業の工夫・改善も不足していた可能性がある。授業が判らない場合や、不服、不満等がある場合に学生が気軽に相談や不服申し立てできるような窓口を当科として設ける等の対策を構築していることから、有効に活用してもらいたい。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

授業の意義について、「あてはまる」「ややあてはまる」の肯定的な回答をした生徒は、4年の前・後期で100%であった。一方、3年次は前期よりも後期で肯定的な学生が減少しており、3年生に関しては、学科教育が有効に機能していると総括できない結果となっている。

当科においては、基礎科目においても国家試験に準じたカリキュラム教育を行っている授業もあるが、そうでない授業もある。しかし、社会に有為な人材の育成という本学の建学の理念を考えると、多方面での教養や知識が、本学卒業後にも、必ず役立つといった、広い視野をもって学習すべきと考える。いずれにせよ、視能訓練士を養成する本学科では、興味の持てる面白い授業を行うことで、生涯を通じて、学習とは楽しいことであるということを悟って身につけていただければと考える。そのためには、楽しく学習でき、いつでも質問、不満などを気軽に相談できる開かれた自由な雰囲気が必要であると考えられる。

臨床工学科アンケート結果 (図Ⅷ)

「学生自身の授業の取り組み」

授業の欠席回数は、全学年で見ると前期に比して後期が若干増加しているものの大きな差はない。予習の時間に関しては、各学年ともに前期より後期が増加している。3年次においては前期に予習をする時間より後期の方が授業の内容が本格的なもの(専門的)になり予習していることがわかる。復習についても予習と同様な傾向を示しており、予習・復習をしないと授業についていけないことを理解している。学習時間は前期よりも後期の方が多くなっている。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み」

「シラバスにそつての授業」、「授業目標や修得すべき事項の説明」、「授業の雰囲気」、「学生への授業参加の促し」、「わかりやすい説明や指導」、「講義資料の適切さ」、「修得すべき事項」に関して、全学年ともに95%以上の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」を回答しており、教員の授業に対する評価は高いと推測される。教員全体のミーティングでは前期・後期ともに同様の対応を行ってきた。今後、アクティブラーニング等の取組を増加させ、引き続き、学生個々の能力を伸ばす指導を継続させることが重要である。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

「授業の目標は習得すべき事項の理解」、「授業での学習意欲の高まり」については、についてはともに95%以上の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」を回答しており、各学年ともに後期になると医療職になるための学習の重要性が理解でき学習が十分になされていることが伺える。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

全学年ともに95%以上の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」を回答しており、授業は意義あるものであったと推測される。シラバスに記載されている授業目標、修得すべき事項を十分理解した上で授業に望んでいたと言える。しかし、昨年度初旬より急遽遠隔授業が実施されたことにより、学生、教員ともに学習環境になじめなかったように思う。今後、遠隔授業については、その方法等を学生の意見を取り入れ改善する必要がある。

薬学科アンケート結果（図IX）

「学生自身の授業の取り組み」

欠席については、前期は各学年 8 割以上の学生に欠席は認められなかった。しかし、後期では 2 年生と 6 年生の欠席回数が前期より増加していた。6 年生に関しては、昨年度まで後期で比較的他学年に比べて欠席率が高い傾向であったが、今年度はこれまでより欠席者が減少しており、今年度の国試合格率上昇に繋がったと思われた。

予習・復習については、学年により若干の差があるが、各学年とも予習より復習に時間をかけている割合が多かった。また、3 年生と 6 年生は他学年に比べ予習・復習時間が長いと思われた。しかし、予習・復習にほとんど取り組まない学生は各学年で 3 割程度いることから、各学年で予習・復習の習慣を身に着けるように指導する必要があると感じられた。特に 4 年生では予習・復習時間が顕著に短く、共用試験に対する取り組みを強く指導する必要があると感じた。

シラバス記載の準備学習では、各学年ともにほぼ 8 割以上の学生が行っていた。学習に意欲的に取り組みましたかという設問に対しては、1-5 年生においては、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせるとほぼ 90%程度であった。しかし、6 年生では後期で 80%程度であった

「教員の授業に対する取り組み」

前後期通して、教員の授業に対する取り組みに関するすべての設問では、例年と同様に、「あてはまる」、「ややあてはまる」が 90%程度を超えていました。しかし、5、6 年後期では、「担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか」、「担当教員の講義資料は適切でしたか」の質問に対して、「あてはまらない」の解答が増加していた。この点を改善するために、今年度はオムニバス講義における各教員に対するアンケートを行い、教員にその結果を開示して、教員に改善を促した。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

1, 2, 3, 4 年生前後期通して、授業に対する学生自身の理解度・達成度は 90%程度であった。しかし、5、6 年生では特に後期で、授業の目標や修得すべき事項を理解したか、学習意欲が高まったかの項目について、「あまりあてはまらない」、「ややあてはまる」の回答が増加していた。例年に比べて 5、6 年生は授業に対する学生自身の理解度・達成度を感じていないと思われた。「教員の授業に対する取り組み」でも述べたように、今年度は学生自身の理解度・達成度が増加するように、アンケート結果をもとにして教員の講義改善指導を行った。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

1, 2, 3, 4 年生前後期通して、意義のある授業であったか否かについては、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせた評価が、ほぼ 90%超であった。しかし、5、6 年生では前後期ともに「あまりあてはまらない」が増加しており、先にも述べたように授業の改善に取り組んだ。

動物生命薬科学科アンケート結果（図X）

「学生自身の授業の取り組み」

欠席については、1-2学年の約8割の学生がほとんど欠席はなく、また、欠席1-3回の学生を合わせても出席状況は良好であった。4年生において1回以上の欠席が他学年よりも多く見られるが、就職活動のためと考えられた。しかし、今回の回答で、3年生後期で1-3回の欠席が4年生を若干上回り、全学年と比較して4-5回の欠席も多かったことについては、その理由を解明するなど今後の改善すべき課題である。

予習・復習時間については、学年および学期によりバラツキがみられるが、ほとんどの学年および学期において、「30分未満」、「ほとんどしなかった」を合わせると、概ね30~70%を占めていた。これは昨年度と同様の傾向であったが、昨年度に比べると10%程少なくなっていた。

シラバスに記載されている準備学習については、「ほとんどしなかった」、「30分未満」を合わせた回答も学年および学科により20~50%程度とバラツキがみられた。ここで、後期の4年生において、1時間以上準備した学生が73%と多くを占めていた。これは資格試験科目に対しての準備と思われたが、復習・予習にあまり時間をかけていないことから、理由は不明であった。

「学習に意欲的に取り組みましたか」という設問に対しては、いずれの学年においても「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせた回答は80%を超え、「あてはまらない」学生は5%未満であり、学習への意欲的な取り組みは、良好であった。

「教員の授業に対する取り組み」

教員の授業に対する取り組みに関する設問では、すべての学年および学科において、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせた評価は、ほとんどの項目で90%以上であったが、一部の項目ではやや低く、85%以上であった。このなかで、1年生の前・後期で「担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか」の回答が、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」を加えて10%程度あったことは、取り組みの改善する必要があると考えられた。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

「授業の目標や修得すべき事項の理解」並びに「授業での学習意欲の高まり」の質問に対して、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせた評価は、ほとんどの学年および学期において、90%以上であり良好であった。しかし、1年生の前・後期において、「授業で学習意欲が高まりましたか」の回答で、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」を合わせて10%程度あったことは、教員の授業に対する取り組みの「担当教員はわかりやすい説明や指導をしていましたか」の回答と関連した割合であり、改善する必要があると考えられた。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

意義のある授業であったか否かについては、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせた評価は、ほとんどの学年および学期においては90%以上であった。しかし、1年生の学生においては、前・後期ともに、「ややあてはまらない」、「あてはまる」を合わせた評価が約10%あり、意義ある授業となるように、「教員の授業に対する取り組み」を含めて改善をする必要が考えられた。

生命医科学科アンケート結果報告(図XI)

「学生自身の授業の取り組み」

全学年において「授業欠席回数」0～3回は、前期・後期とも97%以上であった。特に1年生の前期は入学し、慣れない環境での学生生活のためか6回以上の欠席が幾分か見られる。しかし学年が上がるに従い数も減ってきている。予習を1時間以上行った学生は高学年になるに従い高くなる傾向にあるがそれでも10%程度である。また、4年次では前期・後期ともに50%を超えているが回答数が少ないため評価は難しい所である。「復習」については前期・後期ともに1時間以上行っているのが上位の学年になるに従い増えている傾向を示している。一方ほとんど行っていない学生が15～30%存在しており、これらの学生は指導が必要となる。「シラバスに記載されている準備学習」については前期・後期を通じて上位の学年になるに従い1時間以上行っている学生が増加している傾向がみられる。特に国家試験を目前に控えた4年生は回答数が少ないため評価は難しいが、50%を超えており実情に合ったものと思われる。「授業中居眠り、私語、遅刻、早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。」という設問に対し「あてはまる」「ややあてはまる」の合計が前期・後期を通して90%を超えており時に後期では97%を超え、特に後期では進級の問題もあり意欲的に取り組んでいるのではないかと考えられる。

「教員の授業に対する取り組み」

「教員は、シラバスにそって授業を行ったか」という設問に対し「あてはまる」「ややあてはまる」の合計が前期・後期ともに97%を超えており概ねシラバスに沿った授業が行われていると推測される。

「教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していたか」という設問に対しては「あてはまる」「ややあてはまる」の合計が前期96%以上、後期では99%以上を超えており、おおむね学生の満足度が高いことがうかがえる。「授業の開始時刻を守っているか」という設問に対し「あてはまる」「ややあてはまる」が前期・後期を通じて98%を超えており概ね教員が開始時刻を守っていることが示唆された。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

「授業の目標や修得すべき事項を理解できたか」という設問に対し学年が上がるに従い「あてはまる」「ややあてはまる」の合計が前期92%・後期98%を超えており授業中に適切に目的や重要点の指導が行われていることが示唆される。また、「授業で学習意欲が高まったか」という設問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」と回答したのは前期が92%で後期は98%程度であった。前期では「あまりあてはまらない」「あてはまらない」が8%近くあったが後期では2%程度に下がっており学習を重ねることにより学習の意欲が多少なとも上がっており改善がみられている。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

総合評価として「授業は意義あるものだったか」という設問に対し、「あてはまる」「ややあてはまる」の合計が前期95%・後期99%程度であり学年別にみると1年次と3年次では91～93%程度であるが2年次と4年次では98%から99%となり2年次では専門教科が増えてきており学科専門に興味を抱き有意義な学習と感じ取っているのではないかとと思われる。それに対し4年次では国家試験を目前に抱え自らの使命を感じ取り学習に意義を感じているものと思われる。但し今回のアンケートではすべてにわたり4年次の回答数が少ないため今回の回答者は率先して回答した学生に限定されるためアンケートの評価の判断材料として難しい所である。

学生支援システム「UNIVERSAL PASSPORT」により、
Webアンケートを実施。

(以下、アンケート内容のイメージ)

123456789 科目A (教員B)

授業アンケート 年度 (前期)

授業アンケート Q1～Q18

Q1 【あなたの授業に対する取組について】

あなたは、この授業を何回欠席しましたか

- ① 0回
- ② 1回～3回
- ③ 4回～5回
- ④ 6回以上

Q2 【あなたの授業に対する取組について】

あなたは、1回の授業に対して平均どのくらい予習を行いましたか

- ① 1時間以上
- ② 30分～1時間
- ③ 30分未満
- ④ ほとんどしなかった

Q3 【あなたの授業に対する取組について】

あなたは、1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか

- ① 1時間以上
- ② 30分～1時間
- ③ 30分未満
- ④ ほとんどしなかった

Q4 【あなたの授業に対する取組について】

あなたは、シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか

- ① 全部やった
- ② ほとんどやった
- ③ あまりやらなかった
- ④ 全然やらなかった

Q5 【あなたの授業に対する取組について】

あなたは、この授業で居眠り・私語・遅刻・早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか

- ① あてはまる
- ② ややあてはまる
- ③ あまりあてはまらない
- ④ あてはまらない

Q6 【教員の授業に対する取組について】

担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか

- ① あてはまる
- ② ややあてはまる
- ③ あまりあてはまらない
- ④ あてはまらない

Q7 【教員の授業に対する取組について】

担当教員は、授業の目的や修得すべき事項を毎回説明していましたか

- ① あてはまる
- ② ややあてはまる
- ③ あまりあてはまらない
- ④ あてはまらない

Q8 〔教員の従業に対する取組について〕

担当教員は、授業の開始時刻をきちんと守っていましたか

- ① あてはまる
- ② ややあてはまる
- ③ あまりあてはまらない
- ④ あてはまらない

Q9 〔教員の授業に対する取組について〕

担当教員は、学生の私語などに注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか

- ① あてはまる
- ② ややあてはまる
- ③ あまりあてはまらない
- ④ あてはまらない

Q10 〔教員の授業に対する取組について〕

担当教員は、学生に授業への参加を促しましたか（質問等）

- ① あてはまる
- ② ややあてはまる
- ③ あまりあてはまらない
- ④ あてはまらない

Q11 〔教員の授業に対する取組について〕

担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか

- ① あてはまる
- ② ややあてはまる
- ③ あまりあてはまらない
- ④ あてはまらない（具体的に書いてください）

Q12 〔教員の授業に対する取組について〕

担当教員の講義資料（教科書を含む）は適切でしたか

- ① あてはまる
- ② ややあてはまる
- ③ あまりあてはまらない
- ④ あてはまらない（具体的に書いてください）

Q13 〔授業に対するあなたの理解・達成度〕

あなたはこの授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか

- ① あてはまる
- ② ややあてはまる
- ③ あまりあてはまらない
- ④ あてはまらない（具体的に書いてください）

Q14 〔授業に対するあなたの理解・達成度〕

あなたは、この授業で学習意欲が高まりましたか

- ① あてはまる

- ② ややあてはまる
- ③ あまりあてはまらない
- ④ あてはまらない

Q15 〔総合評価〕

あなたにとって、この授業は意義あるものでしたか

- ① あてはまる
- ② ややあてはまる
- ③ あまりあてはまらない
- ④ あてはまらない（具体的にかいてください）

Q16 この授業でよかったと思う点について書いてください

Q17 この授業で改善した方が良くと思う点について書いてください

Q18 この授業の感想（自己反省を含む）、また授業担当者へ伝えたいことなどを自由に書いてください

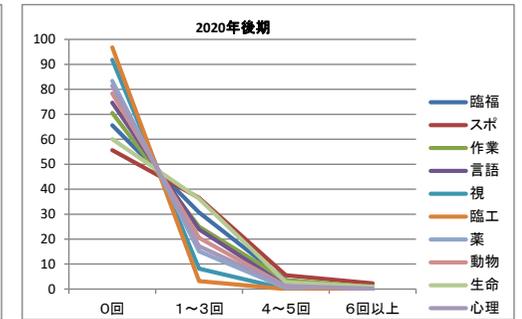
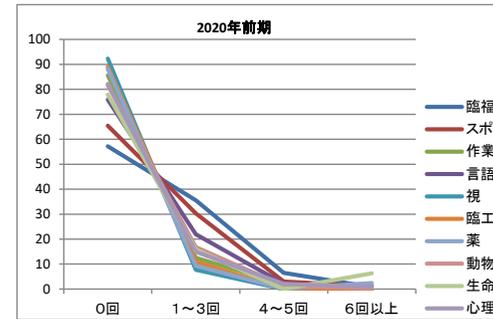
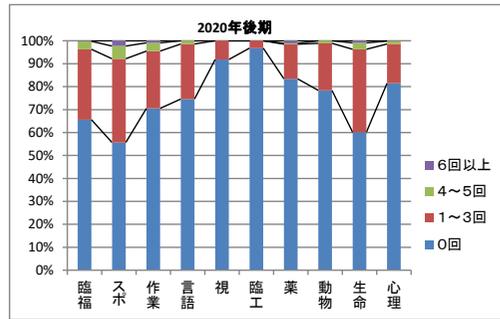
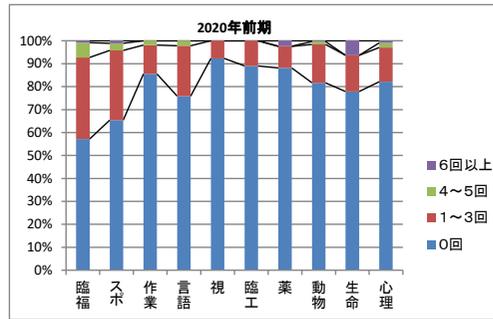
このアンケートは、授業改善を目的として実施するものです。あなたの意見は、今後の授業改善の参考となります。アンケートの回答によりあなたが不利益をこうむることはありませんので、率直な回答をお願いします。

回答

授業アンケート 令和2年度(2020年)

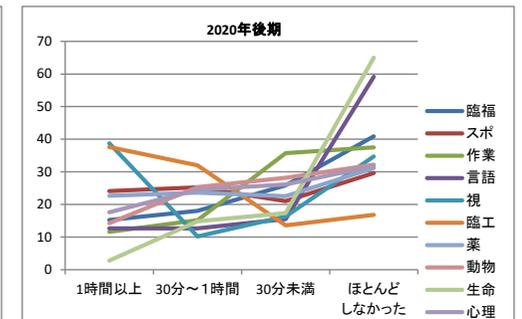
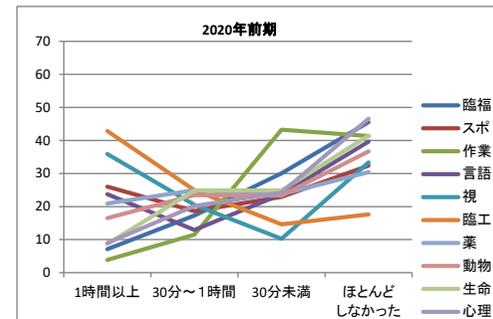
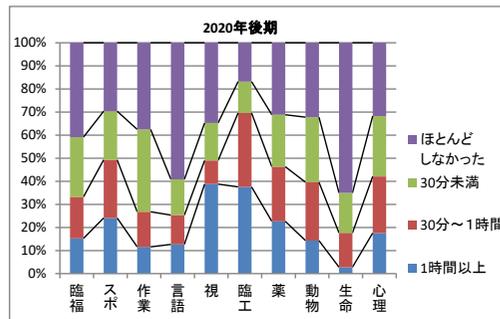
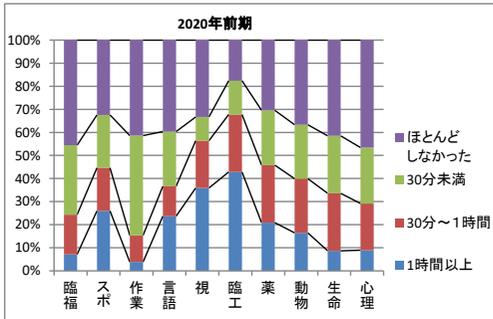
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



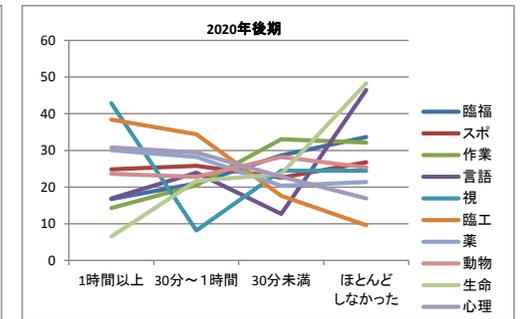
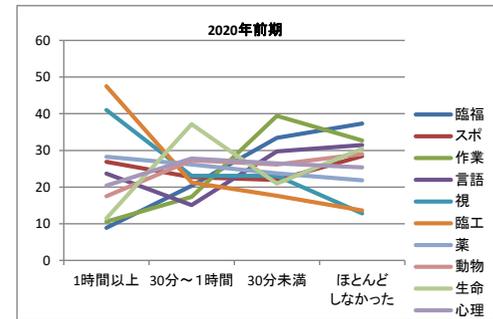
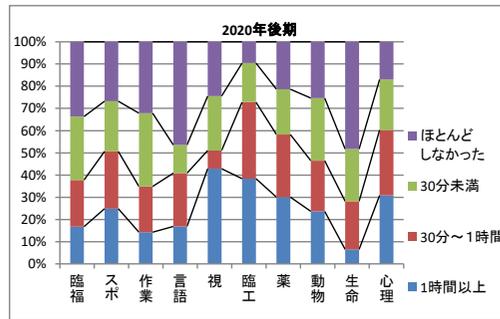
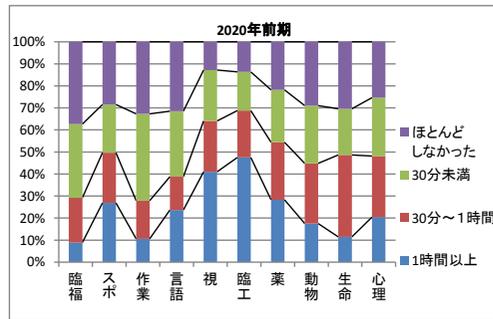
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して平均どのくらい予習を行いましたか。



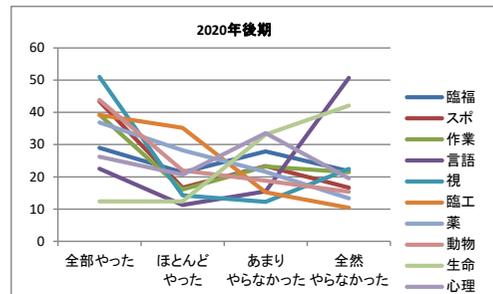
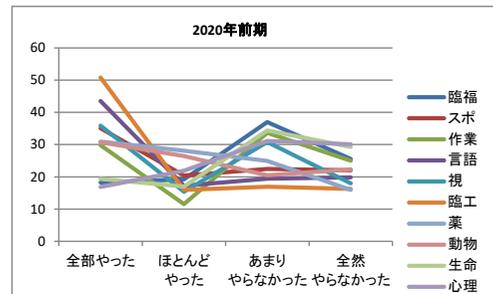
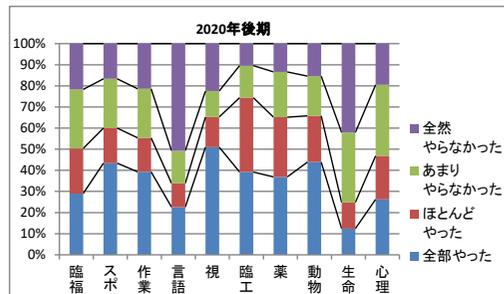
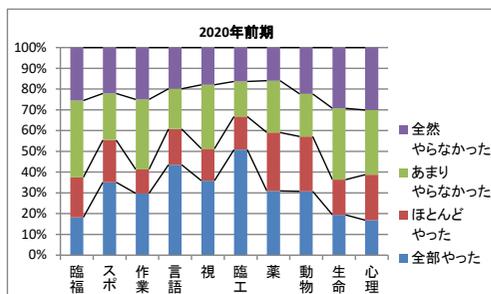
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



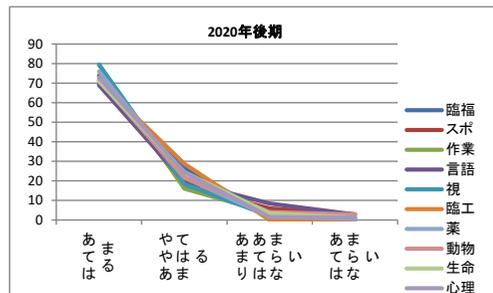
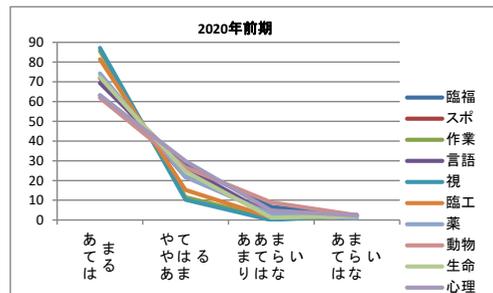
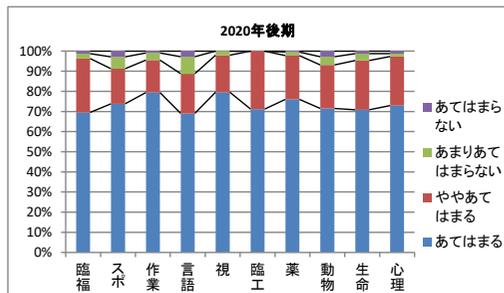
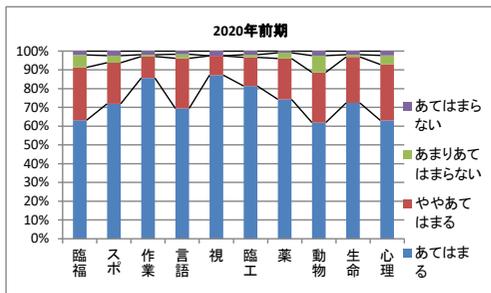
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



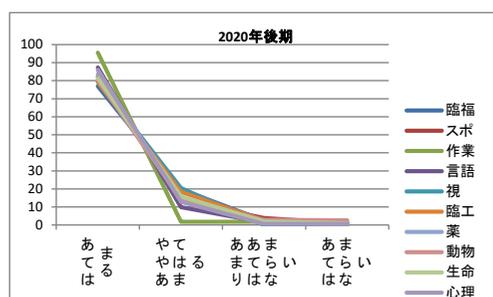
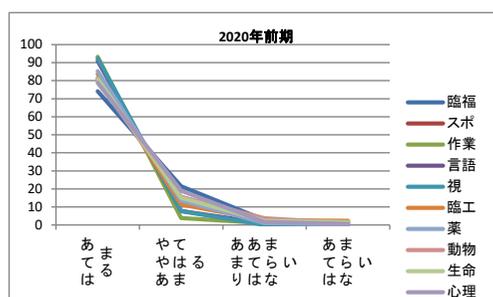
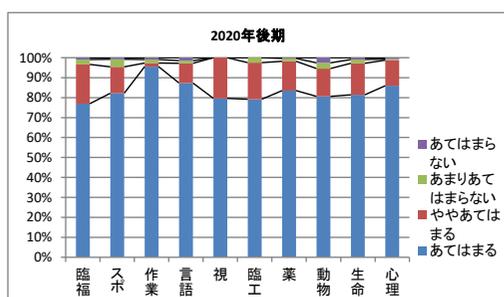
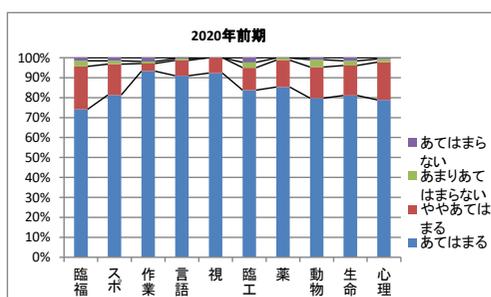
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



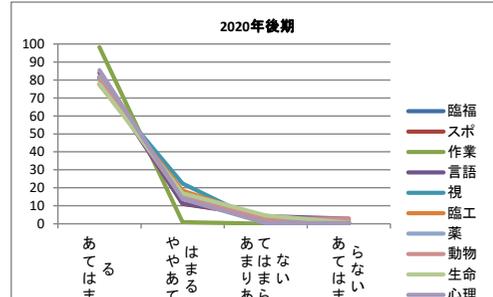
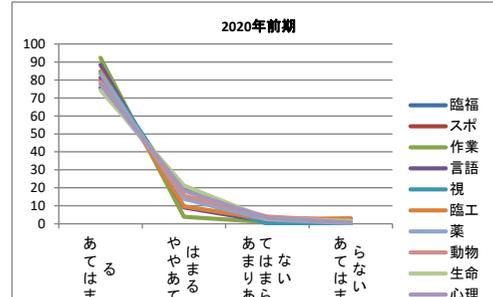
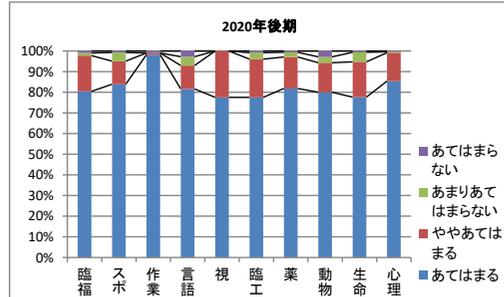
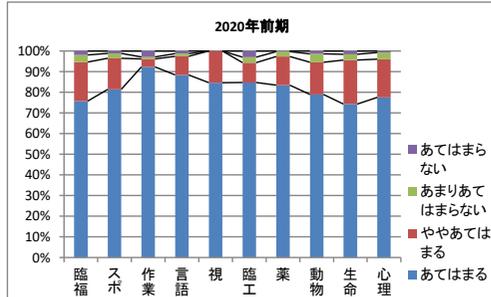
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



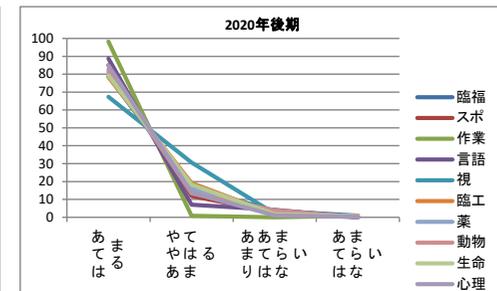
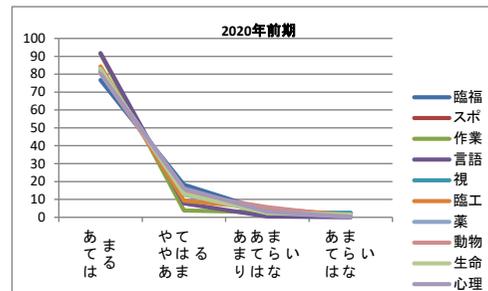
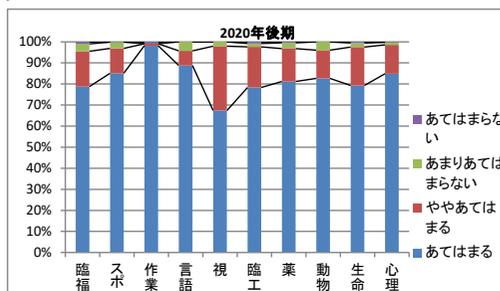
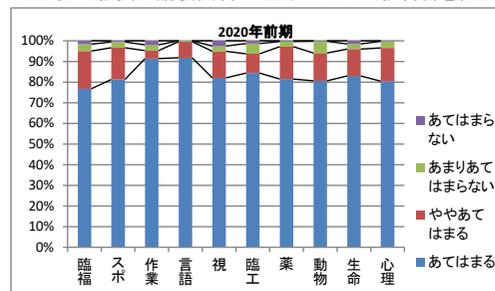
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



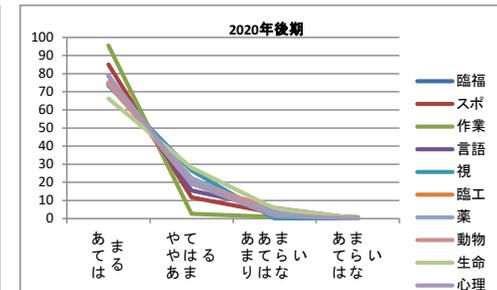
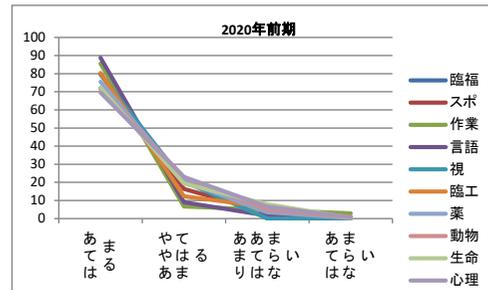
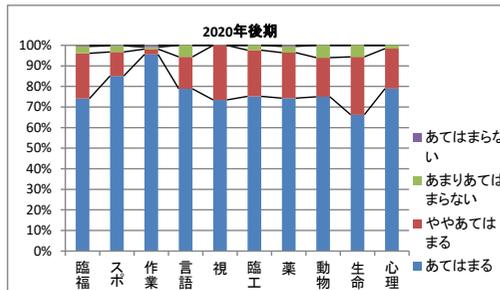
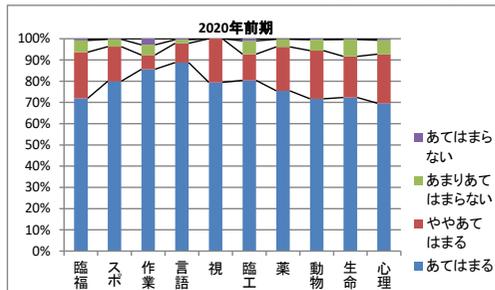
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



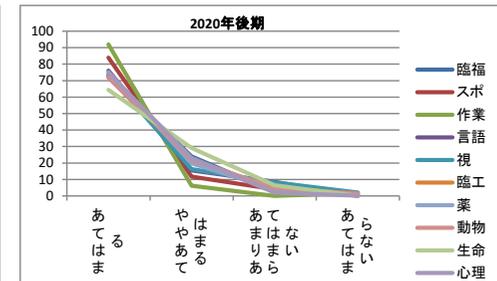
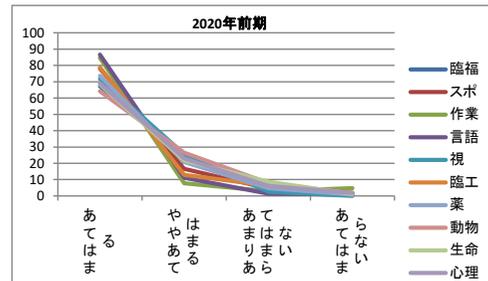
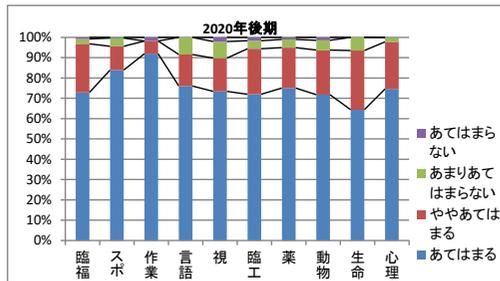
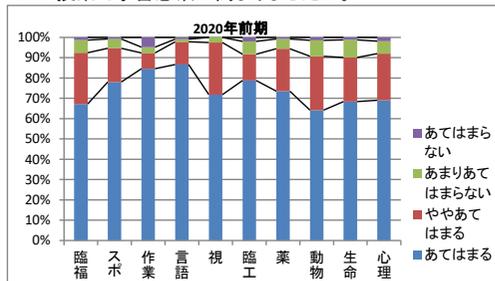
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



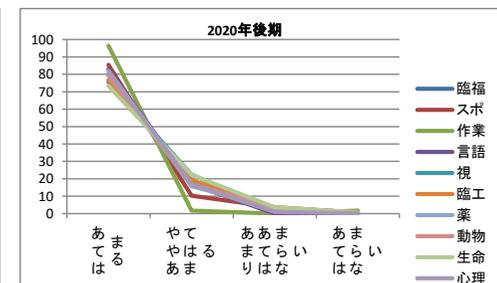
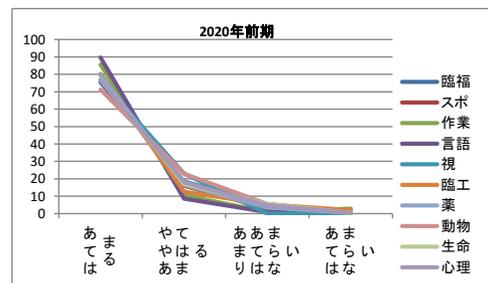
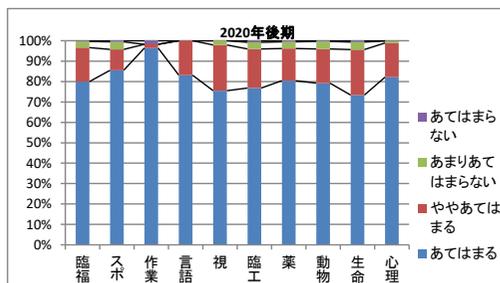
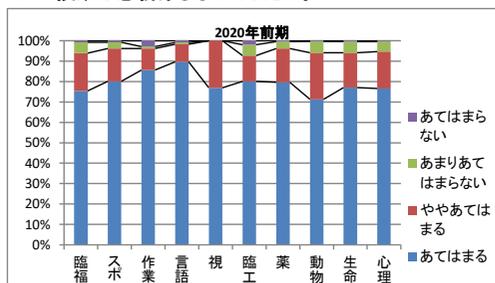
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

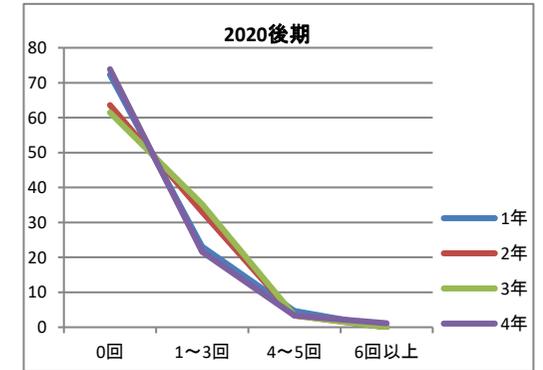
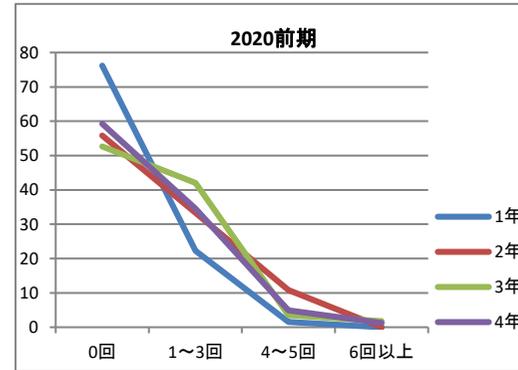
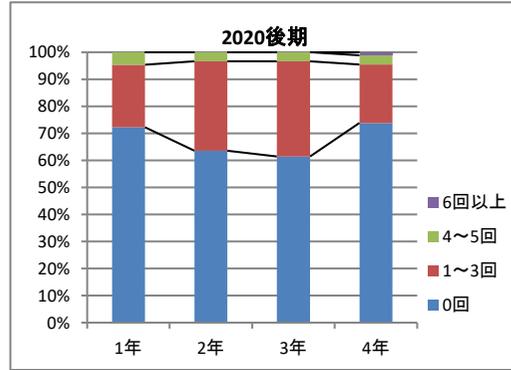
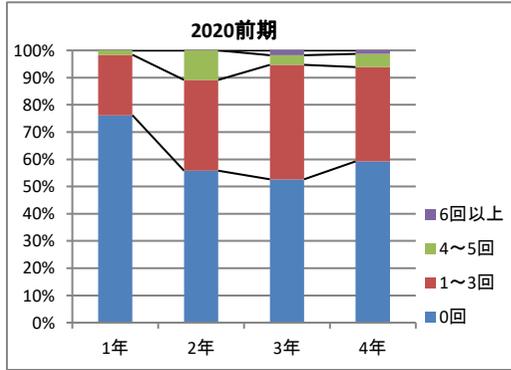


授業アンケート 令和2年度 2020年度

<臨床福祉学科>

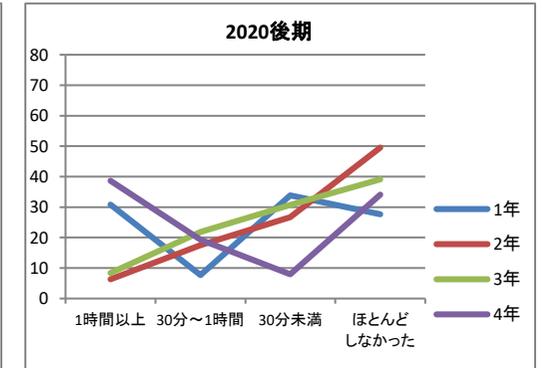
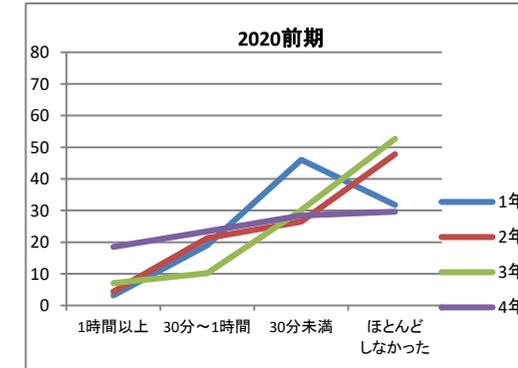
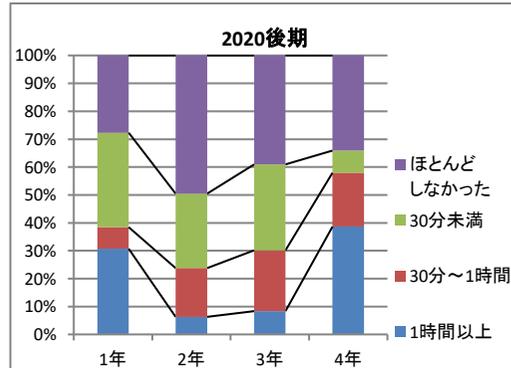
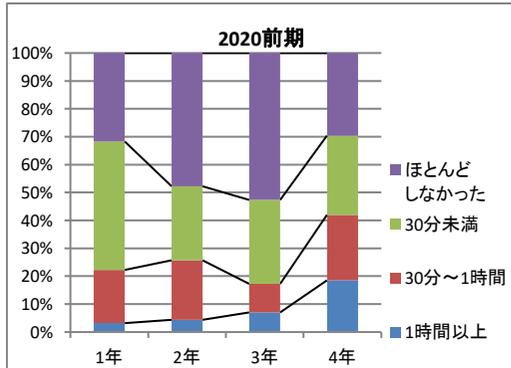
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



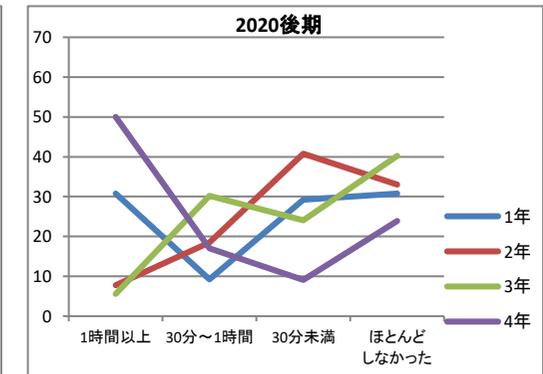
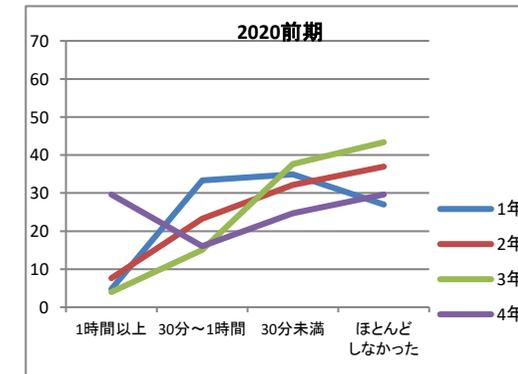
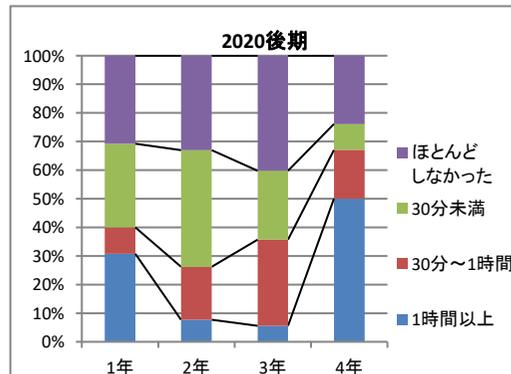
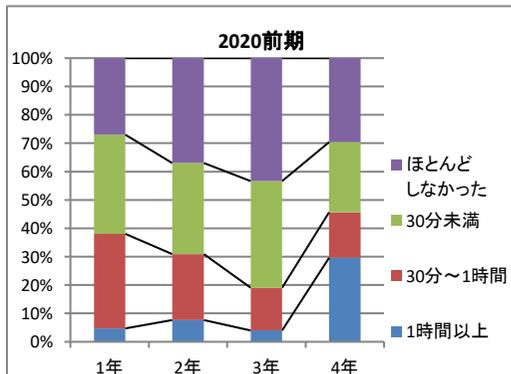
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



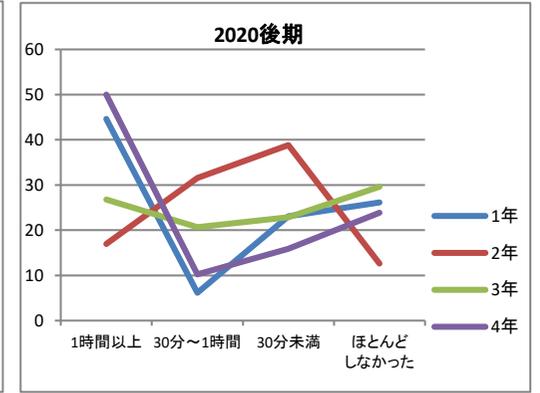
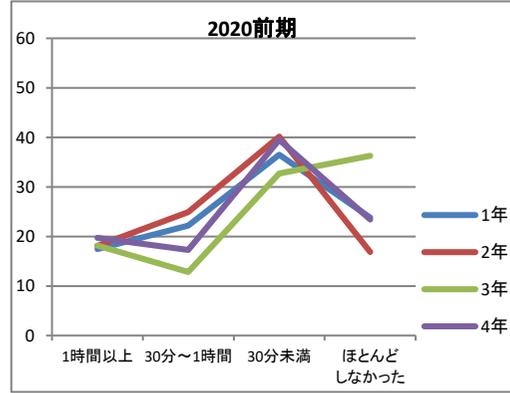
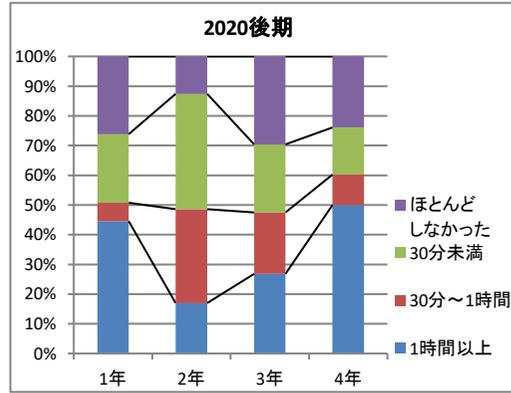
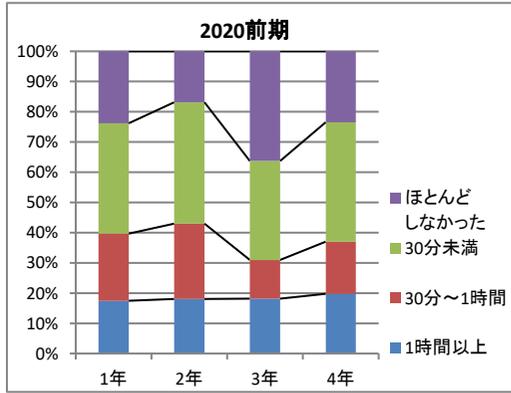
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



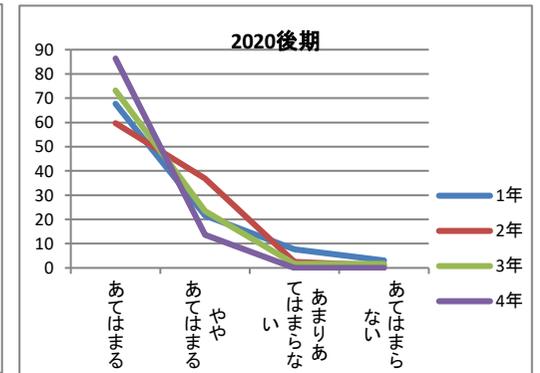
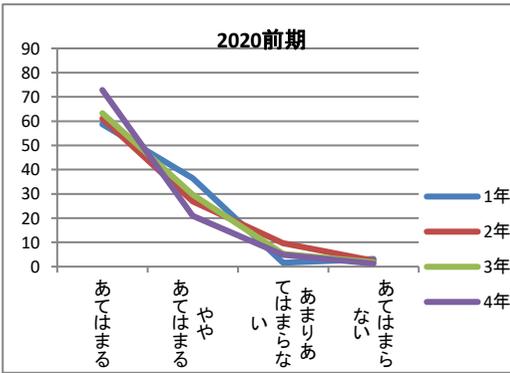
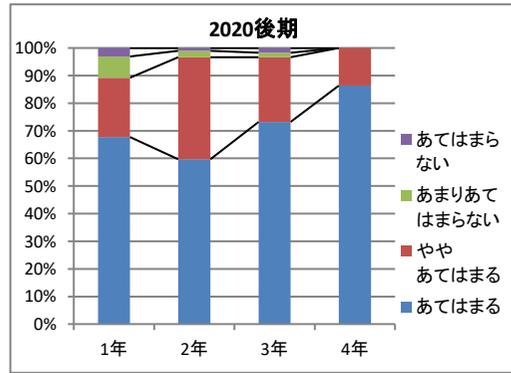
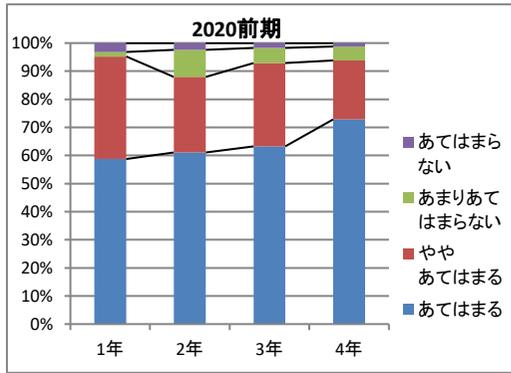
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



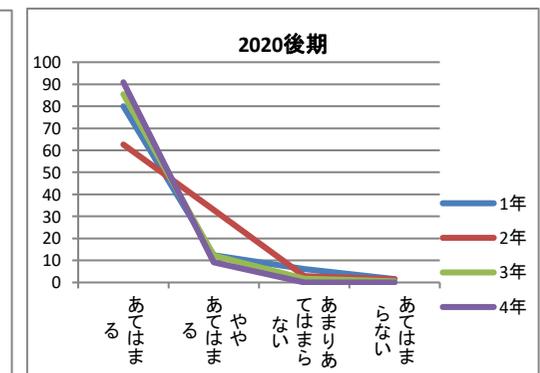
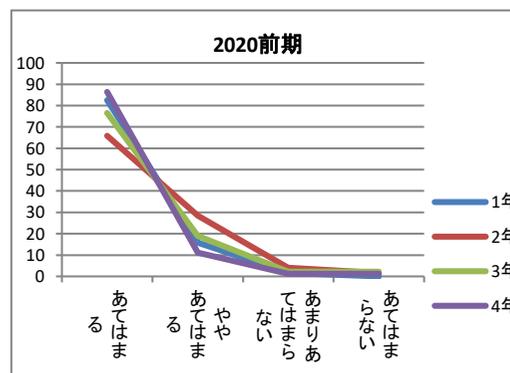
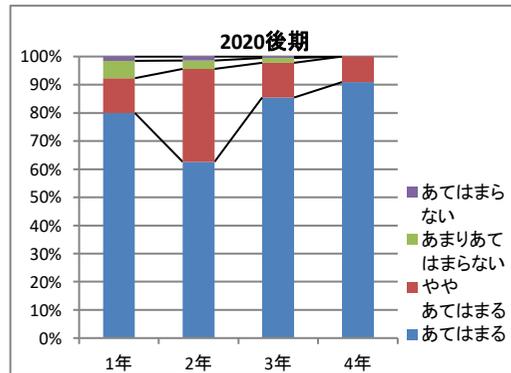
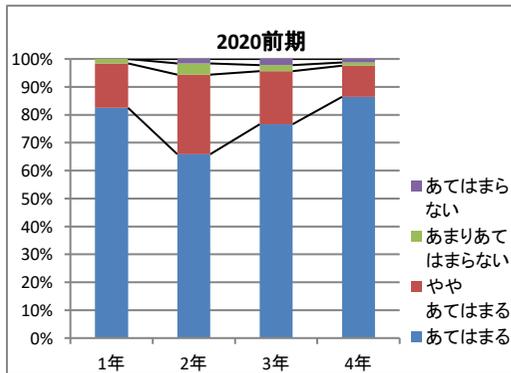
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



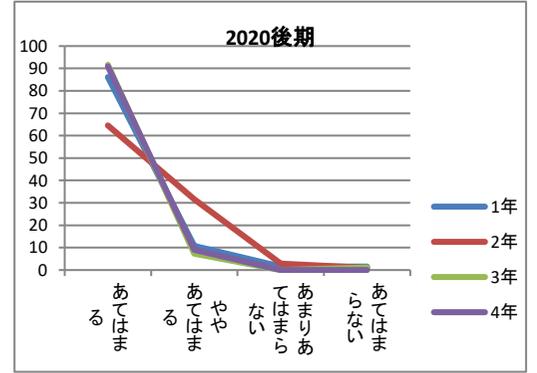
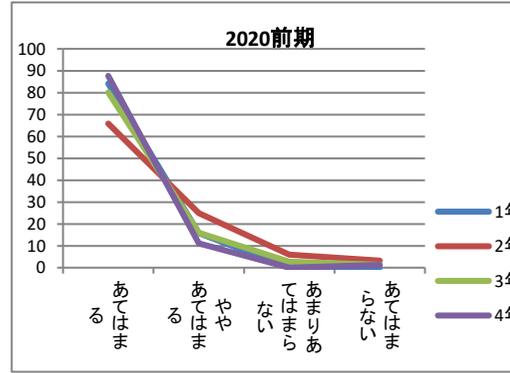
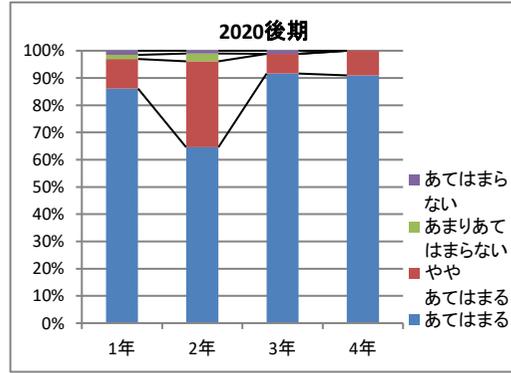
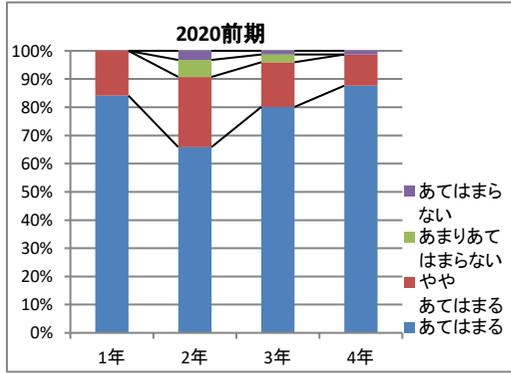
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



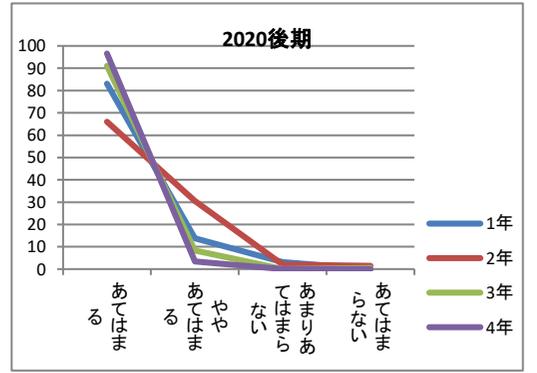
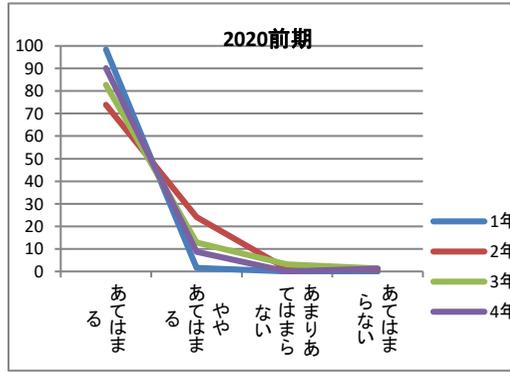
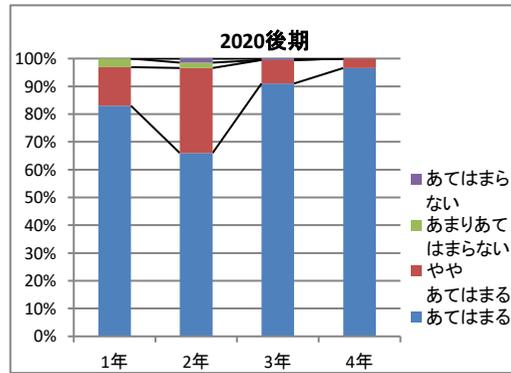
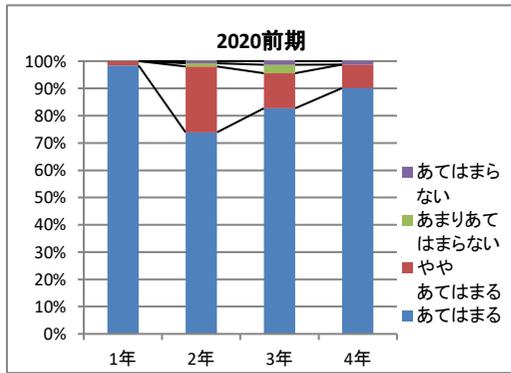
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



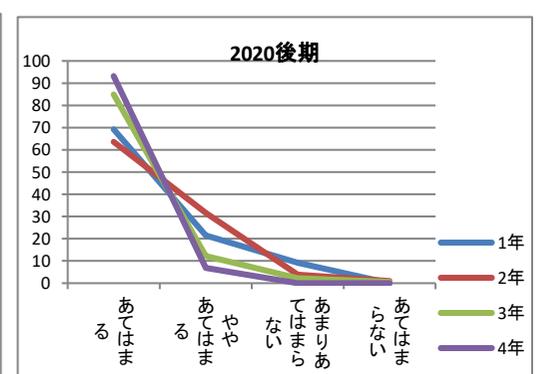
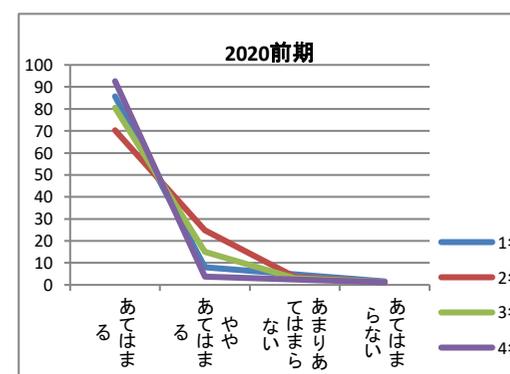
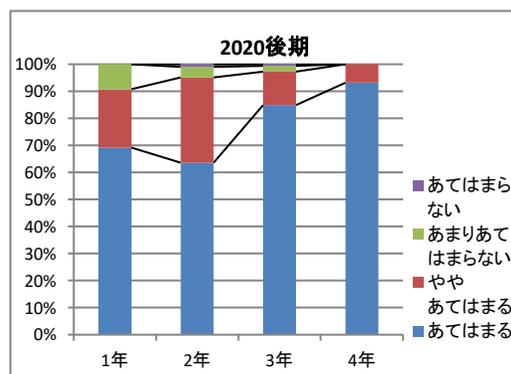
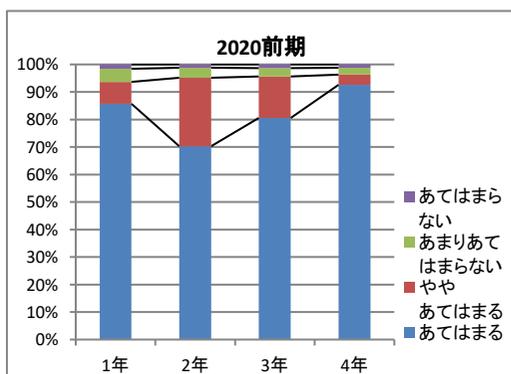
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



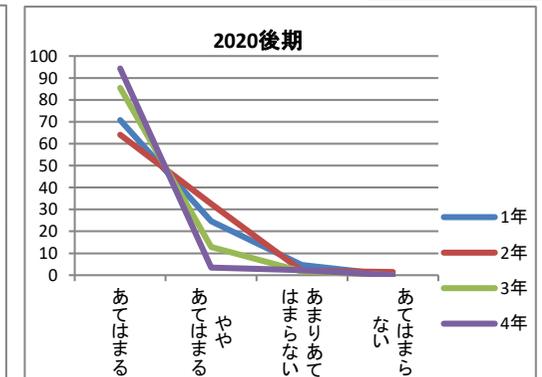
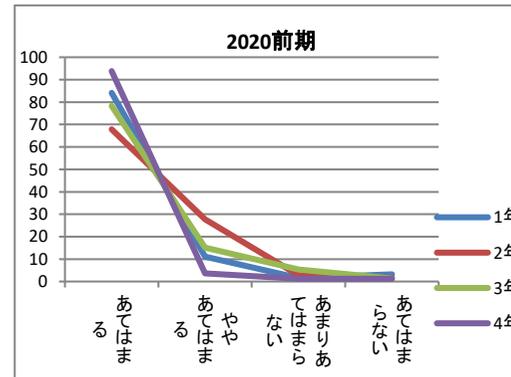
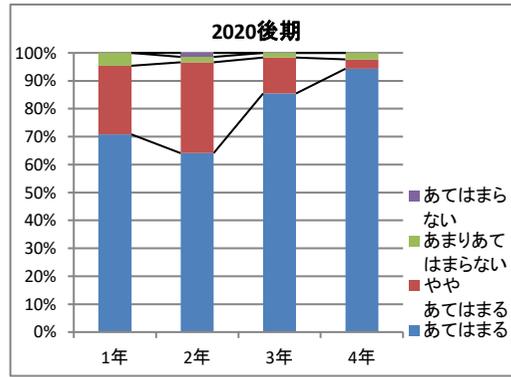
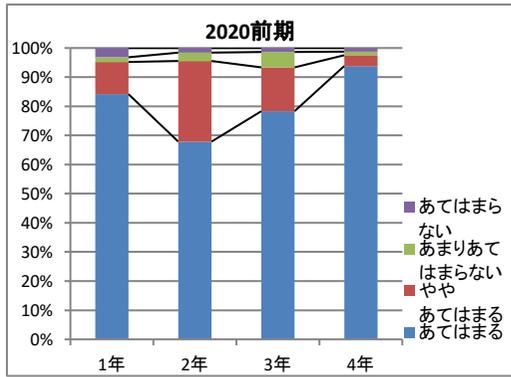
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



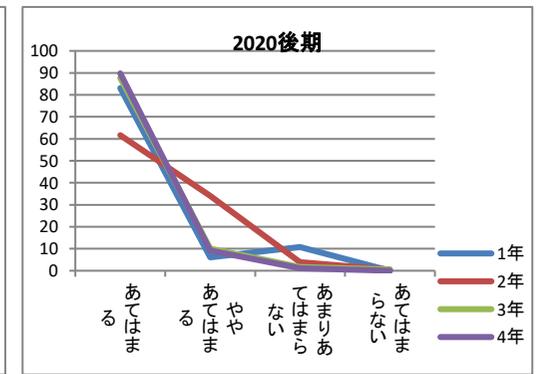
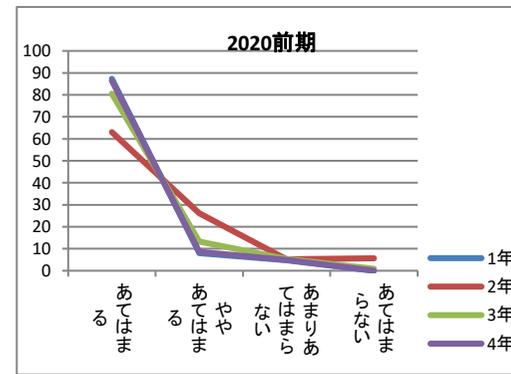
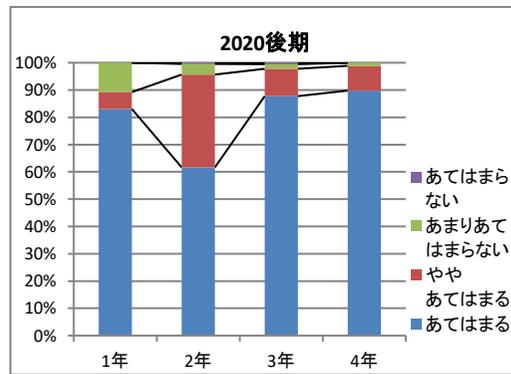
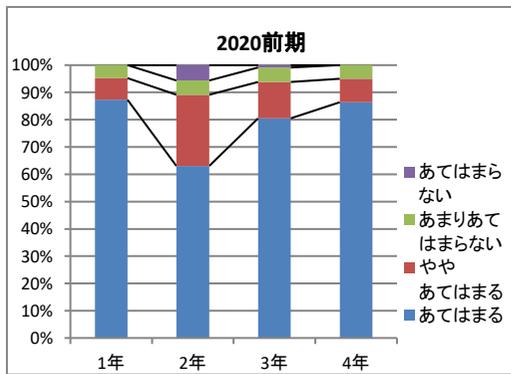
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



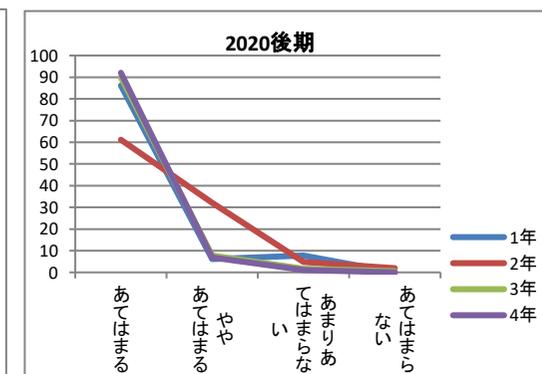
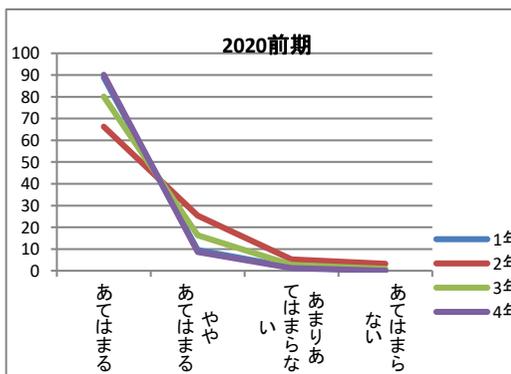
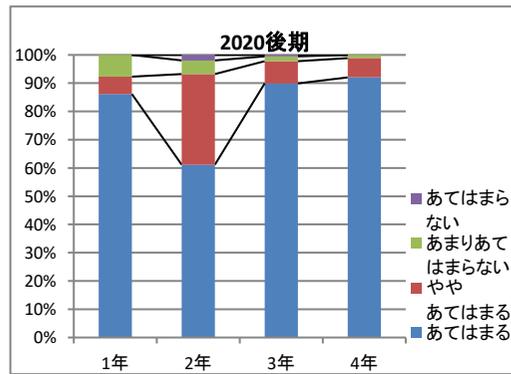
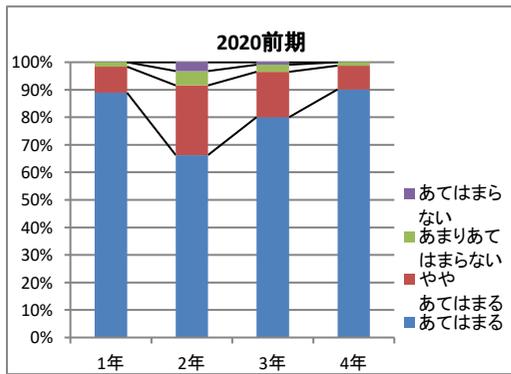
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



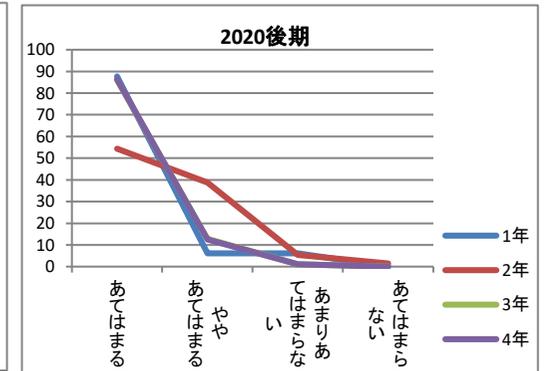
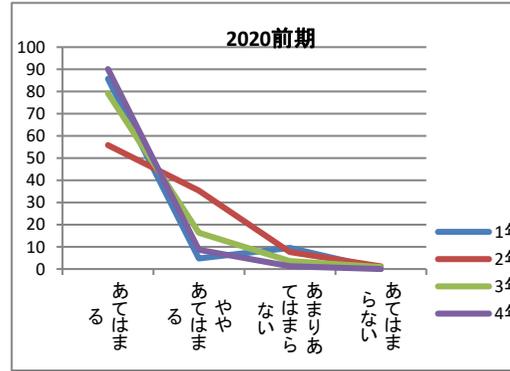
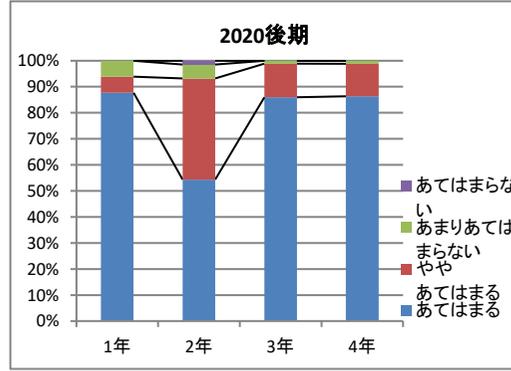
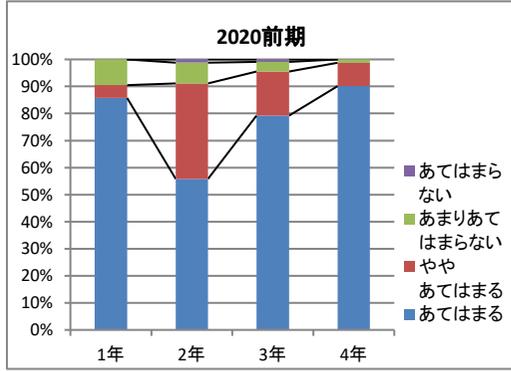
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



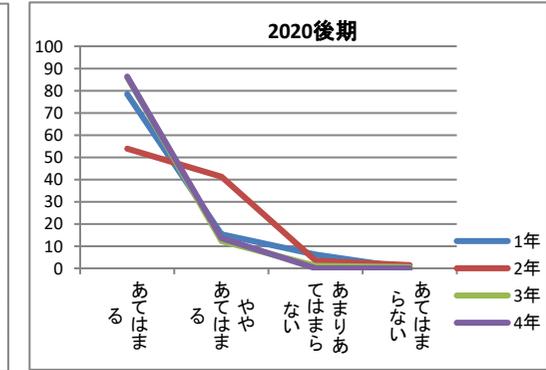
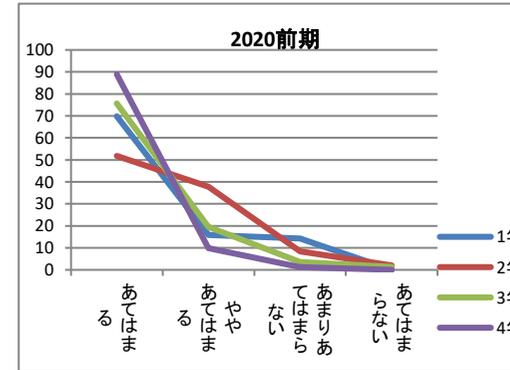
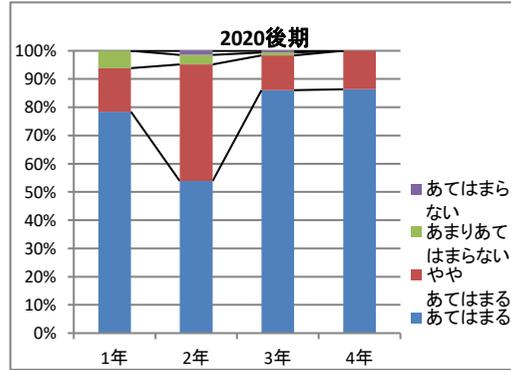
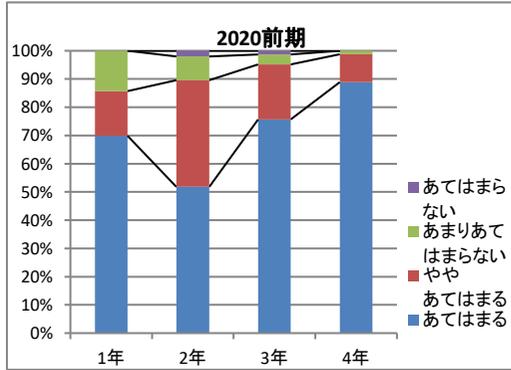
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



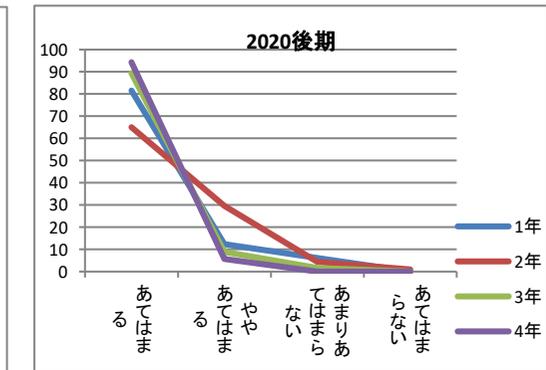
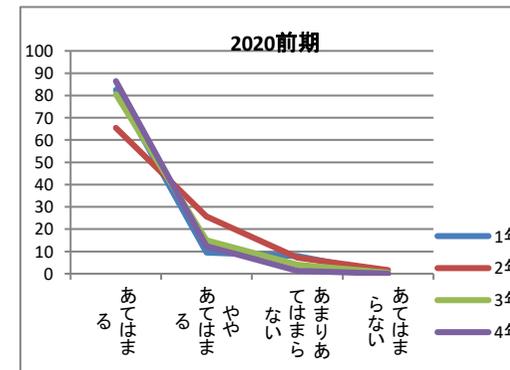
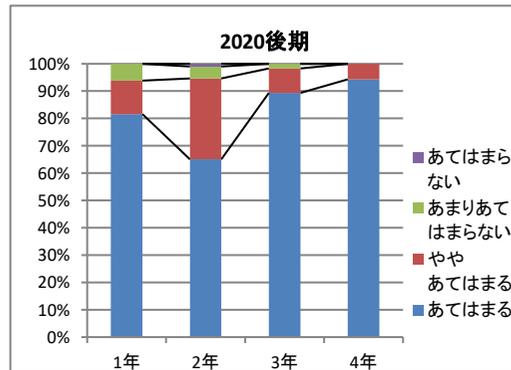
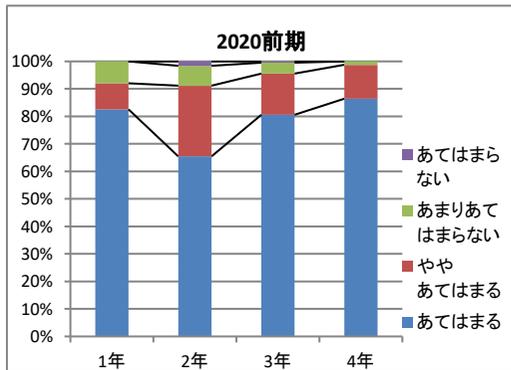
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

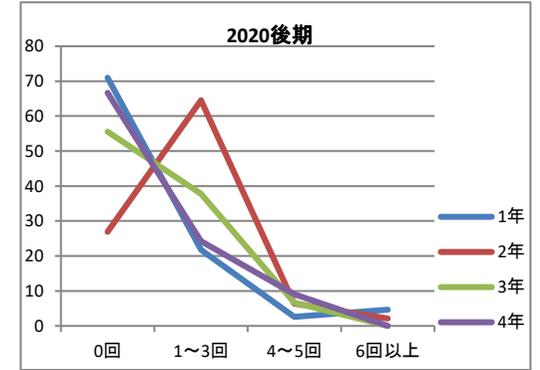
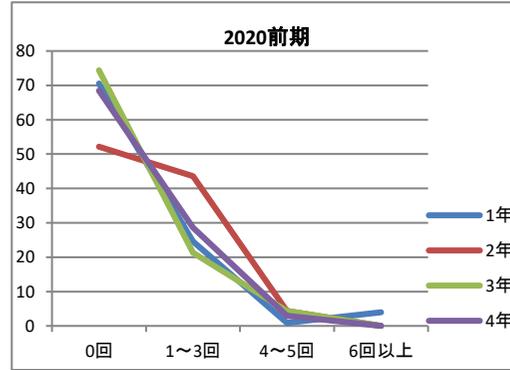
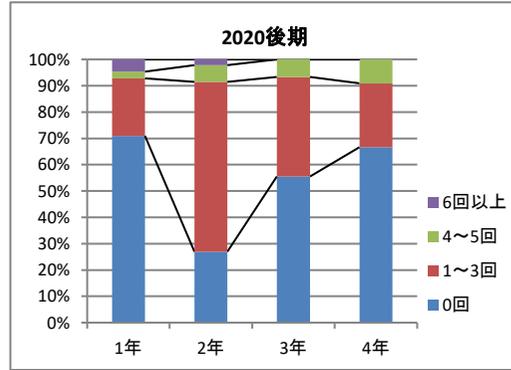
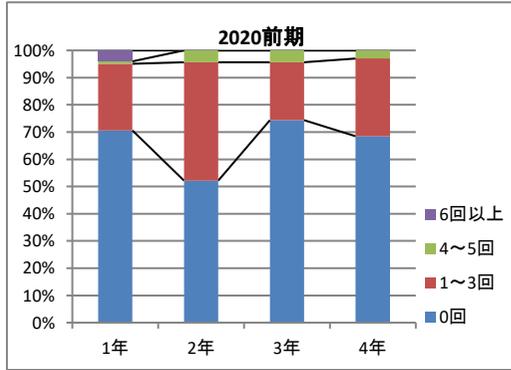


授業アンケート 令和2年度 2020年度

<スポーツ健康福祉学科>

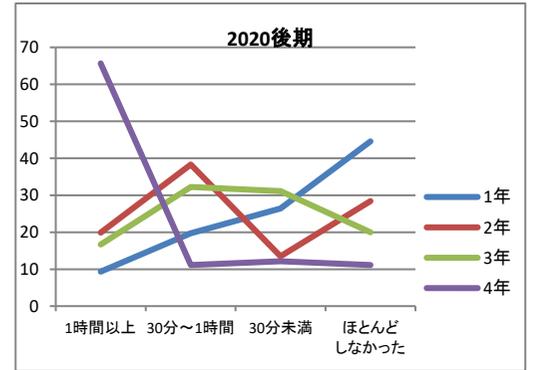
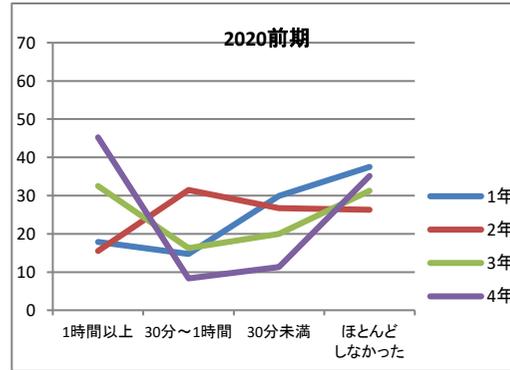
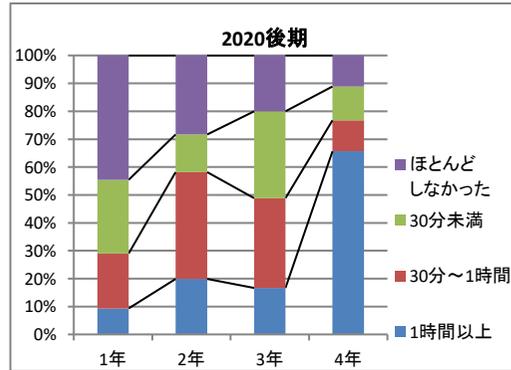
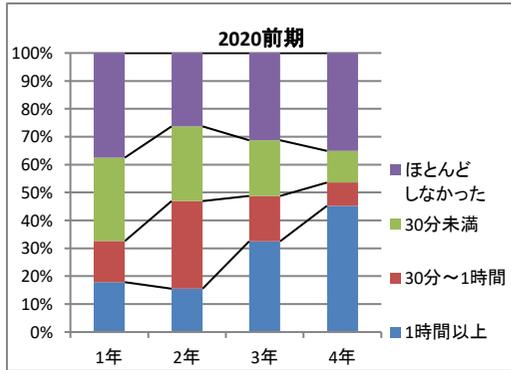
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



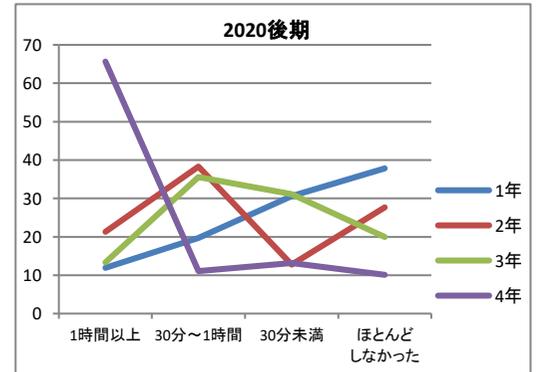
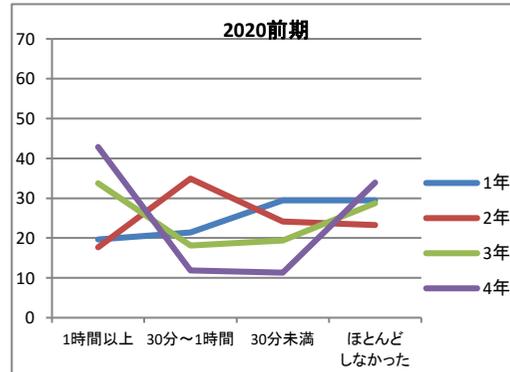
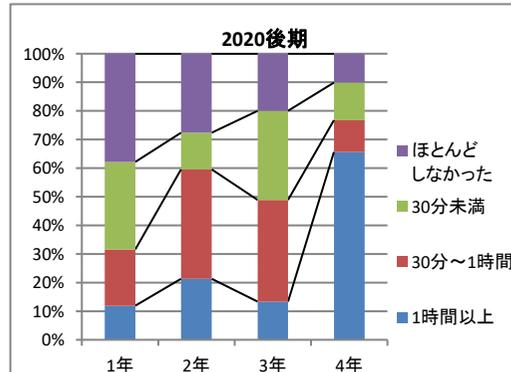
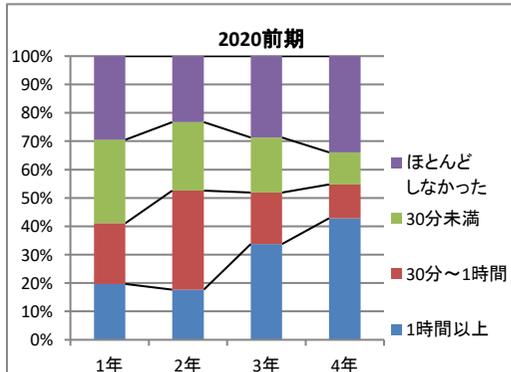
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



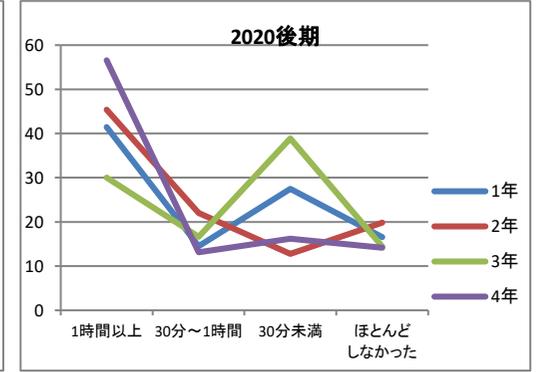
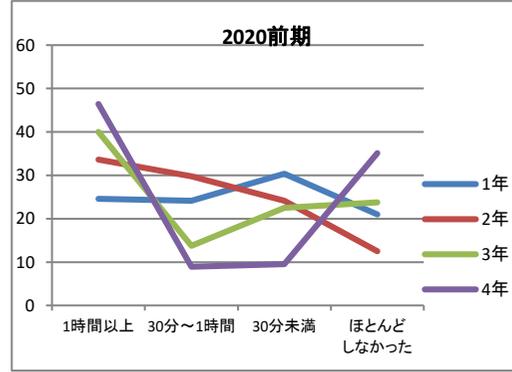
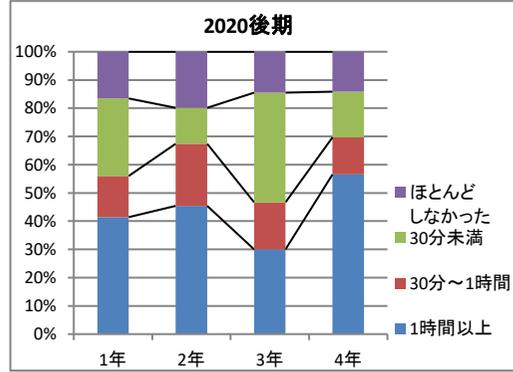
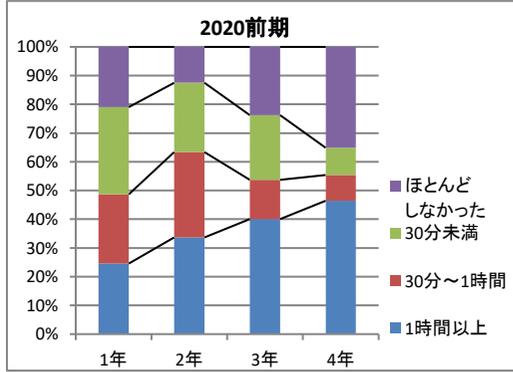
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



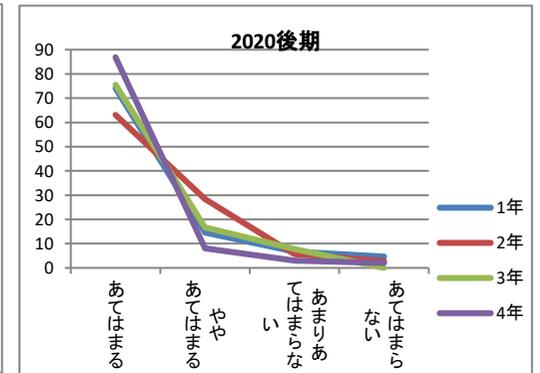
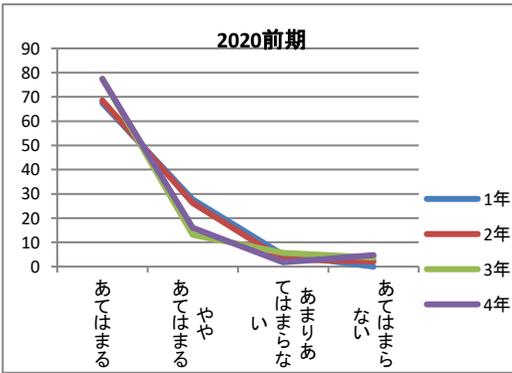
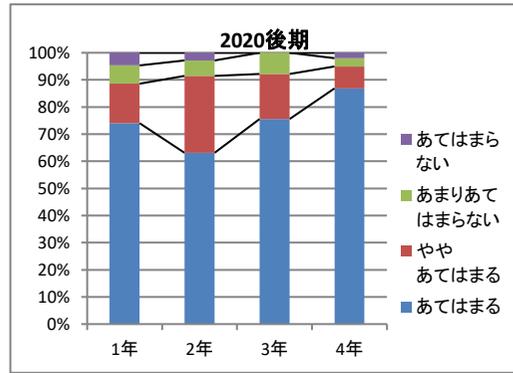
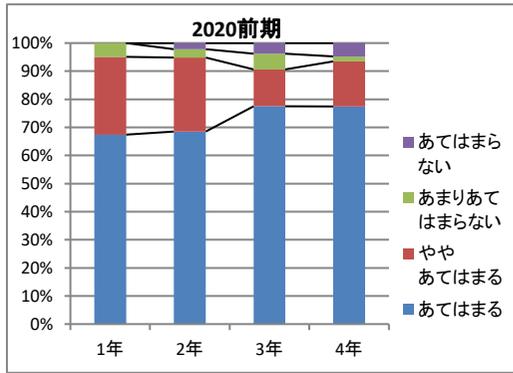
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



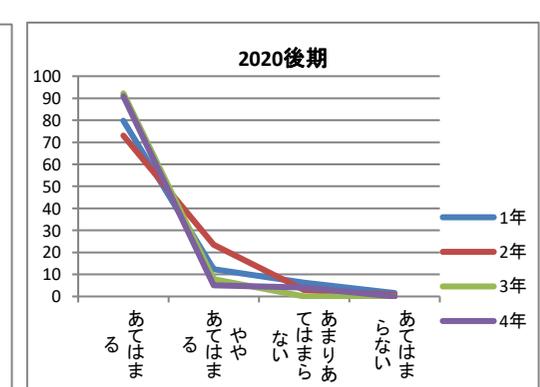
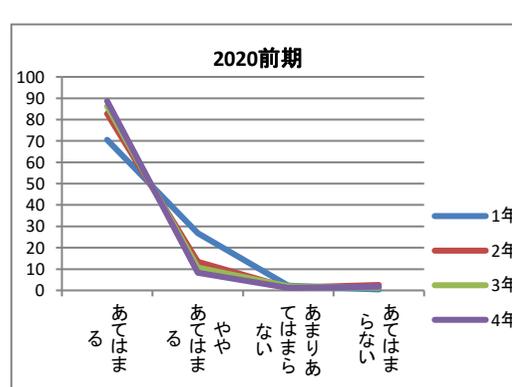
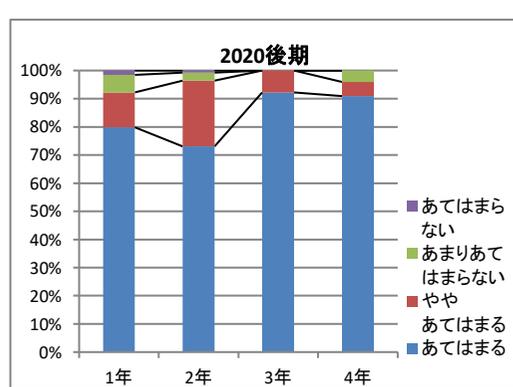
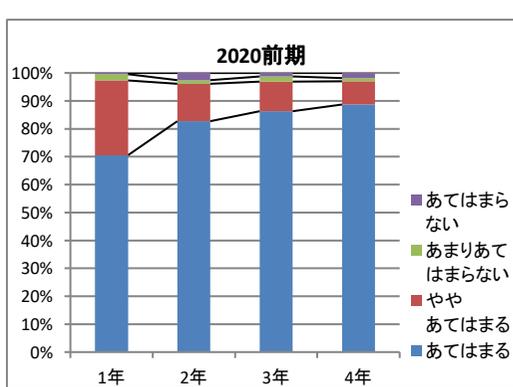
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



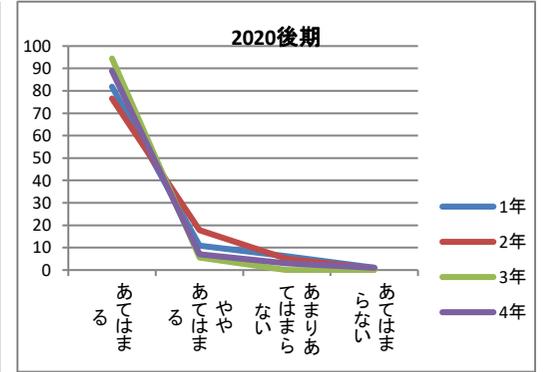
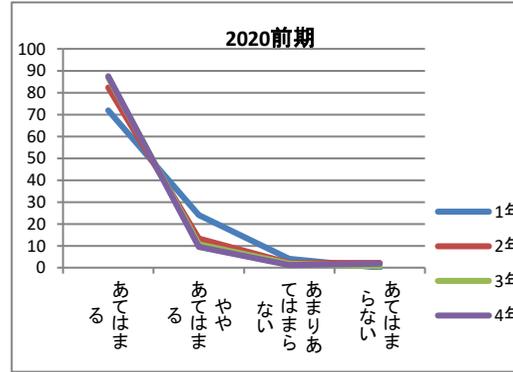
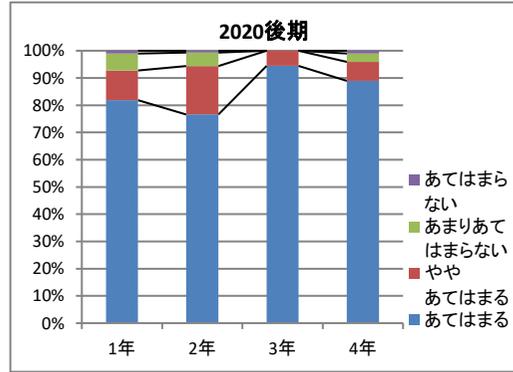
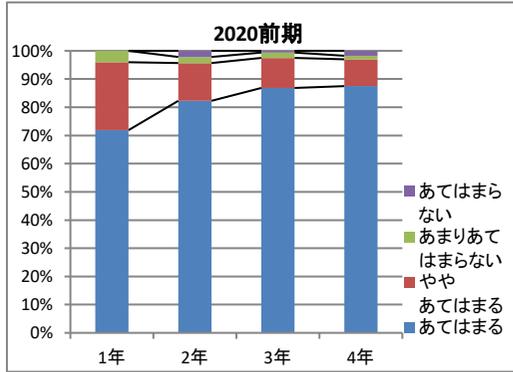
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



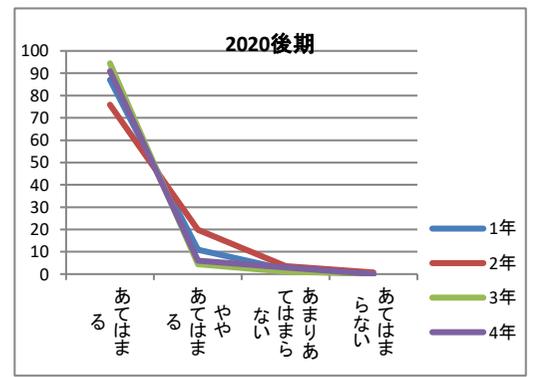
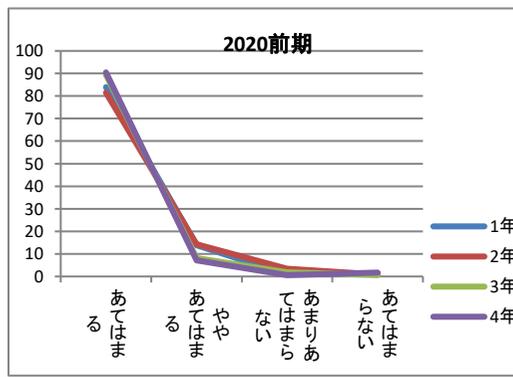
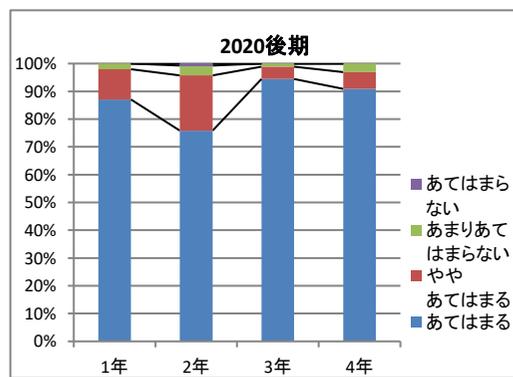
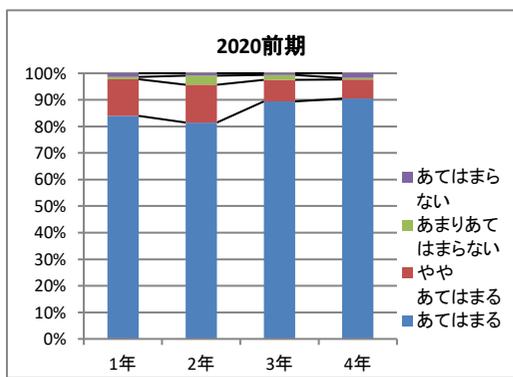
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



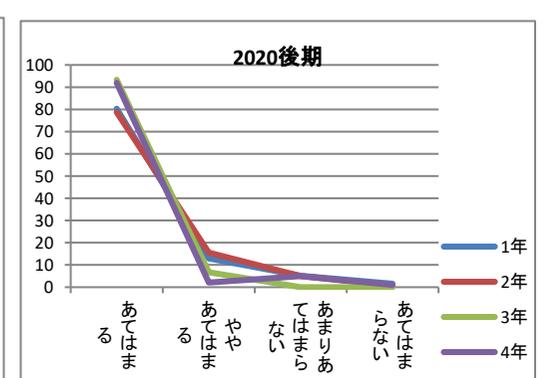
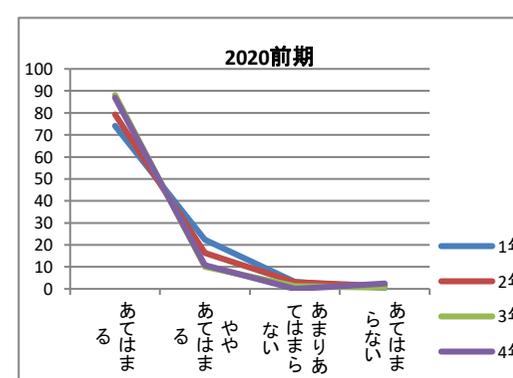
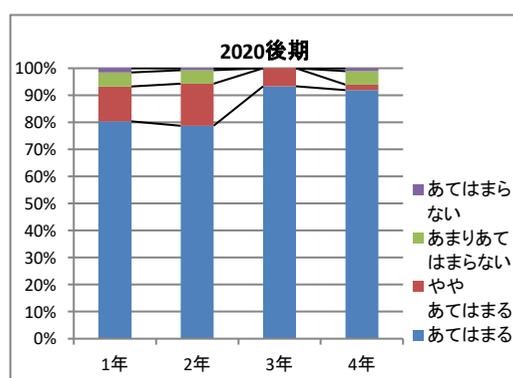
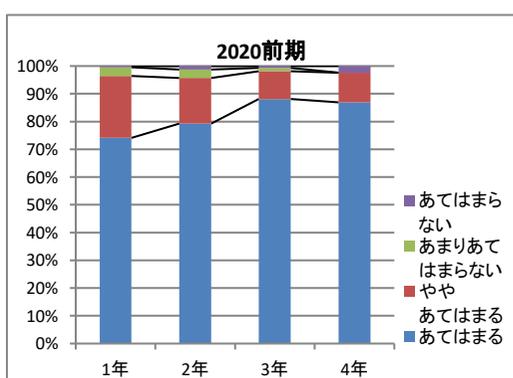
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



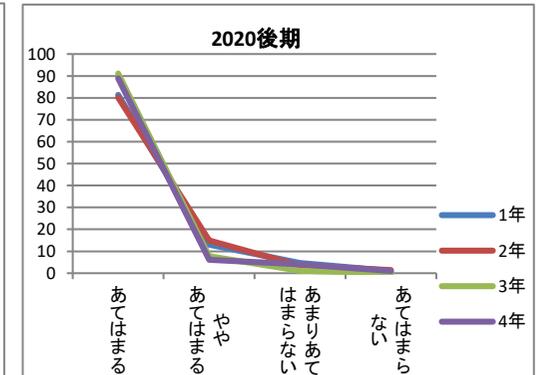
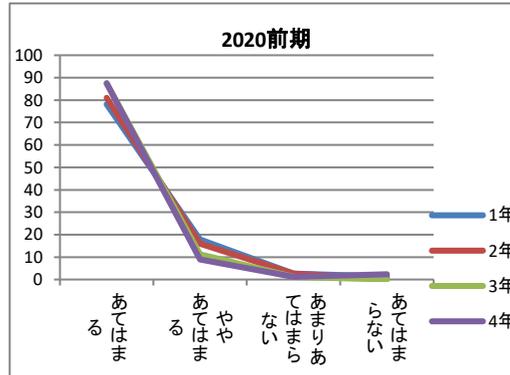
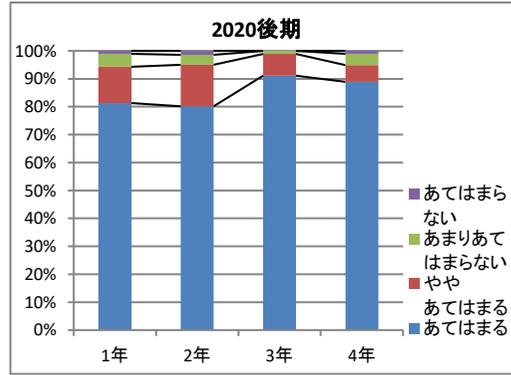
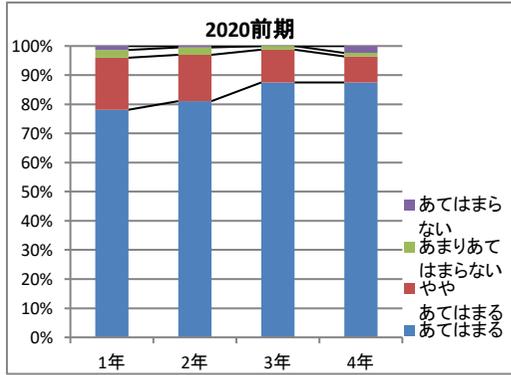
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



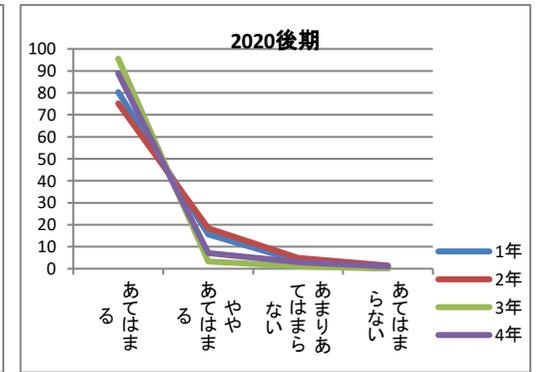
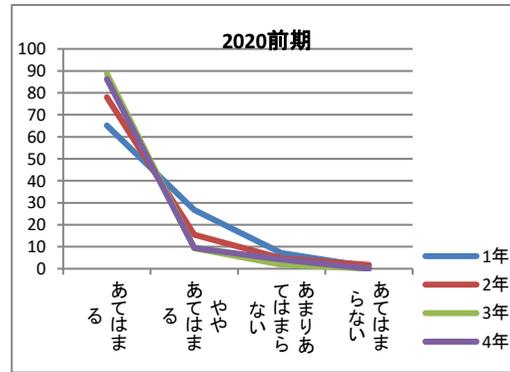
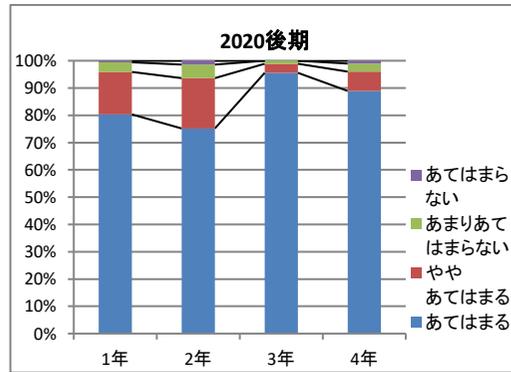
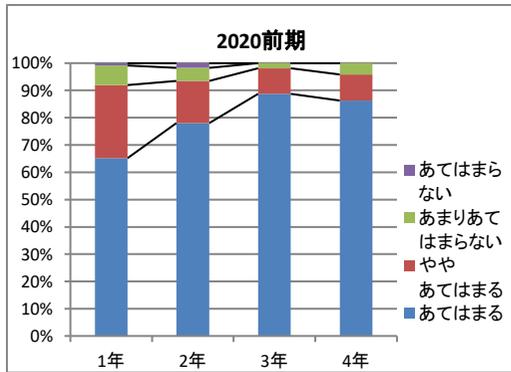
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



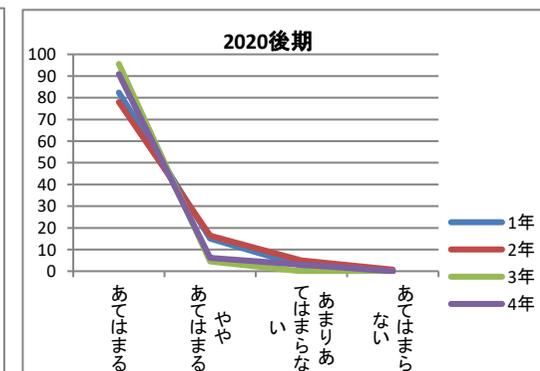
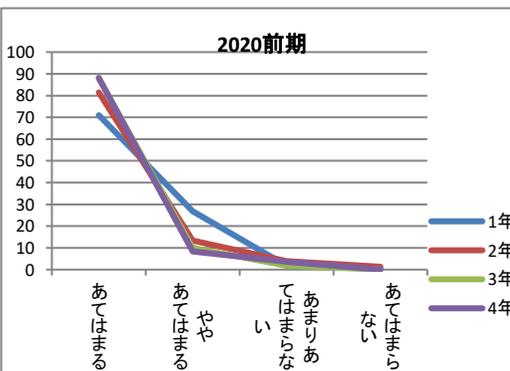
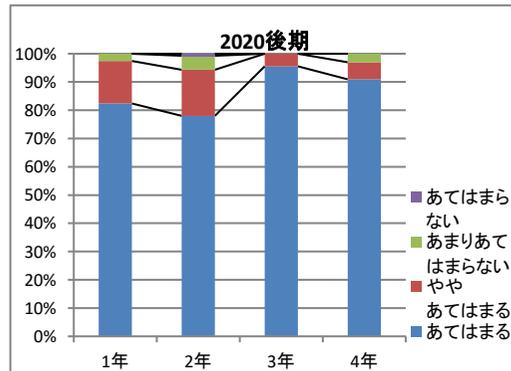
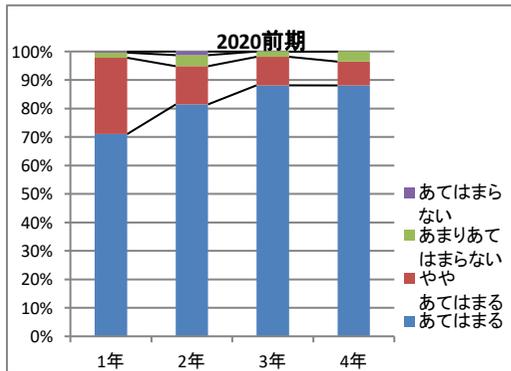
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



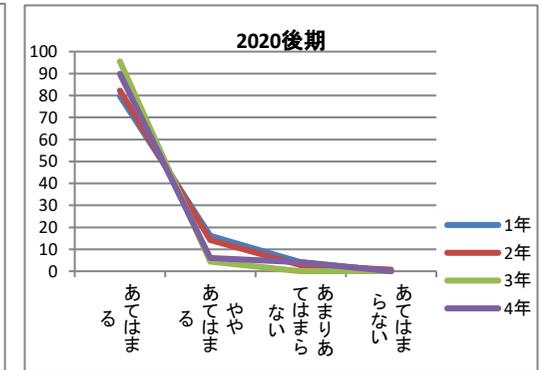
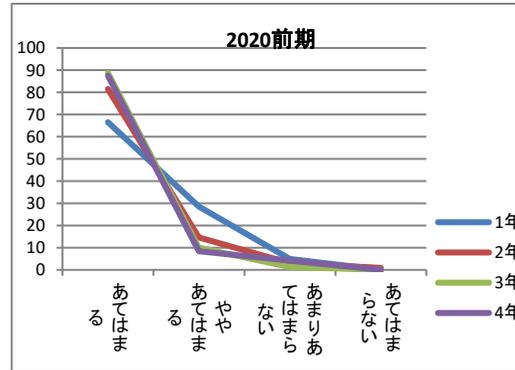
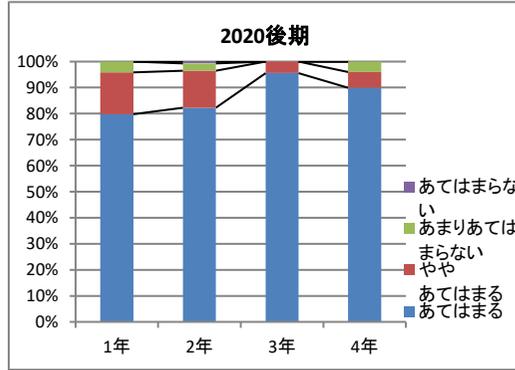
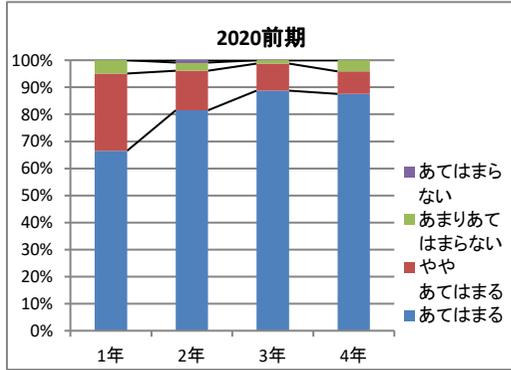
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



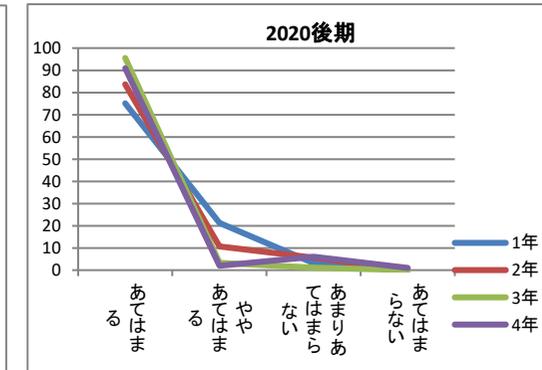
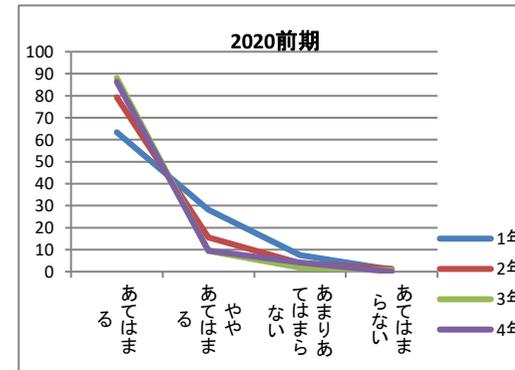
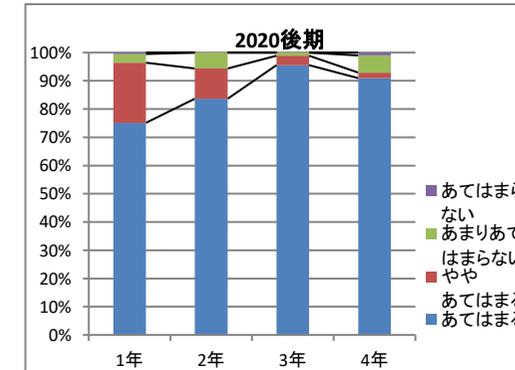
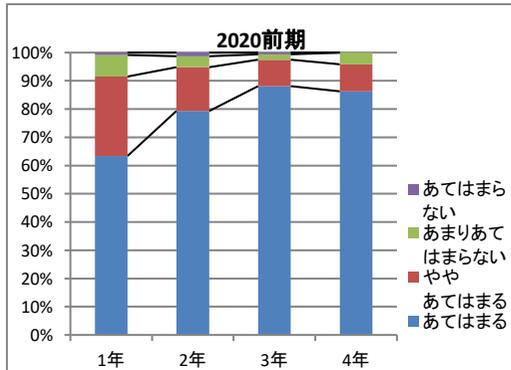
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



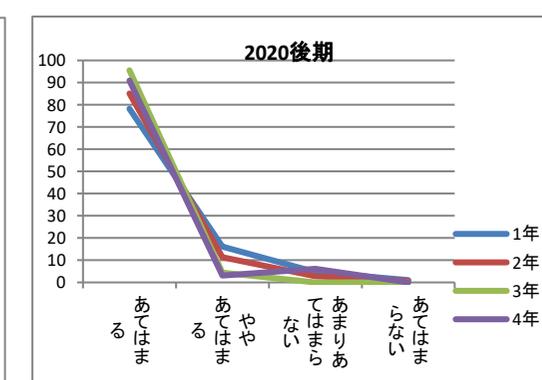
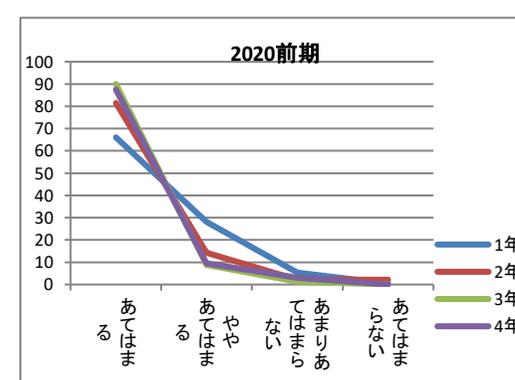
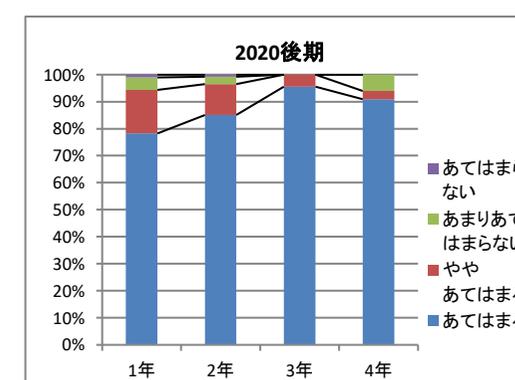
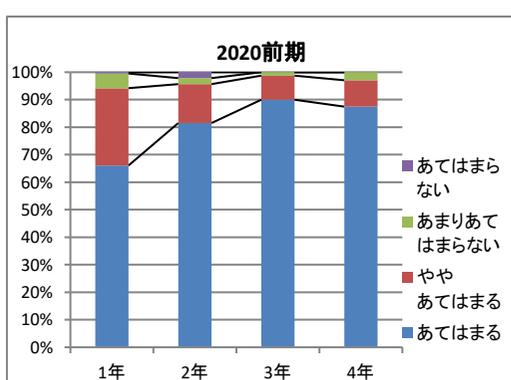
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

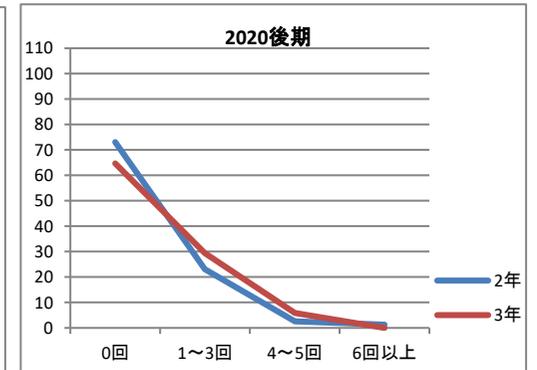
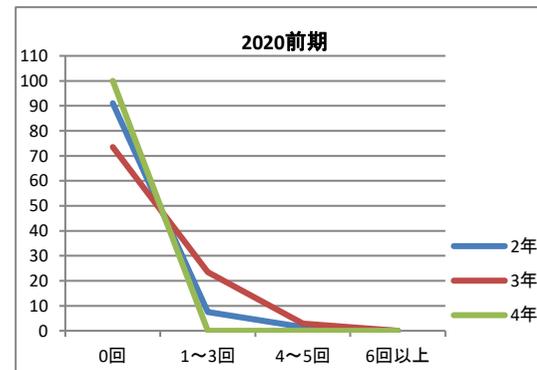
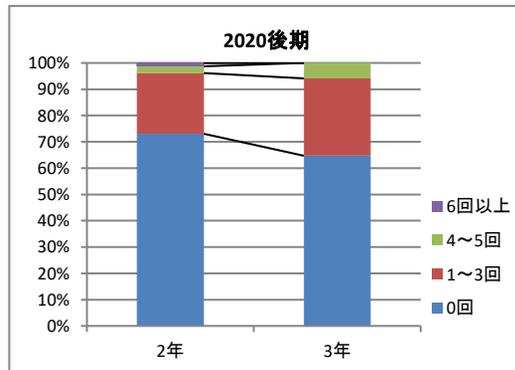
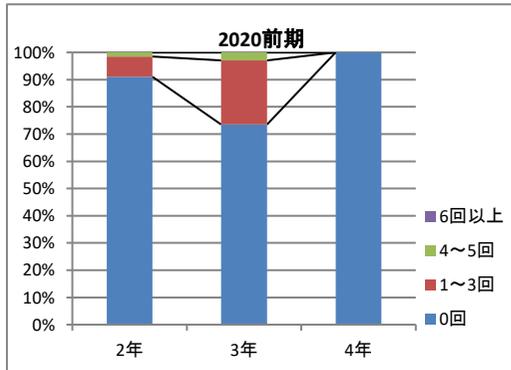


授業アンケート 令和2年度 2020年度

<作業療法学科>

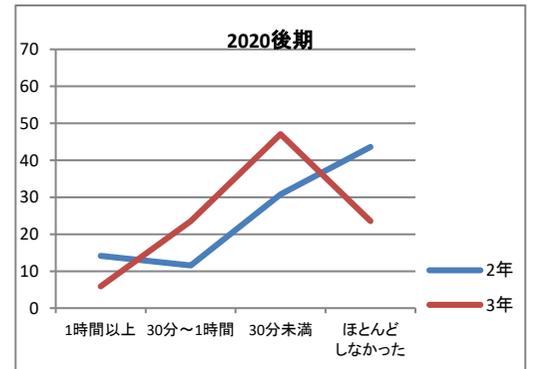
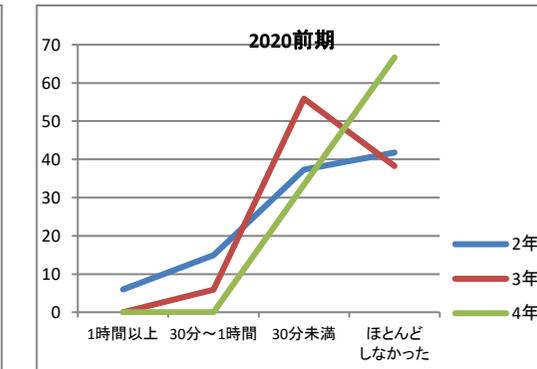
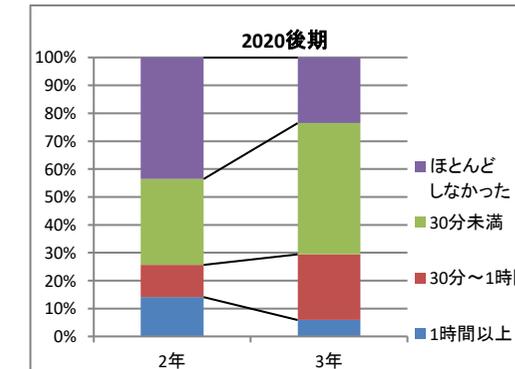
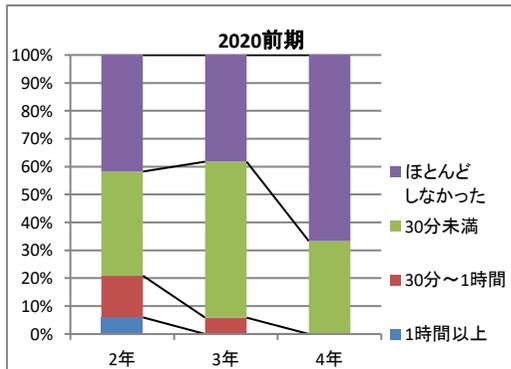
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



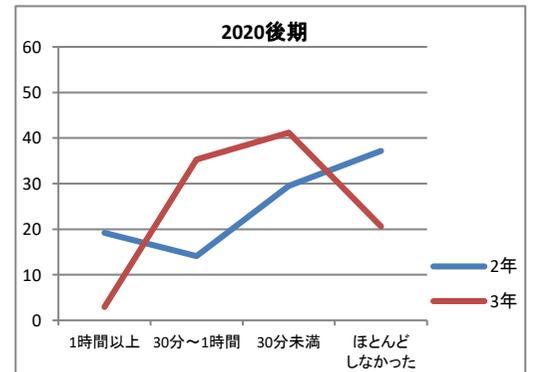
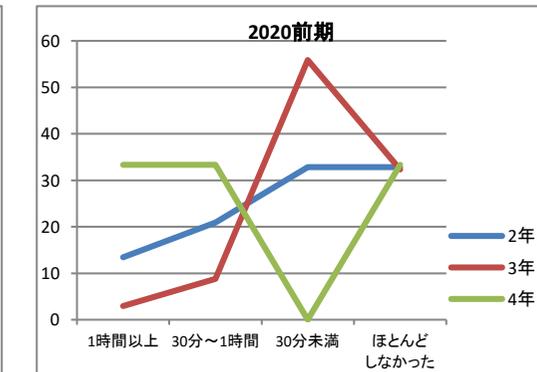
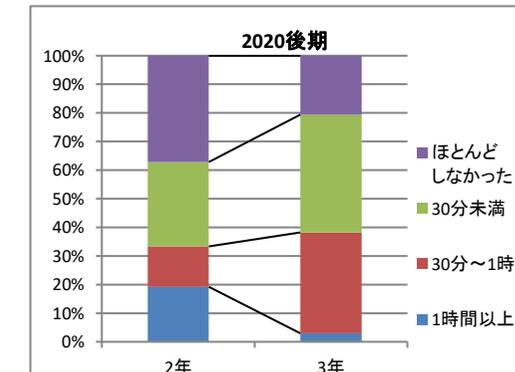
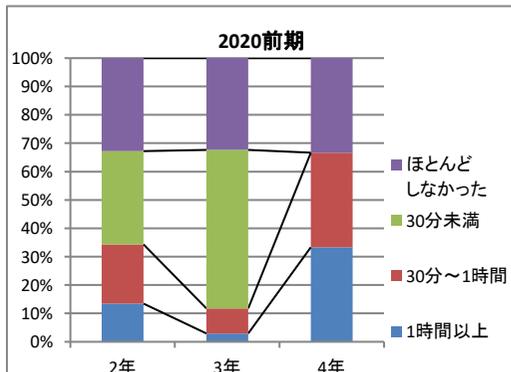
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



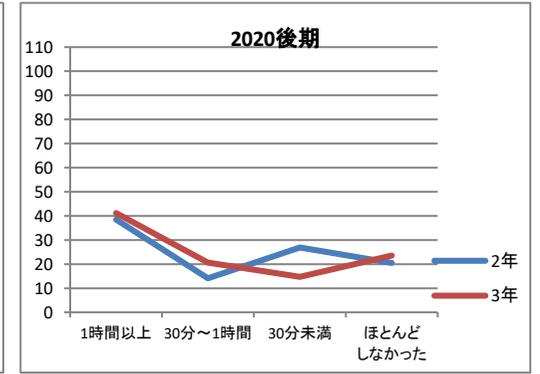
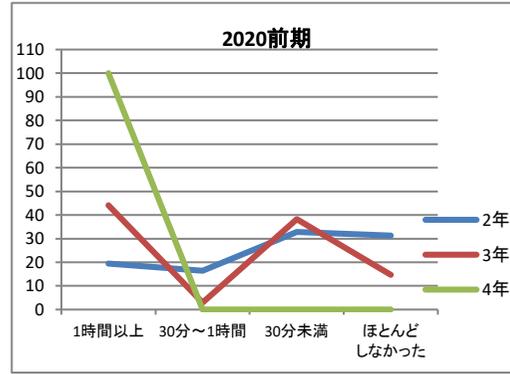
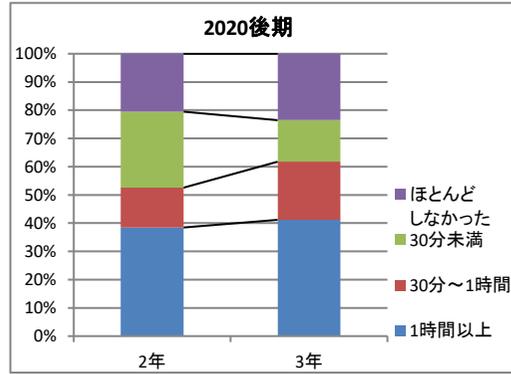
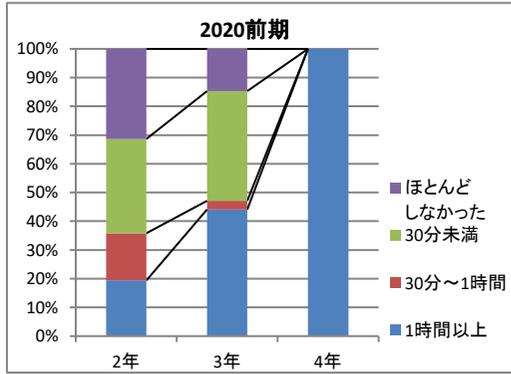
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



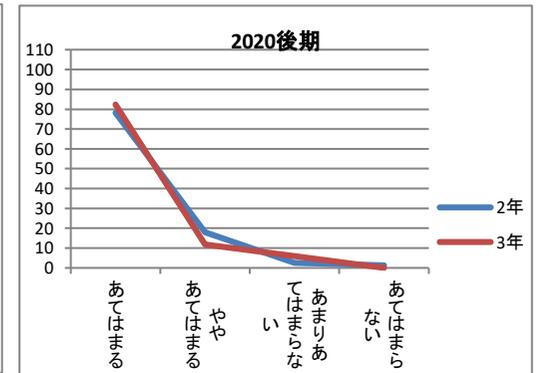
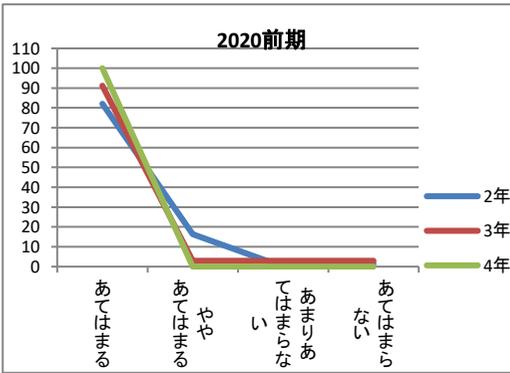
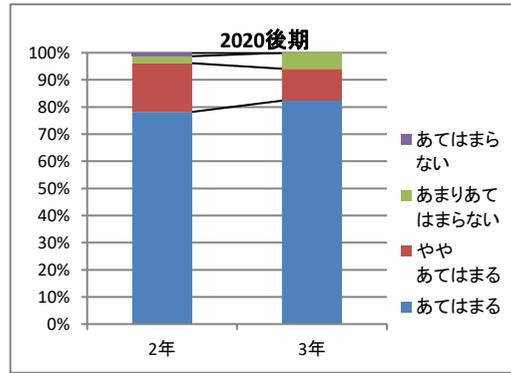
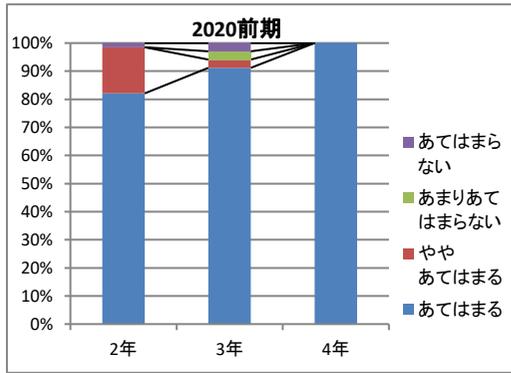
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



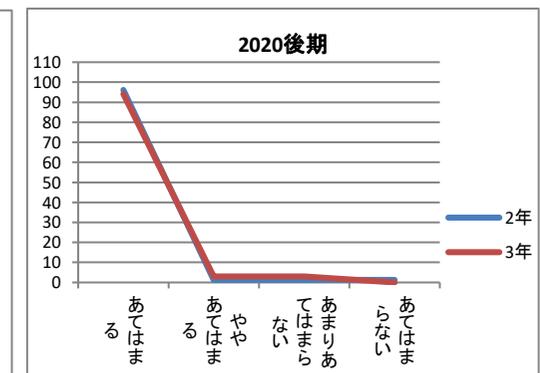
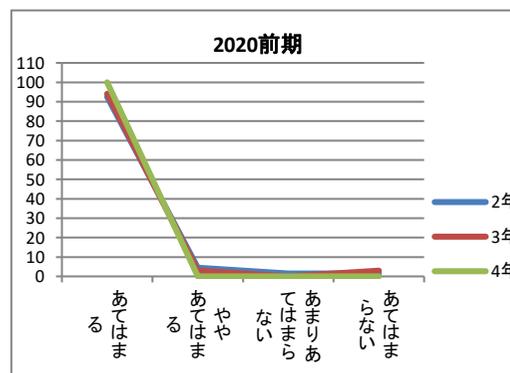
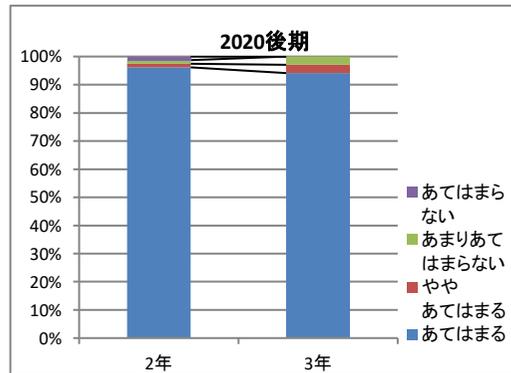
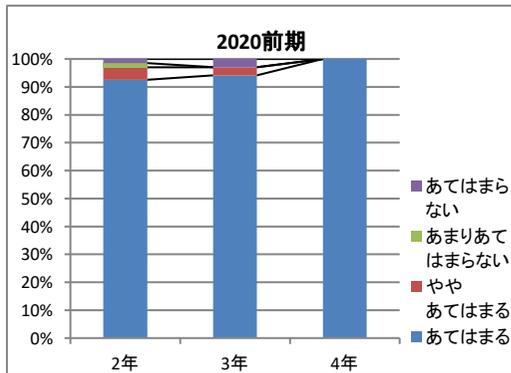
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



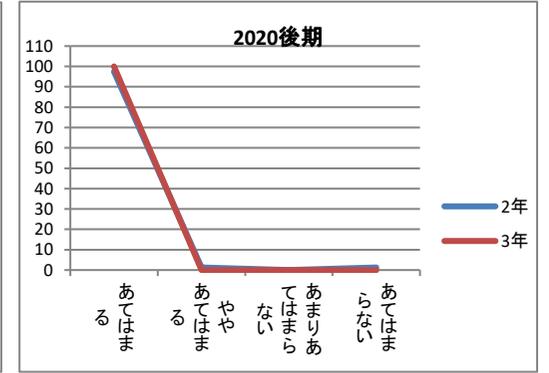
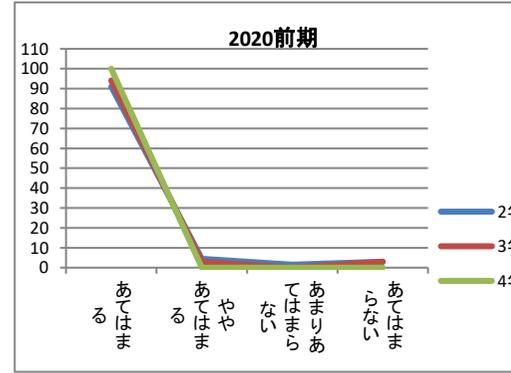
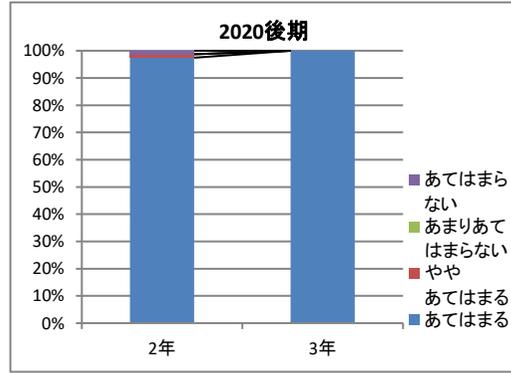
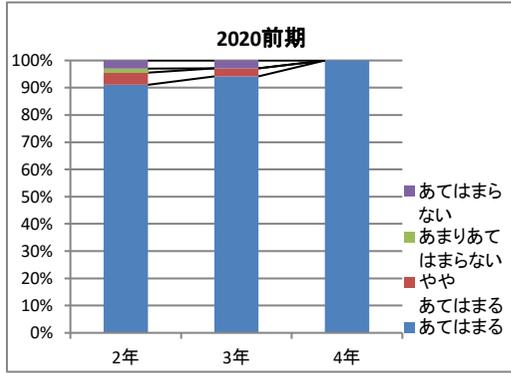
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



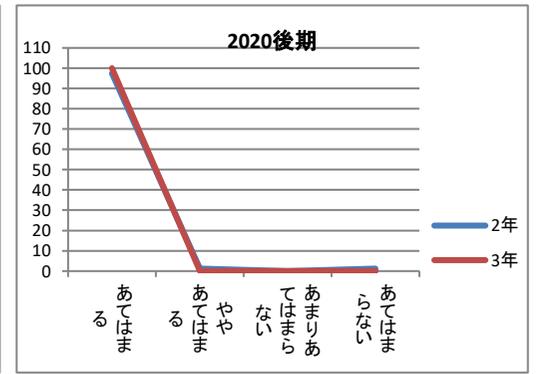
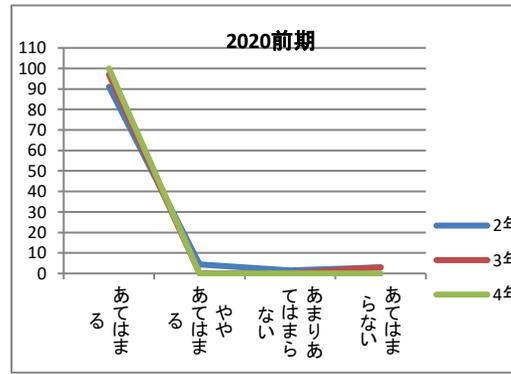
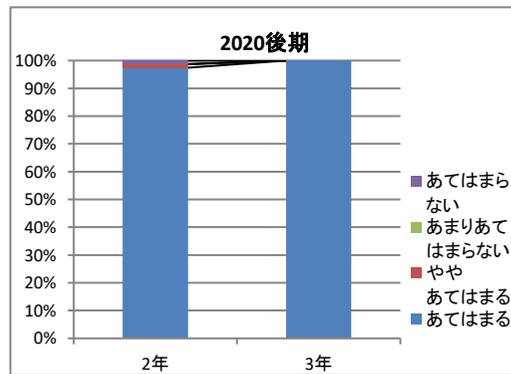
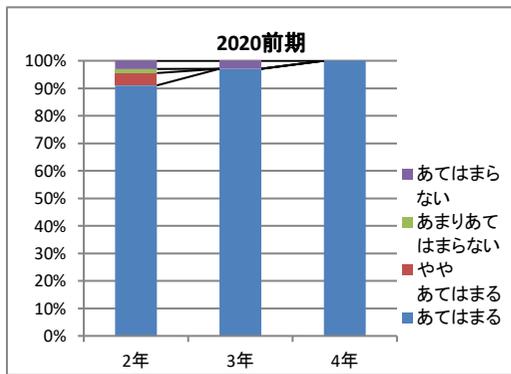
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



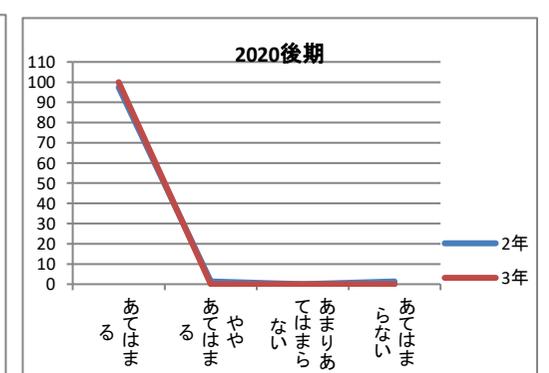
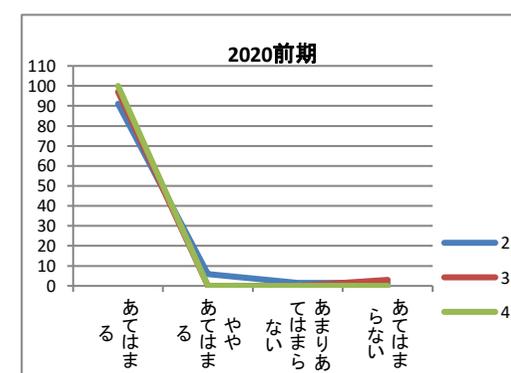
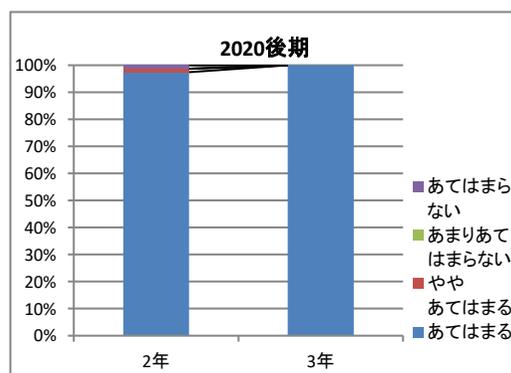
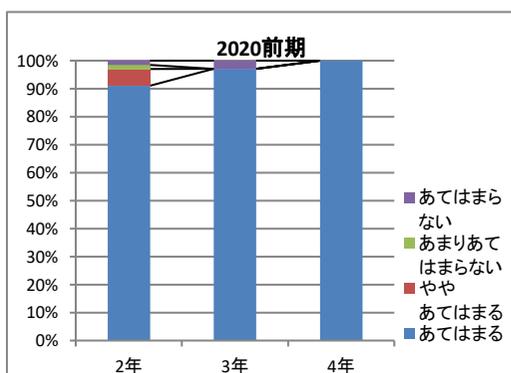
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



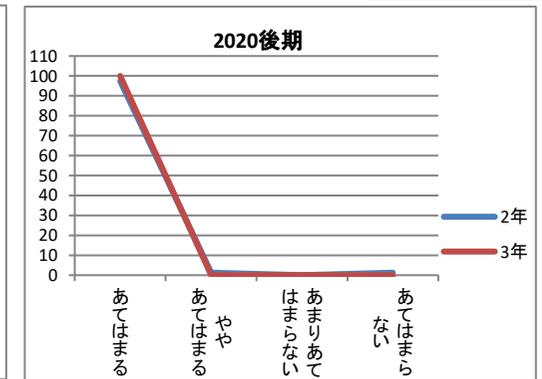
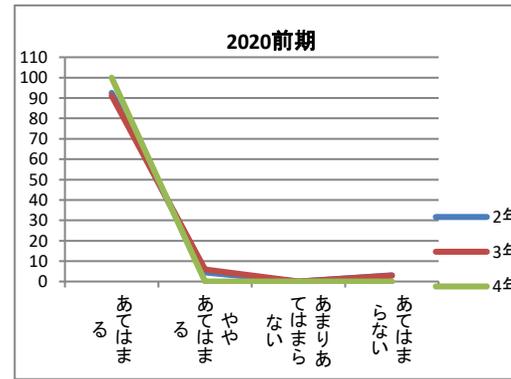
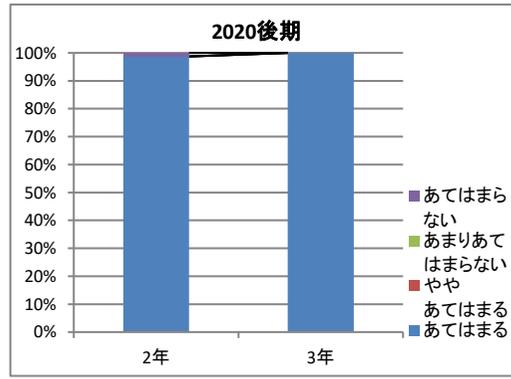
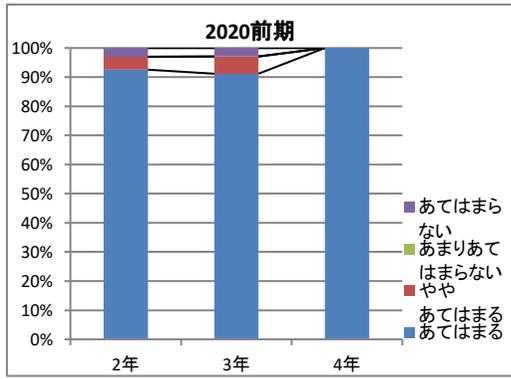
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



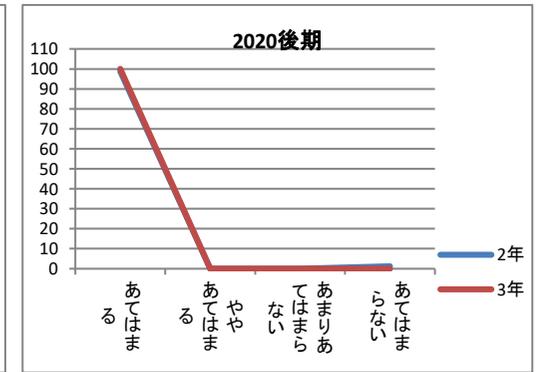
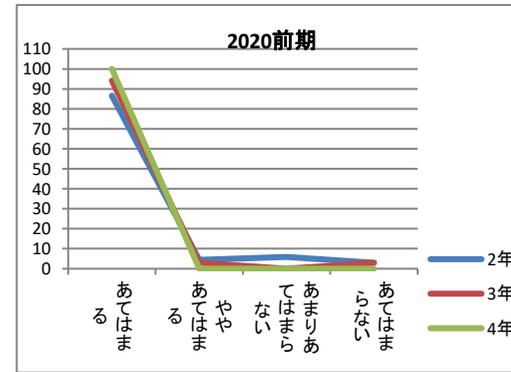
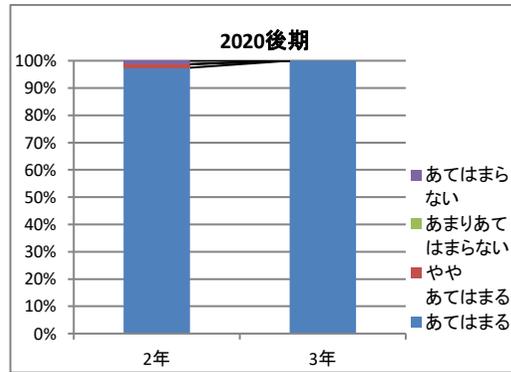
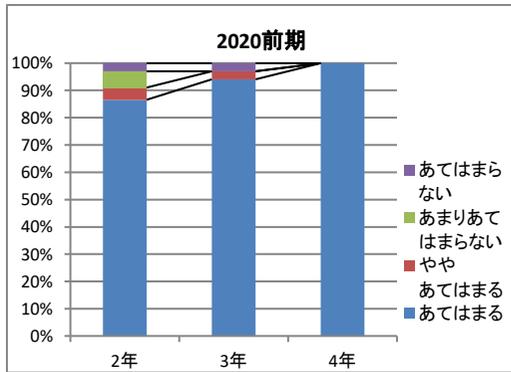
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



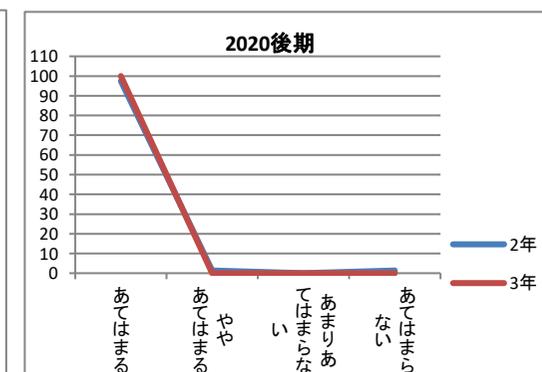
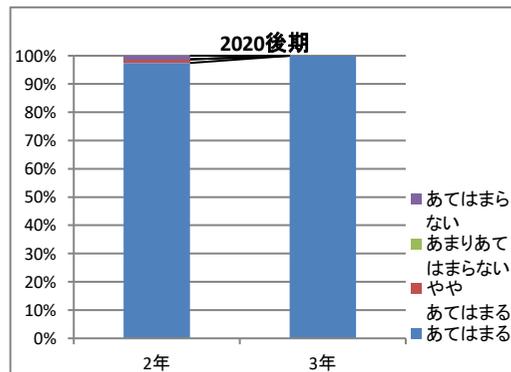
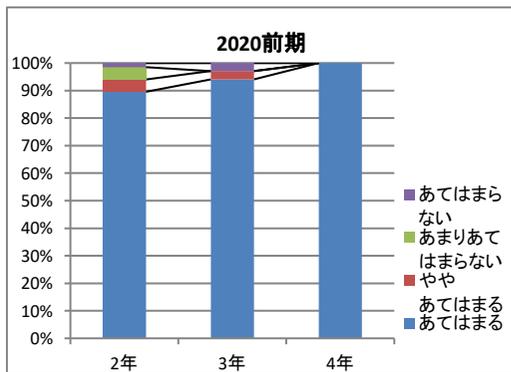
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



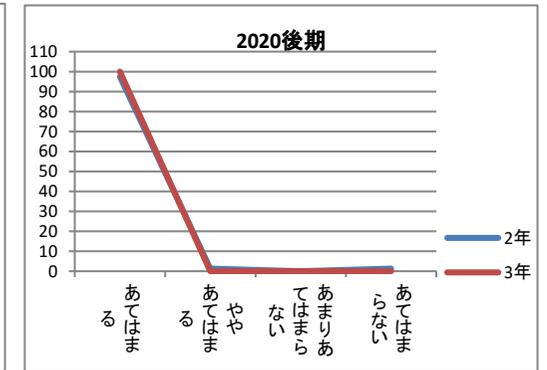
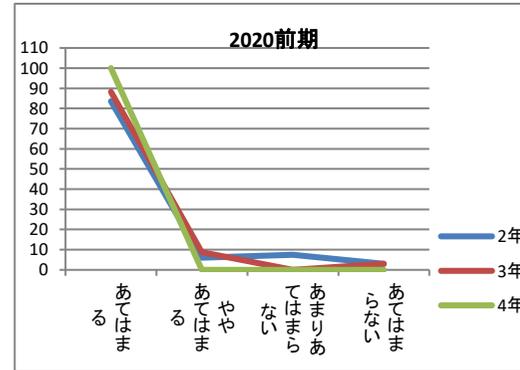
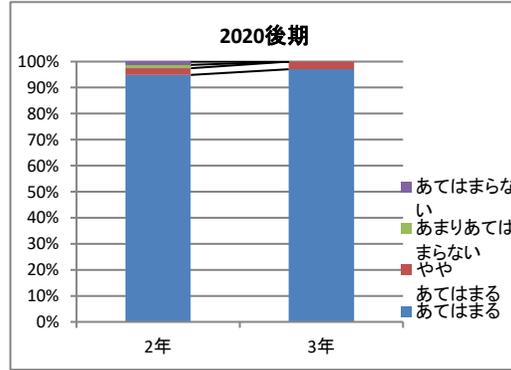
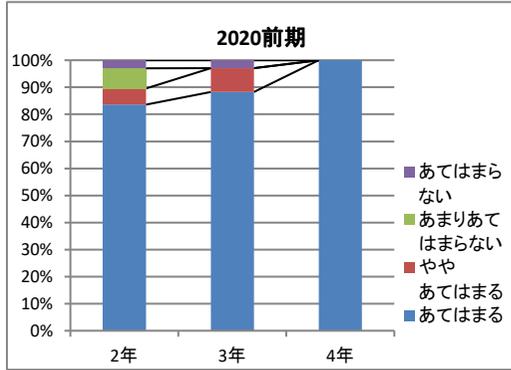
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



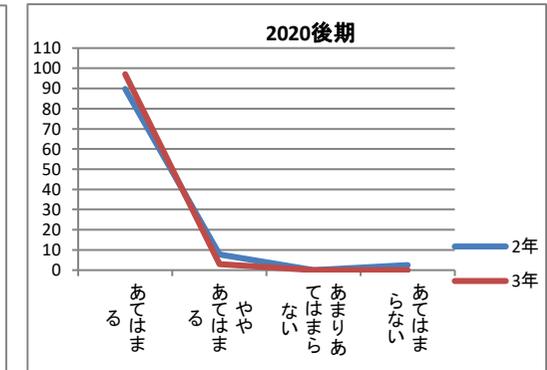
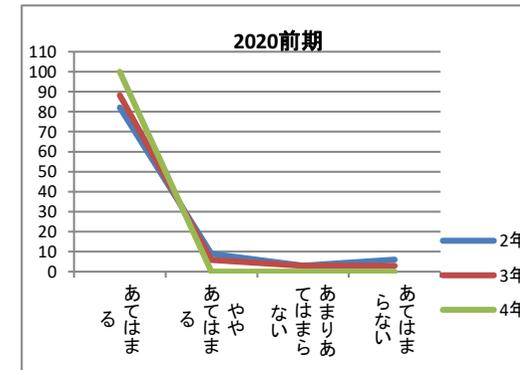
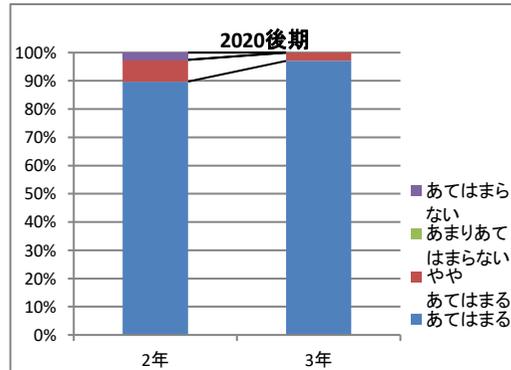
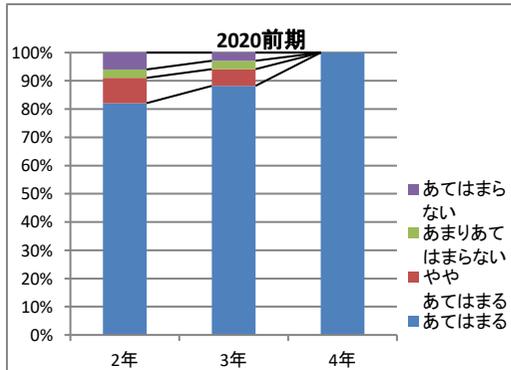
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



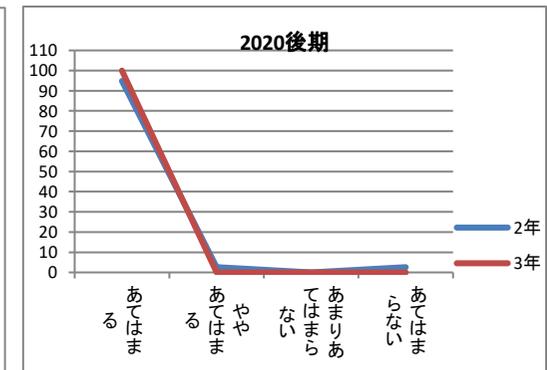
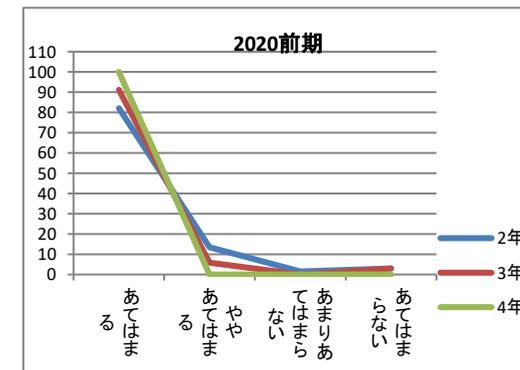
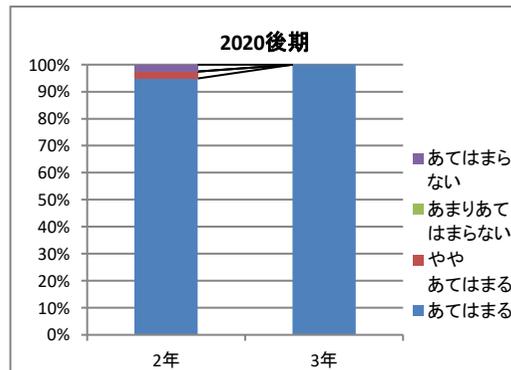
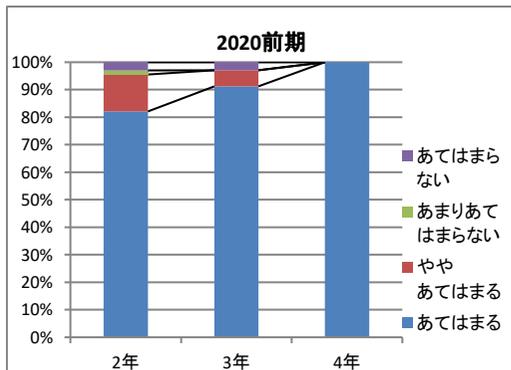
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

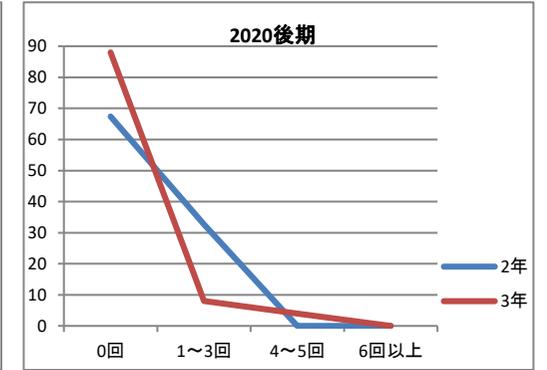
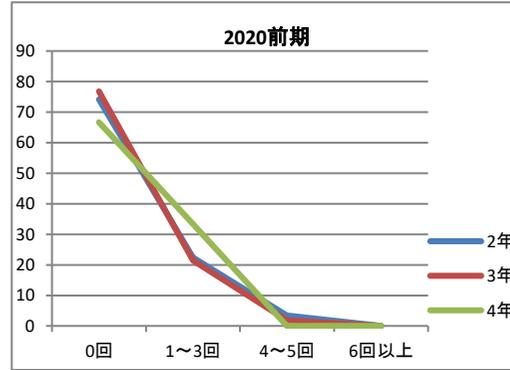
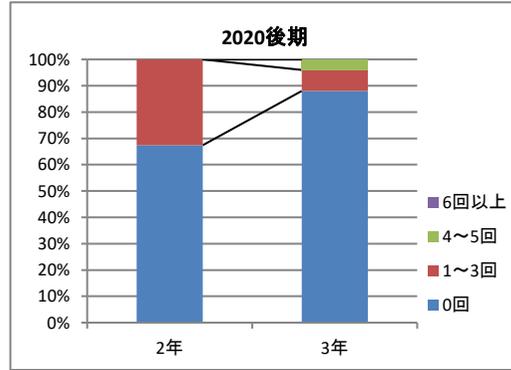
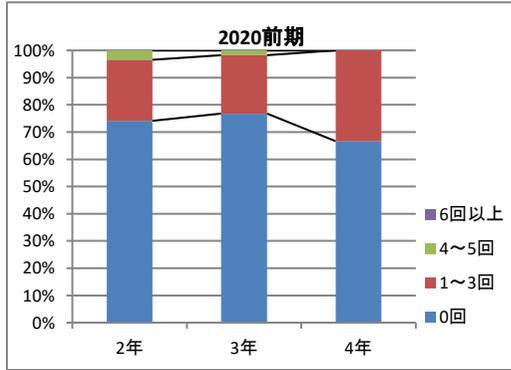


授業アンケート 令和2年度 2020年度

<言語聴覚療法学科>

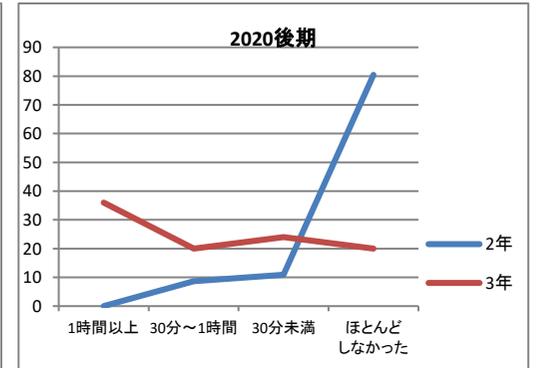
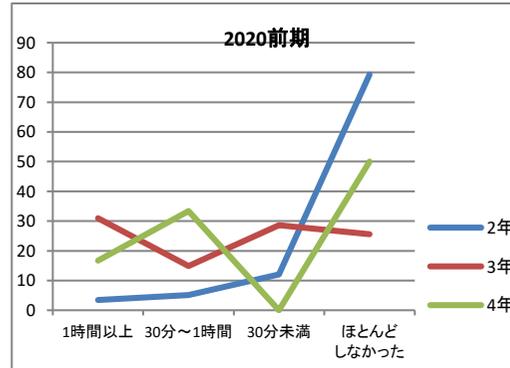
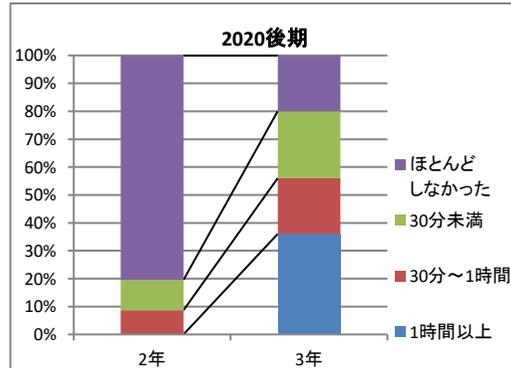
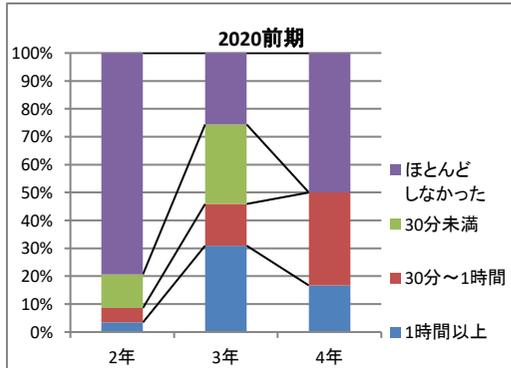
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



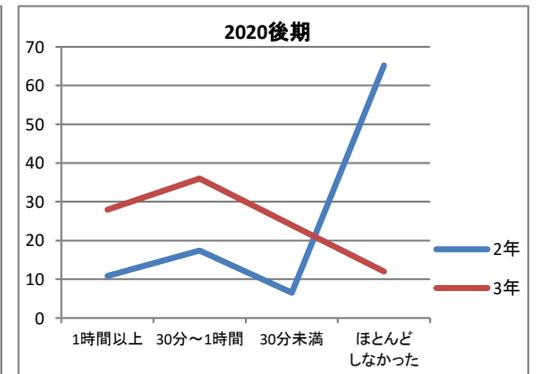
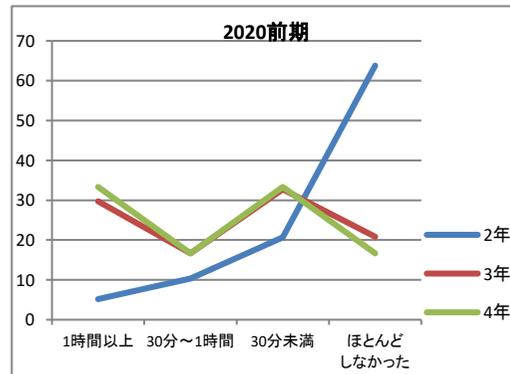
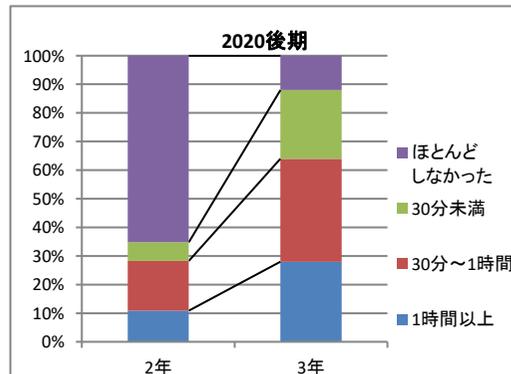
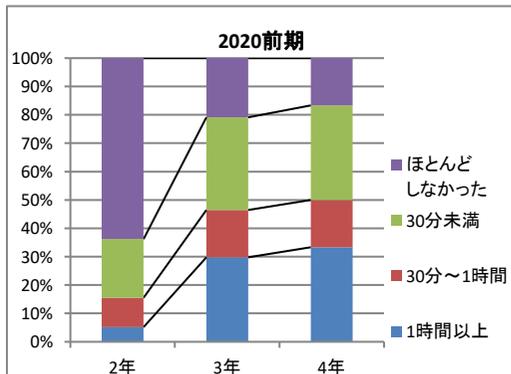
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



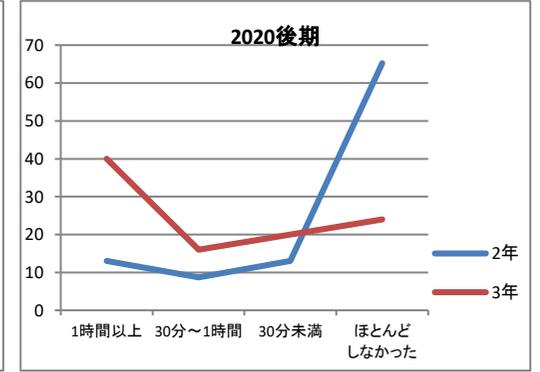
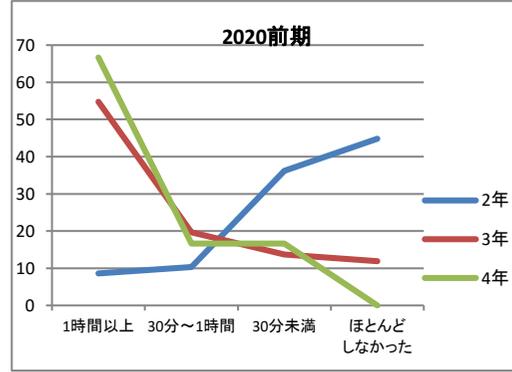
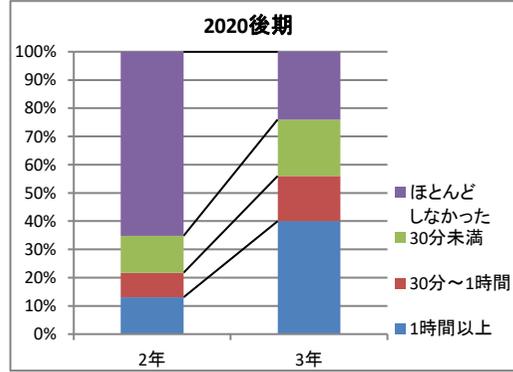
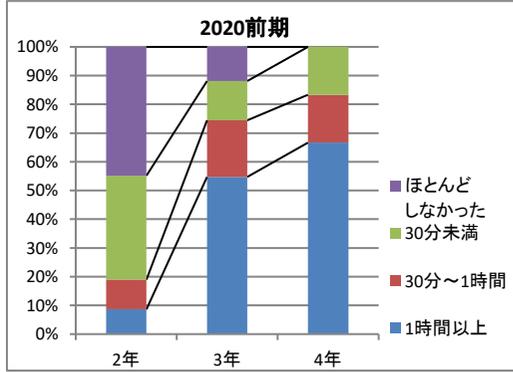
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



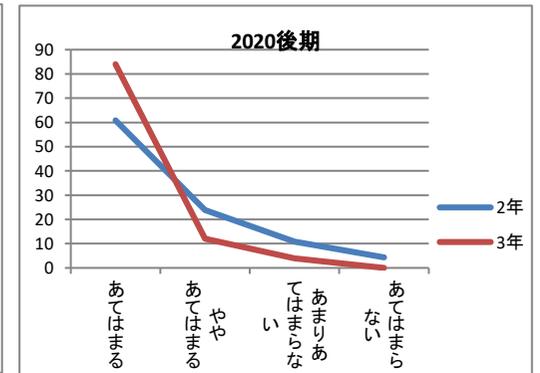
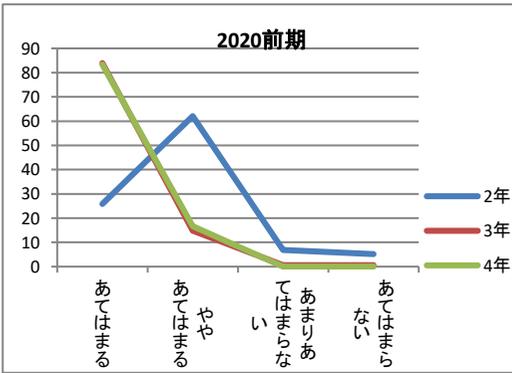
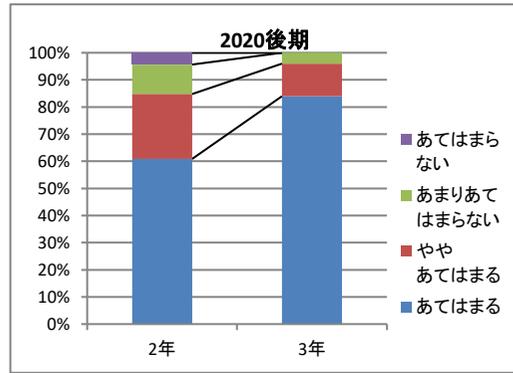
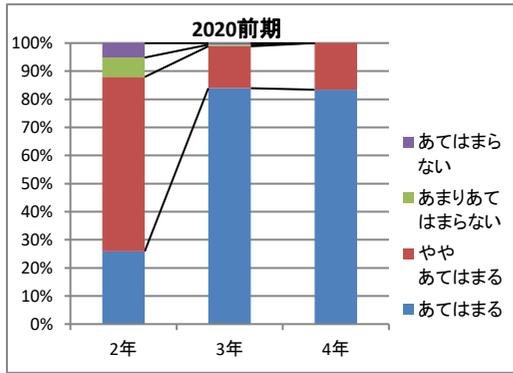
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



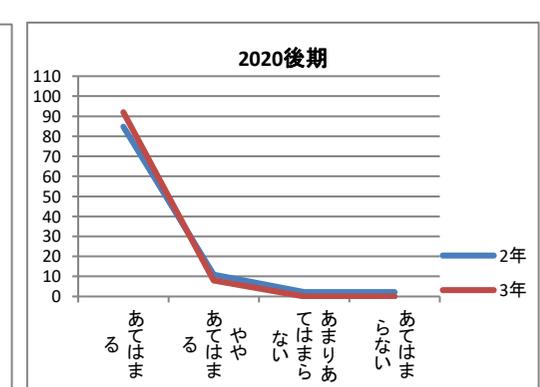
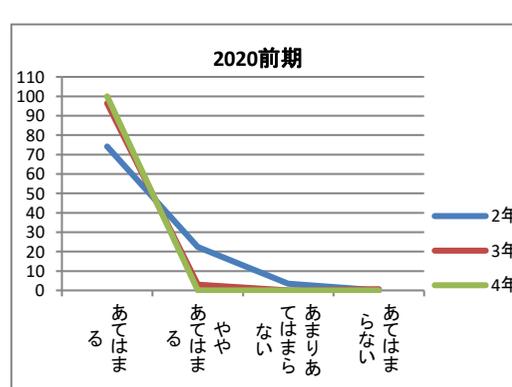
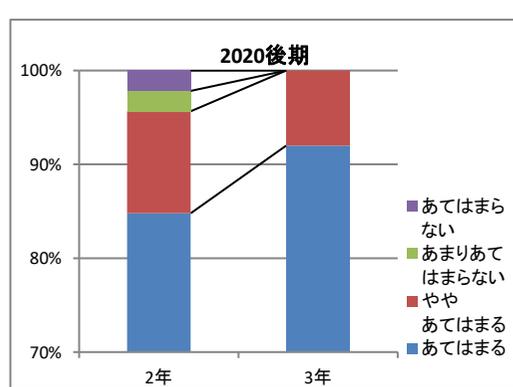
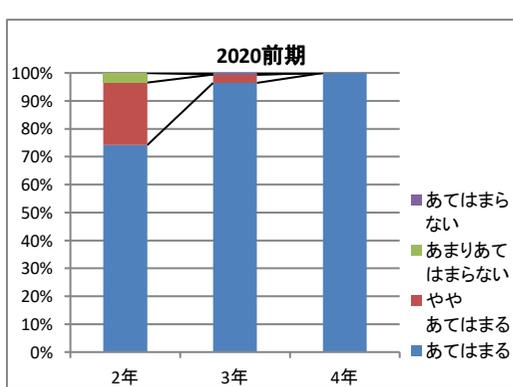
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



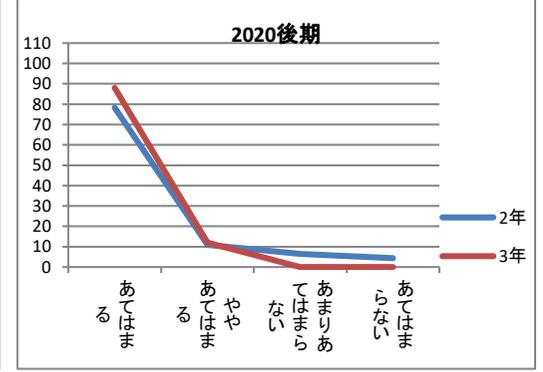
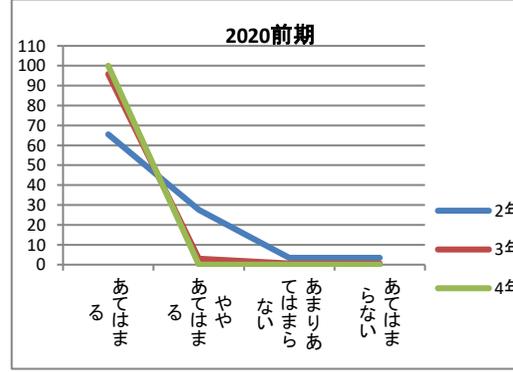
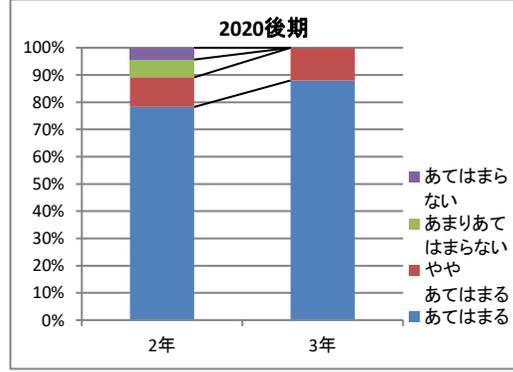
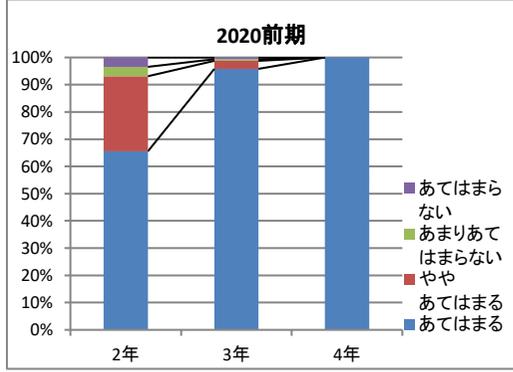
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



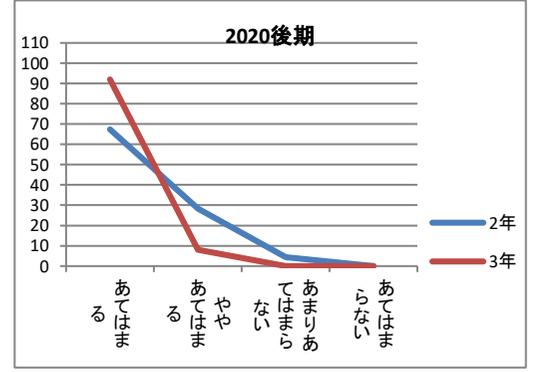
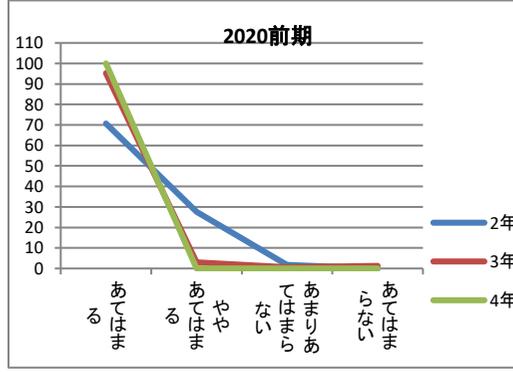
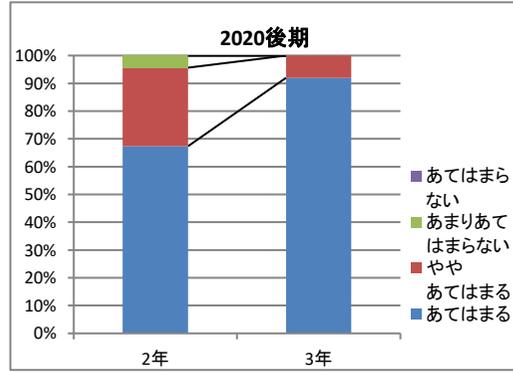
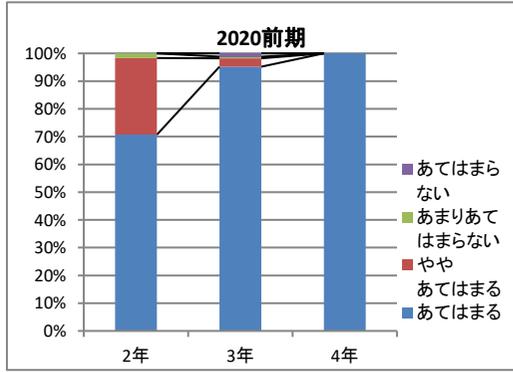
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



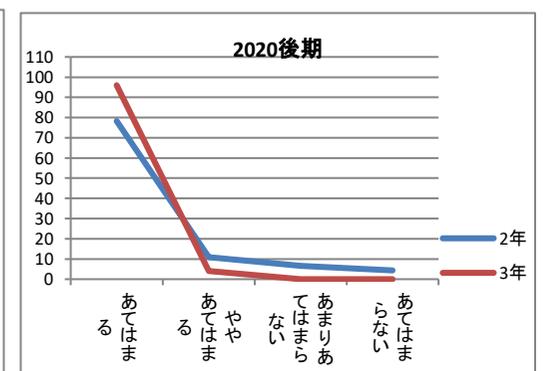
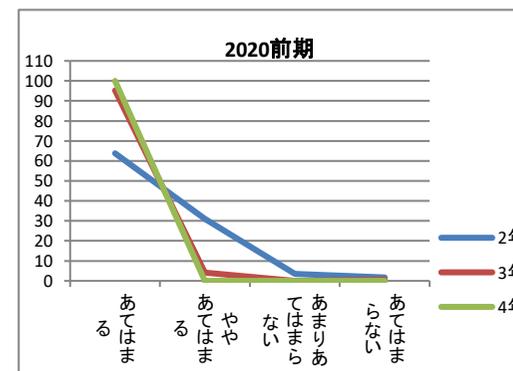
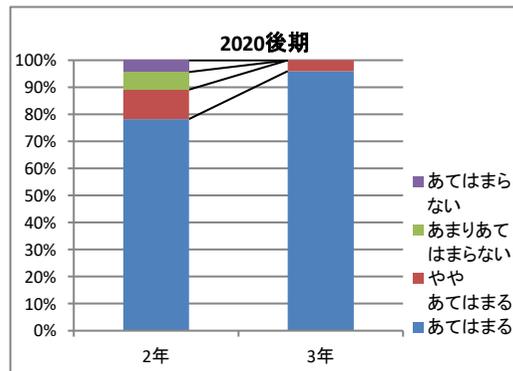
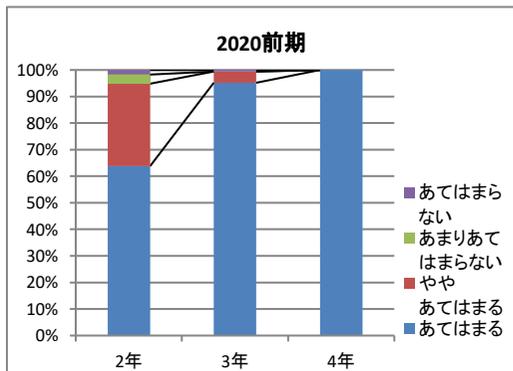
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



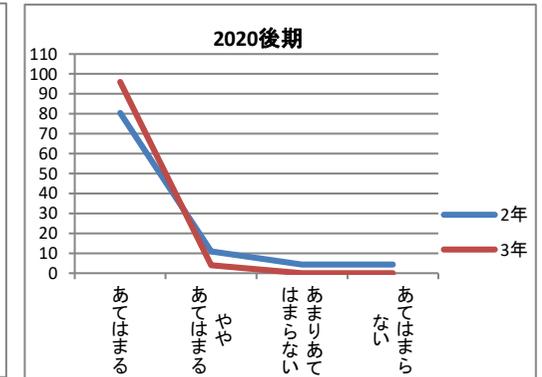
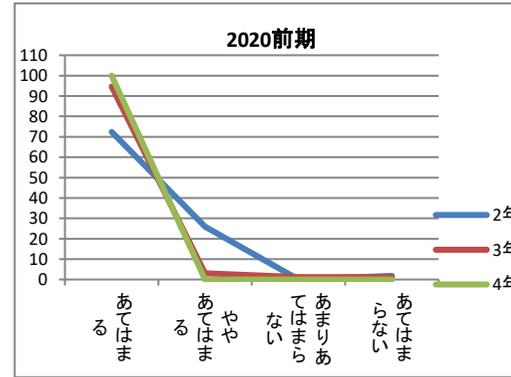
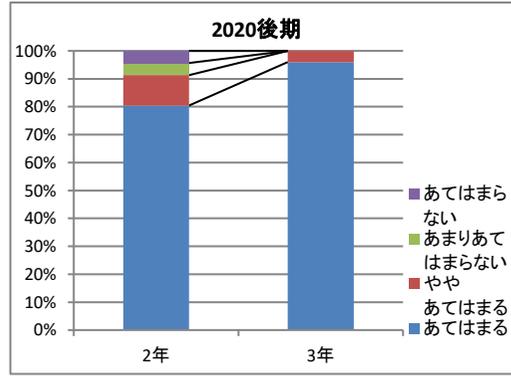
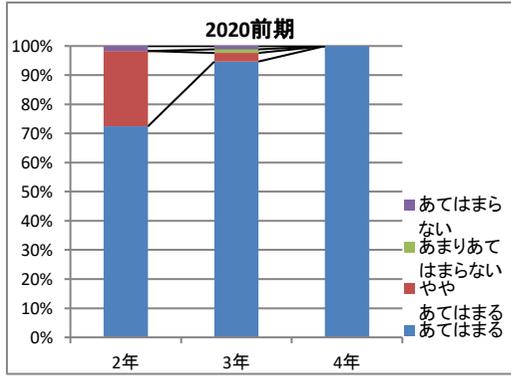
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



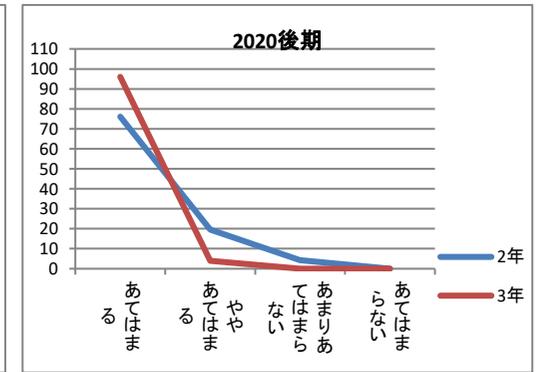
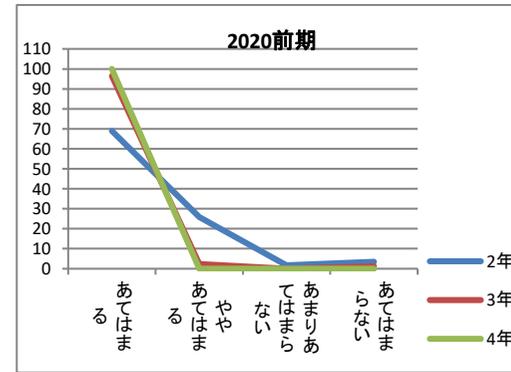
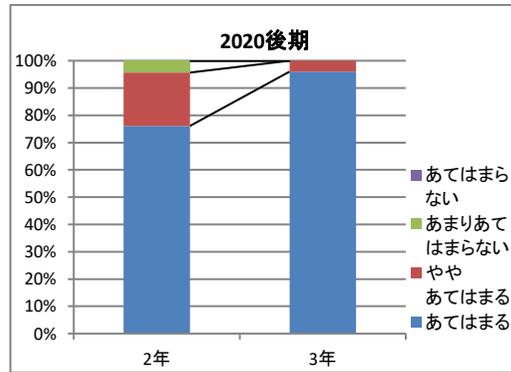
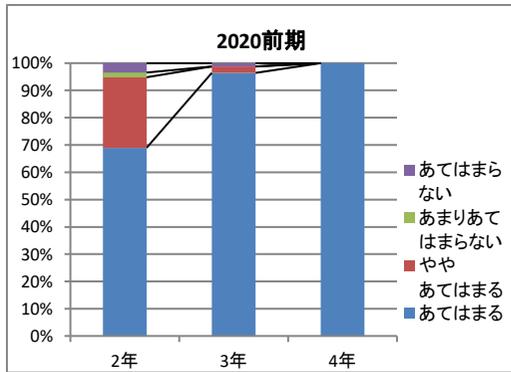
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



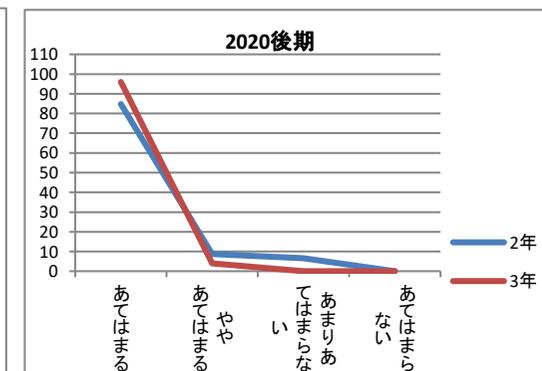
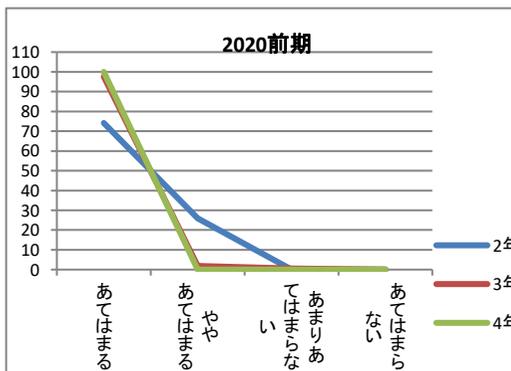
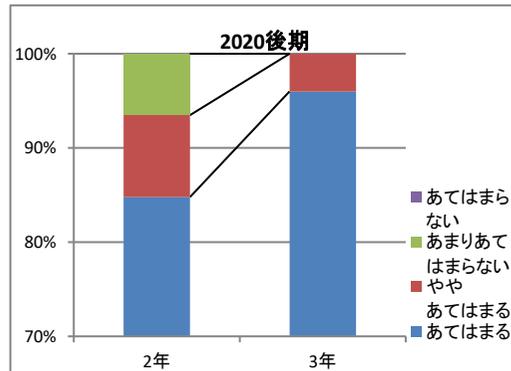
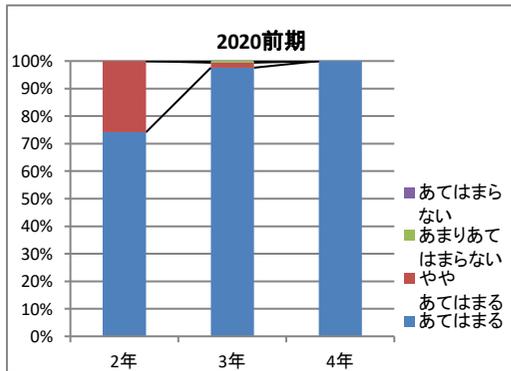
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



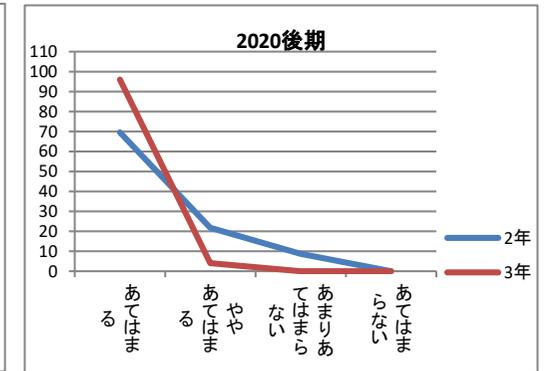
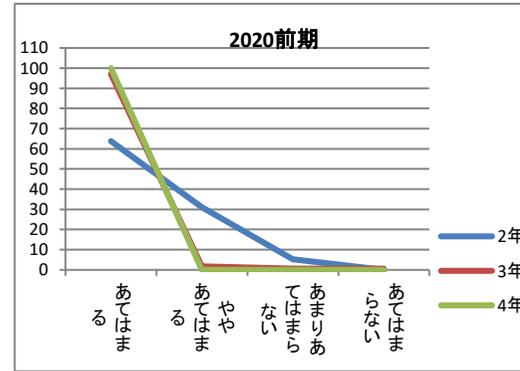
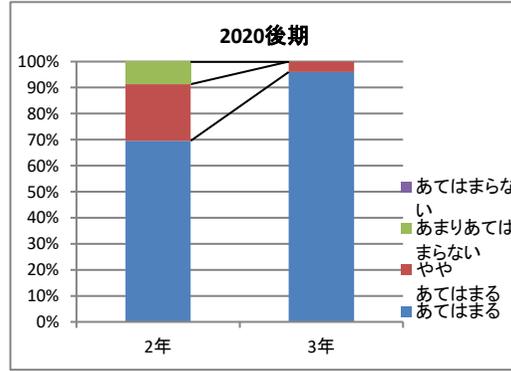
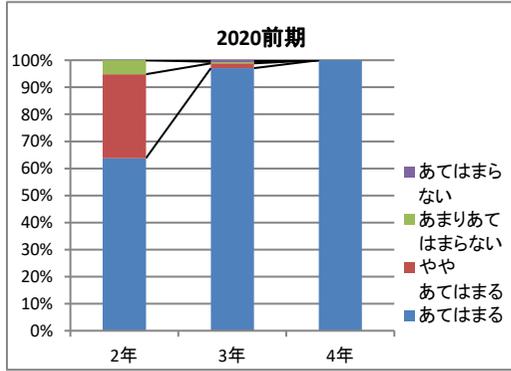
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



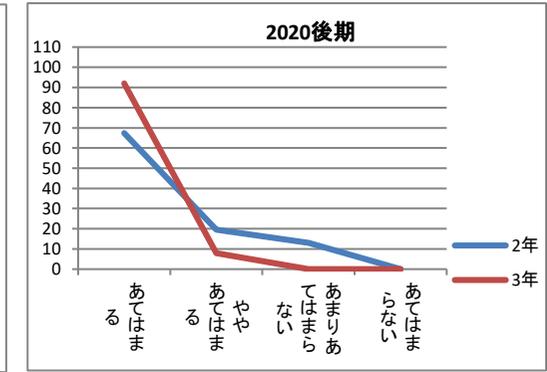
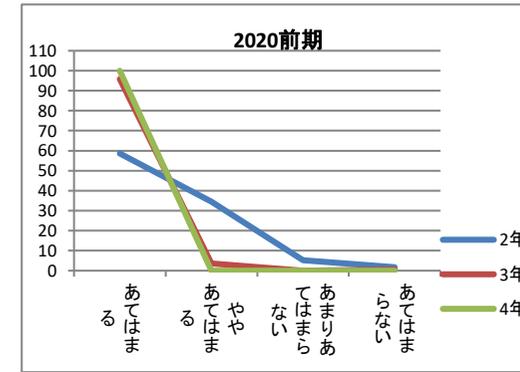
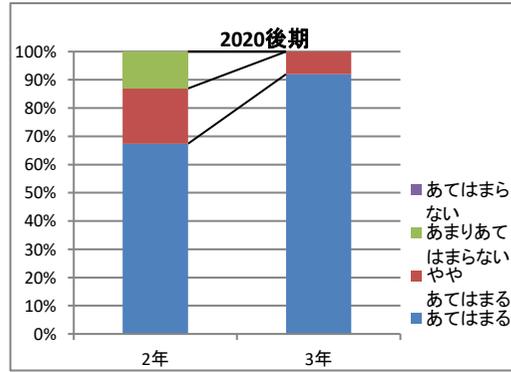
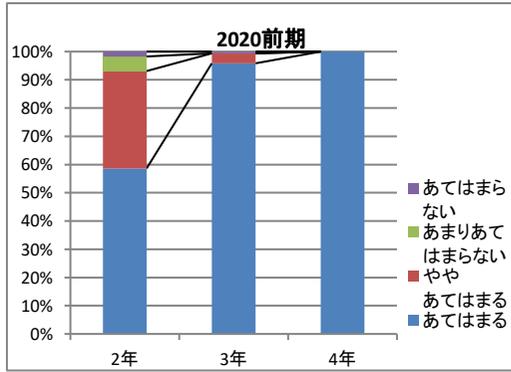
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



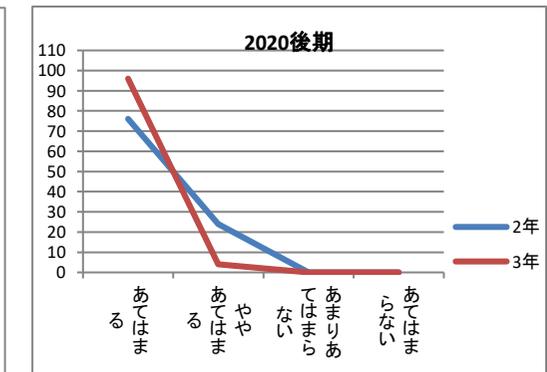
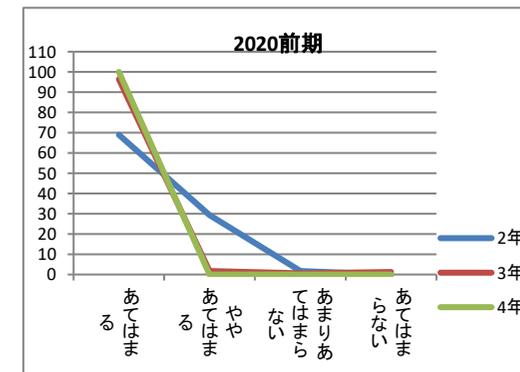
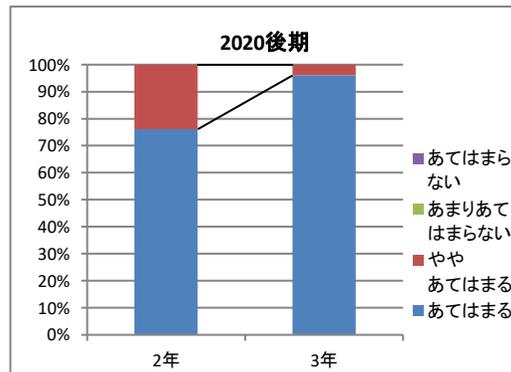
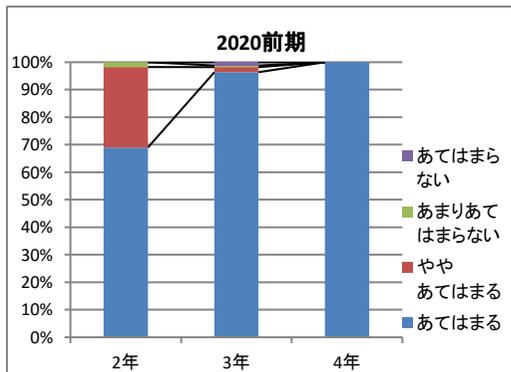
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

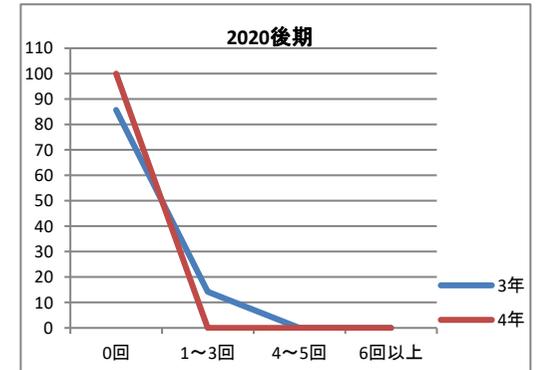
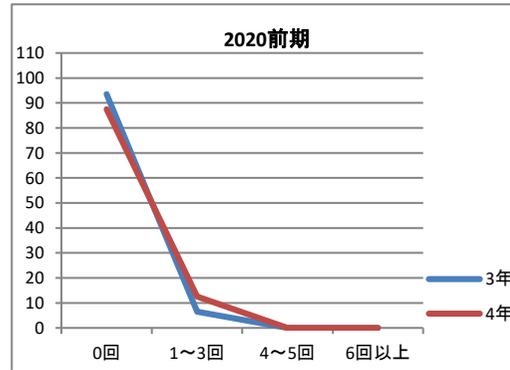
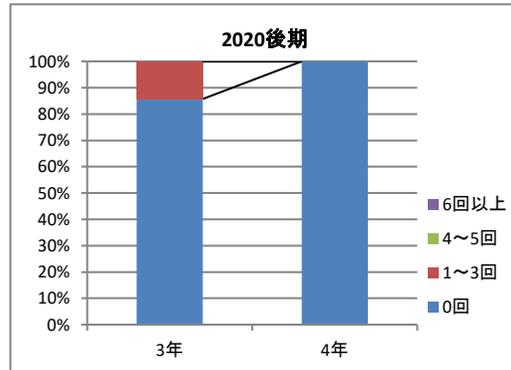
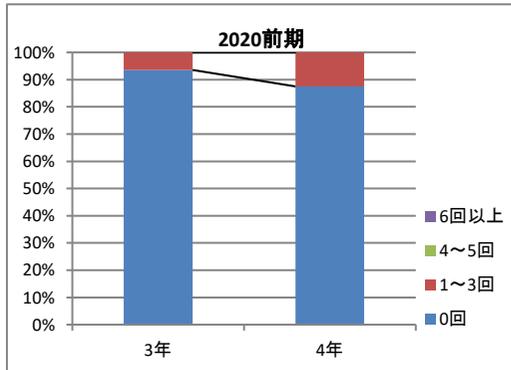


授業アンケート 令和2年度 2020年度

<視機能療法学科>

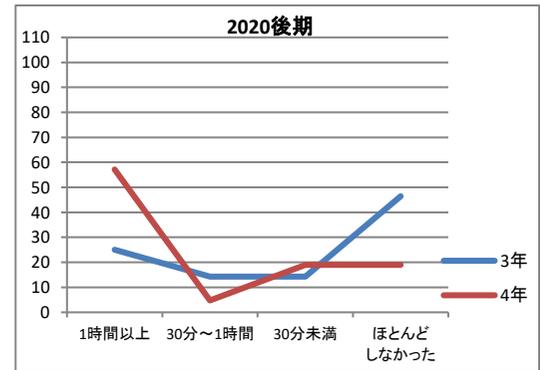
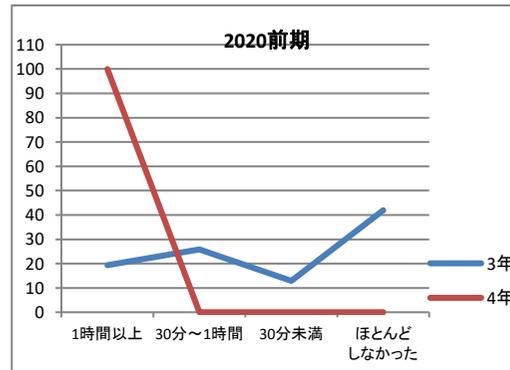
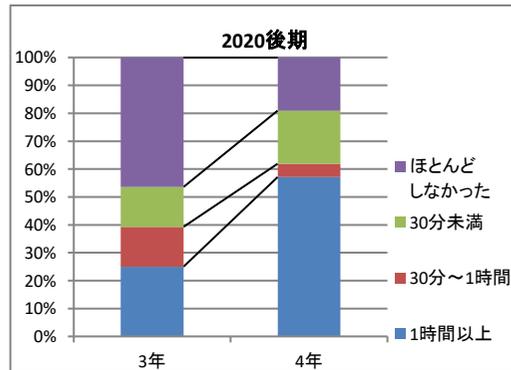
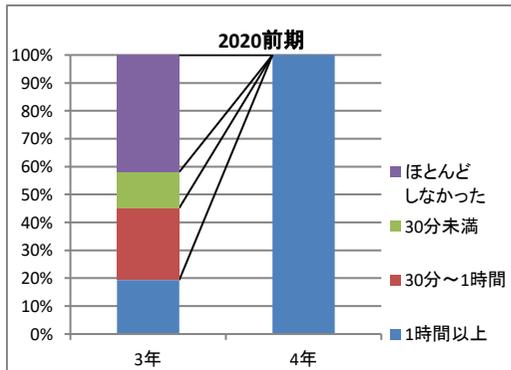
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



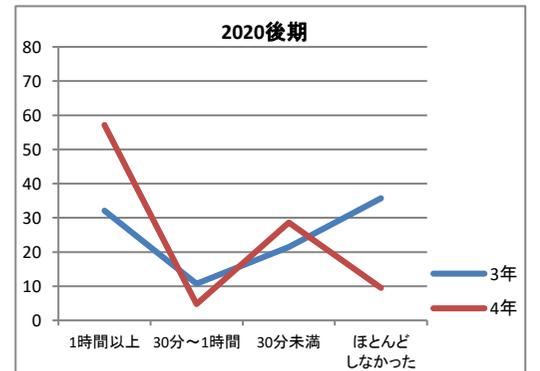
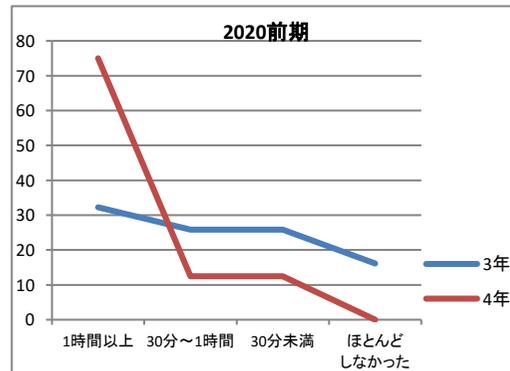
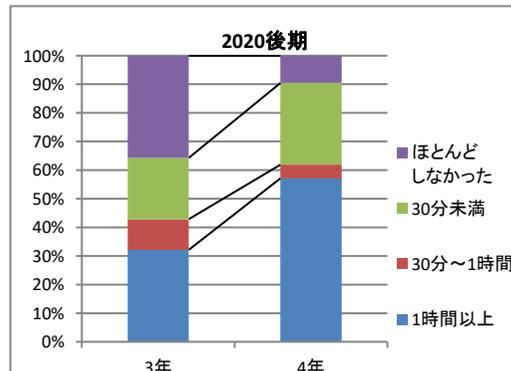
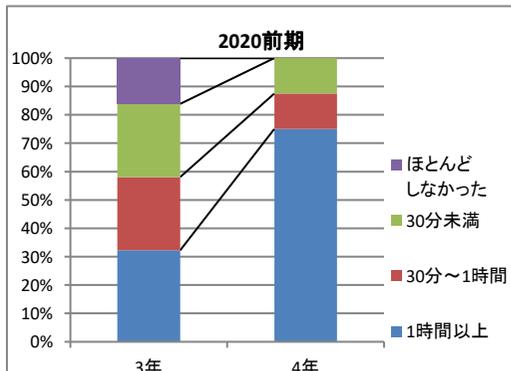
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



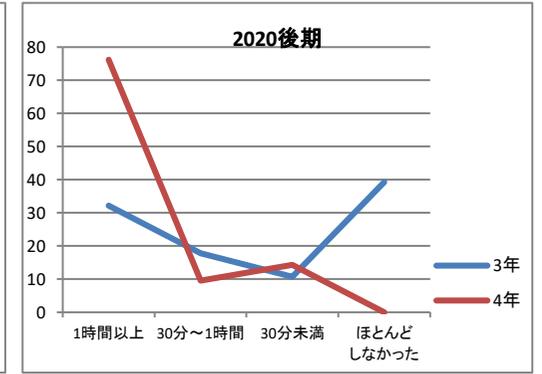
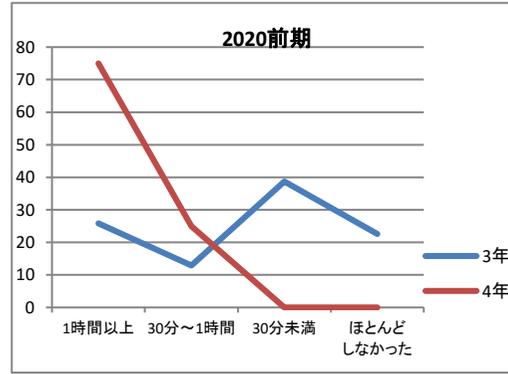
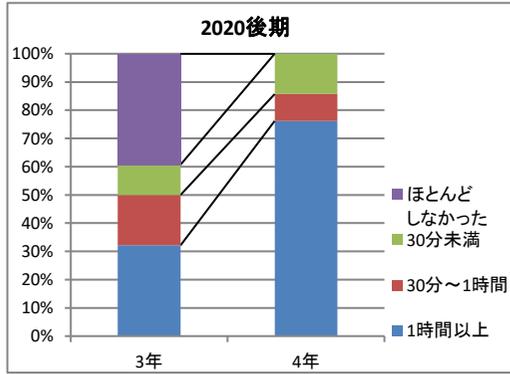
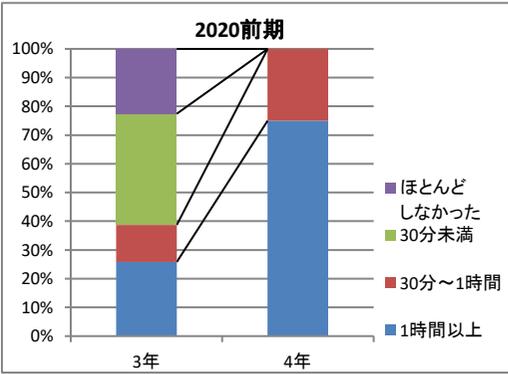
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



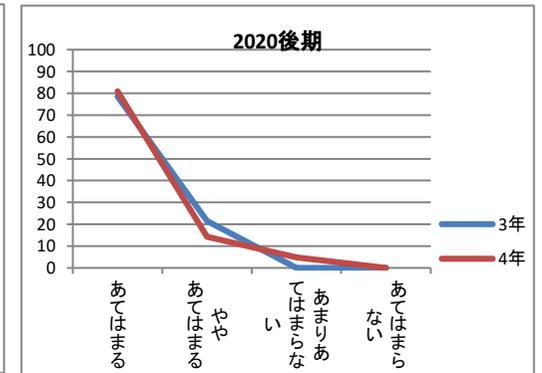
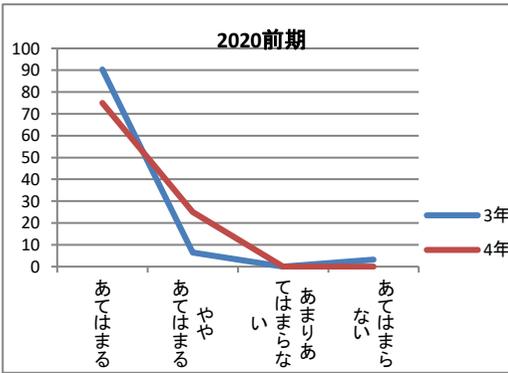
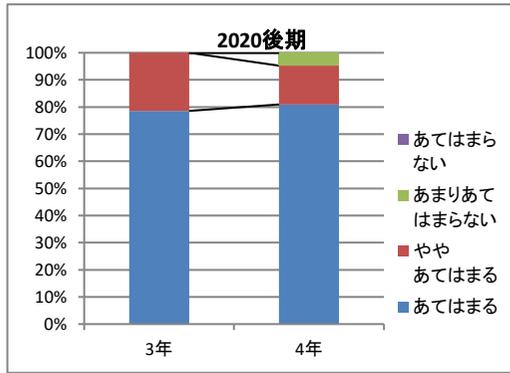
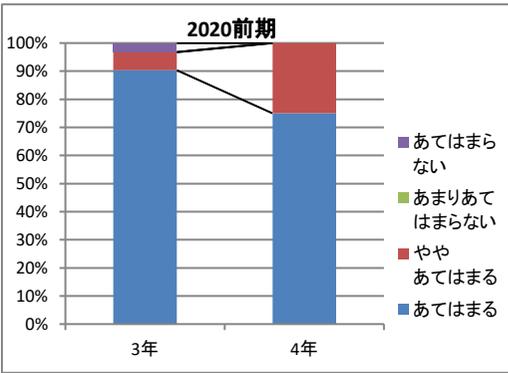
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



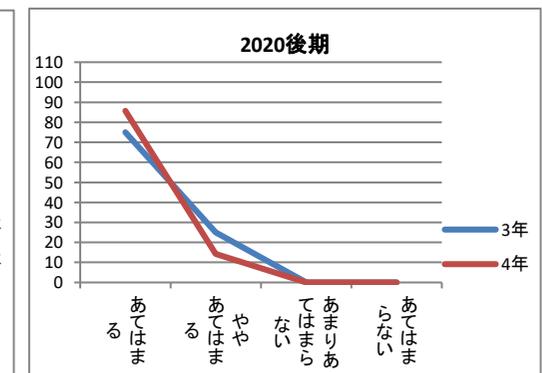
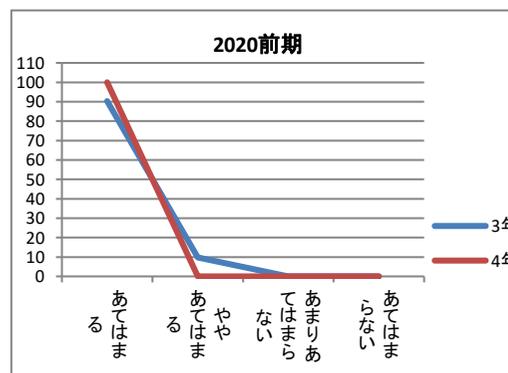
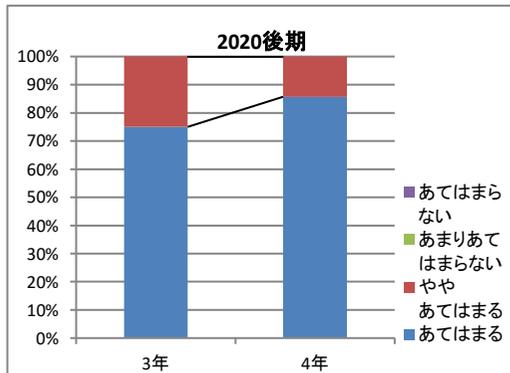
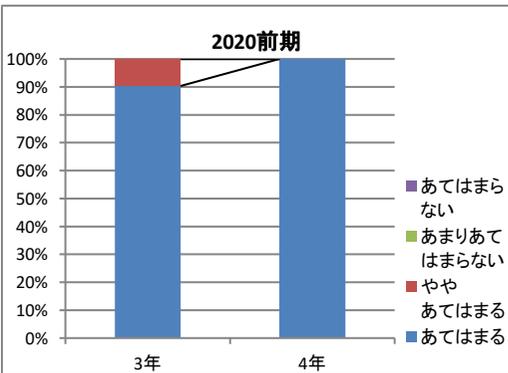
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



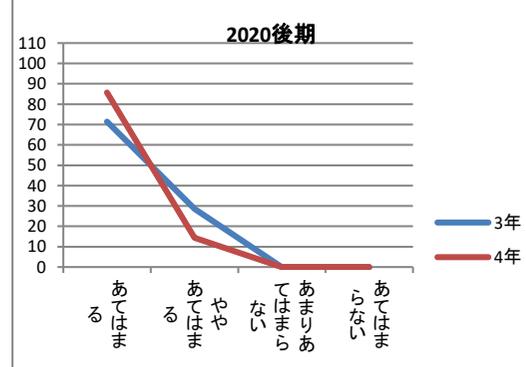
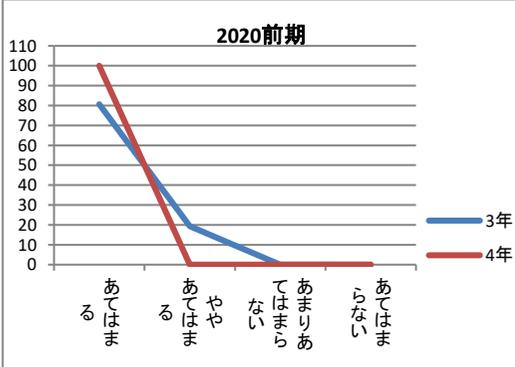
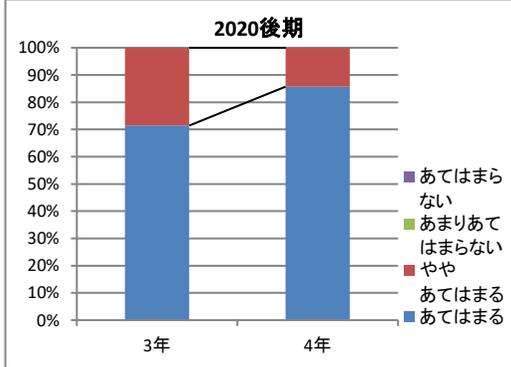
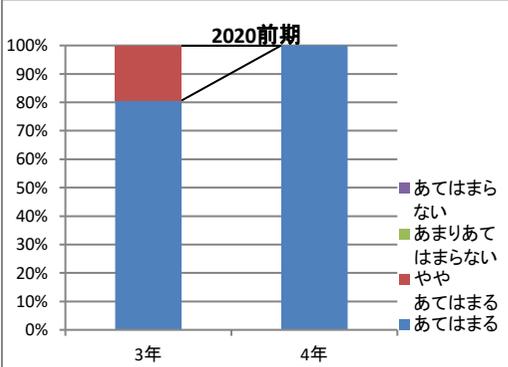
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



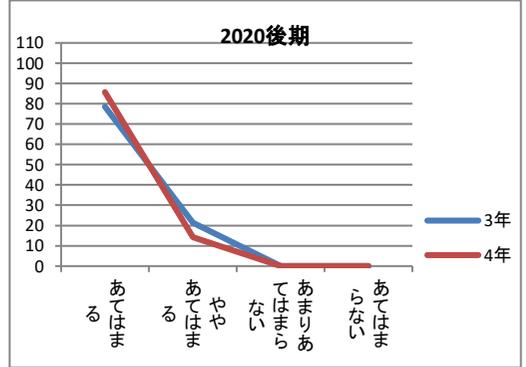
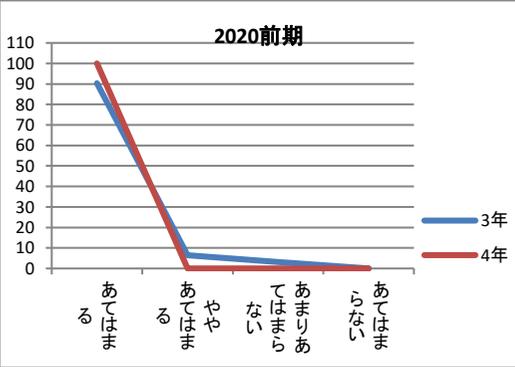
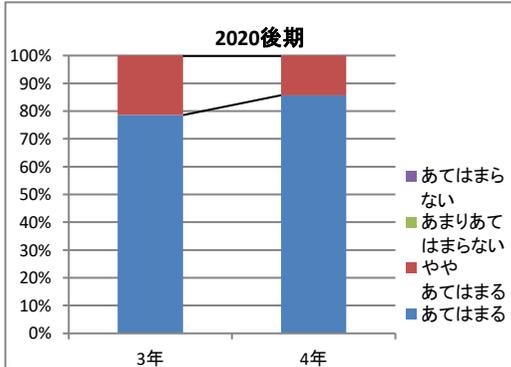
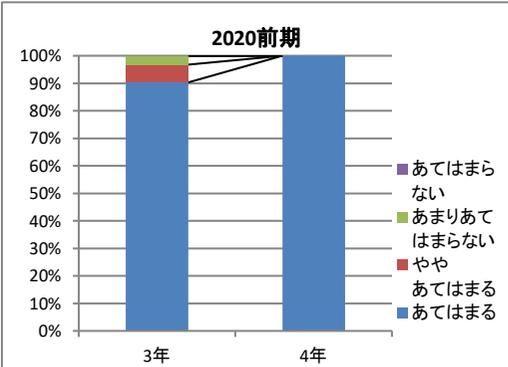
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



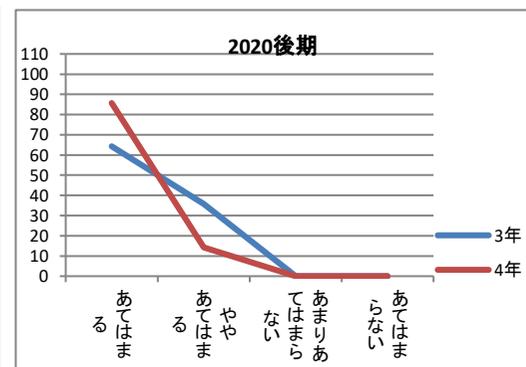
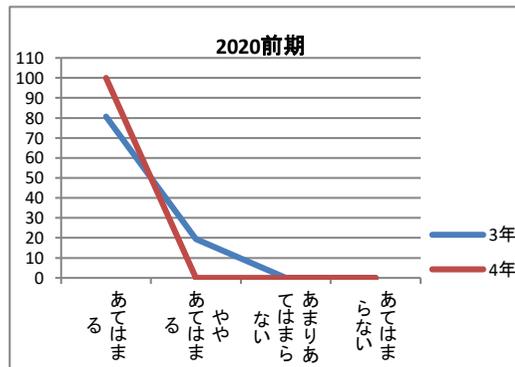
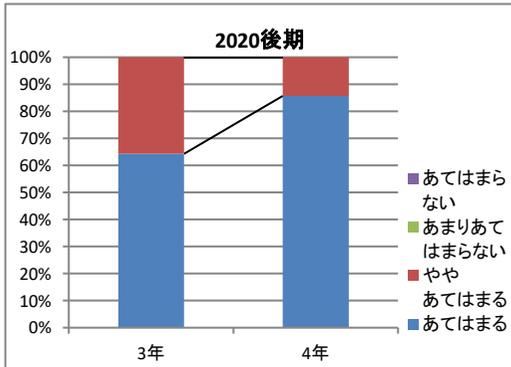
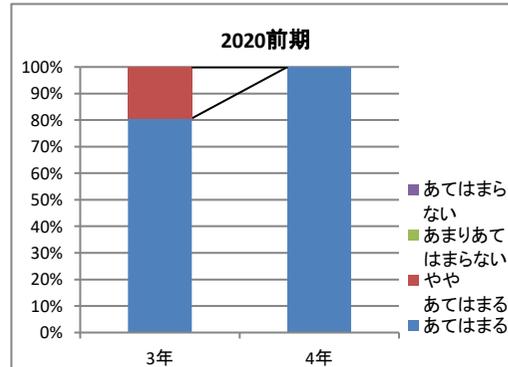
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。

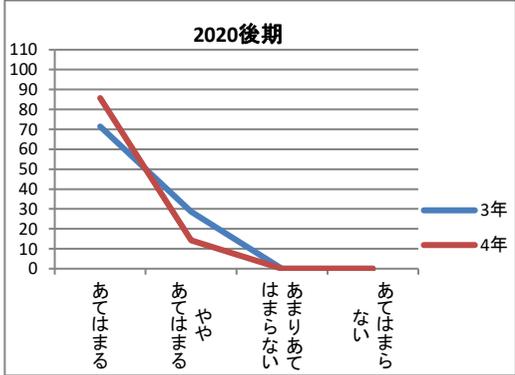
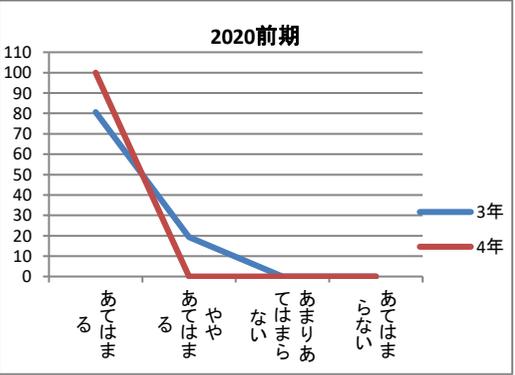
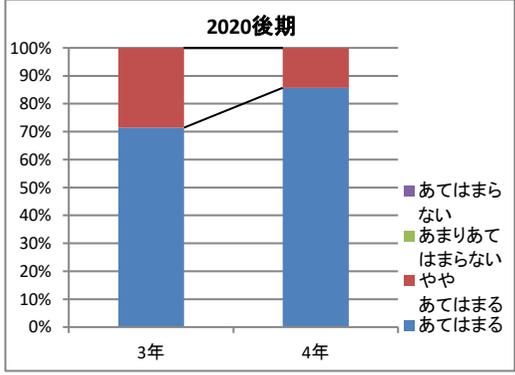
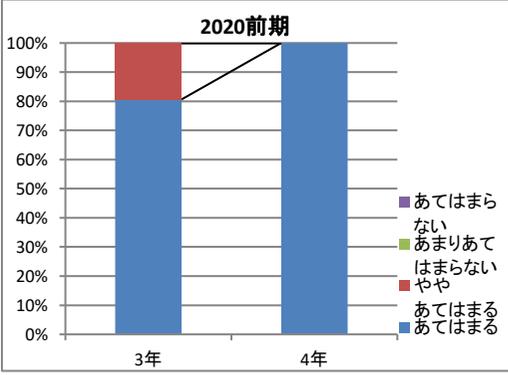


【教員の授業に対する取り組み】

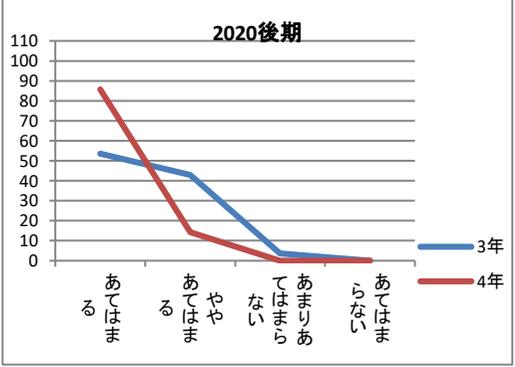
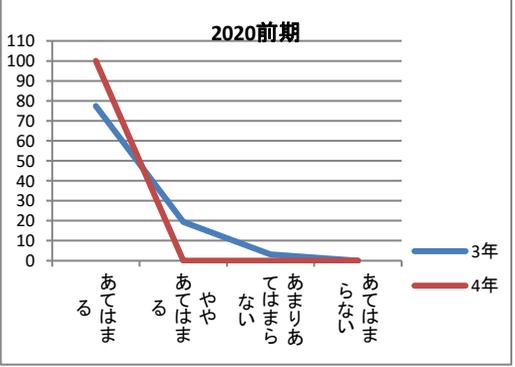
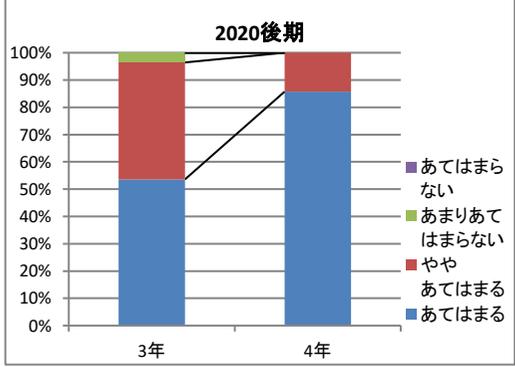
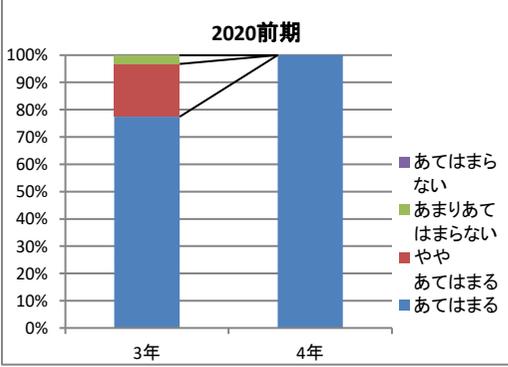
Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



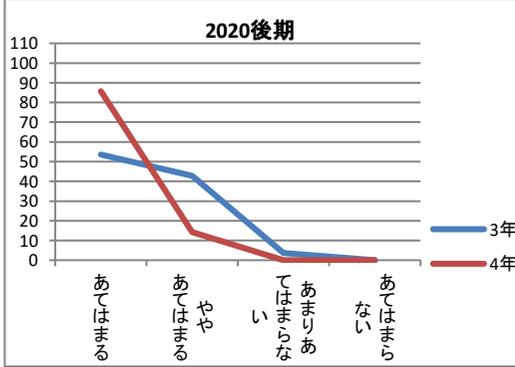
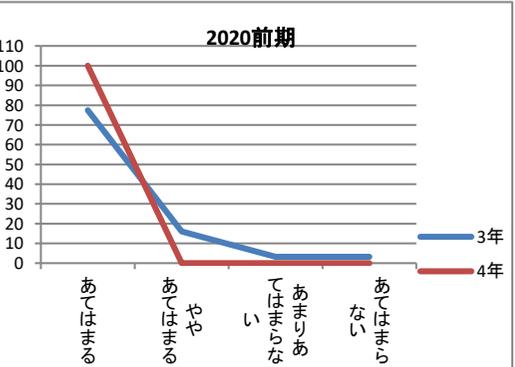
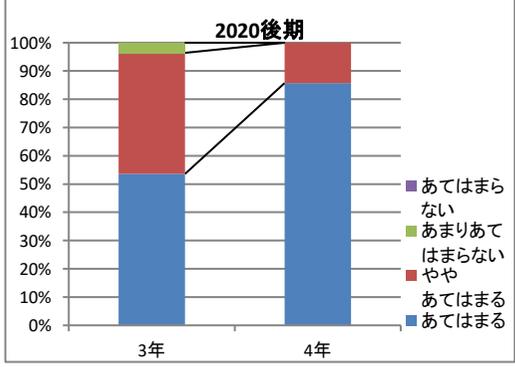
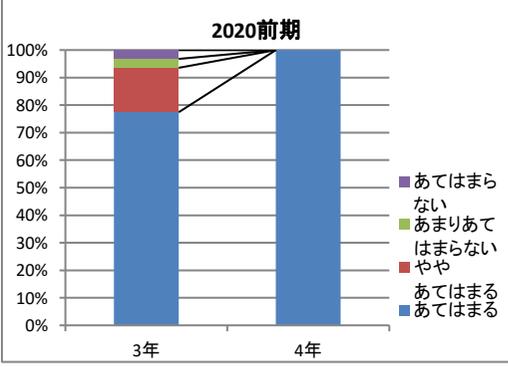
【教員の授業に対する取り組み】
Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



【教員の授業に対する取り組み】
Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。

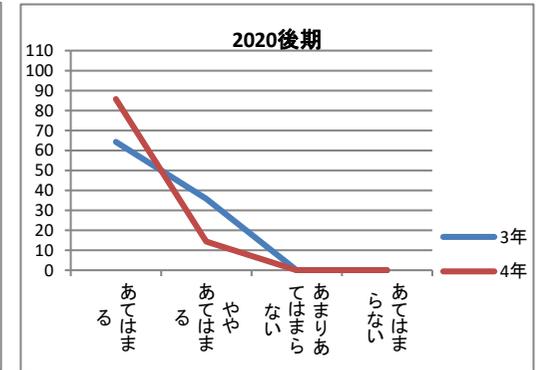
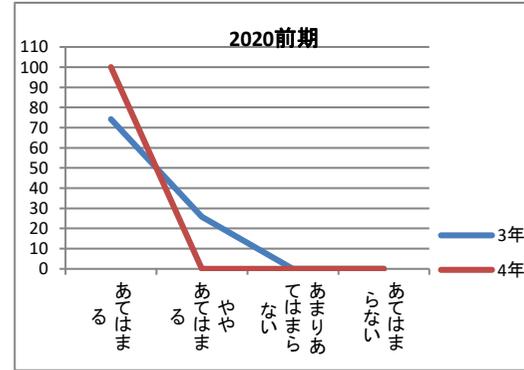
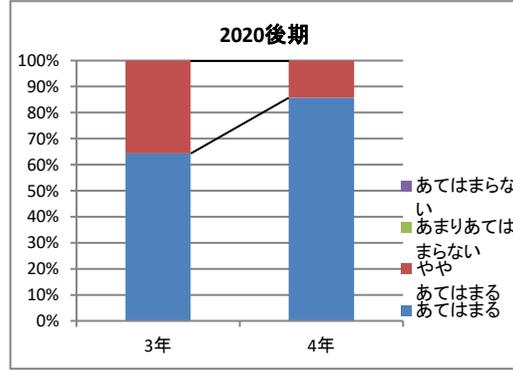
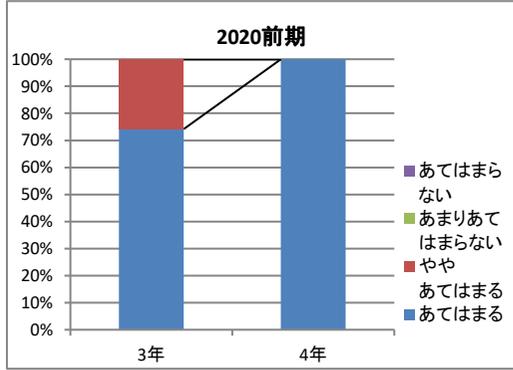


【教員の授業に対する取り組み】
Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



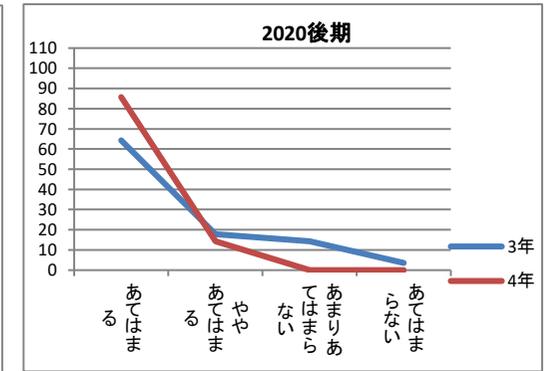
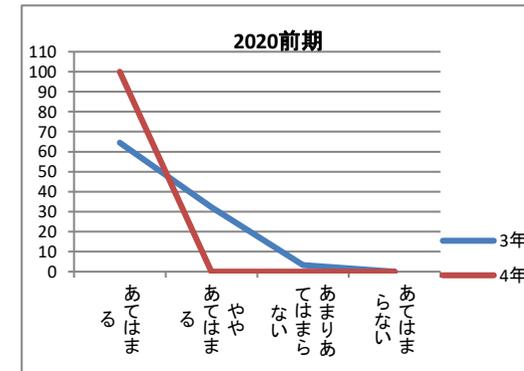
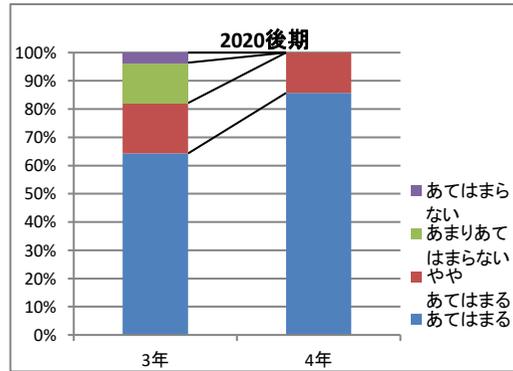
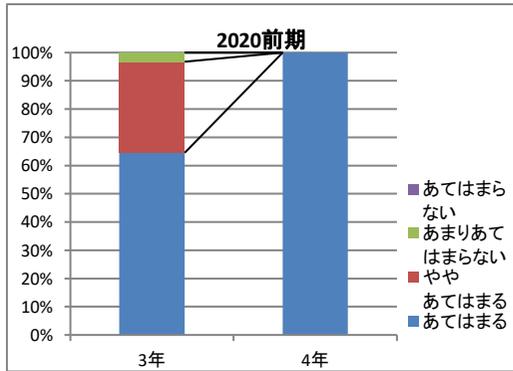
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



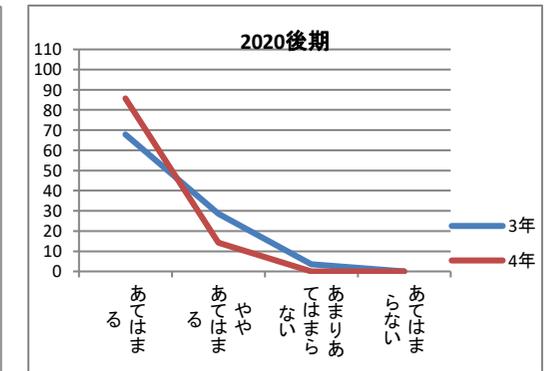
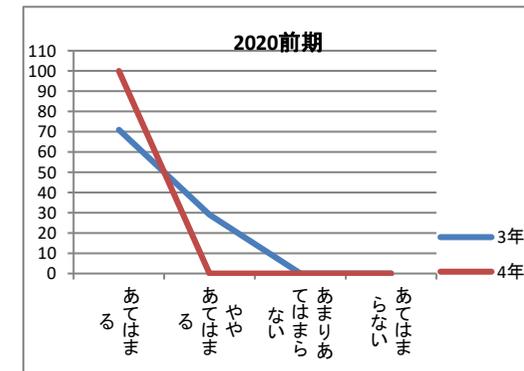
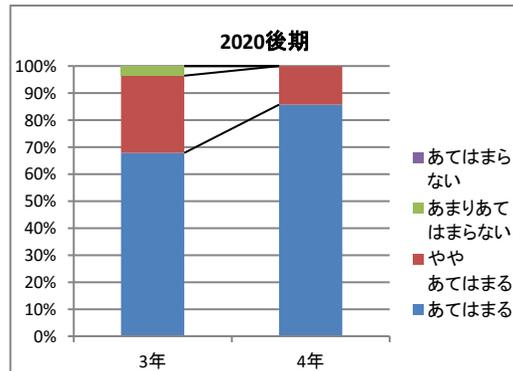
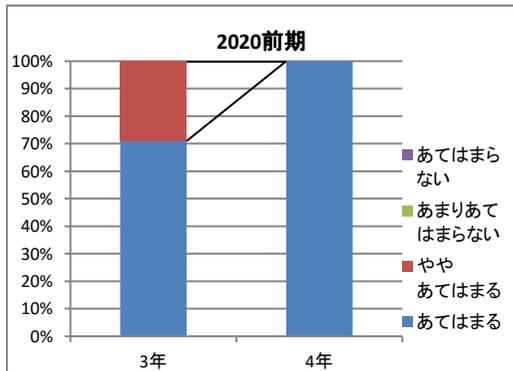
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

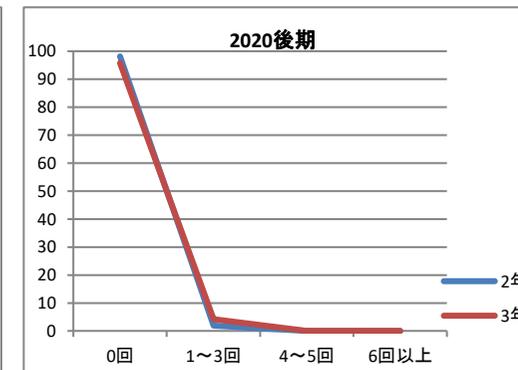
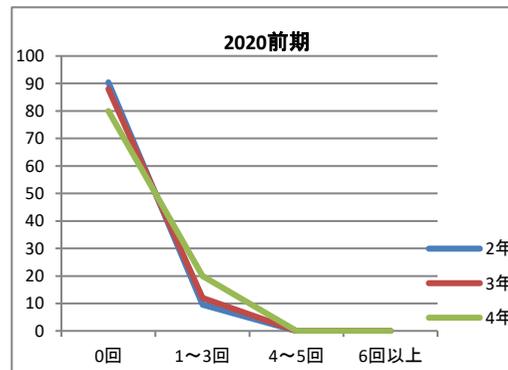
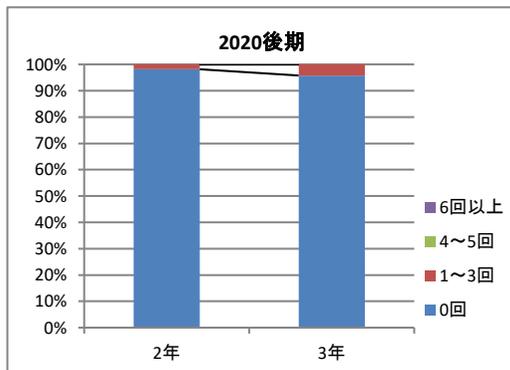
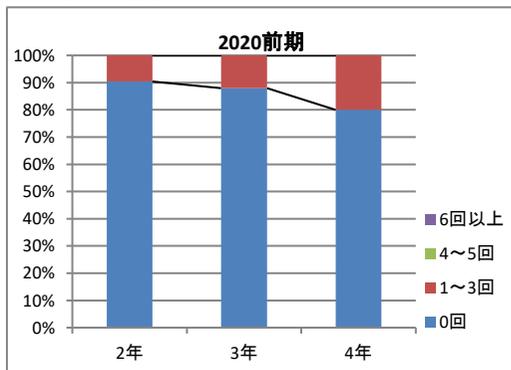
Q15. 授業は意義あるものでしたか。



授業アンケート 令和2年度 2020年度 〈臨床工学科〉

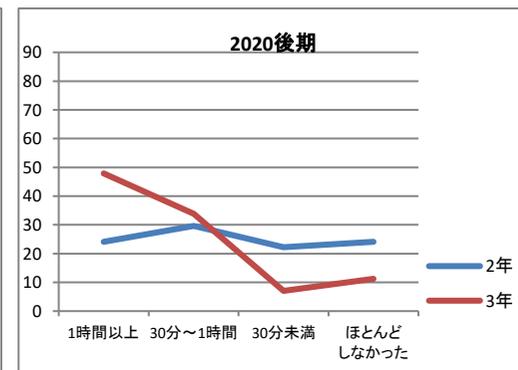
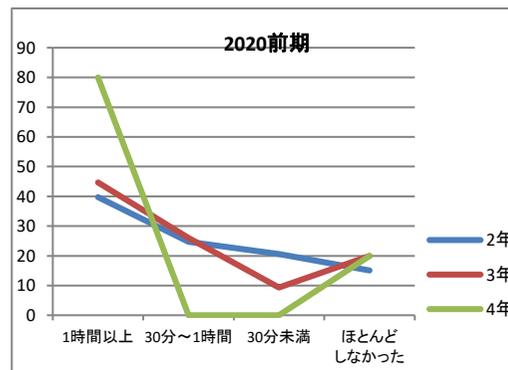
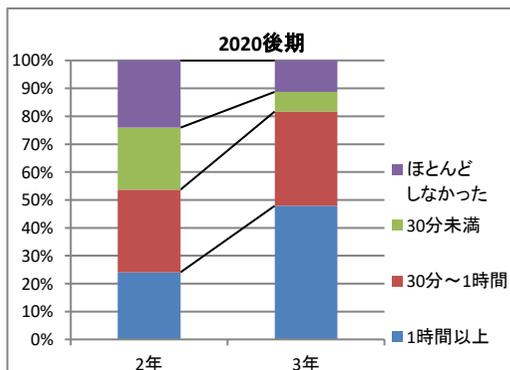
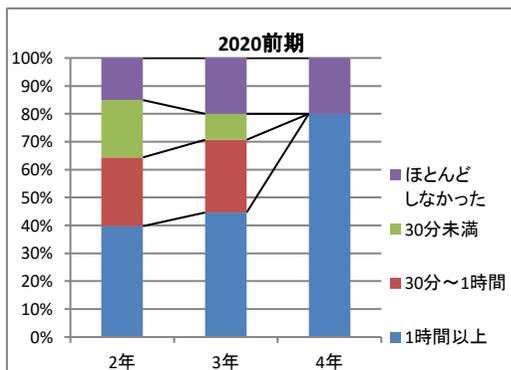
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



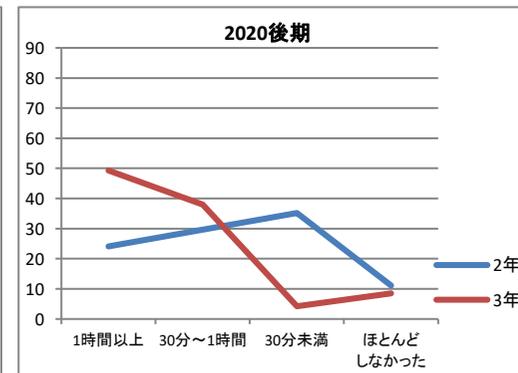
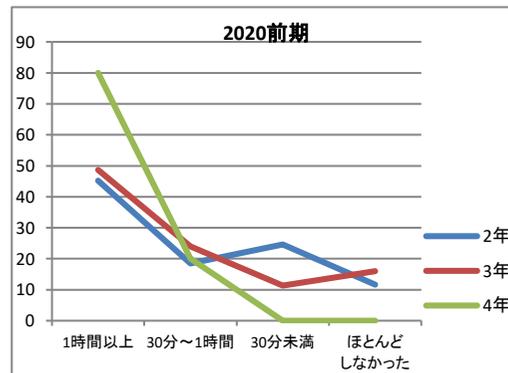
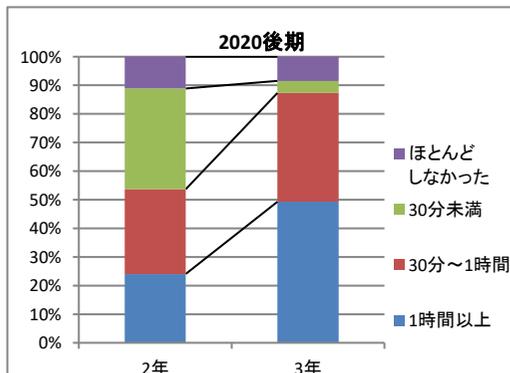
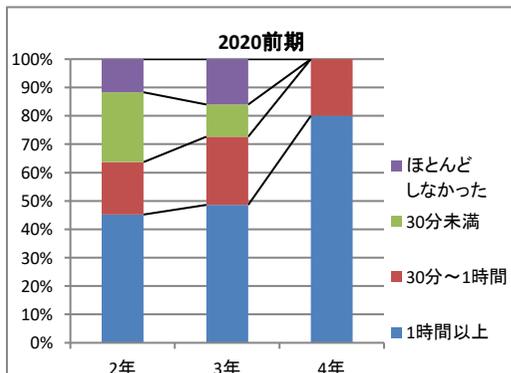
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



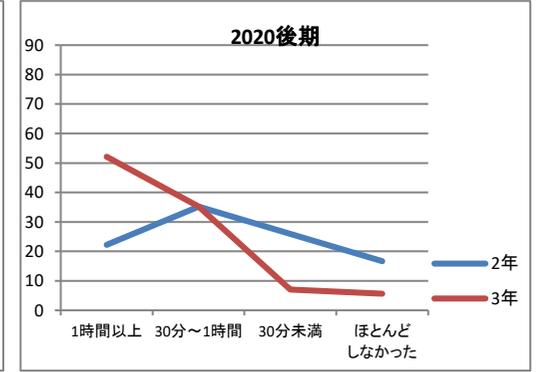
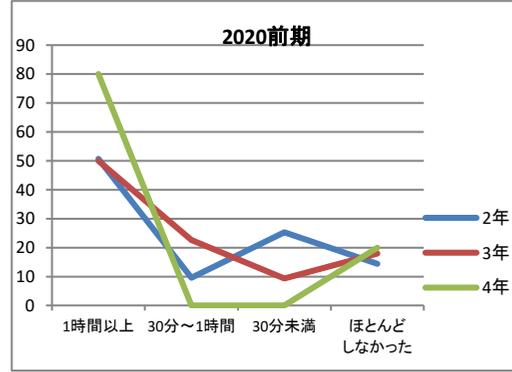
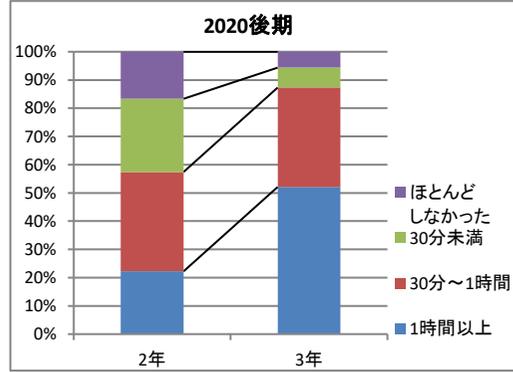
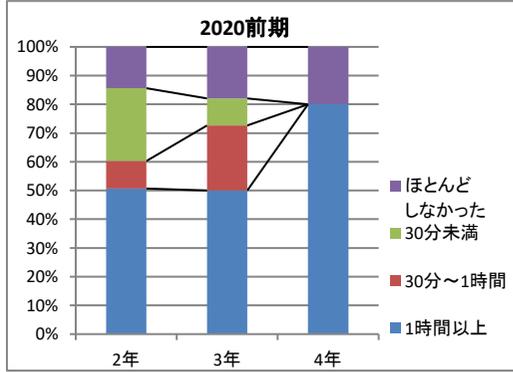
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



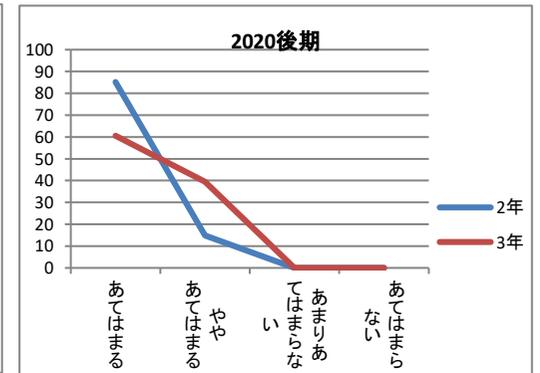
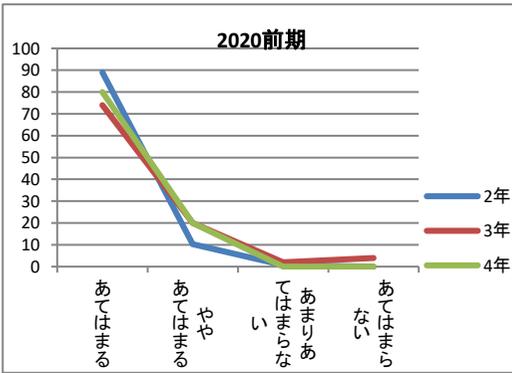
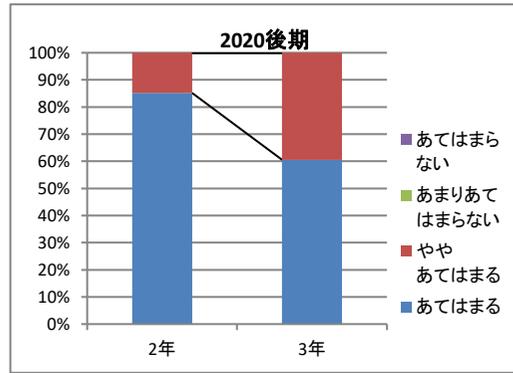
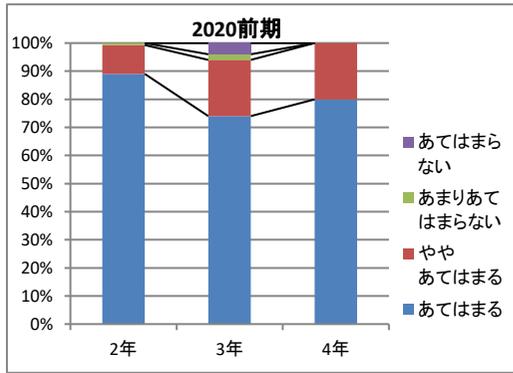
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



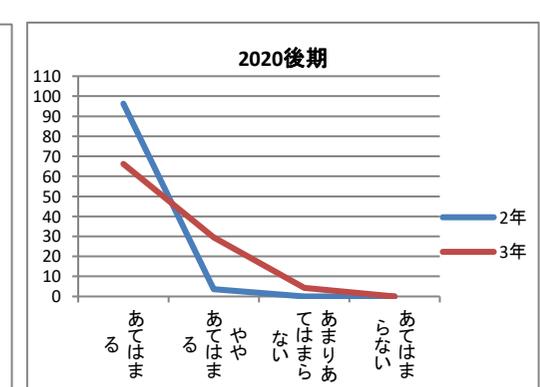
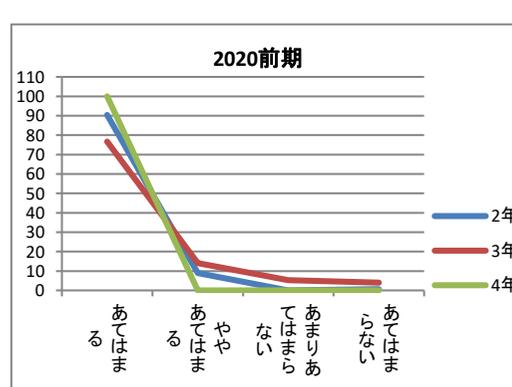
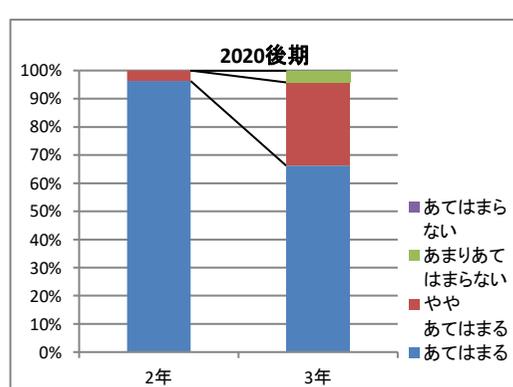
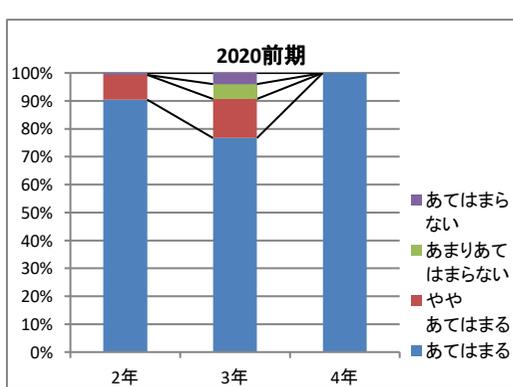
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



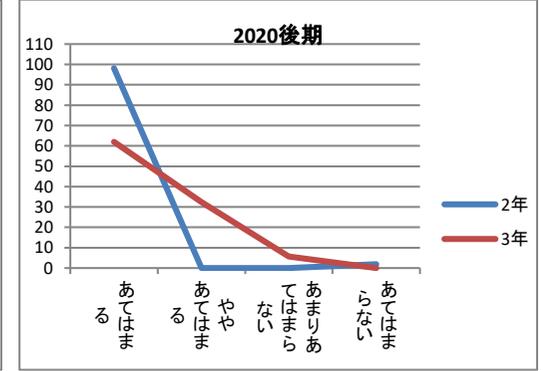
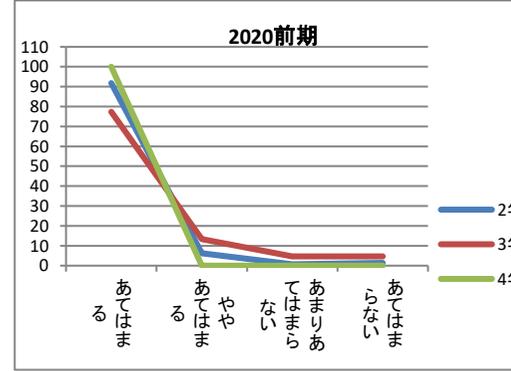
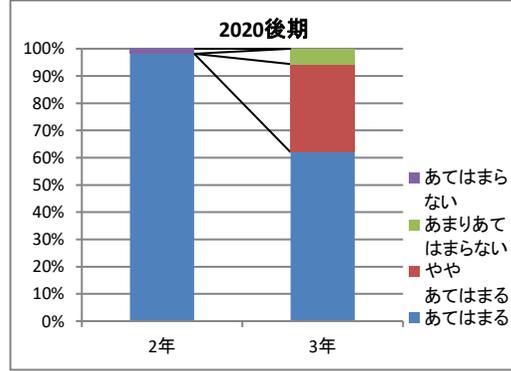
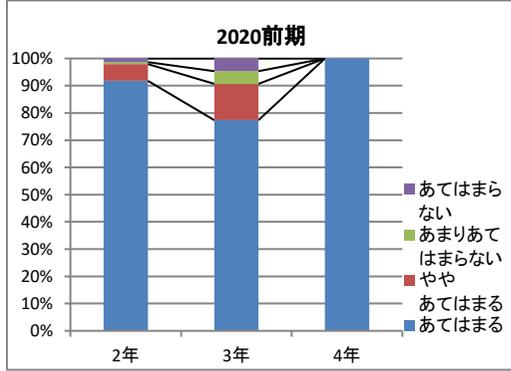
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



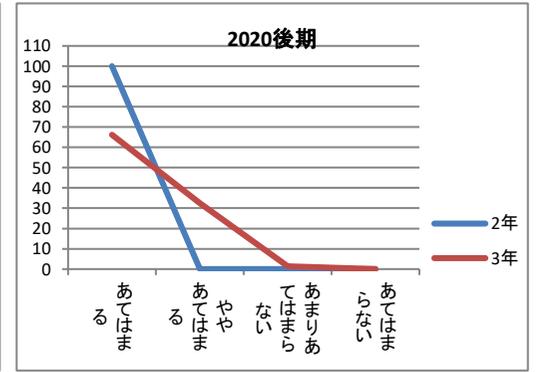
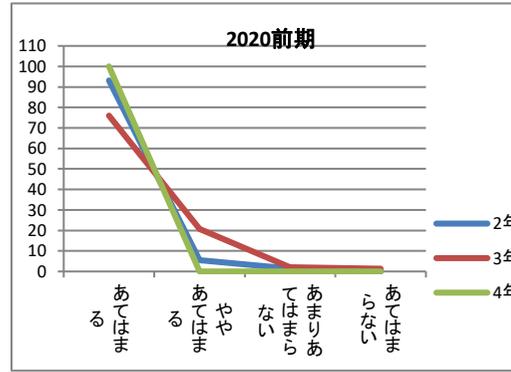
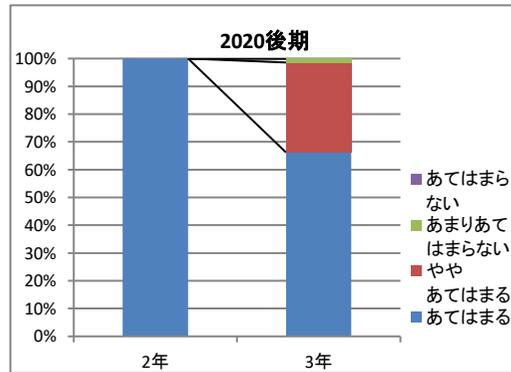
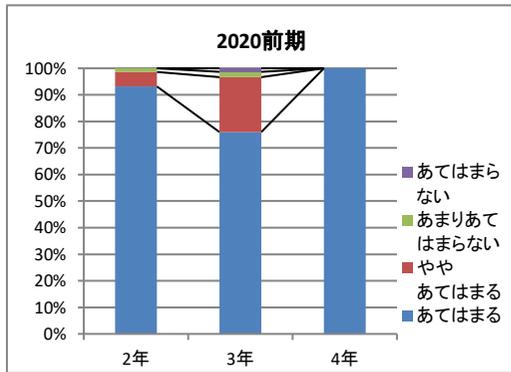
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



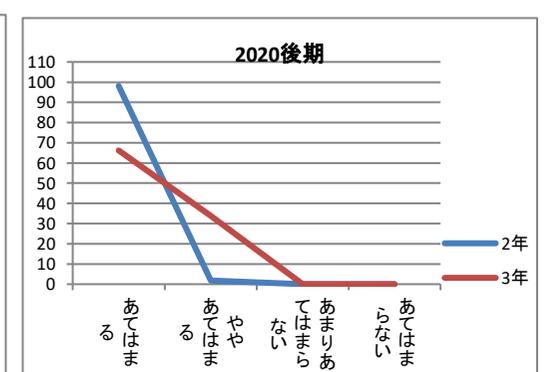
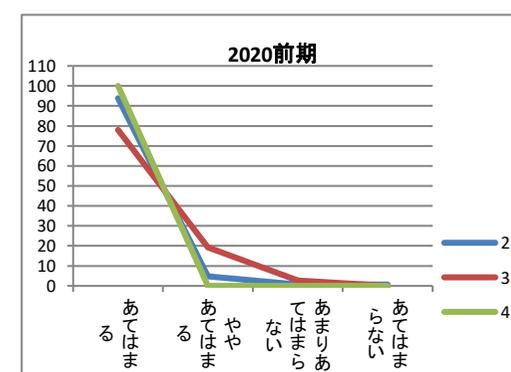
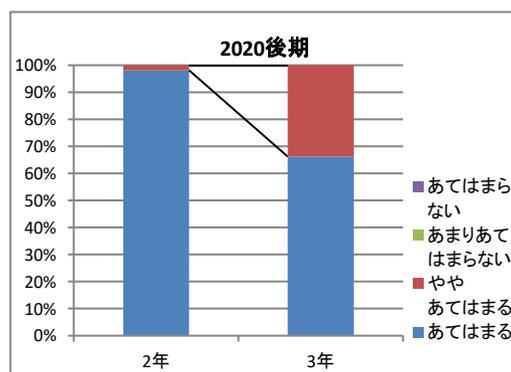
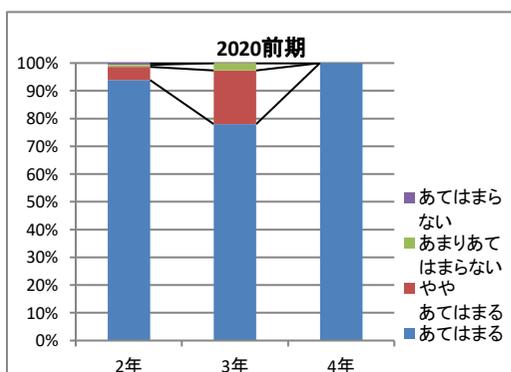
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



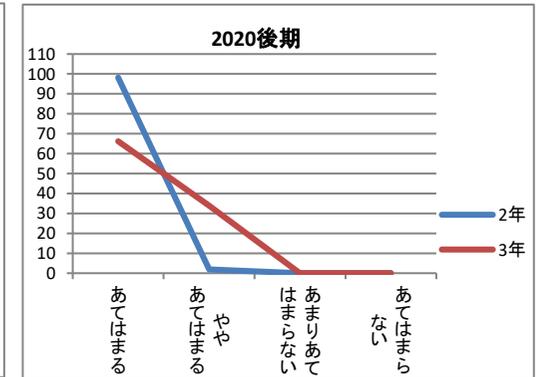
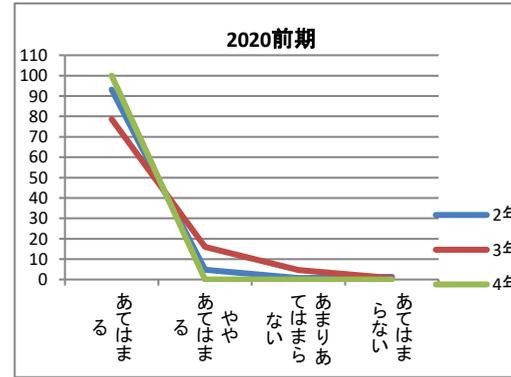
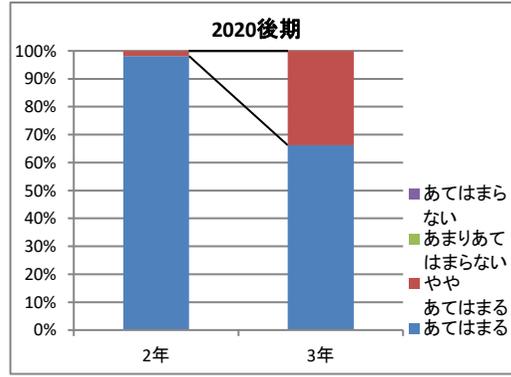
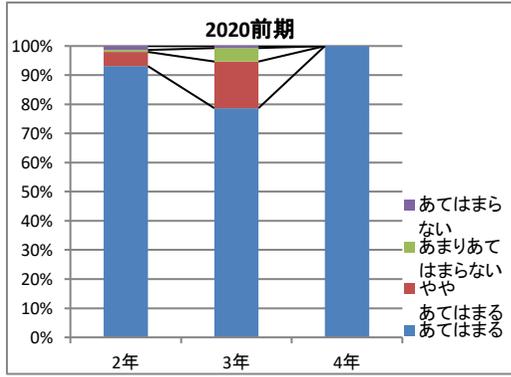
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



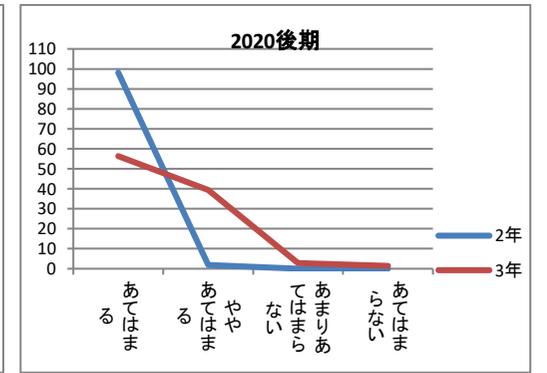
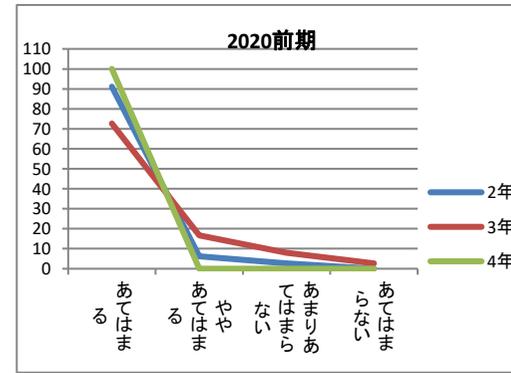
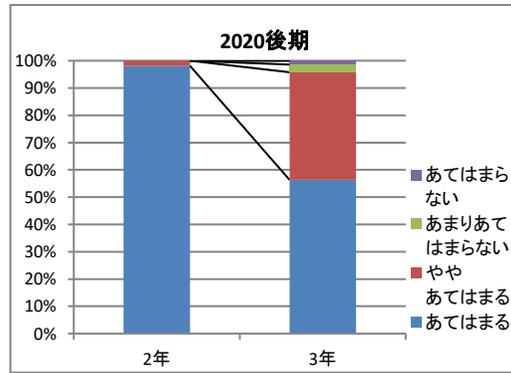
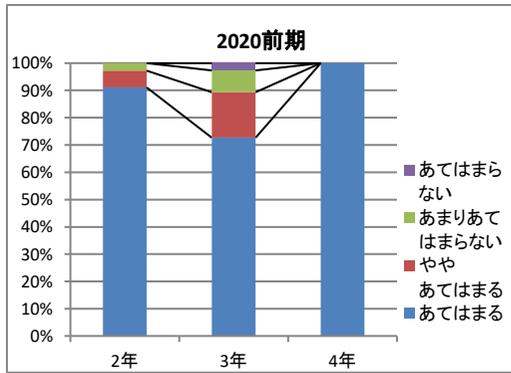
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



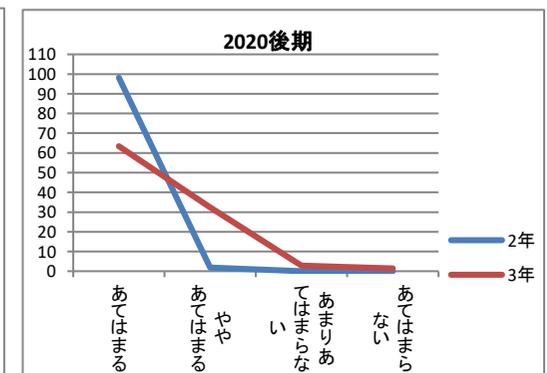
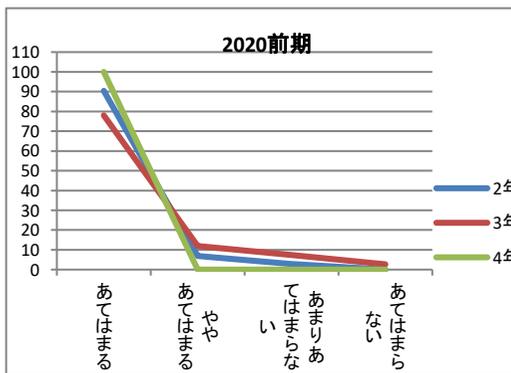
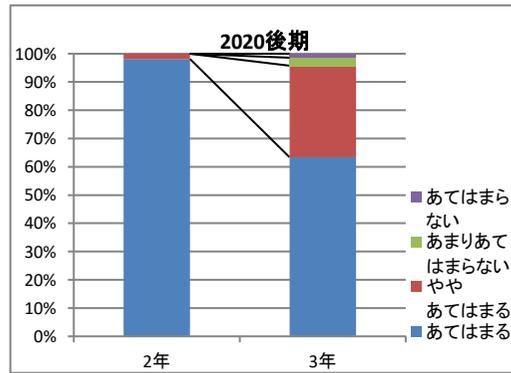
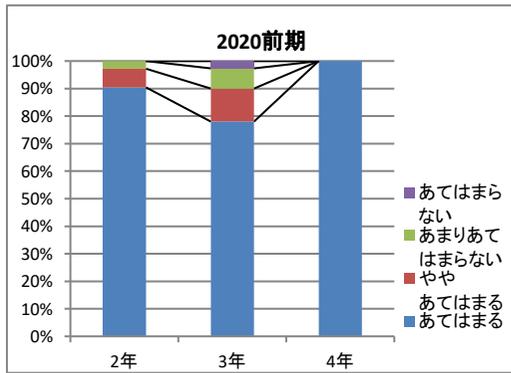
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



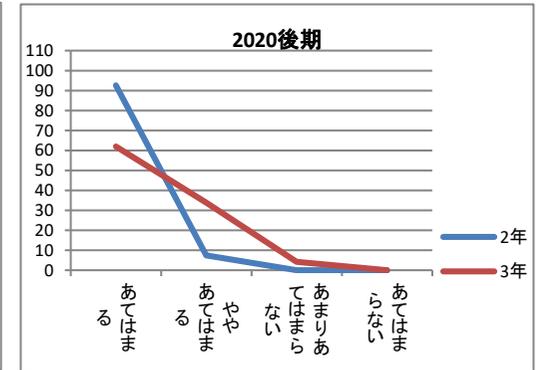
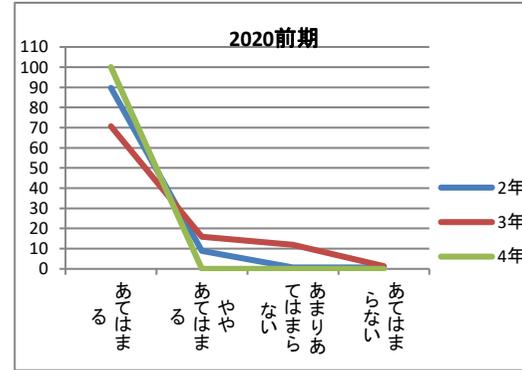
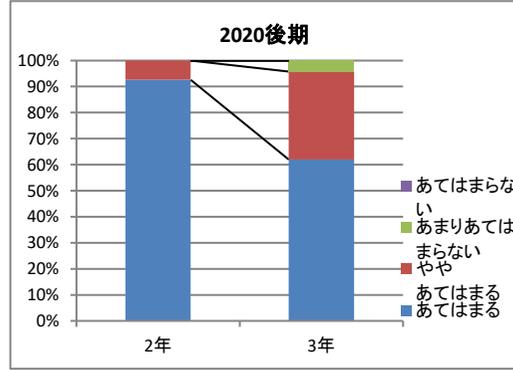
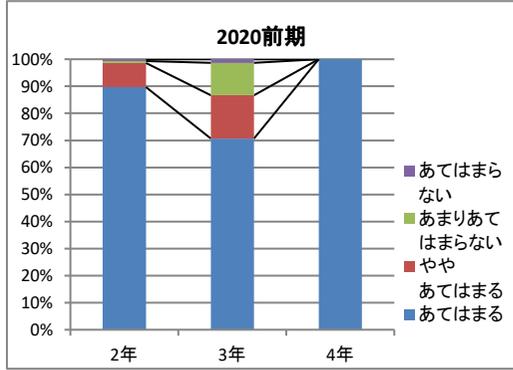
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



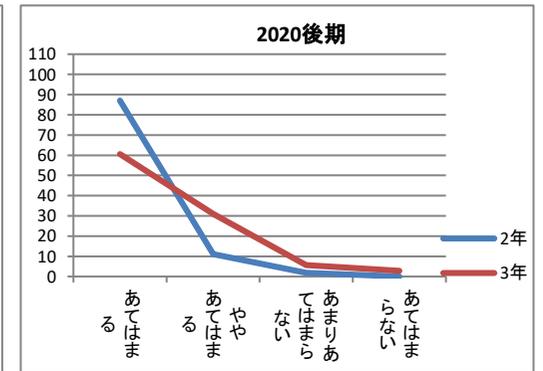
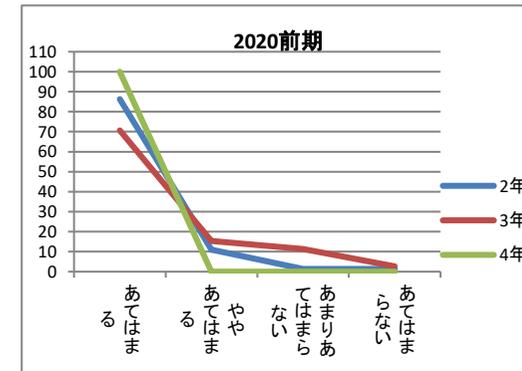
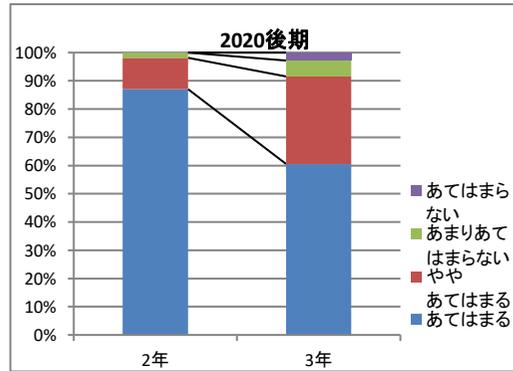
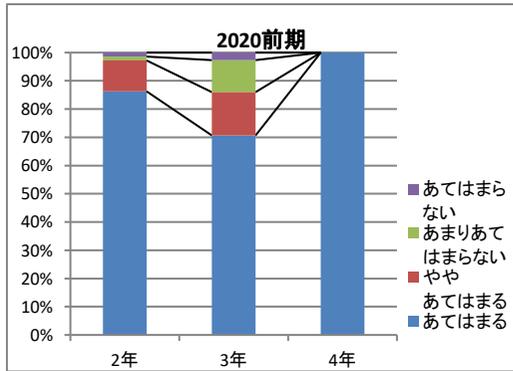
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



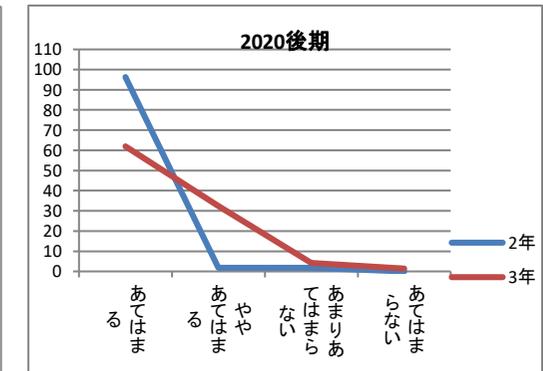
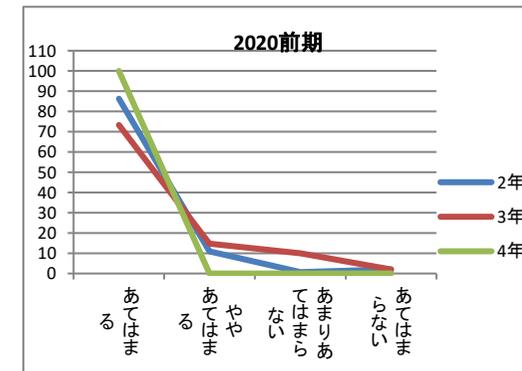
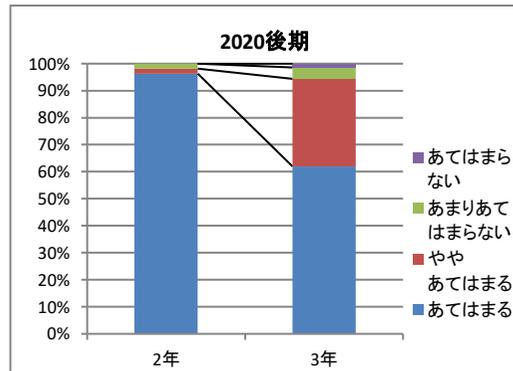
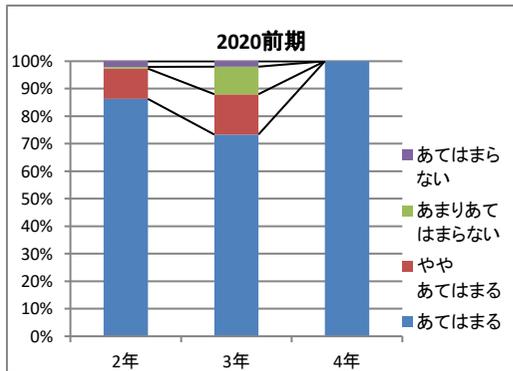
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

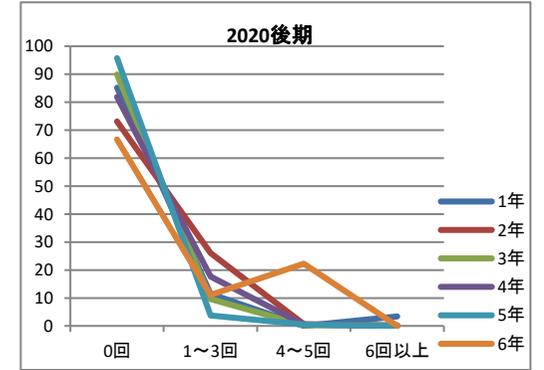
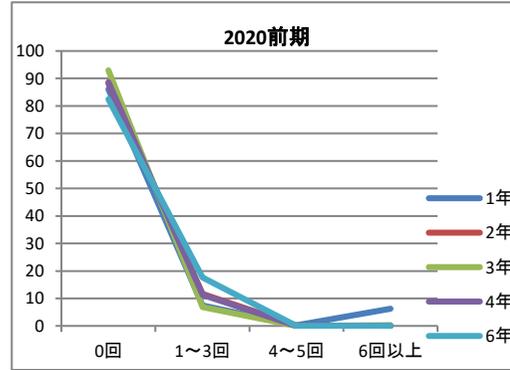
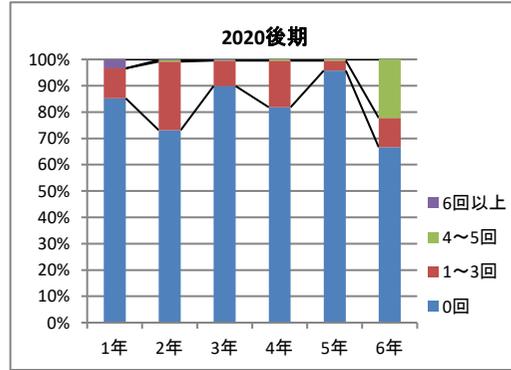
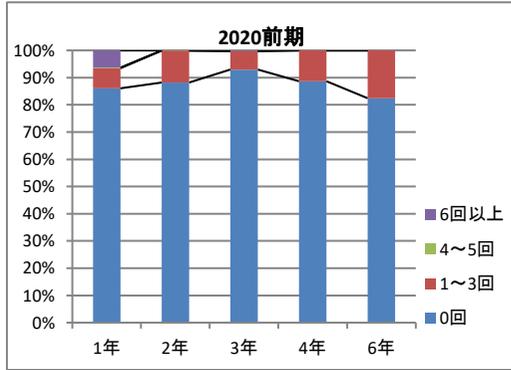


授業アンケート 令和2年度 2020年度

<薬学科>

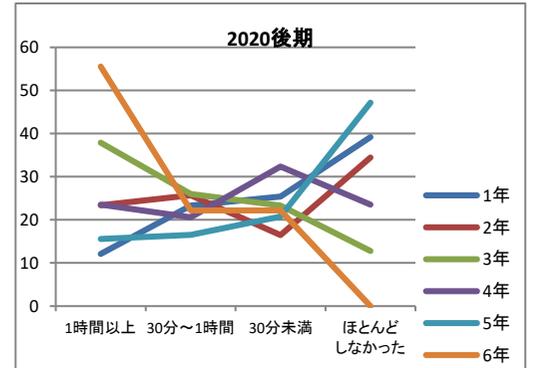
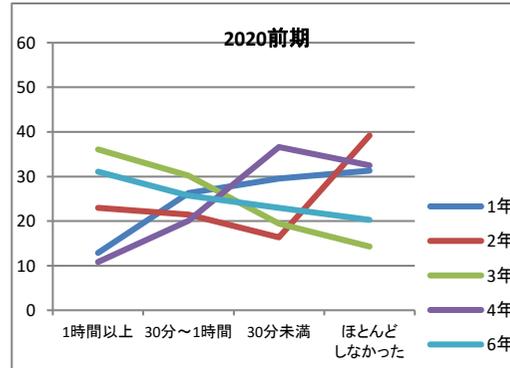
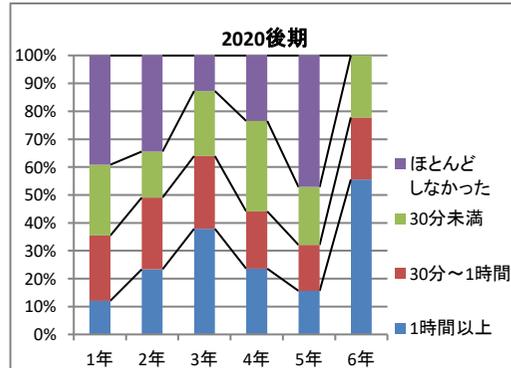
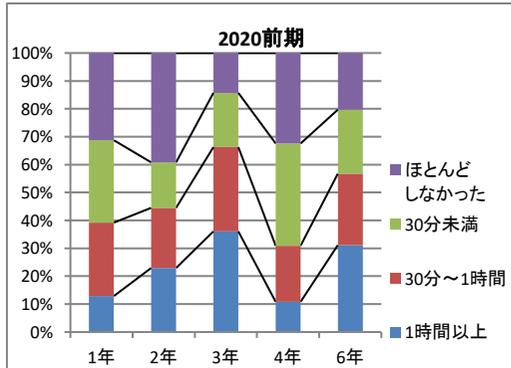
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



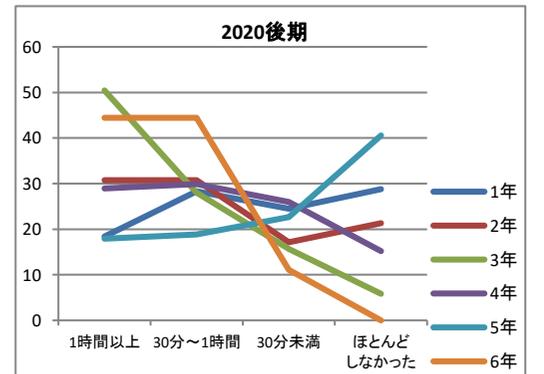
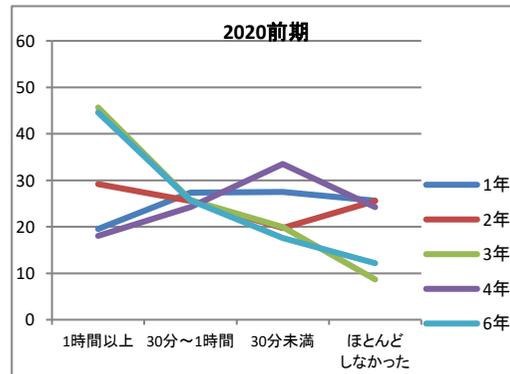
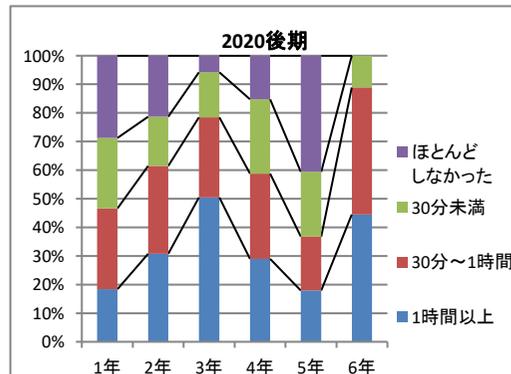
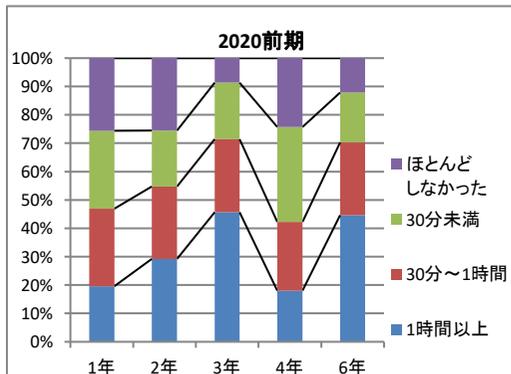
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



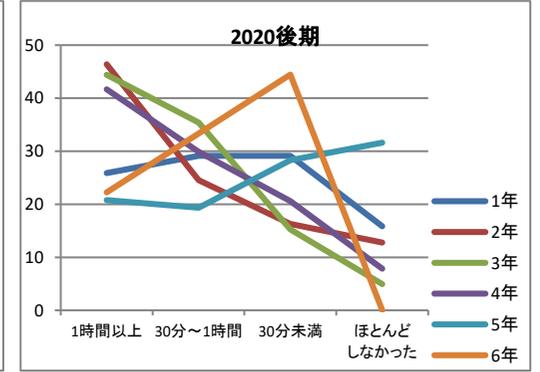
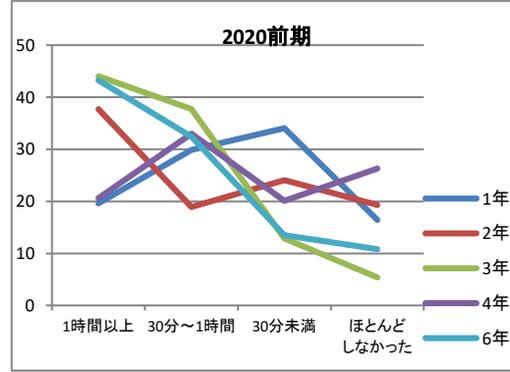
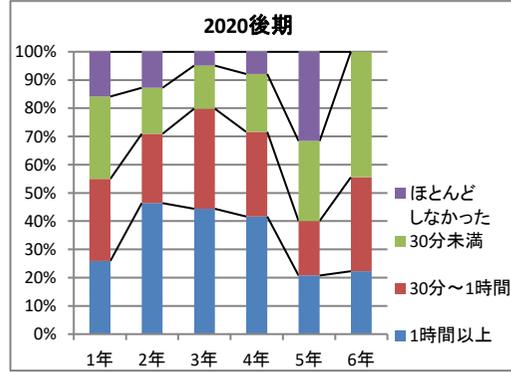
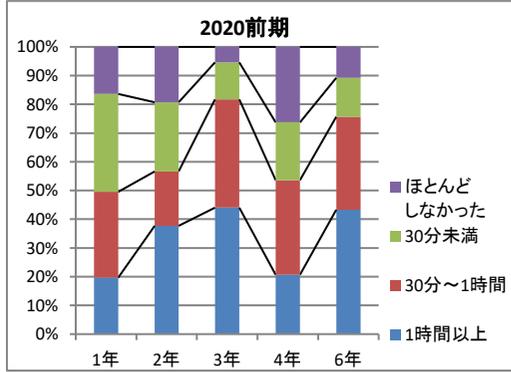
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



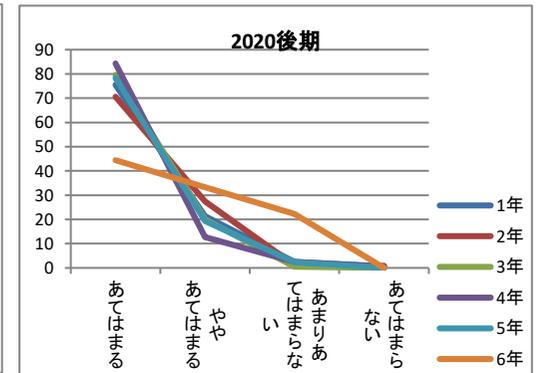
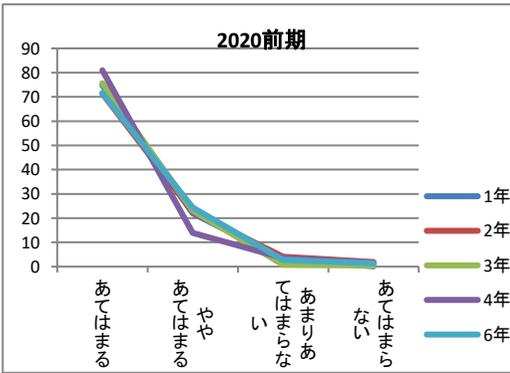
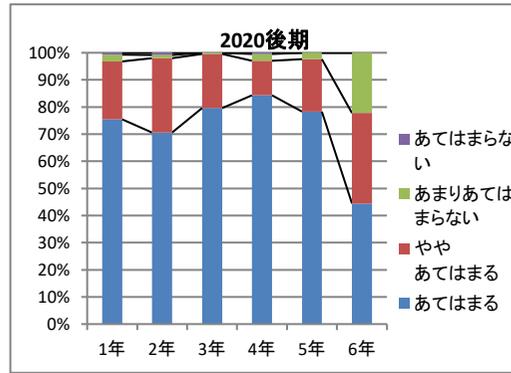
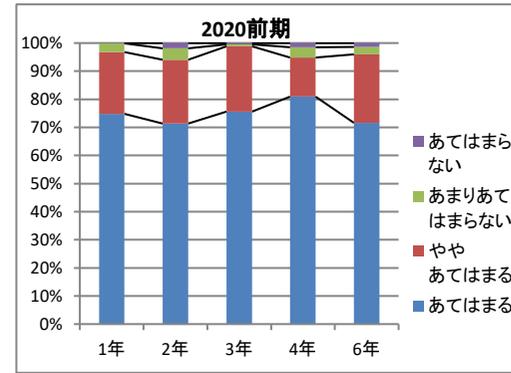
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



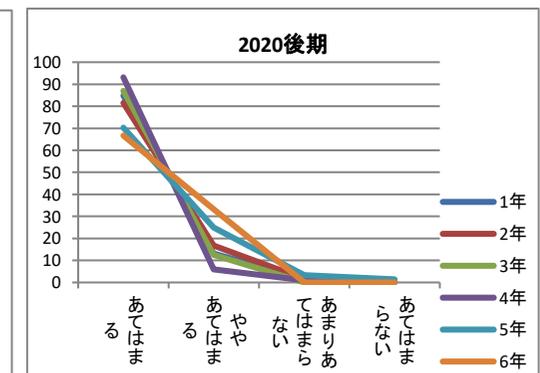
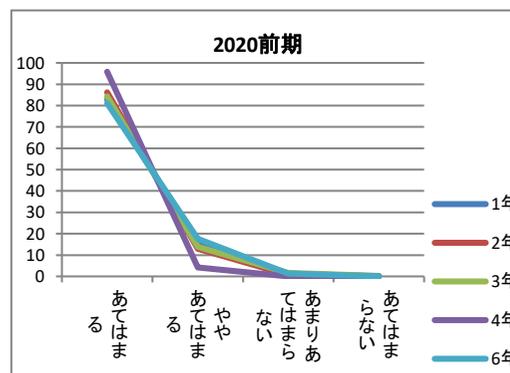
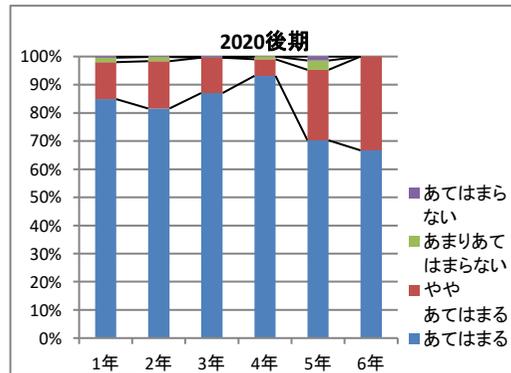
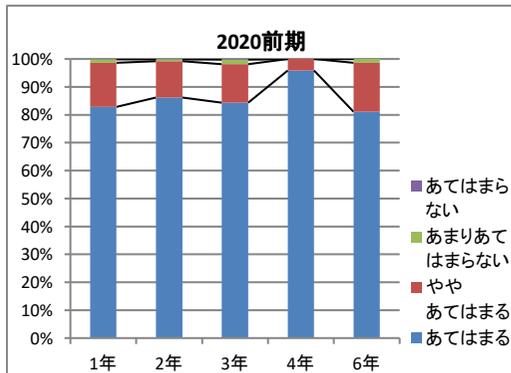
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



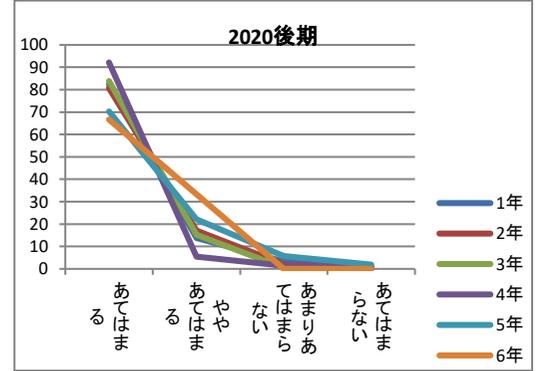
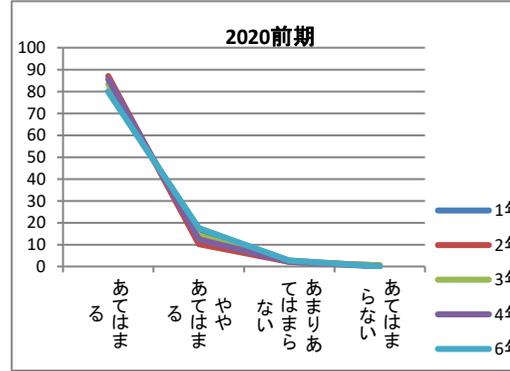
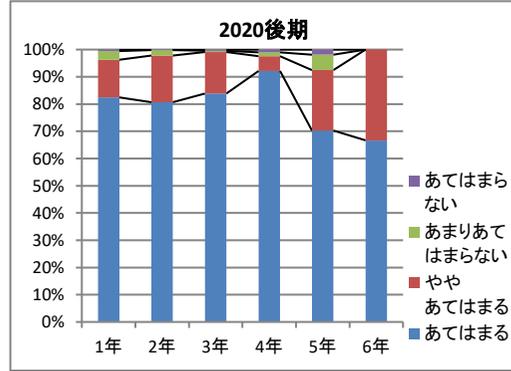
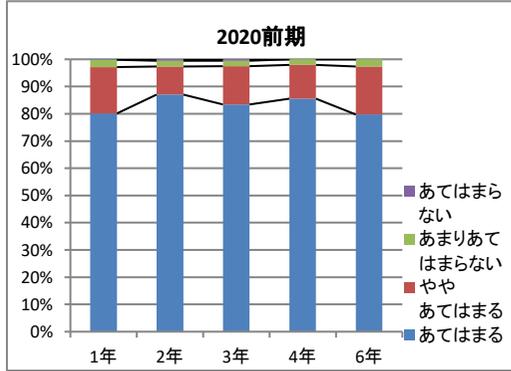
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



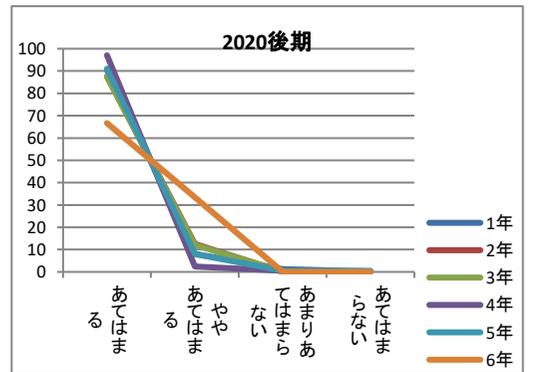
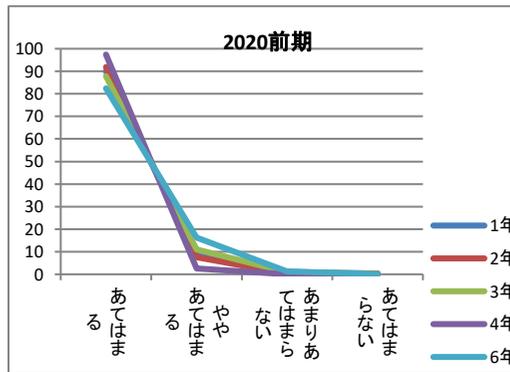
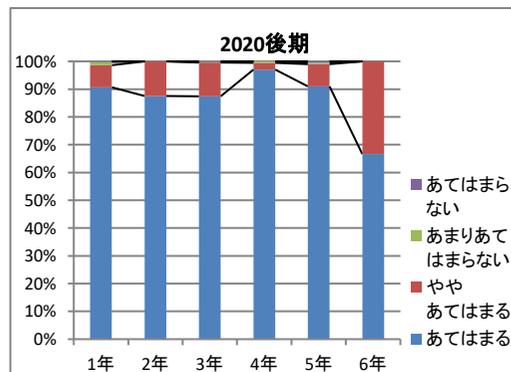
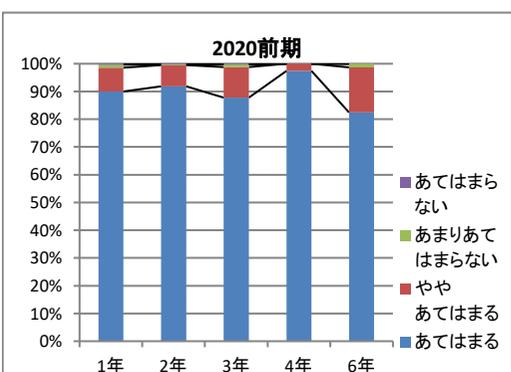
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



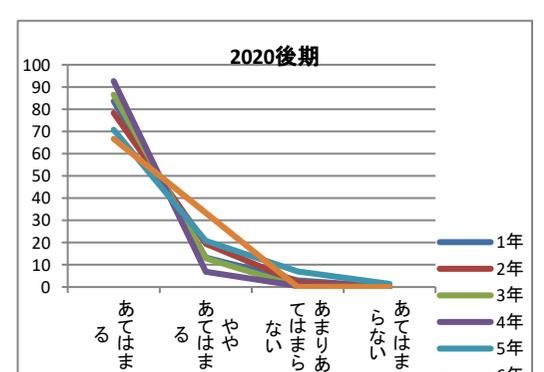
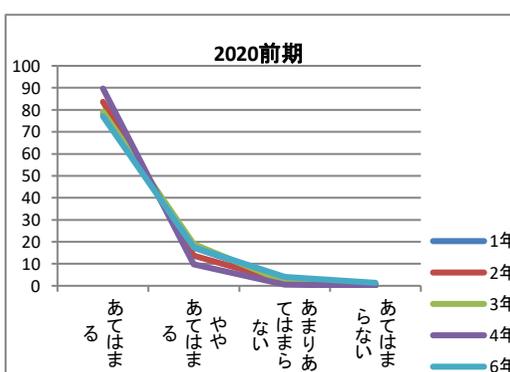
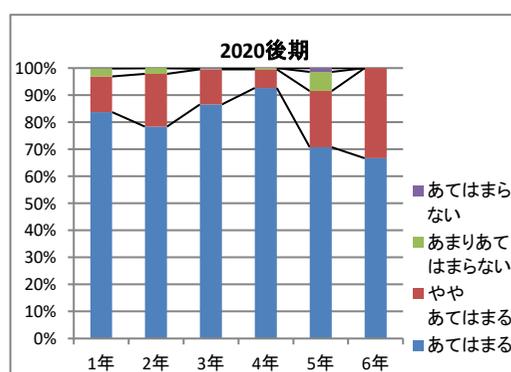
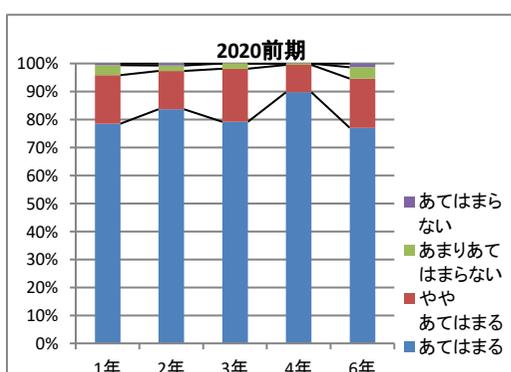
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



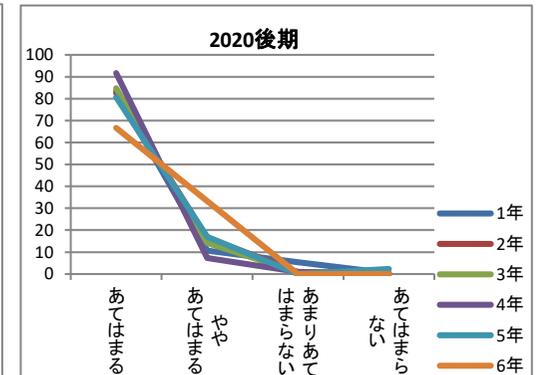
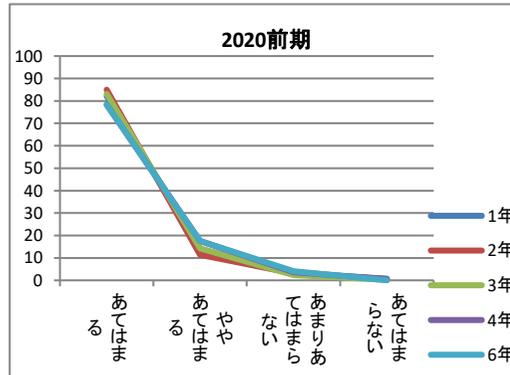
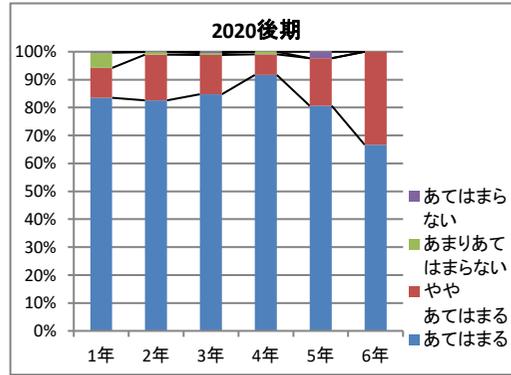
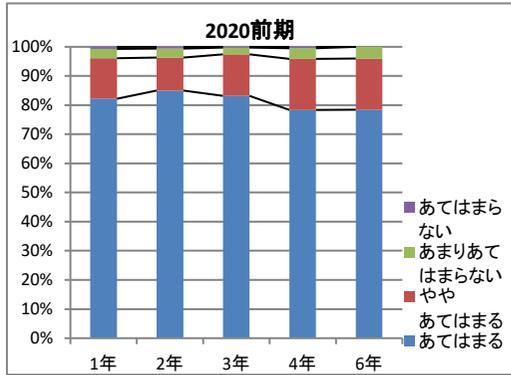
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



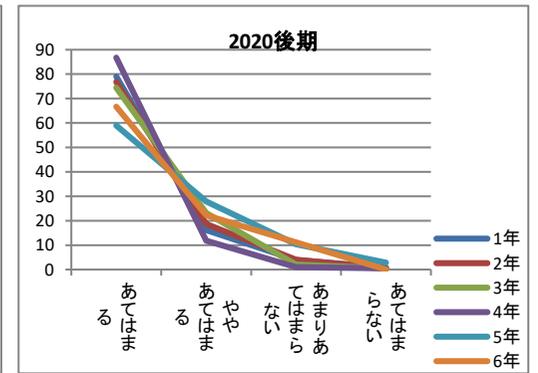
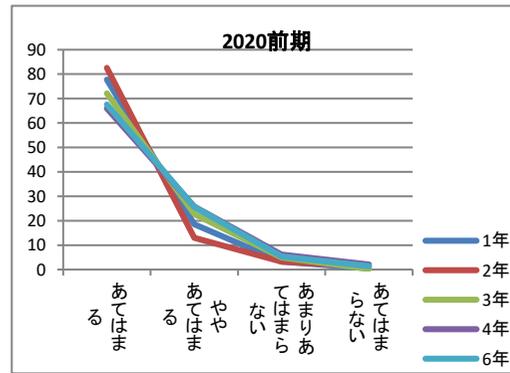
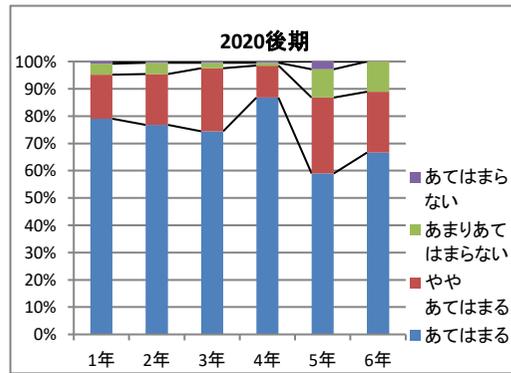
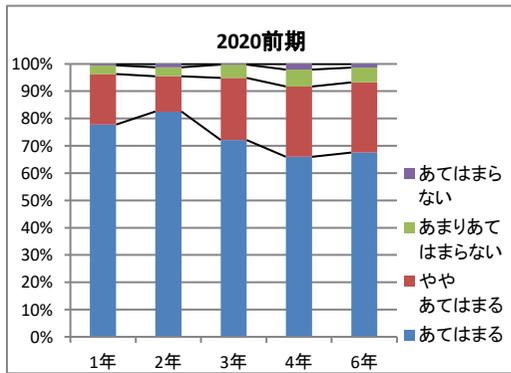
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



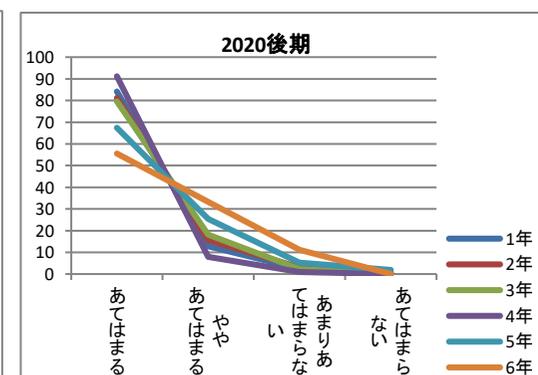
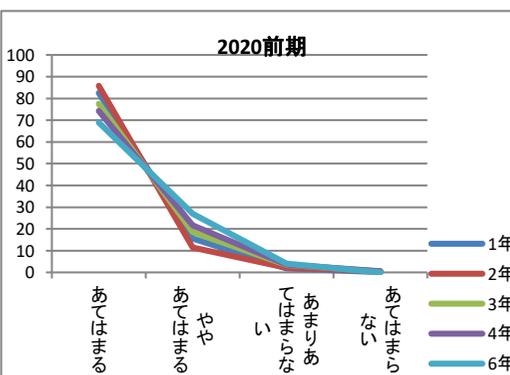
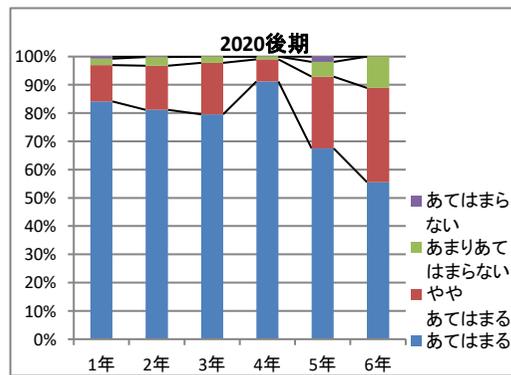
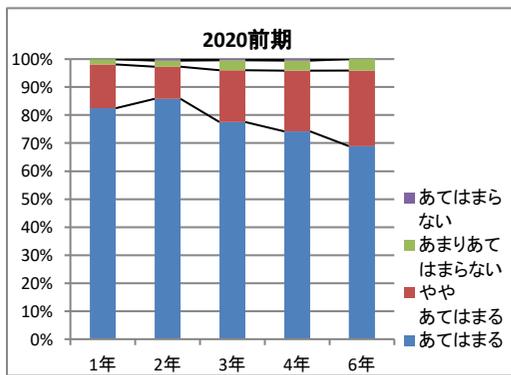
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



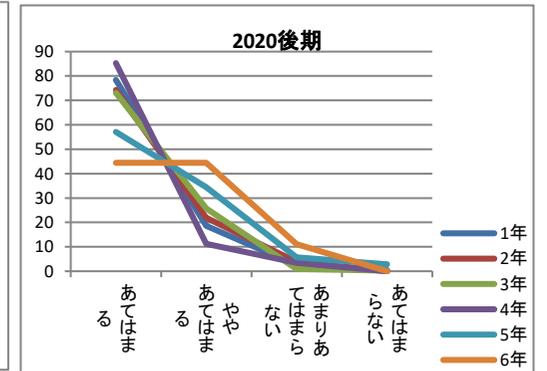
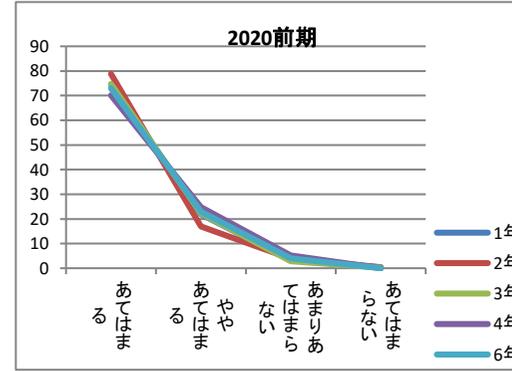
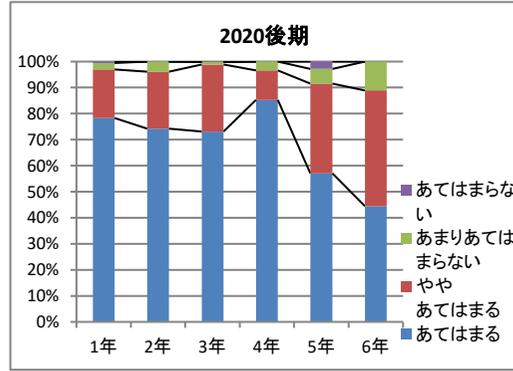
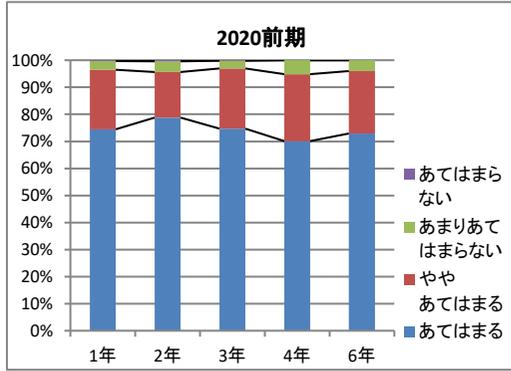
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



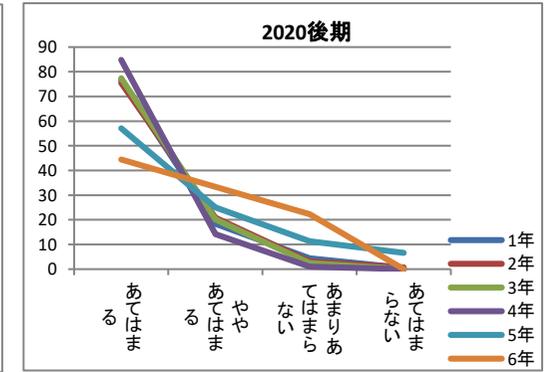
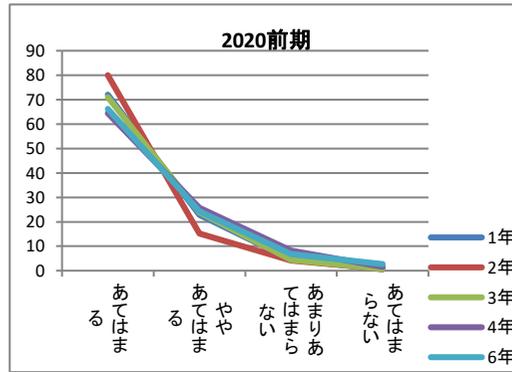
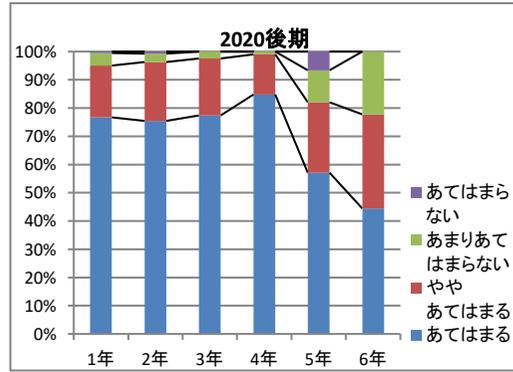
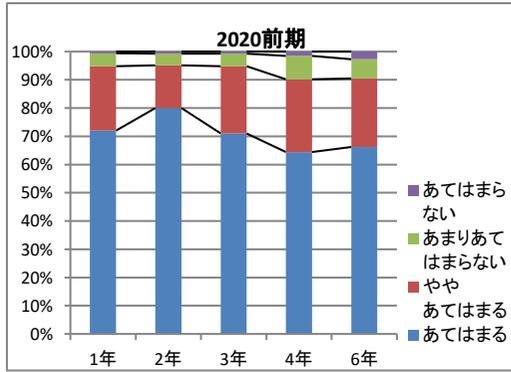
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



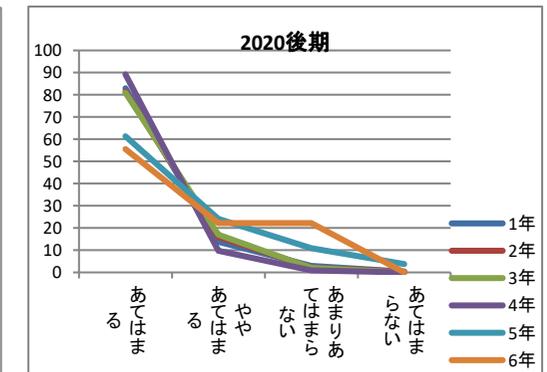
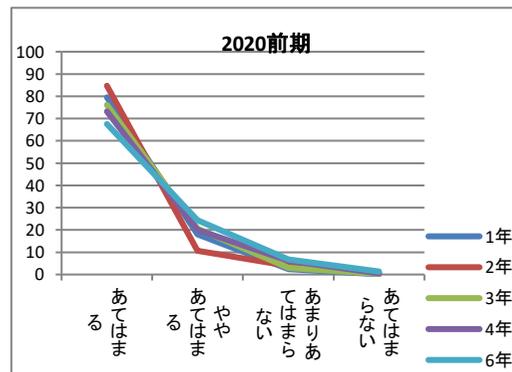
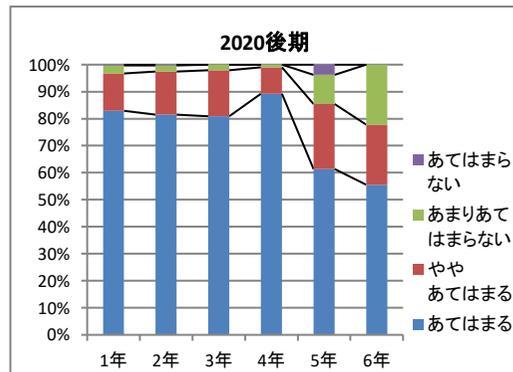
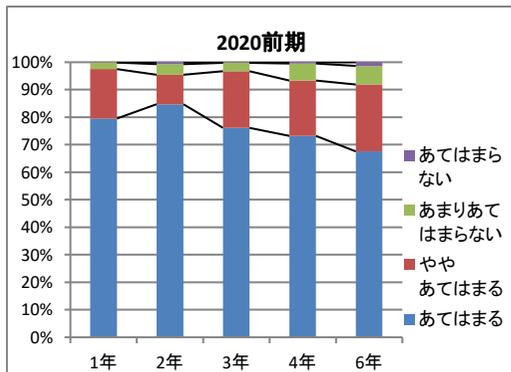
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。



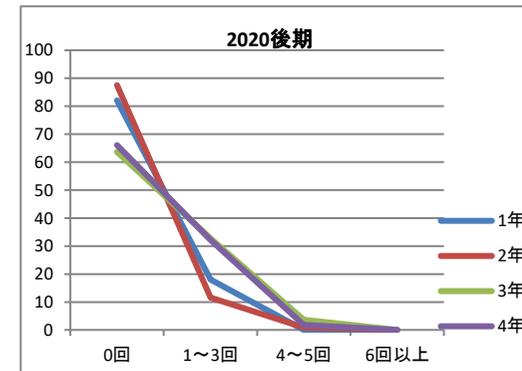
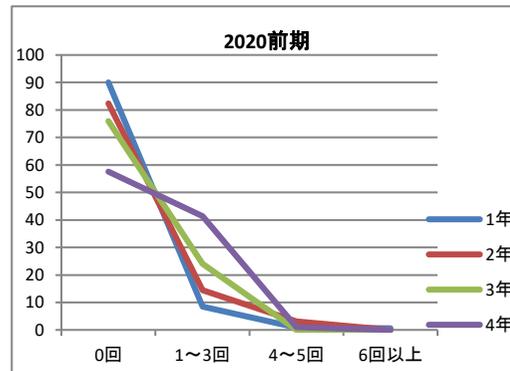
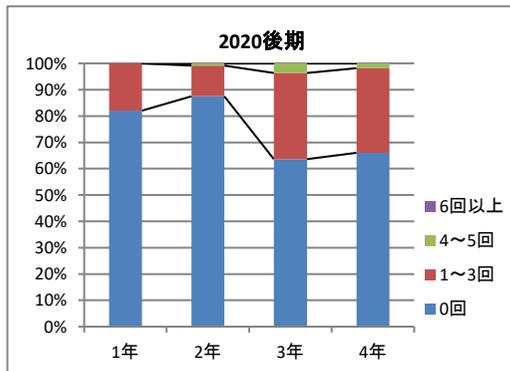
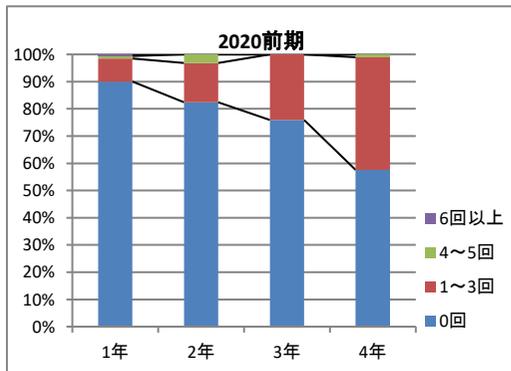
授業アンケート 令和2年度 2020年度

<動物生命薬科学科>

図X 動物生命

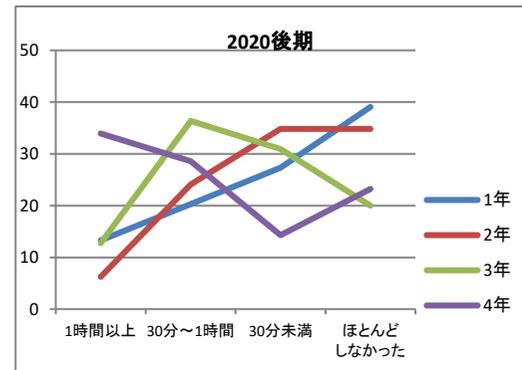
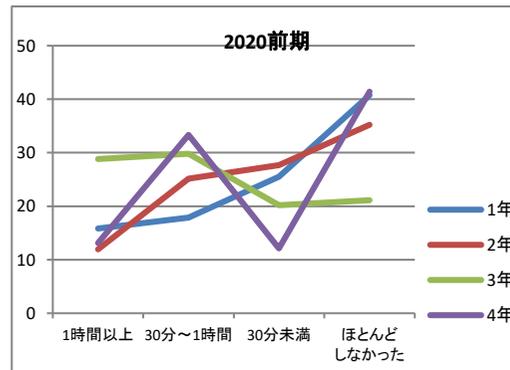
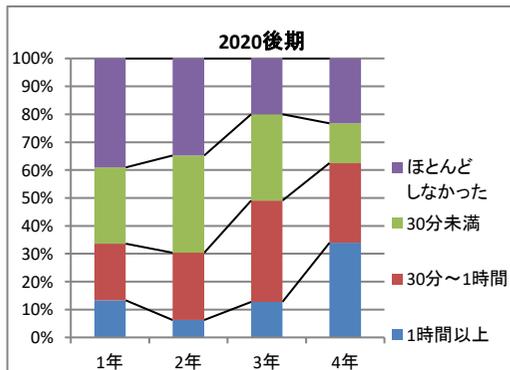
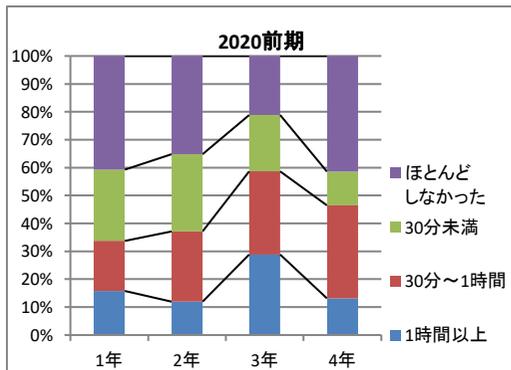
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



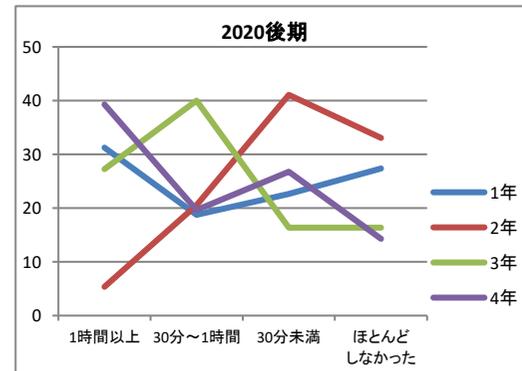
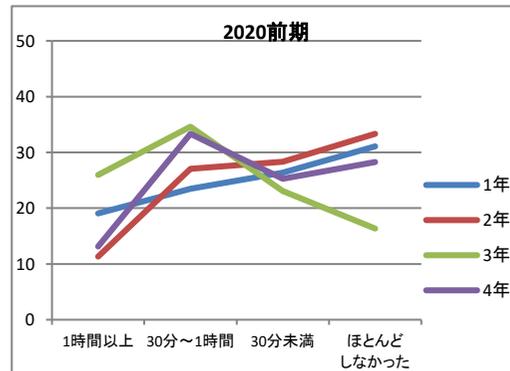
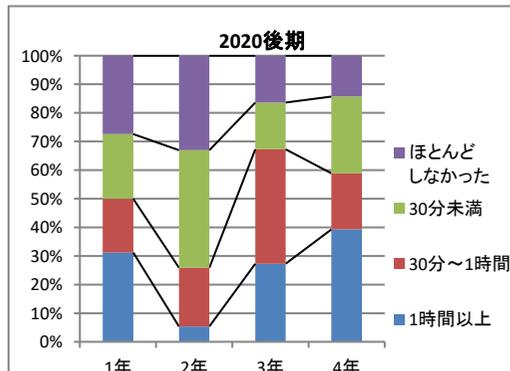
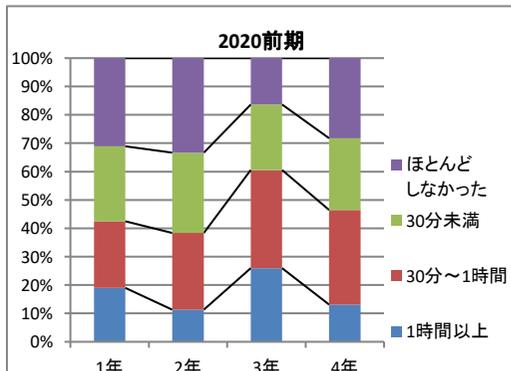
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



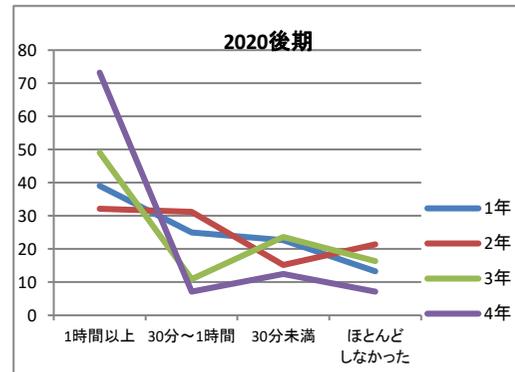
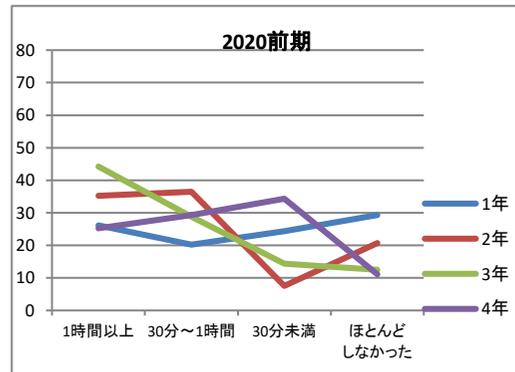
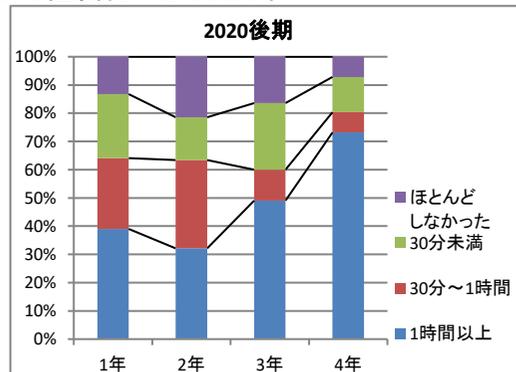
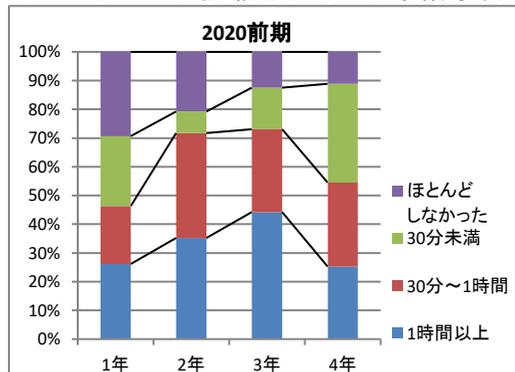
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



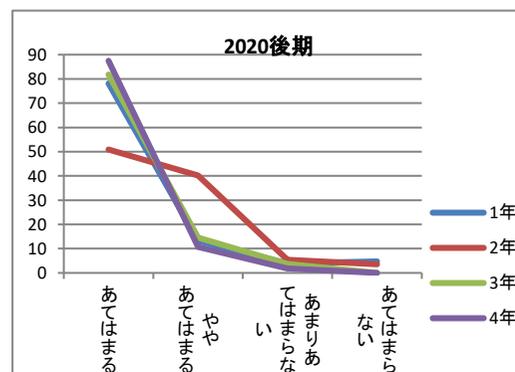
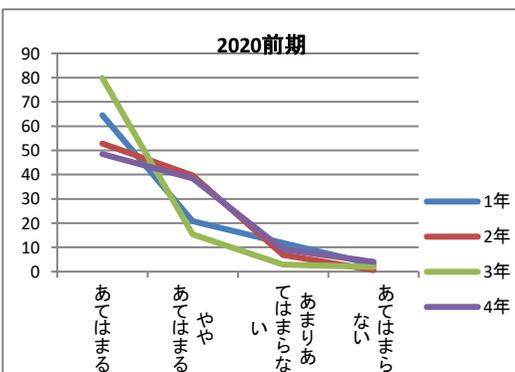
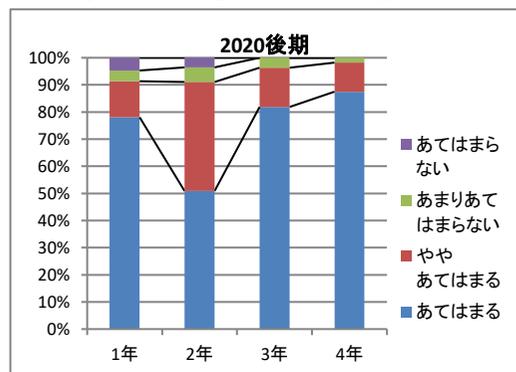
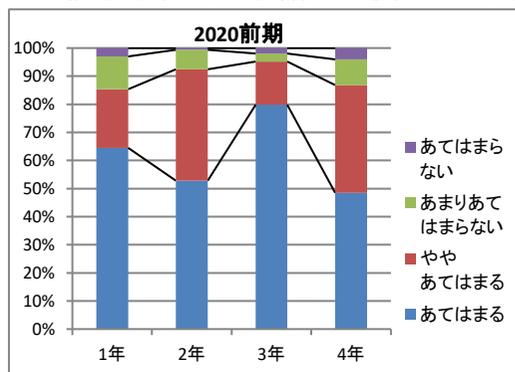
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



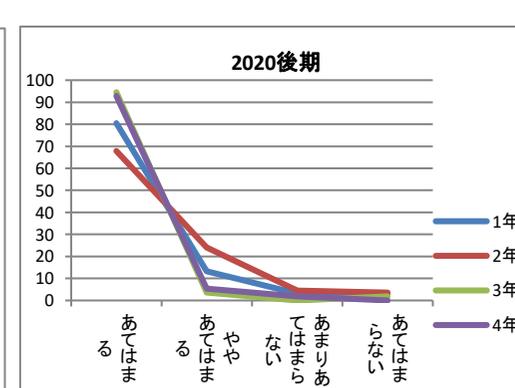
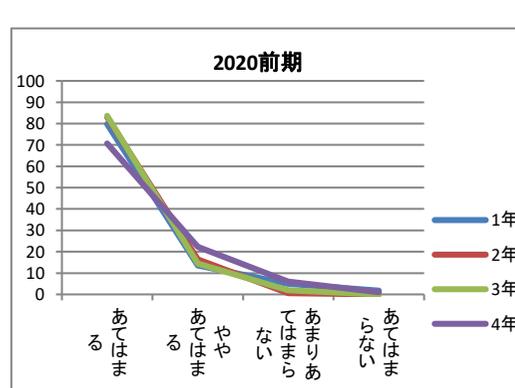
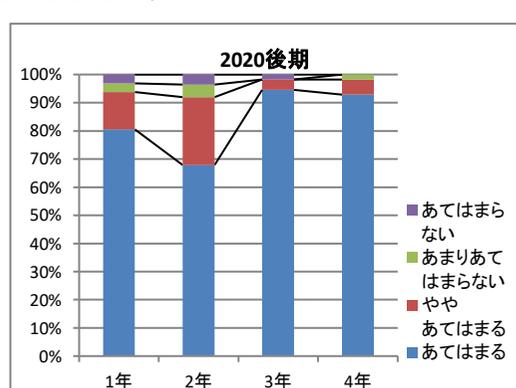
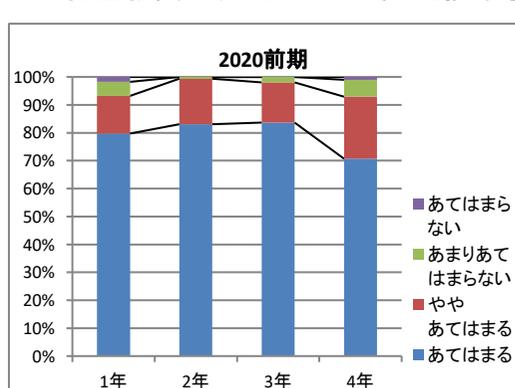
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



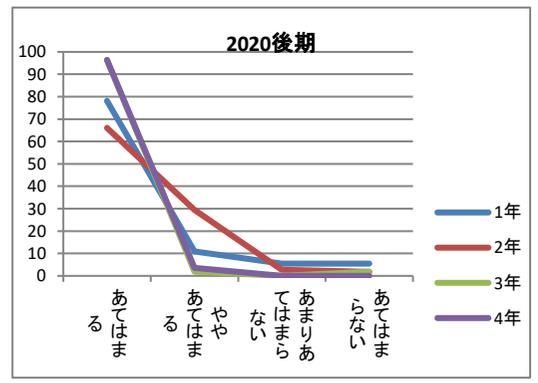
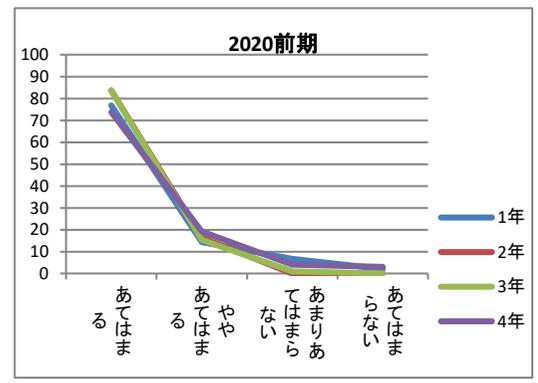
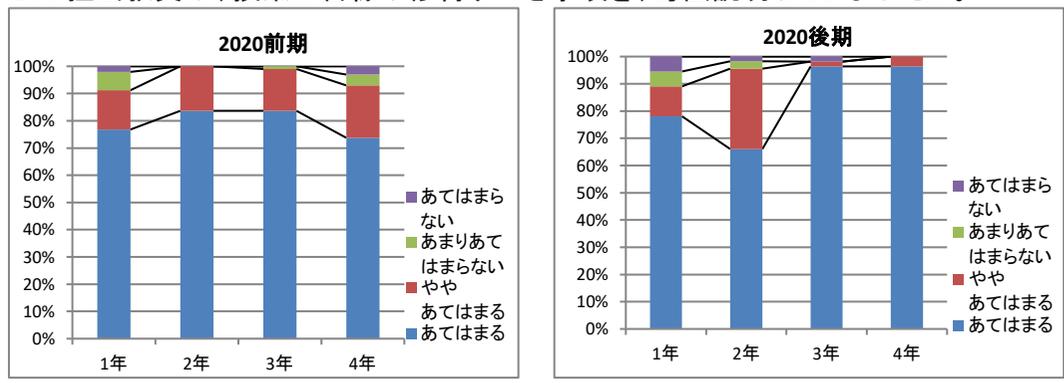
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



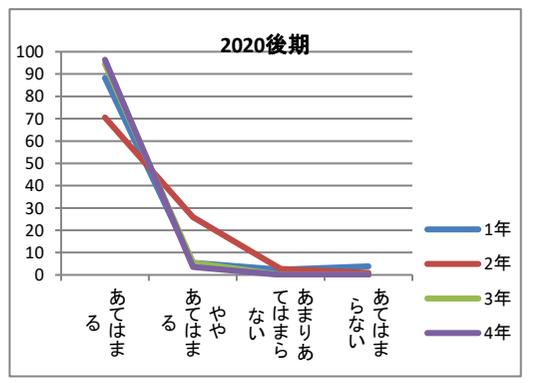
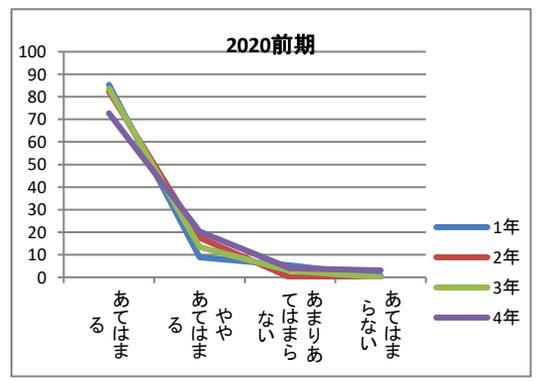
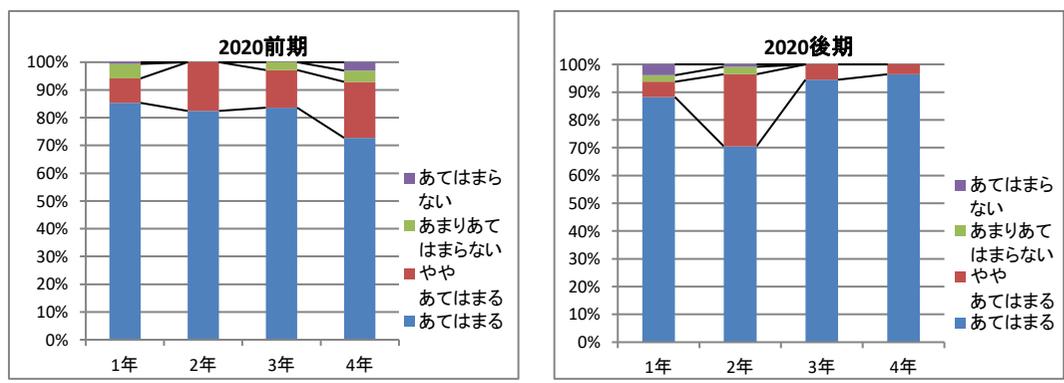
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



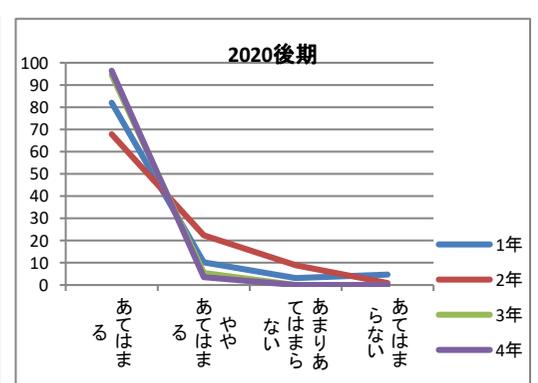
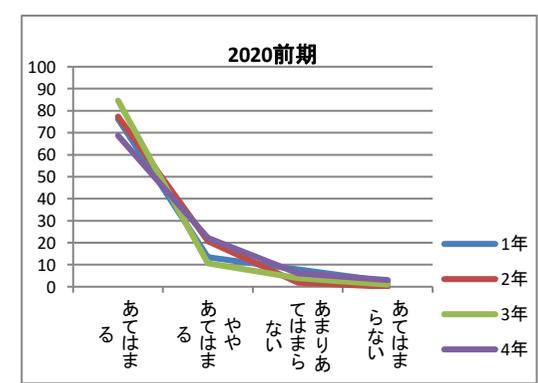
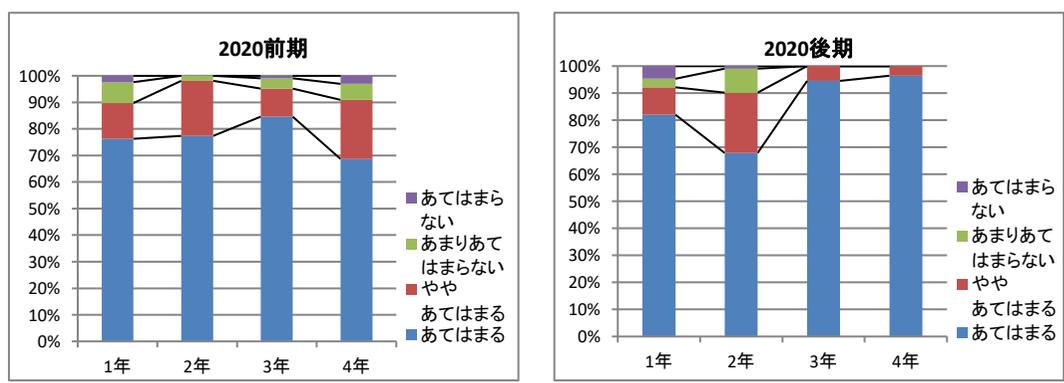
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



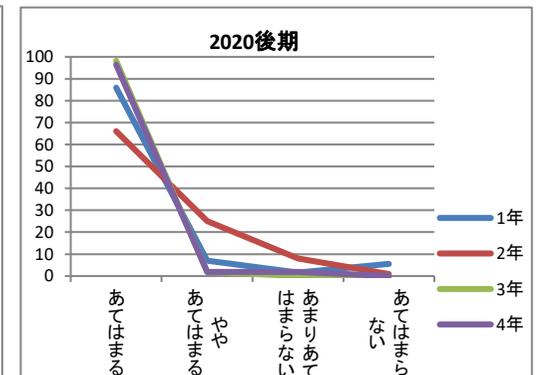
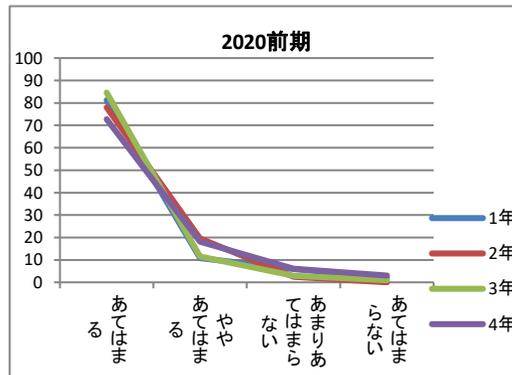
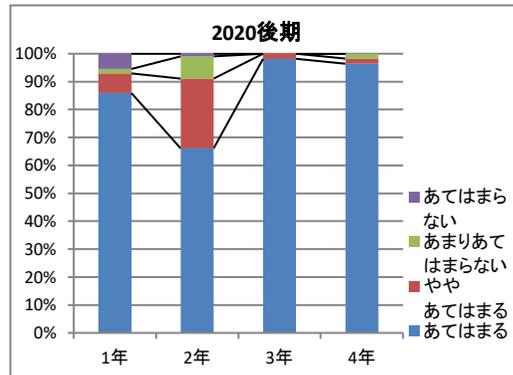
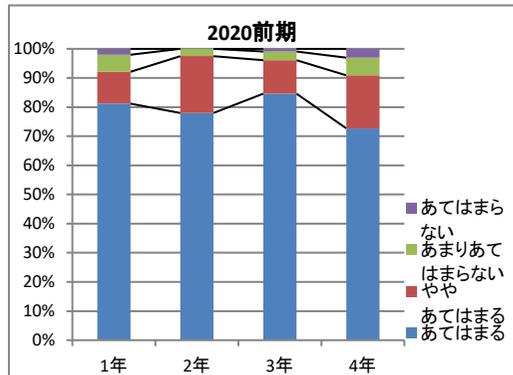
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



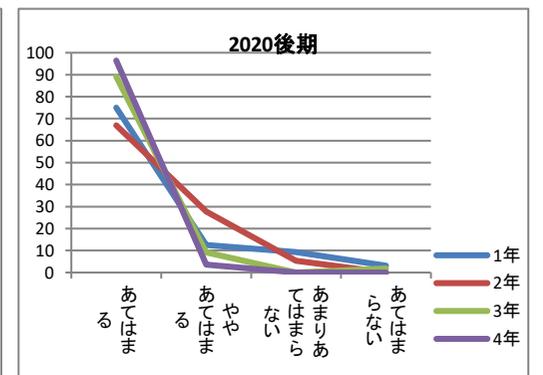
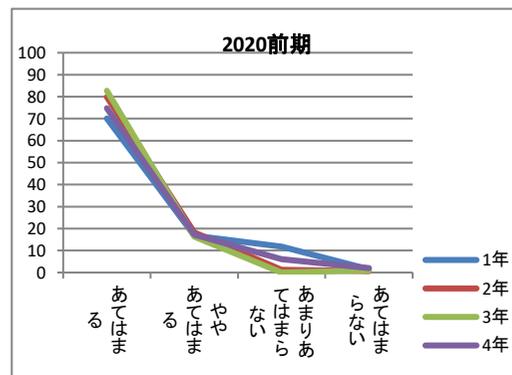
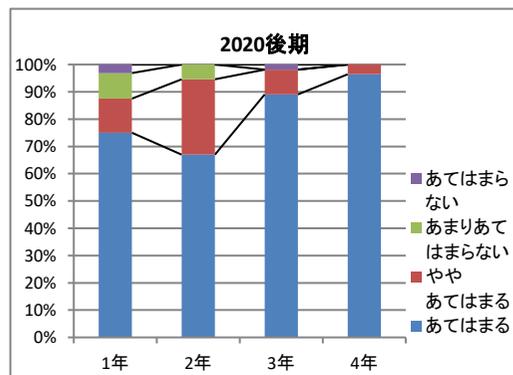
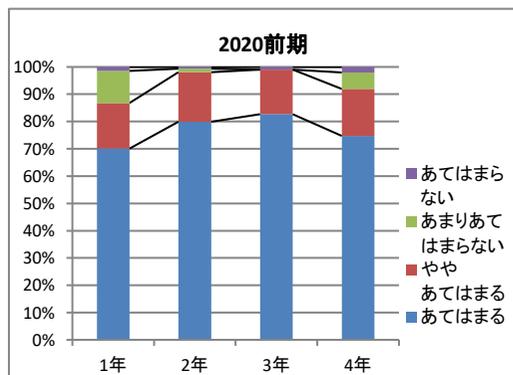
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



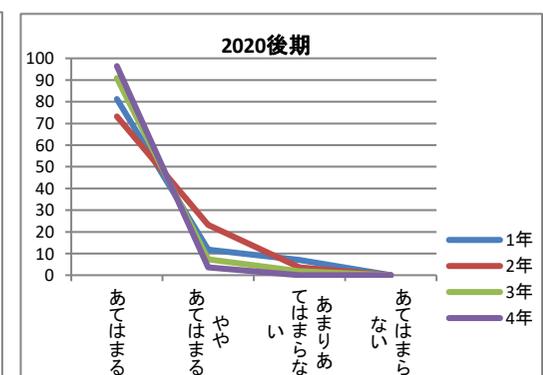
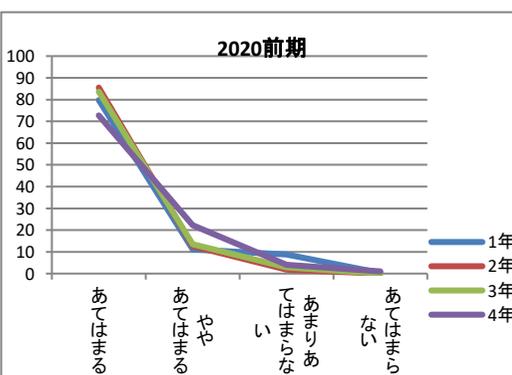
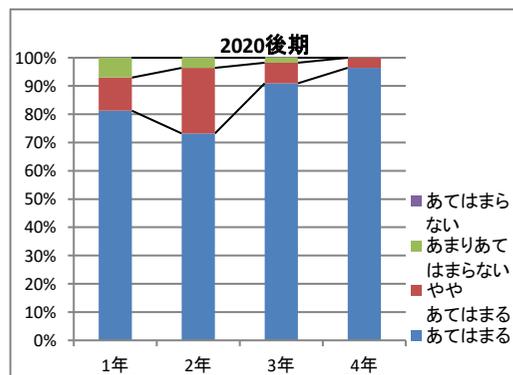
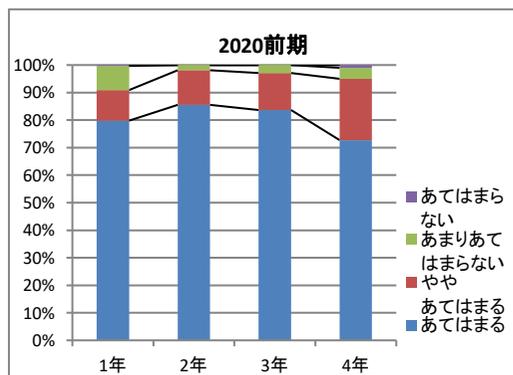
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



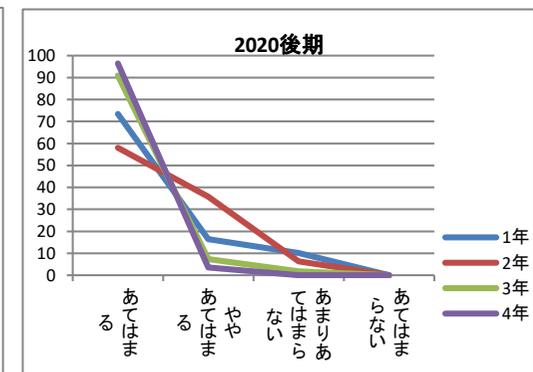
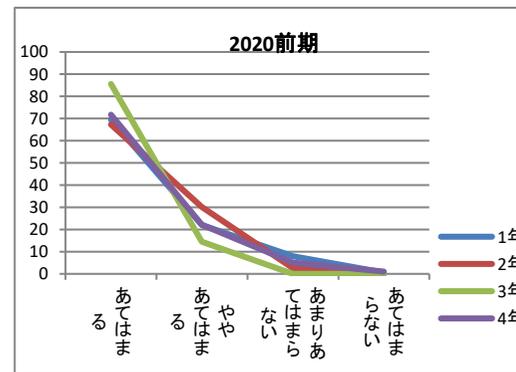
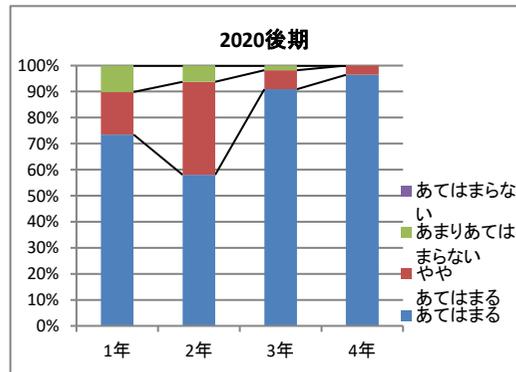
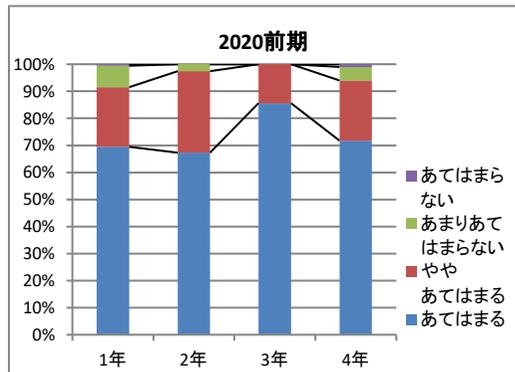
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



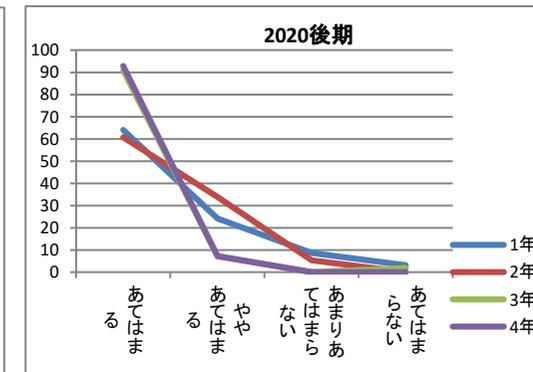
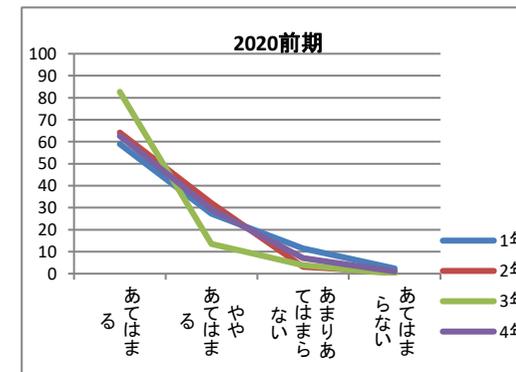
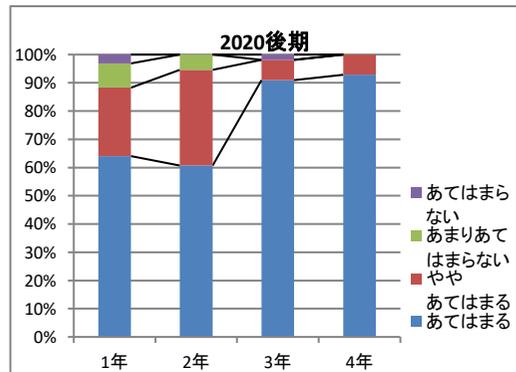
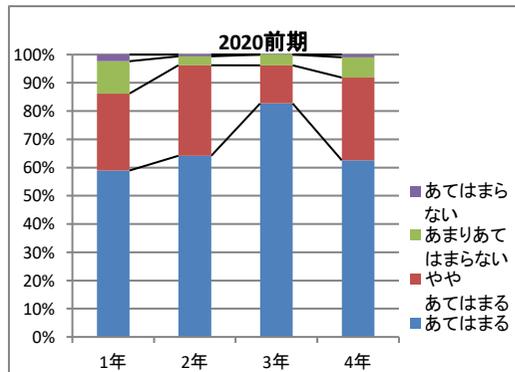
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



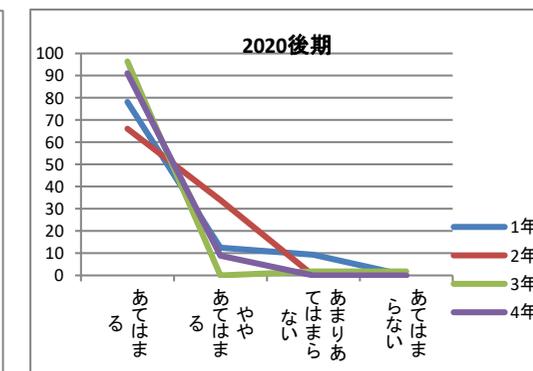
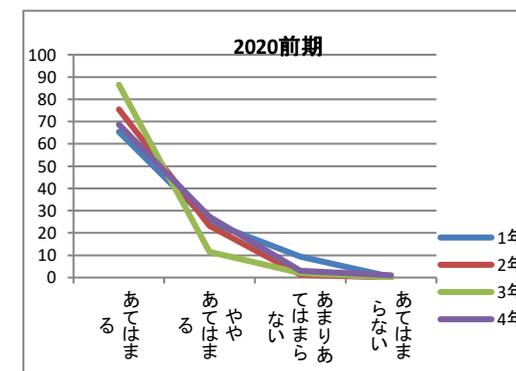
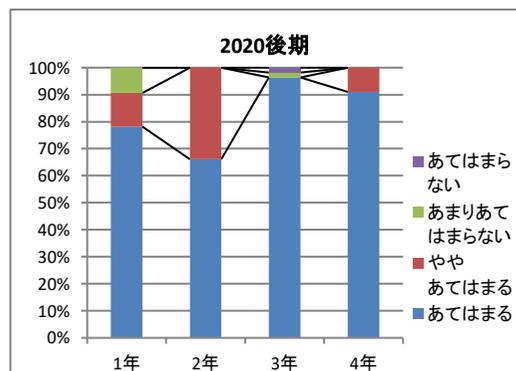
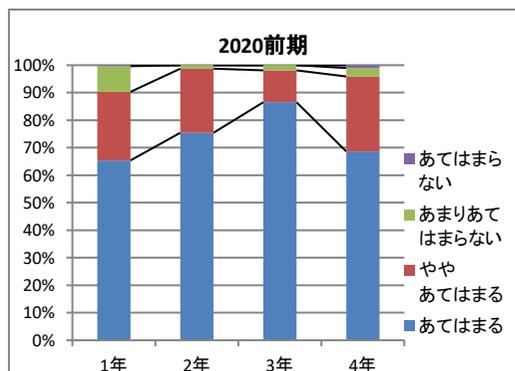
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

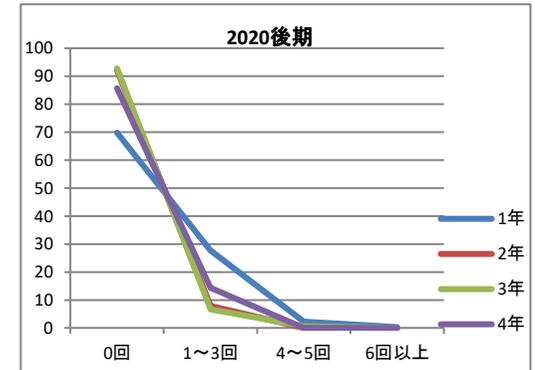
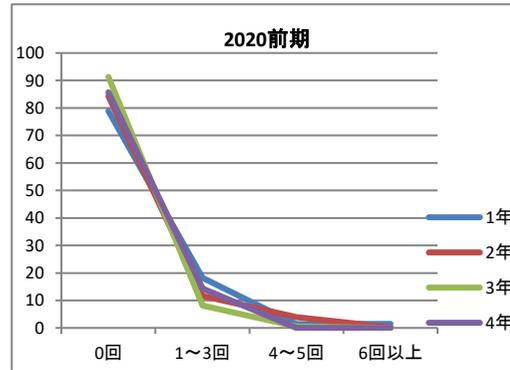
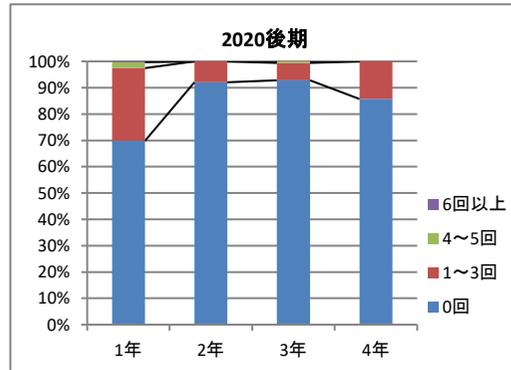
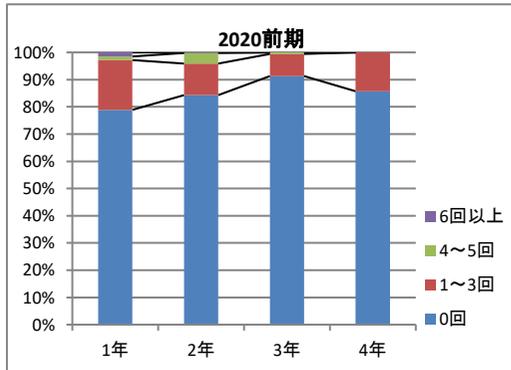


授業アンケート 令和2年度 2020年度

<生命医科学科>

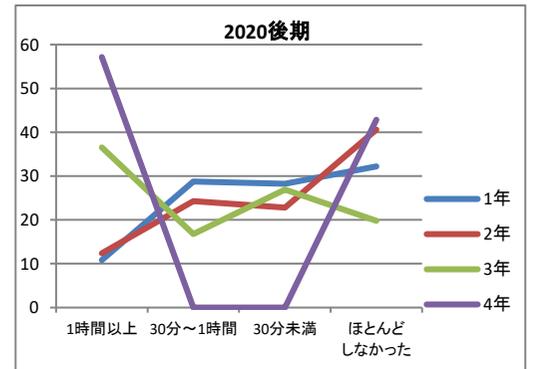
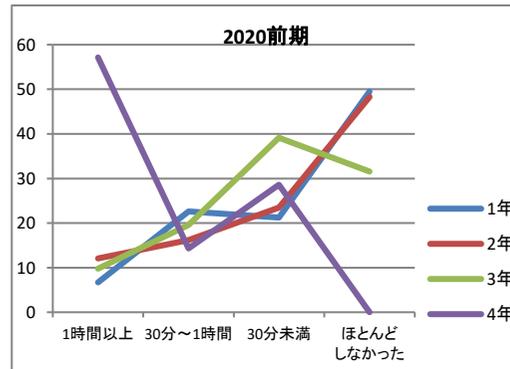
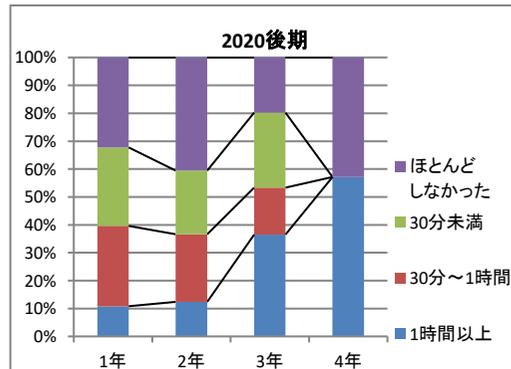
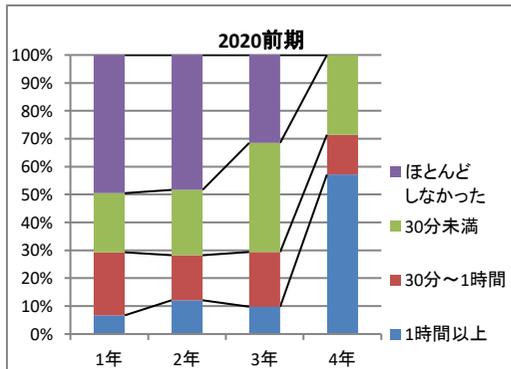
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



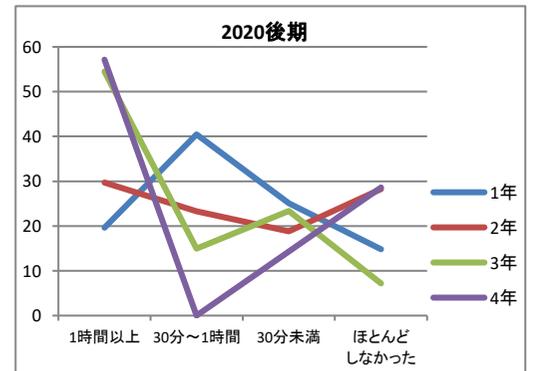
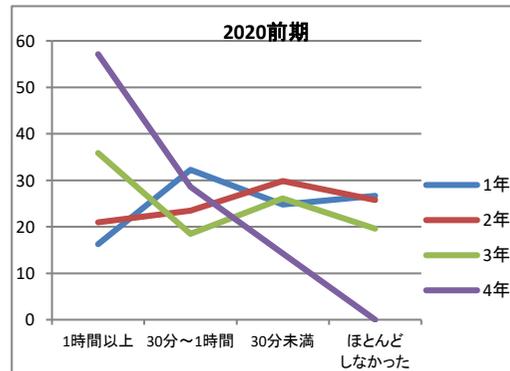
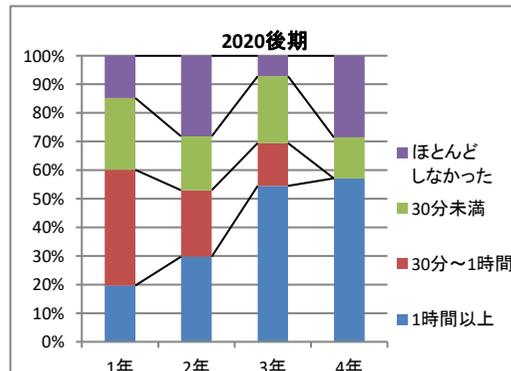
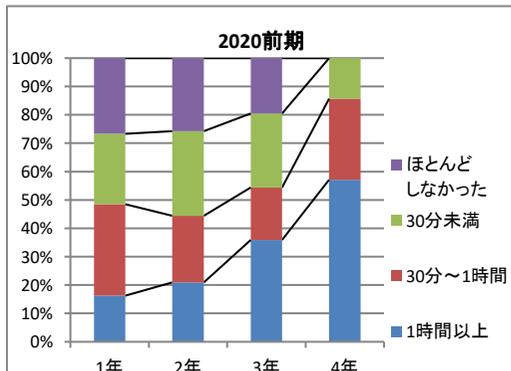
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



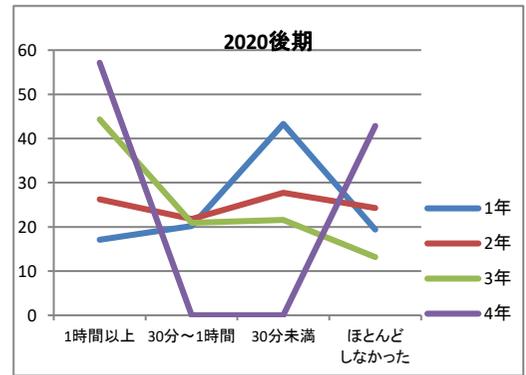
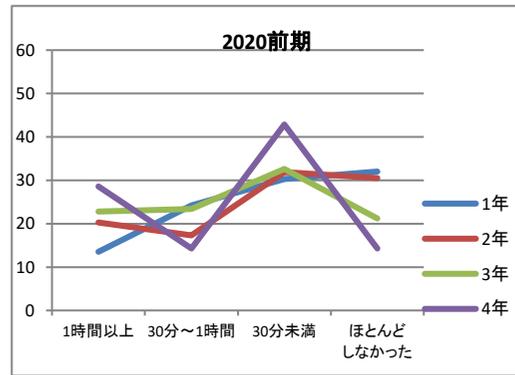
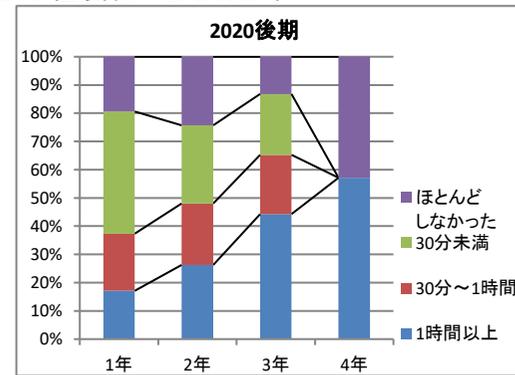
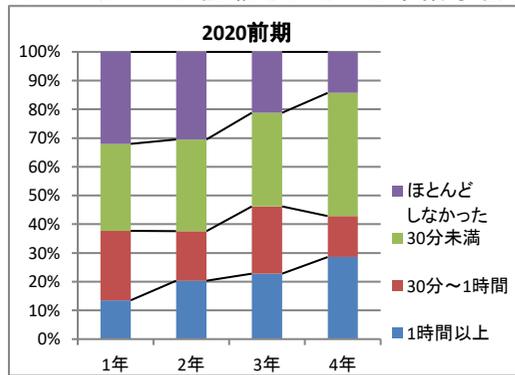
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



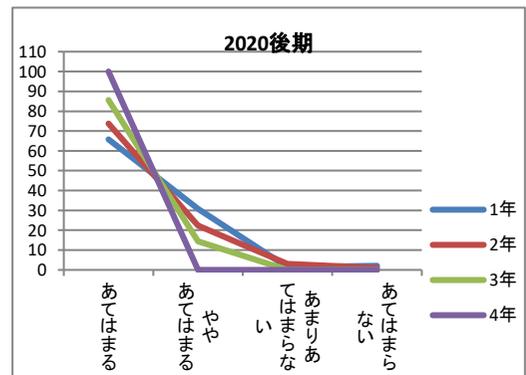
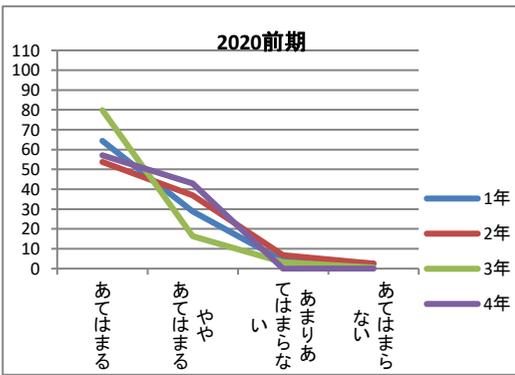
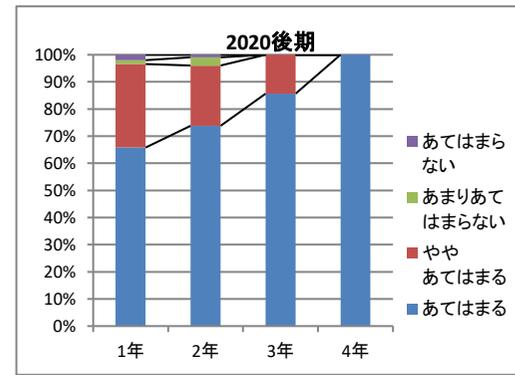
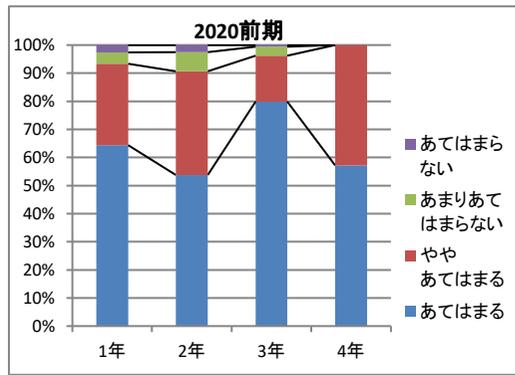
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



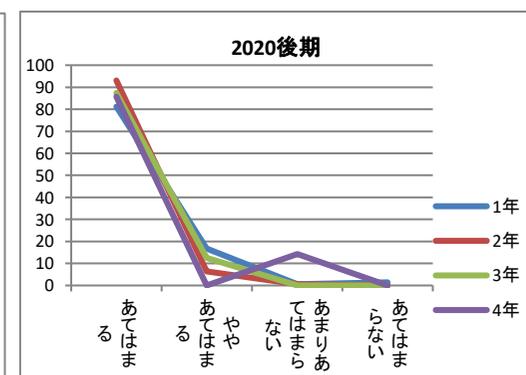
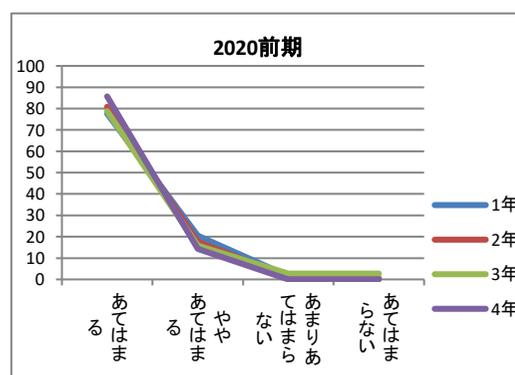
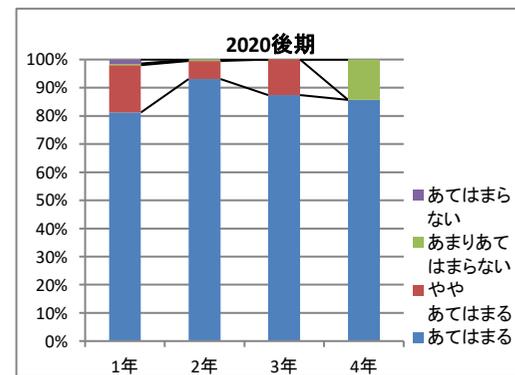
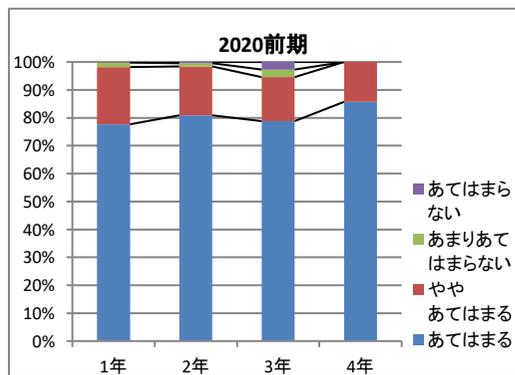
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



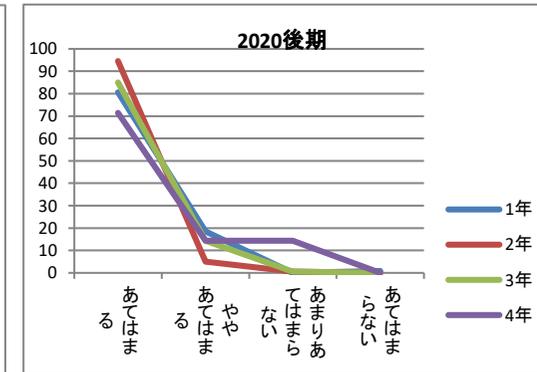
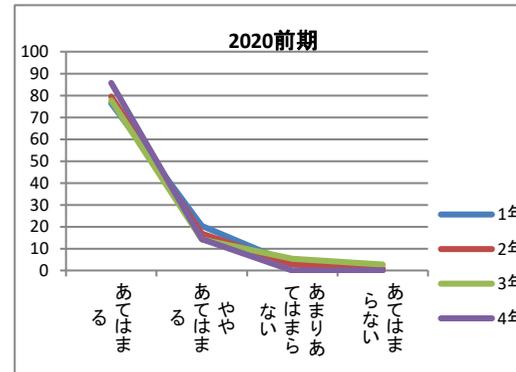
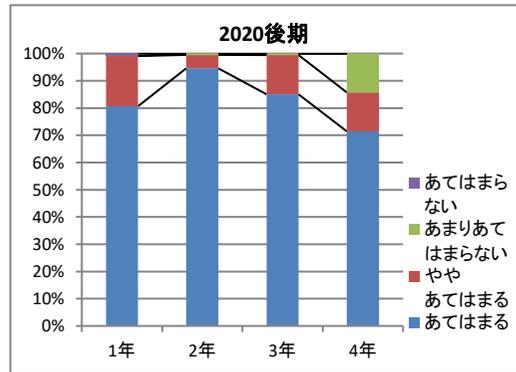
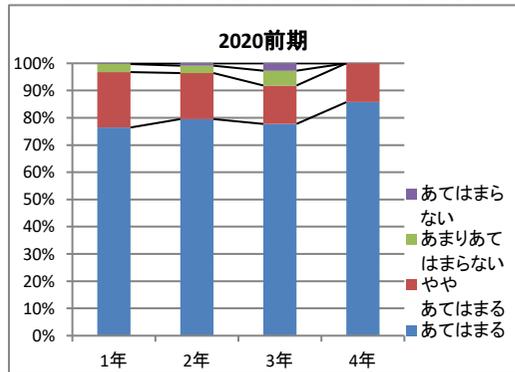
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



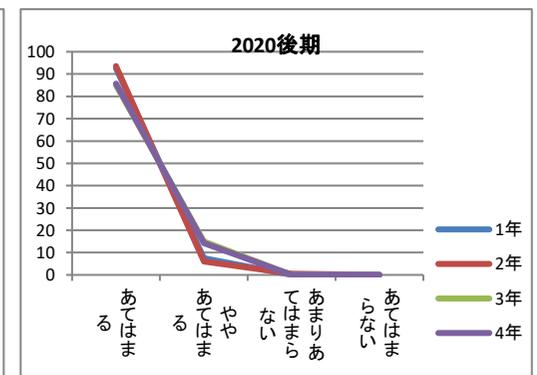
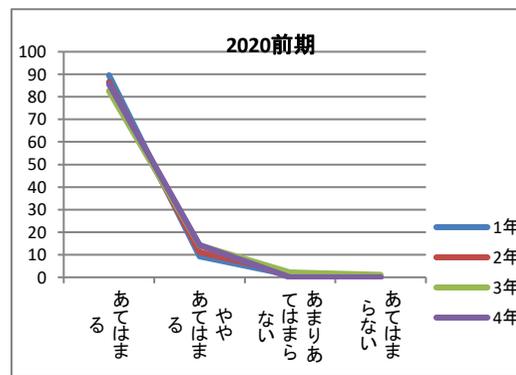
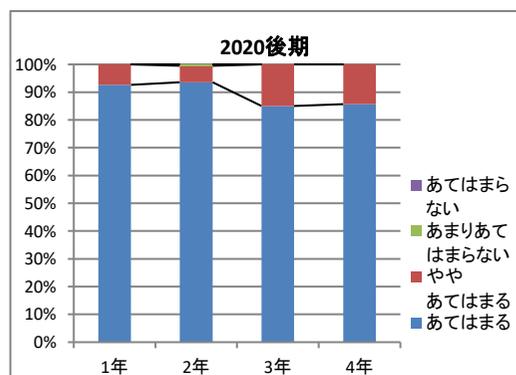
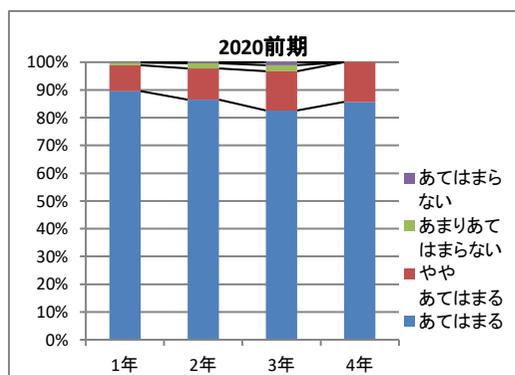
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



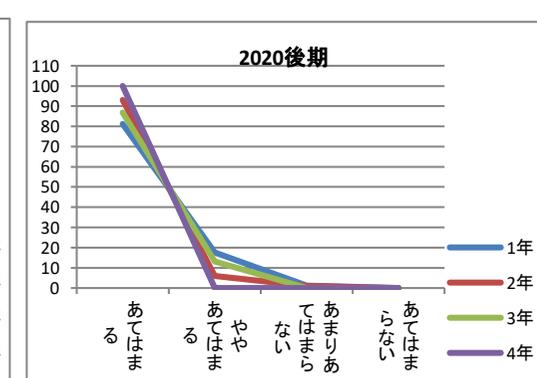
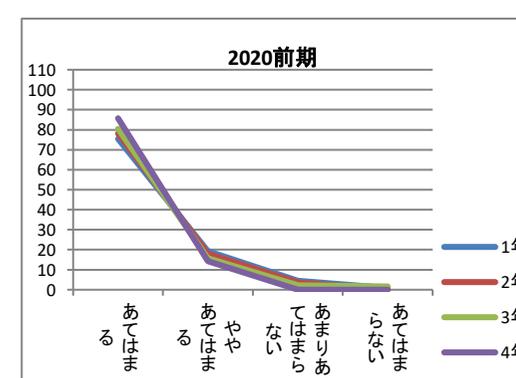
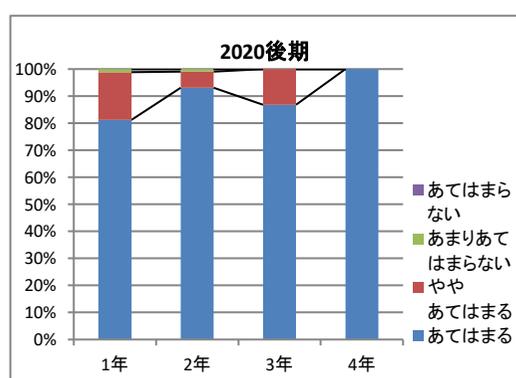
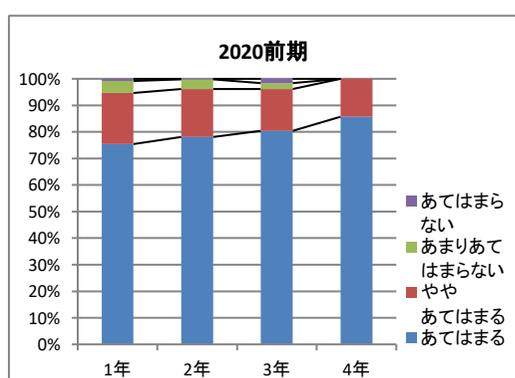
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



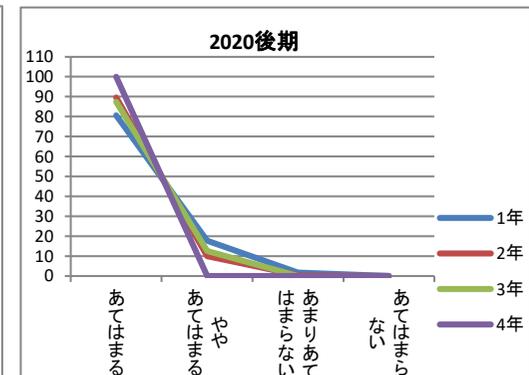
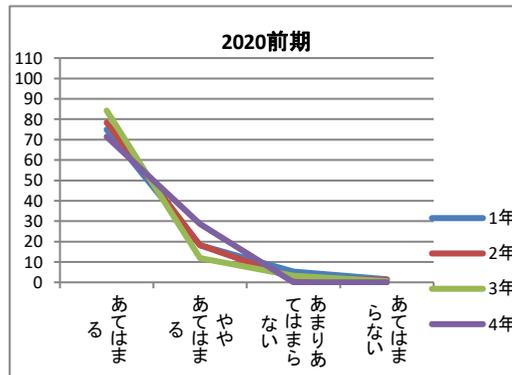
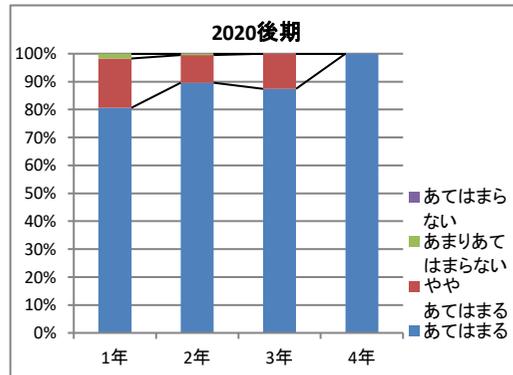
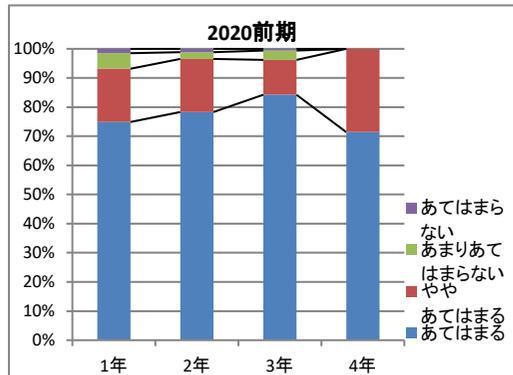
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



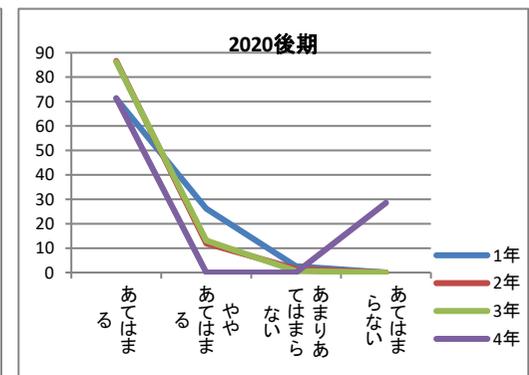
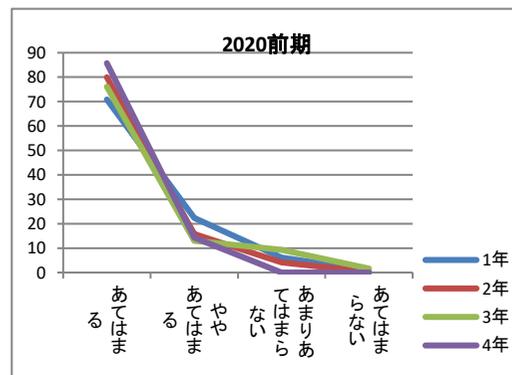
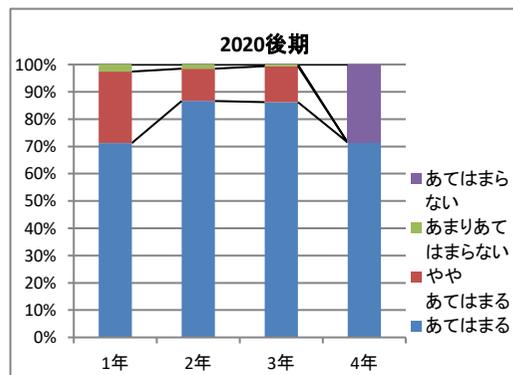
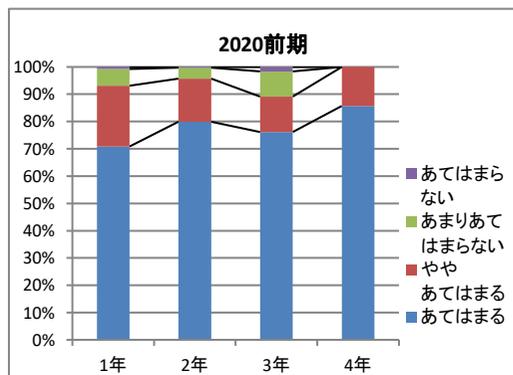
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



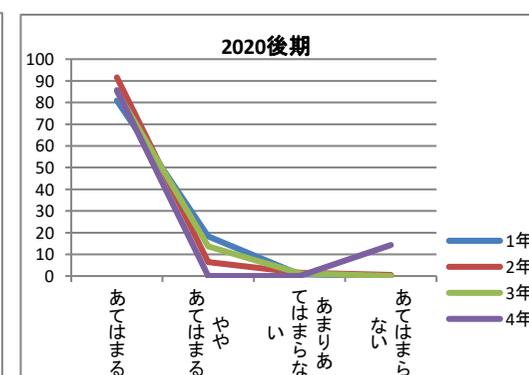
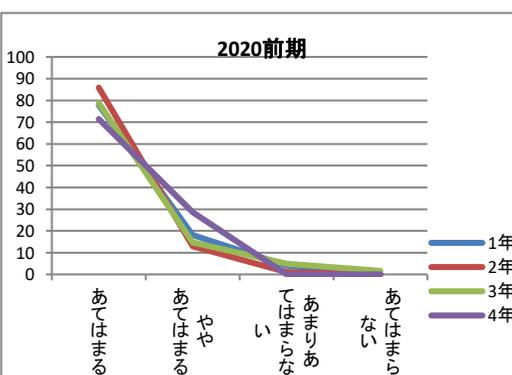
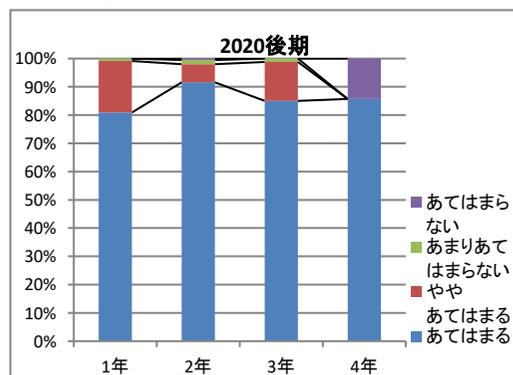
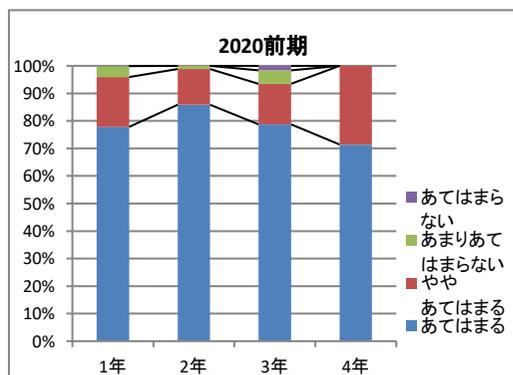
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



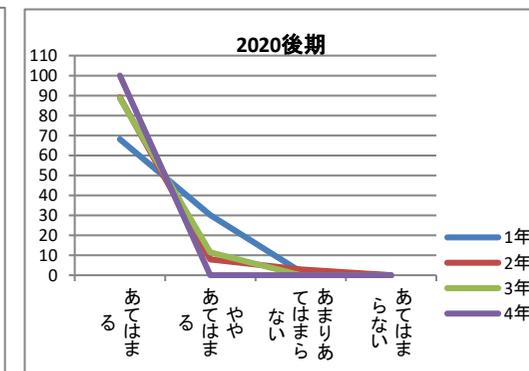
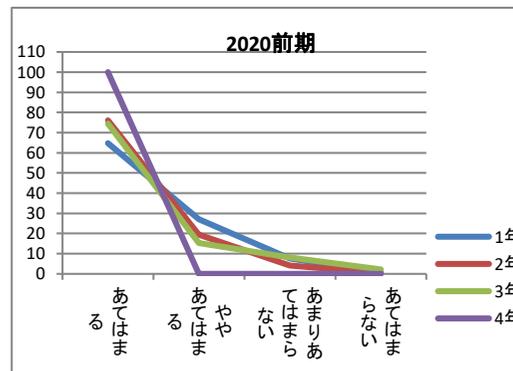
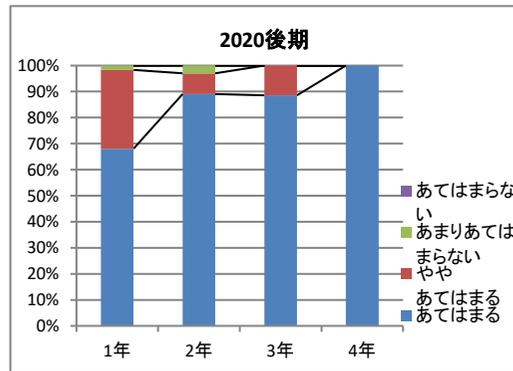
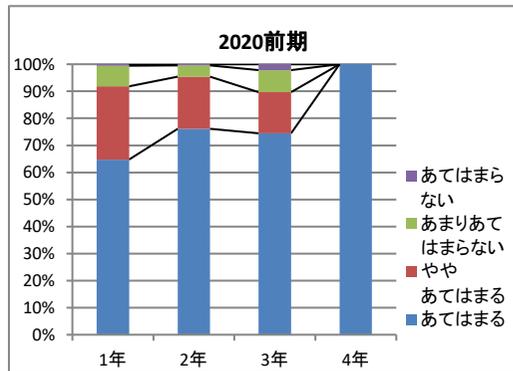
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



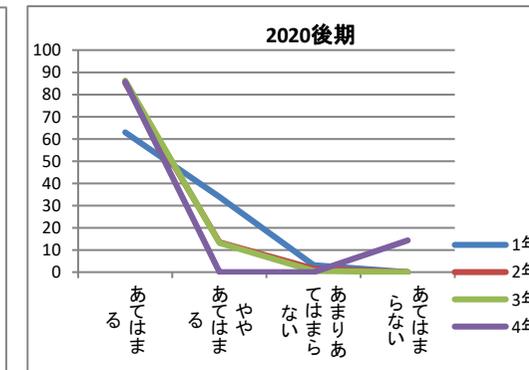
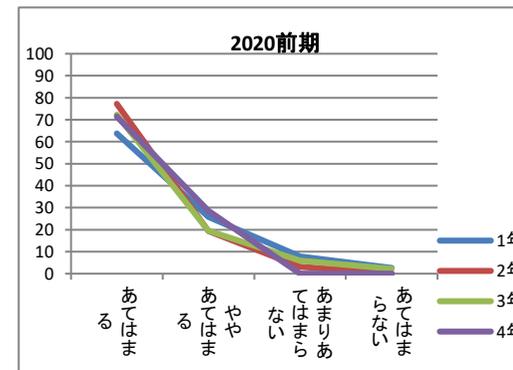
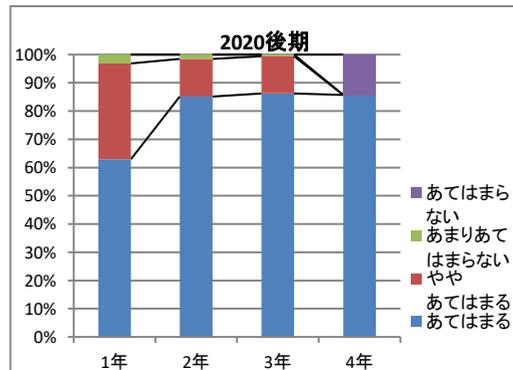
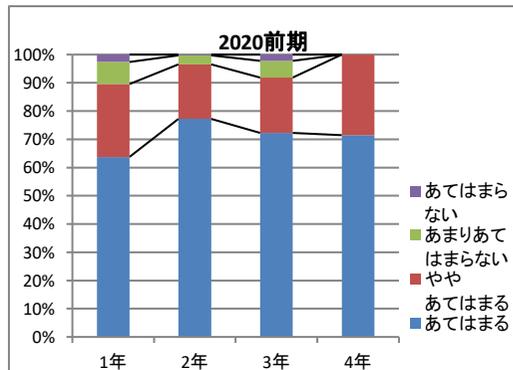
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



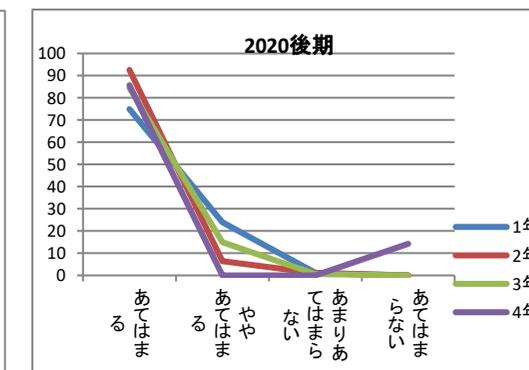
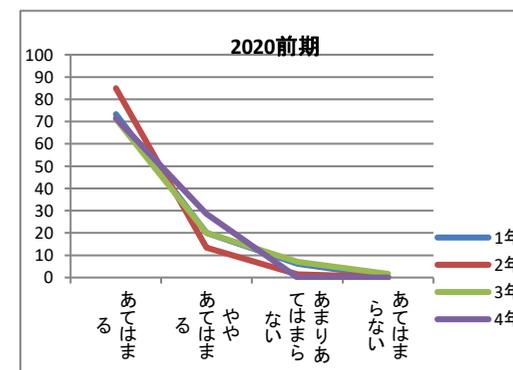
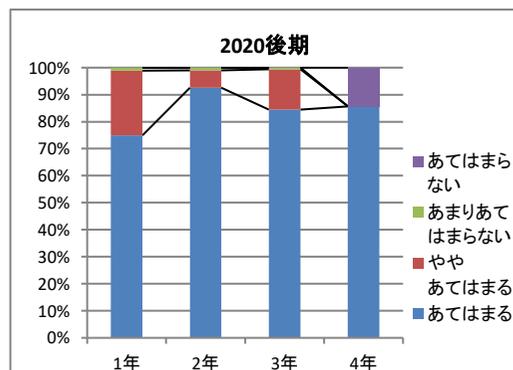
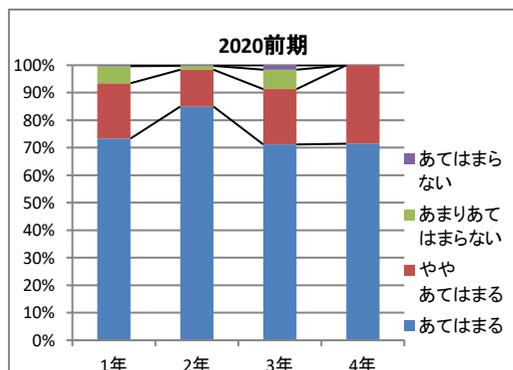
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

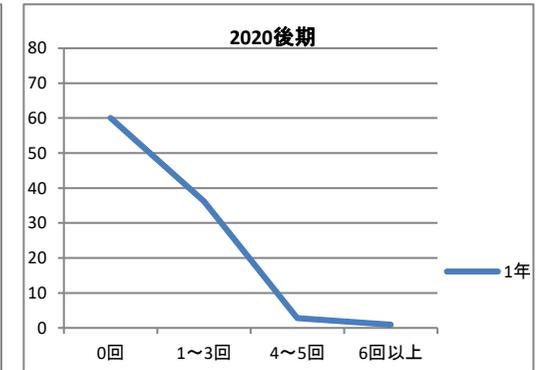
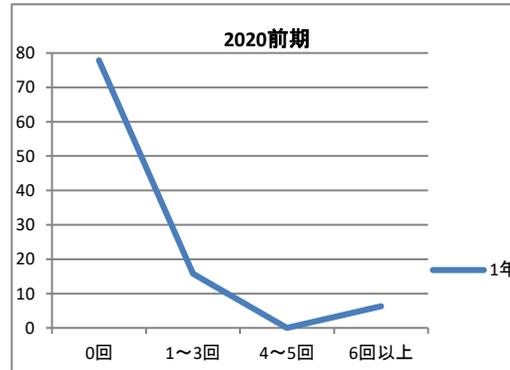
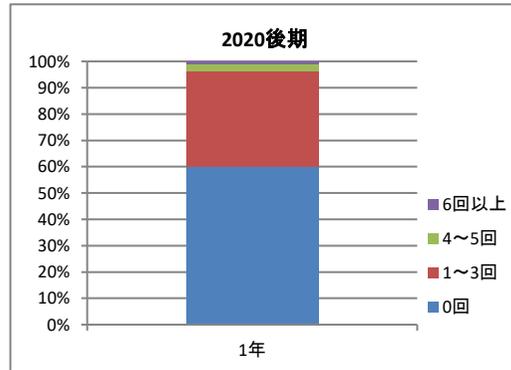
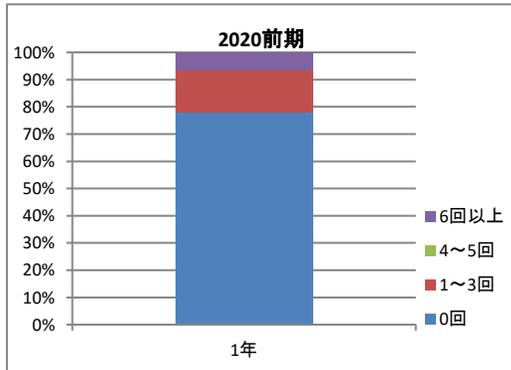


授業アンケート 令和2年度 2020年度

<臨床心理学科>

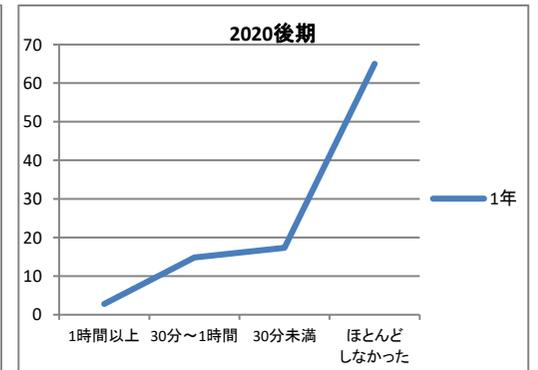
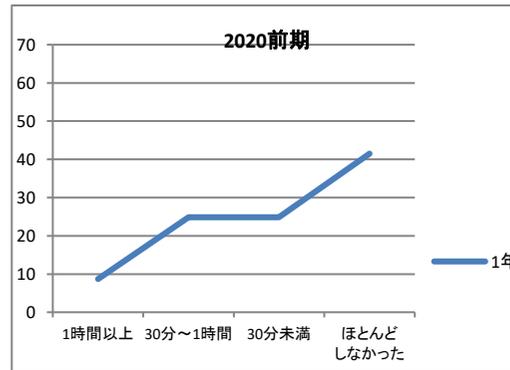
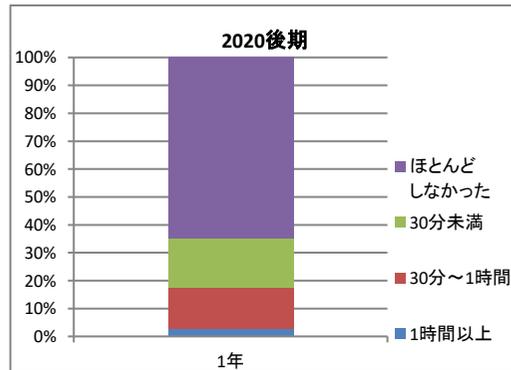
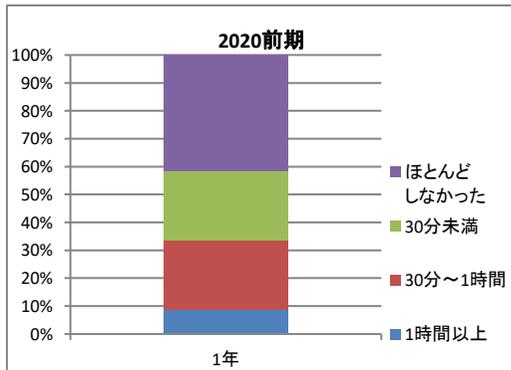
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



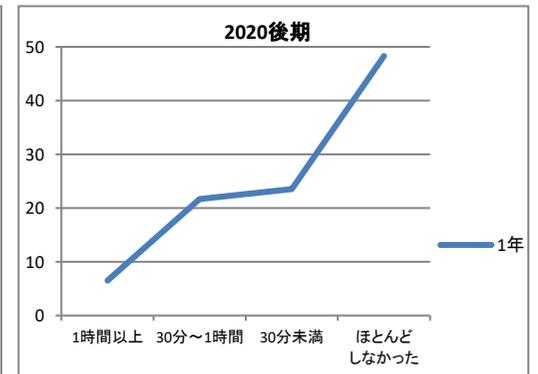
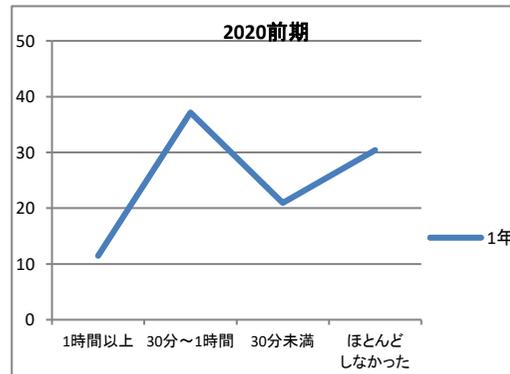
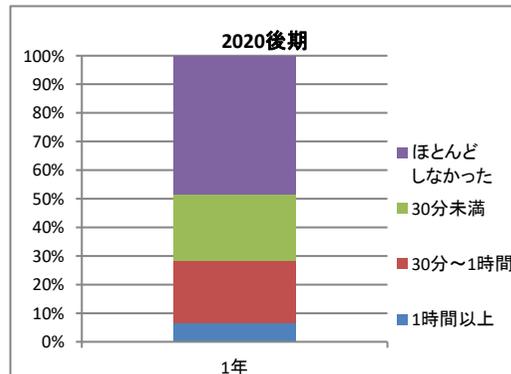
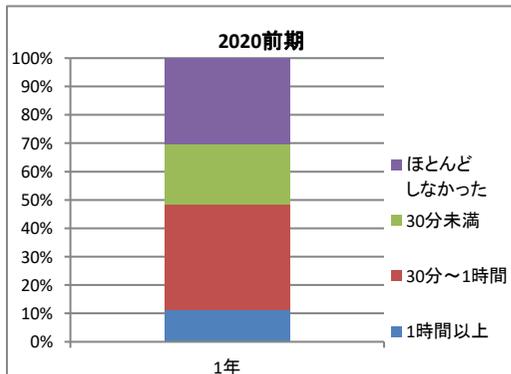
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



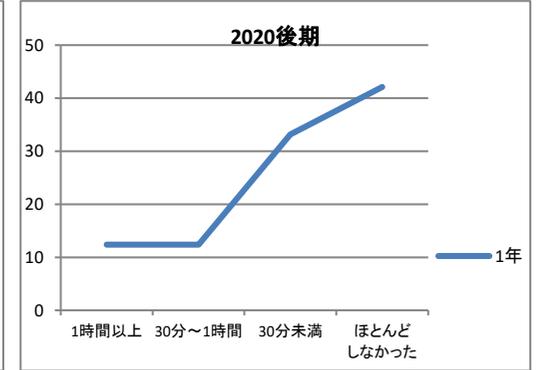
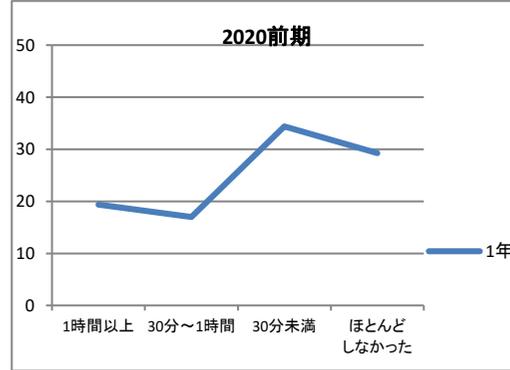
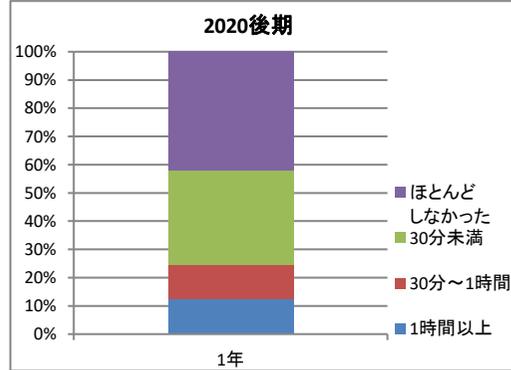
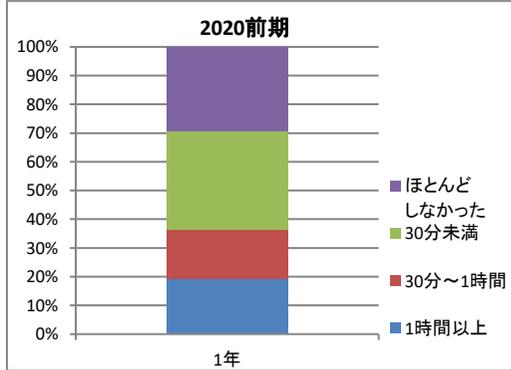
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



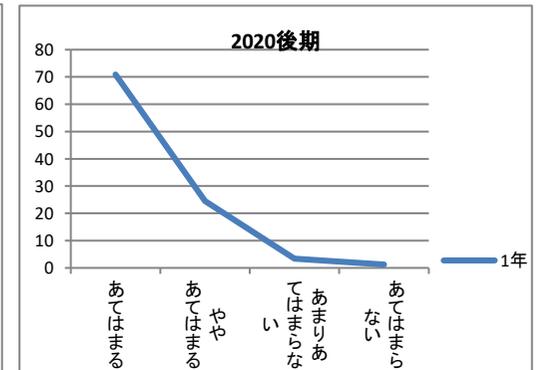
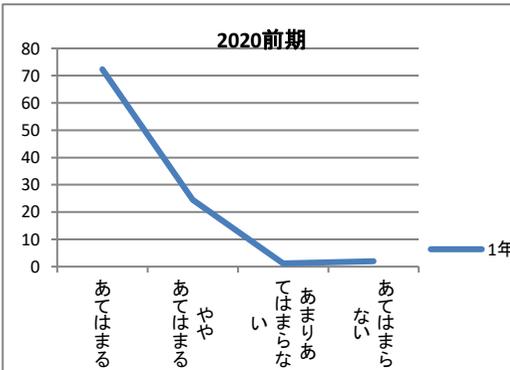
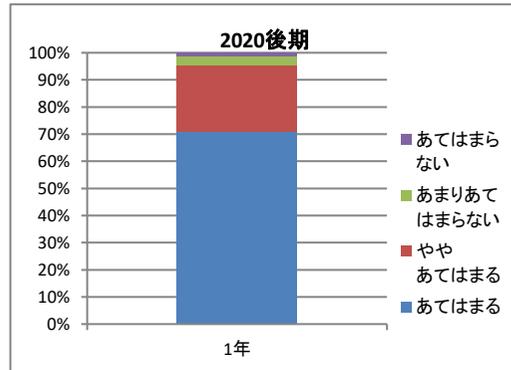
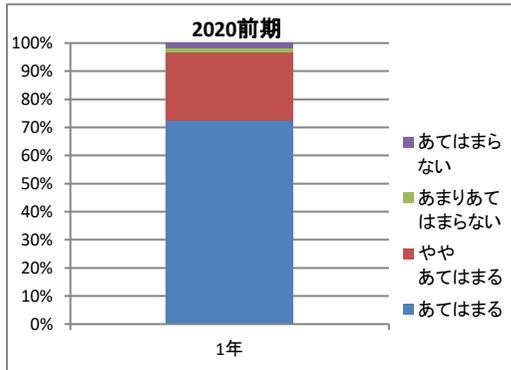
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



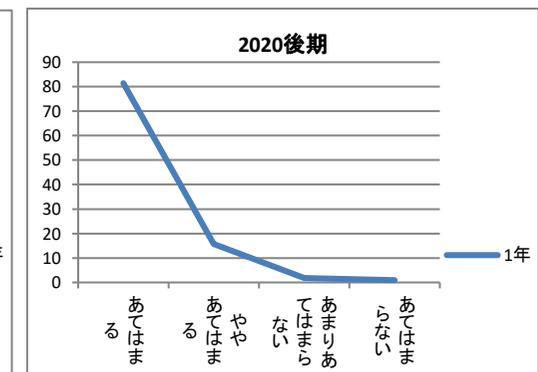
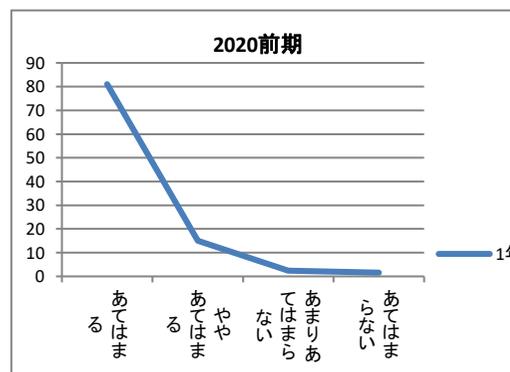
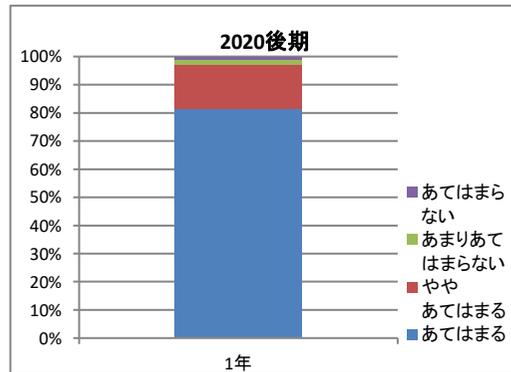
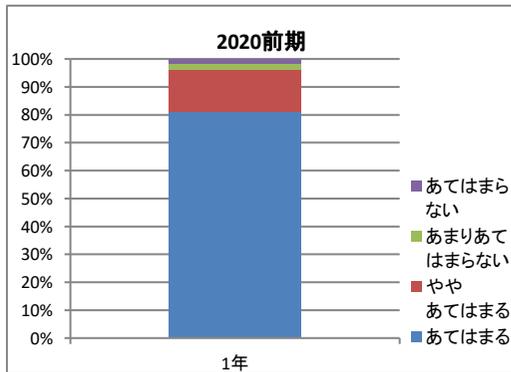
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



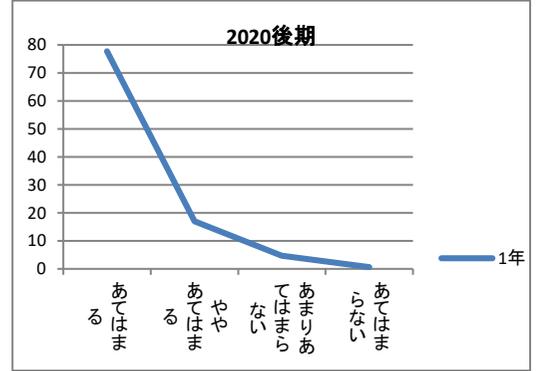
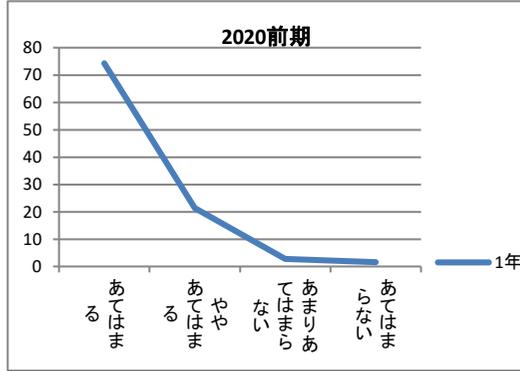
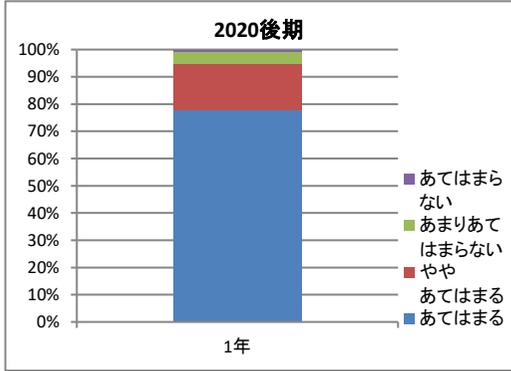
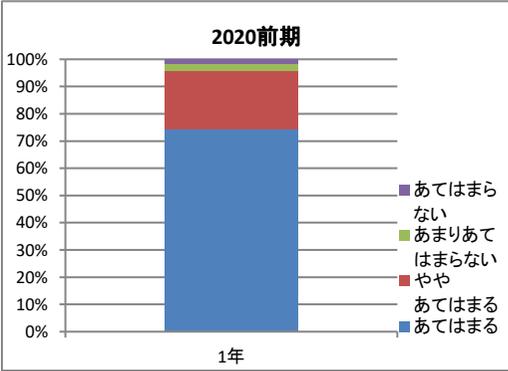
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



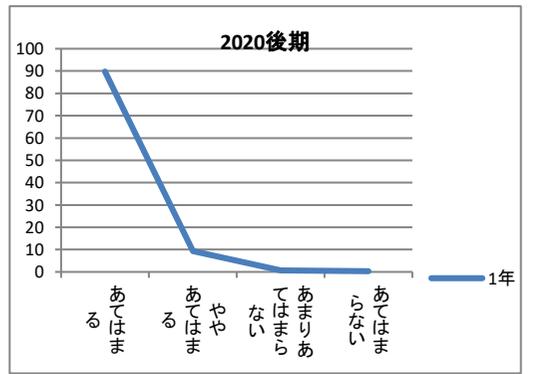
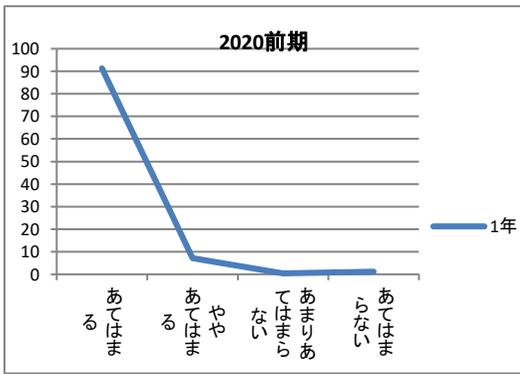
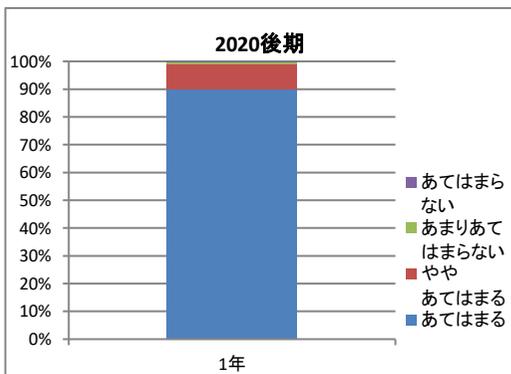
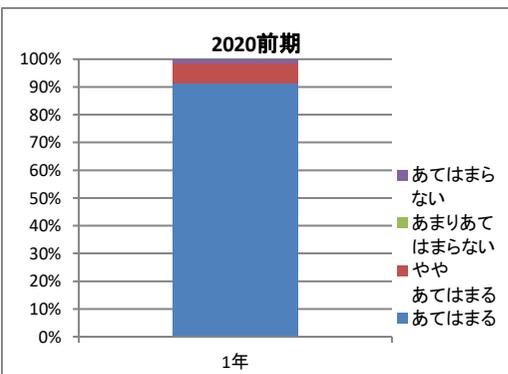
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



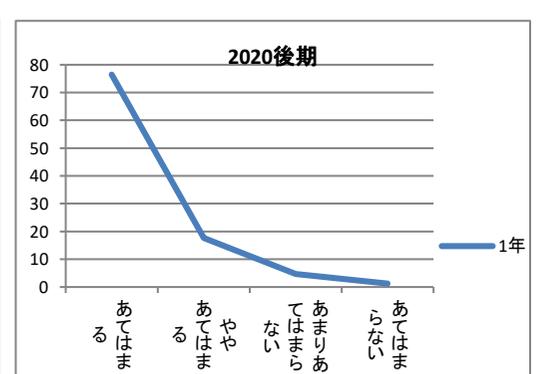
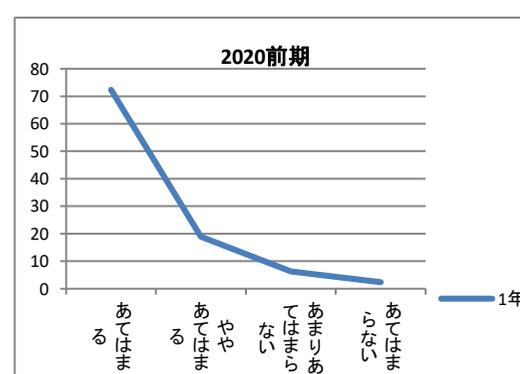
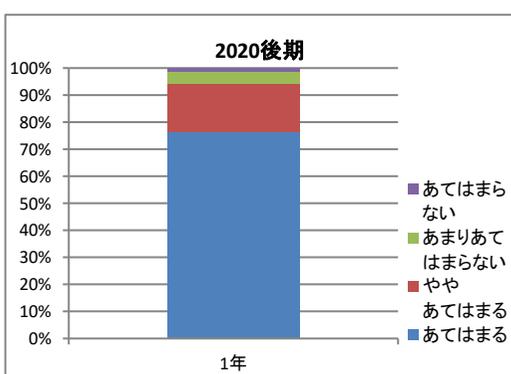
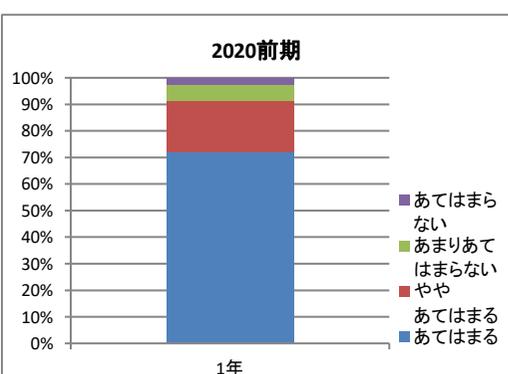
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



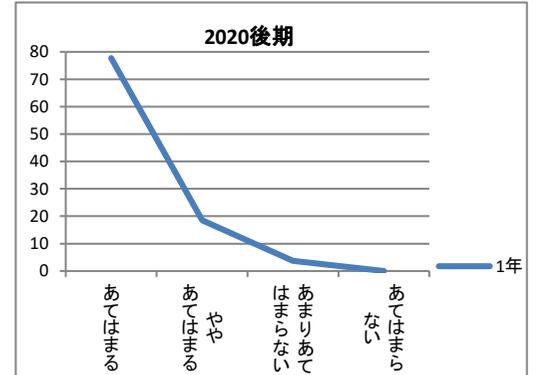
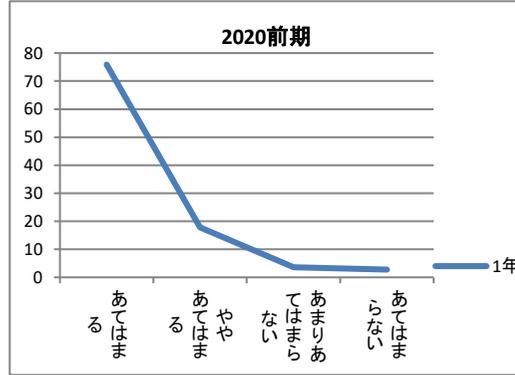
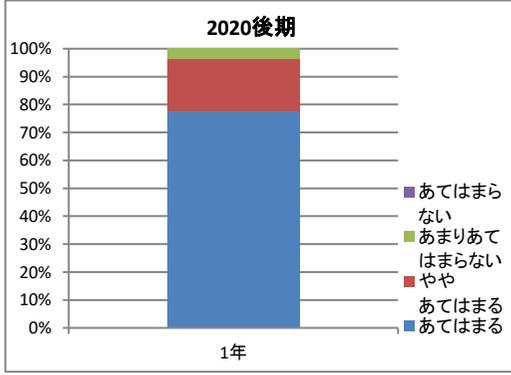
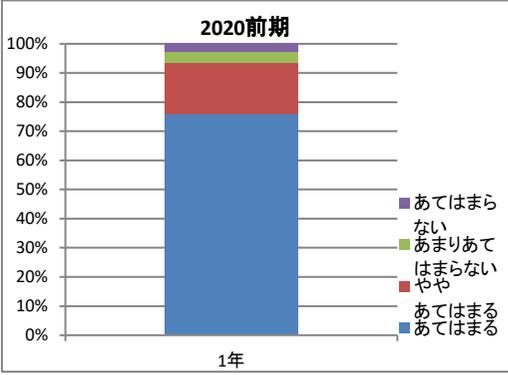
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



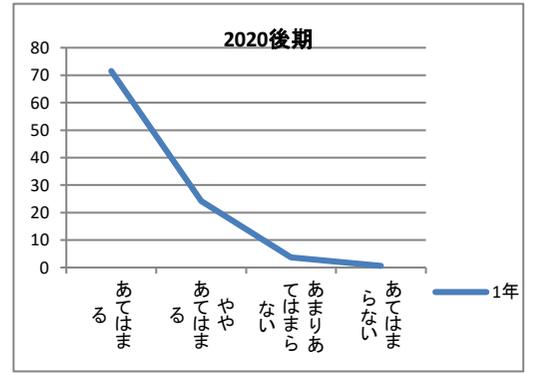
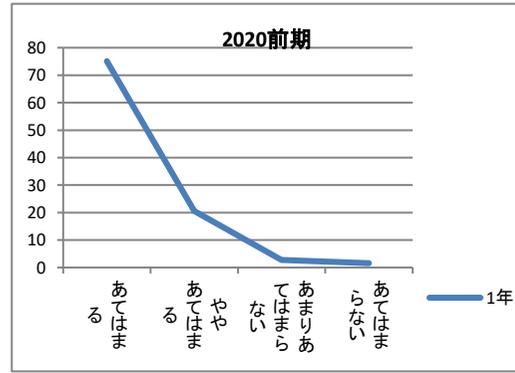
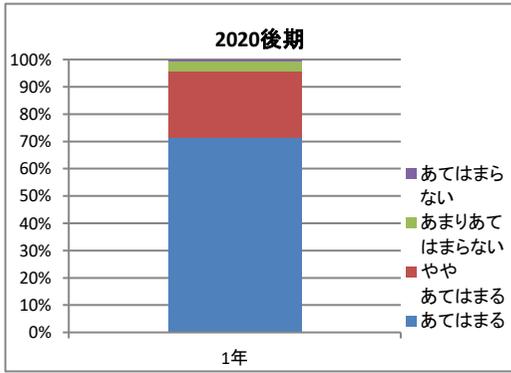
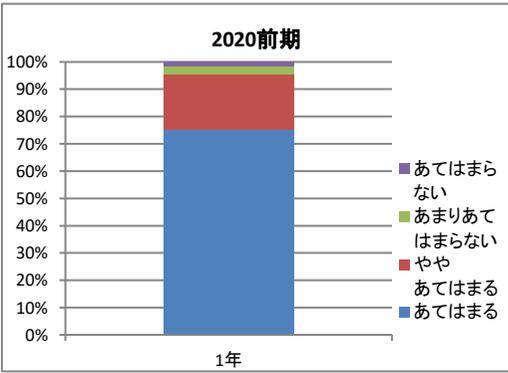
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



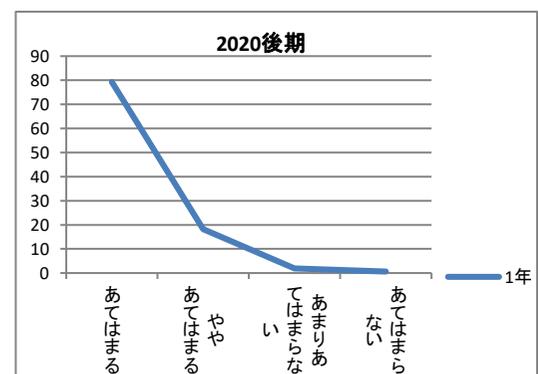
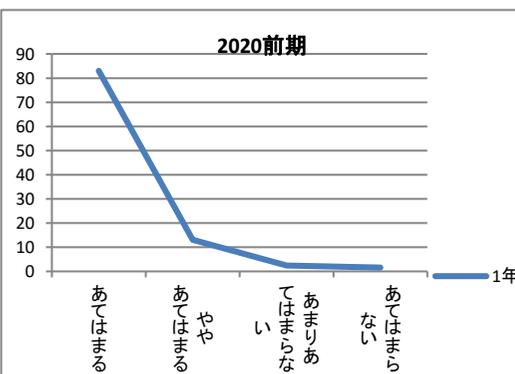
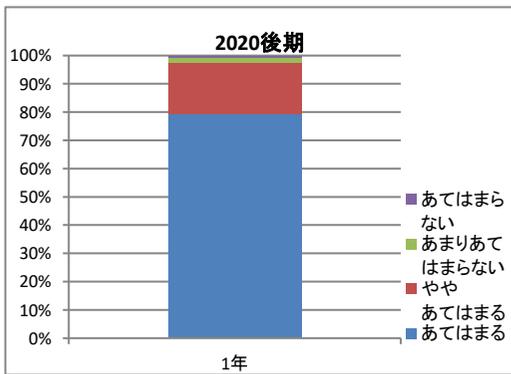
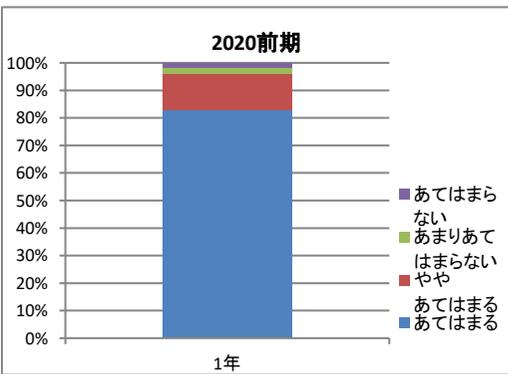
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



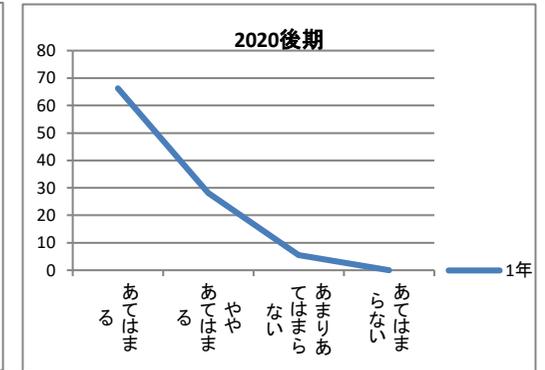
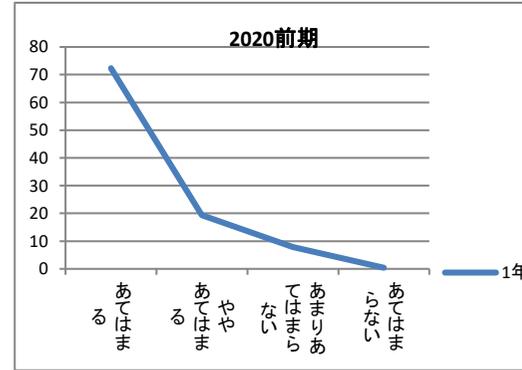
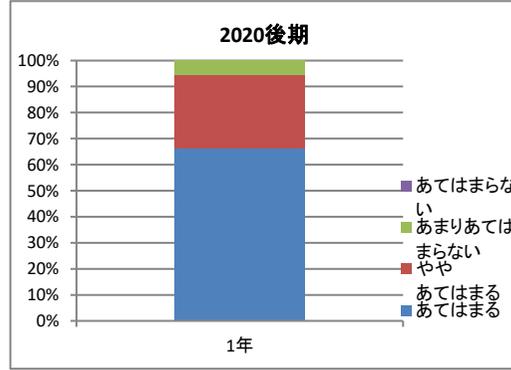
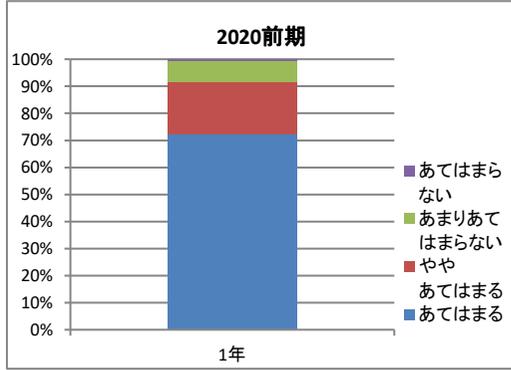
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



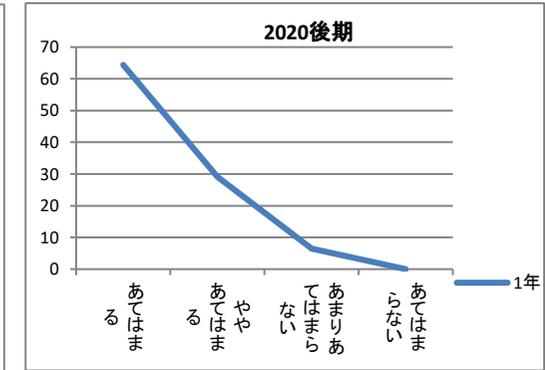
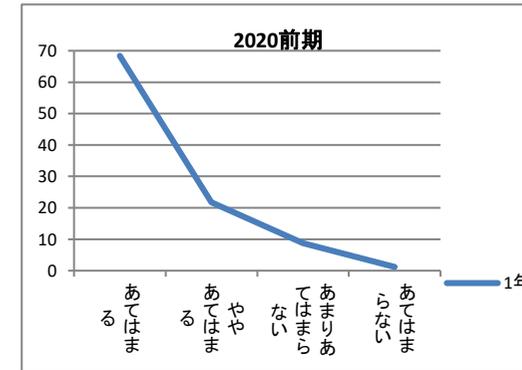
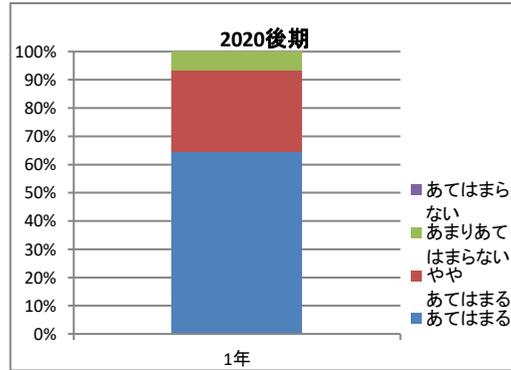
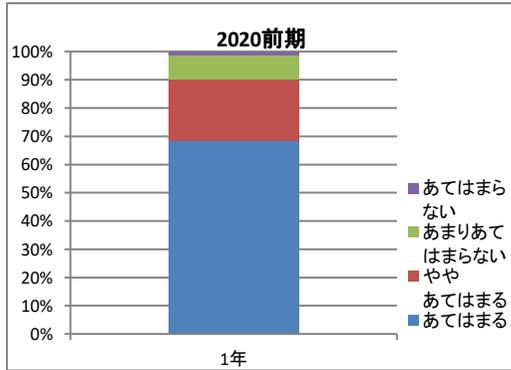
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

